

障がい者福祉施策検討のための アンケート調査報告書

令和8年3月
山口市障がい福祉課

目 次

I 調査概要

1	調査の目的.....	1
2	調査対象者.....	1
3	調査期間.....	1
4	配布・回収方法.....	1
5	回収状況.....	1
6	調査結果の見方等.....	1

II 調査結果

1	回答者について.....	2
2	あなたの（宛名の方）の性別・年齢・ご家族などについて.....	2
3	障がいの状況について.....	54
4	住まいや暮らしについて.....	61
5	日中活動や就労について.....	67
6	障害福祉サービスの利用について.....	117
7	相談相手について.....	119
8	権利擁護について.....	130
9	障害者差別解消法について.....	139
10	災害時の避難等について.....	144
11	ご意見について.....	154

I 調査概要

1 調査の目的

山口市障がい者きらめきプラン（第五次山口市障害者計画）、第六次山口市障害福祉計画の策定にあたり、福祉サービスの利用実態や福祉に関する意識、移行などの把握とともに、サービス提供体制の確保に係る目標、各年度における必要量の見込みを定める必要があることから、その基礎資料等とするため、市内の障害者手帳所持者を対象としたアンケート調査を実施しました。

2 調査対象者

市内の障害者手帳所持者（18歳以上） ※1,000人を無作為抽出

3 調査期間

令和8年1月8日（木）～令和8年2月2日（月）

4 配布・回収方法

郵送配布・郵送回答によるアンケート調査

5 回収状況

調査区分	発送数	回収数	回収率
市民	1,000件	520 件	52.0%

6 調査結果の見方等

- ・報告書中の「n=」とあるのはパーセントを計算するときの母数となるサンプル数（回答者数）を示しています。
- ・算出されたパーセントは小数第二位を四捨五入して、小数第一位までの表示としているため、その合計が必ずしも 100.0%にならない場合もあります。また、複数回答で質問している調査項目においては、その合計は 100.0%を超えます。
- ・サンプル数 n=10 以下は参考のために掲載しています。

Ⅱ 調査結果

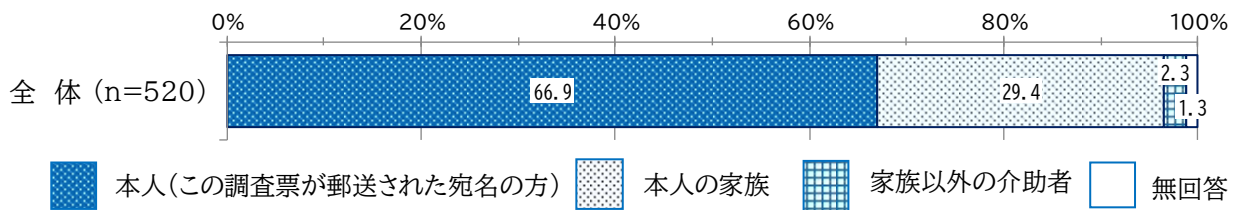
1. 回答者について

問1 お答えいただくのはどなたですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

自身のことについて、「本人」66.9%と最も高くなっています。次いで、「本人の家族」29.4%、「家族以外の介助者」2.3%となっています。

【全体】



回答	人数 (人)	割合 (%)
本人(この調査票が郵送された宛名の方)	348	66.9
本人の家族	153	29.4
家族以外の介助者	12	2.3
無回答	7	1.3
合 計	520	100

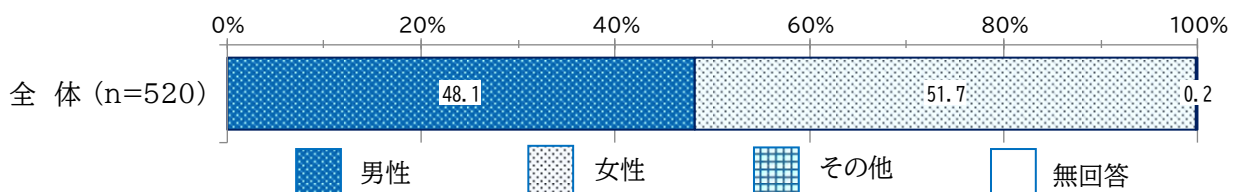
2. あなたの（宛名の方）の性別・年齢・ご家族などについて

問2 あなたの性別をお答えください。

【該当する記号をひとつだけ○】

性別について、「男性」48.1%、「女性」51.7%となっています。

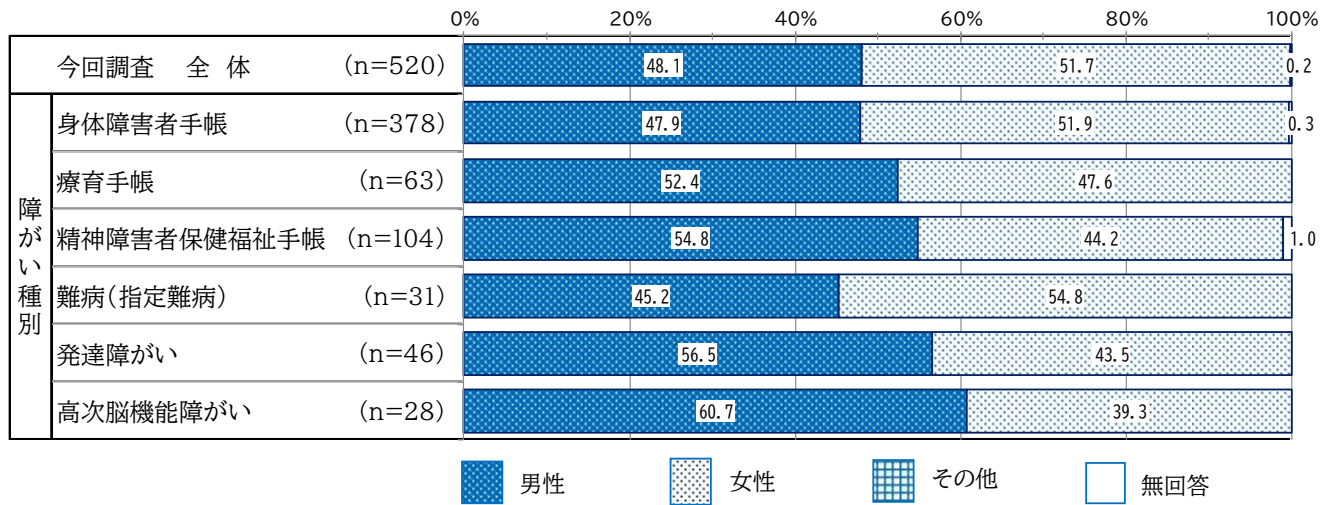
【全体】



回答	人数 (人)	割合 (%)
男性	250	48.1
女性	269	51.7
その他	1	0.2
無回答	0	0
合 計	520	100

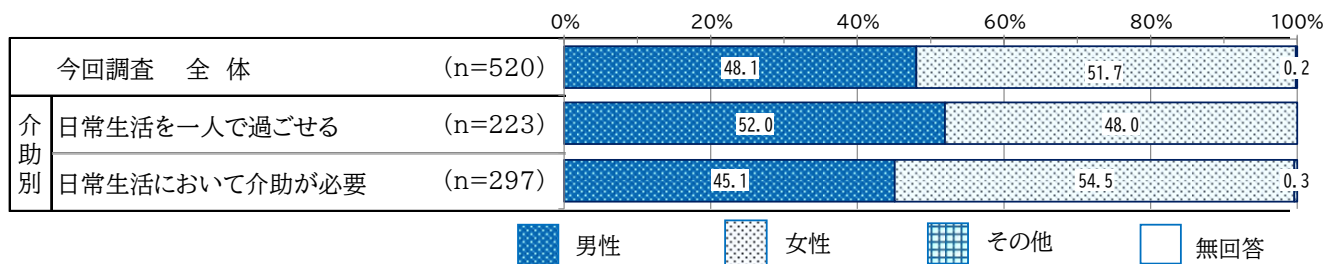
【障害種別】

障害種別でみると、『身体障害者』、『難病（指定難病）』では「女性」、それ以外では全て「男性」の方が高くなっています。



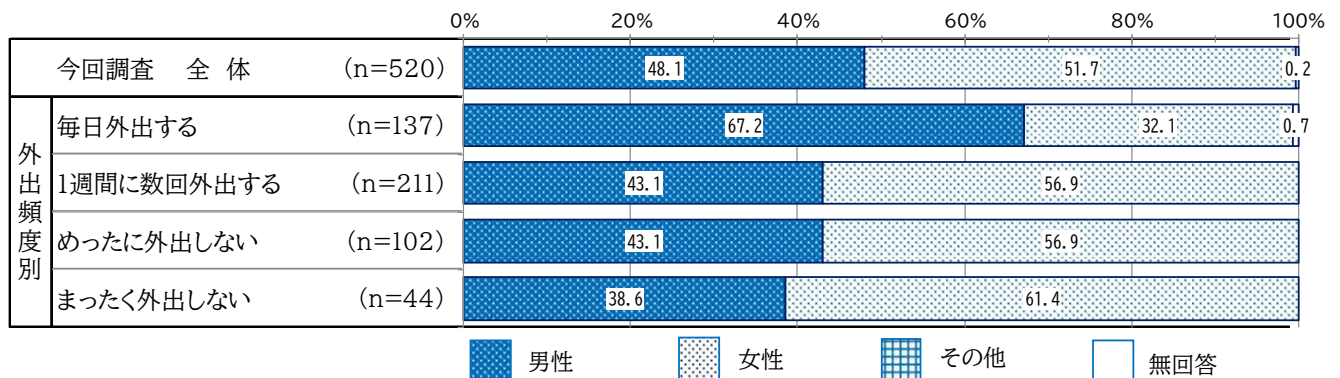
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、あまり大きな変化は見られません。



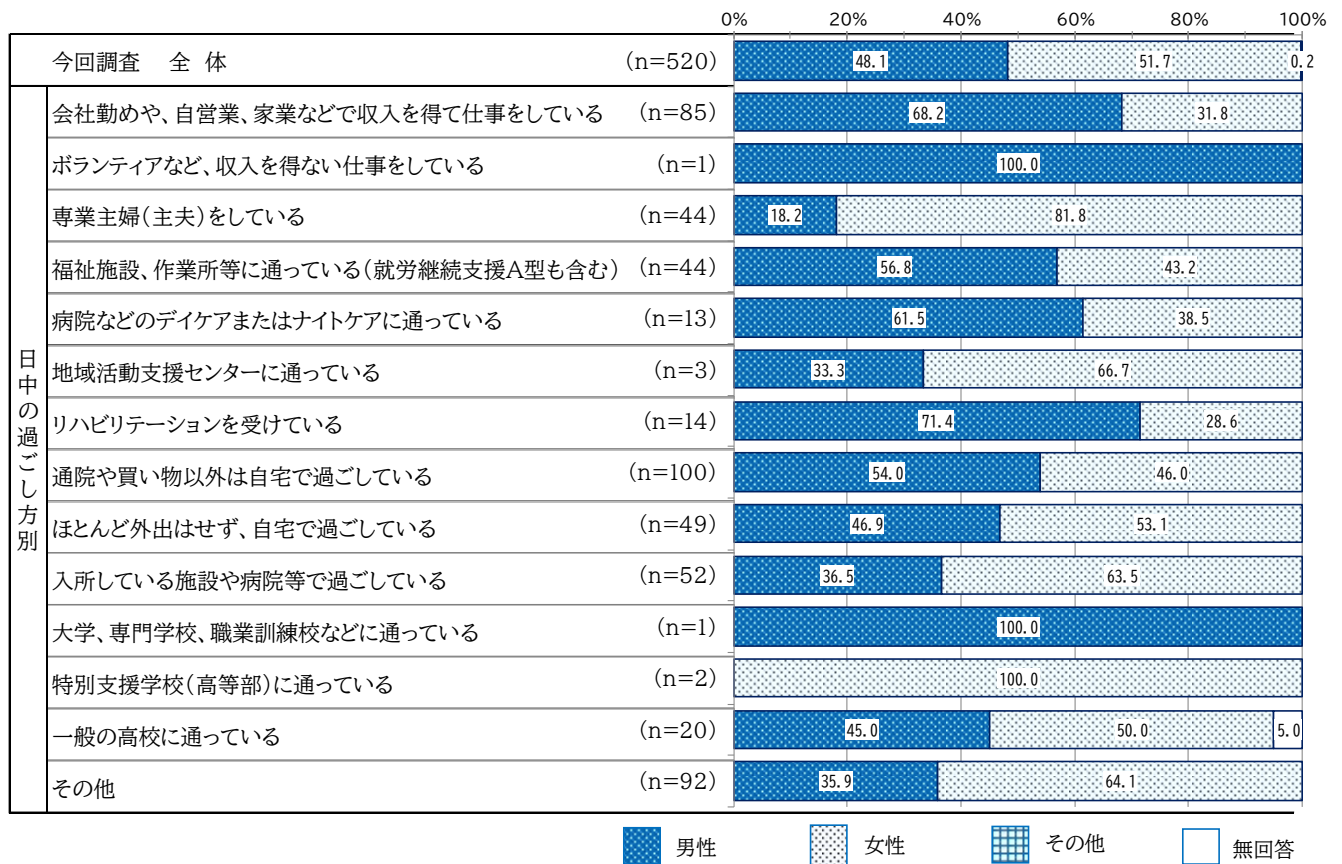
【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「女性」が高くなっています。



【日中の過ごし方別】

日中の過ごし方別でみると、「男性」は、『会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている』、『リハビリテーションを受けている』が7割前後、「女性」は、『専業主婦（主夫）をしている』が8割、『地域活動支援センターに通っている』が7割弱と高くなっています。

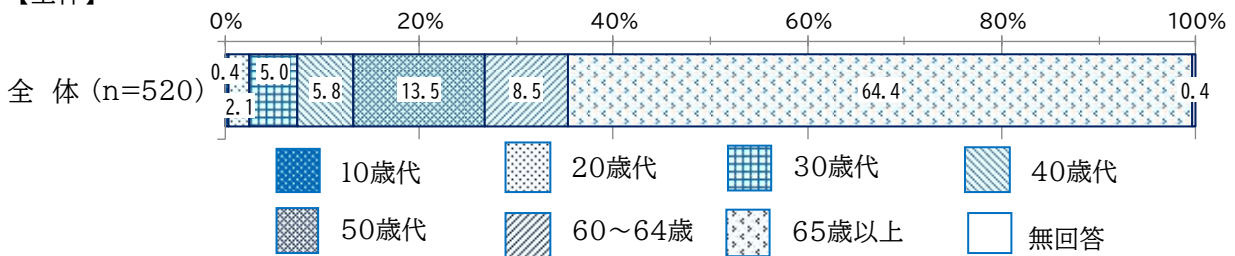


問3 あなたの年齢は何歳代ですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

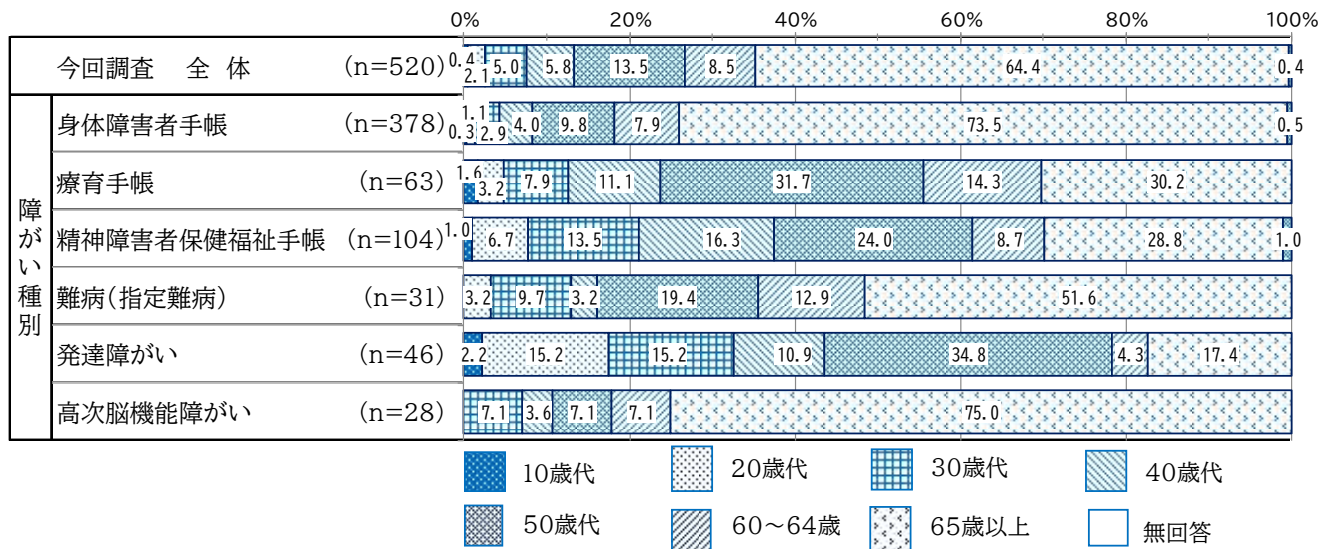
年齢について、「65 歳以上」が 64.4%と最も高くなっています。次いで、「50 歳代」が 13.5%、「60 歳～64 歳」が8.5%となっています。

【全体】



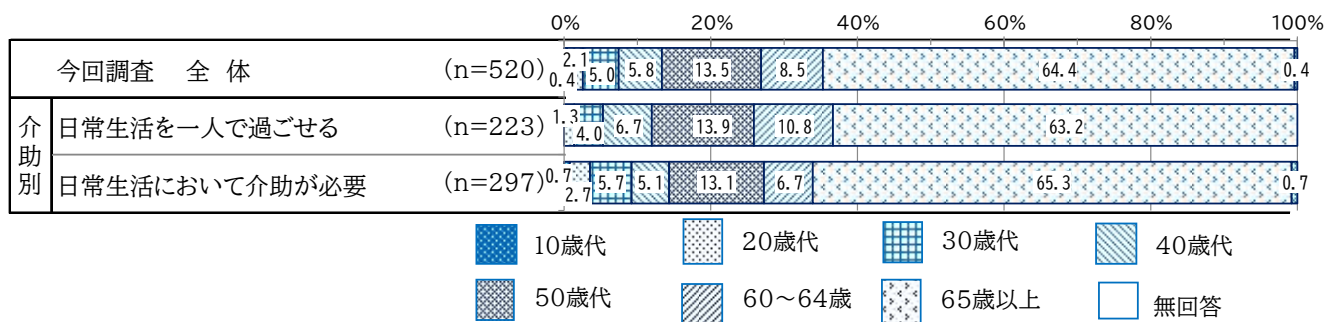
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』、『発達障がい』でみると「50 歳代」、それ以外では全て「65 歳以上」が最も高くなっています。



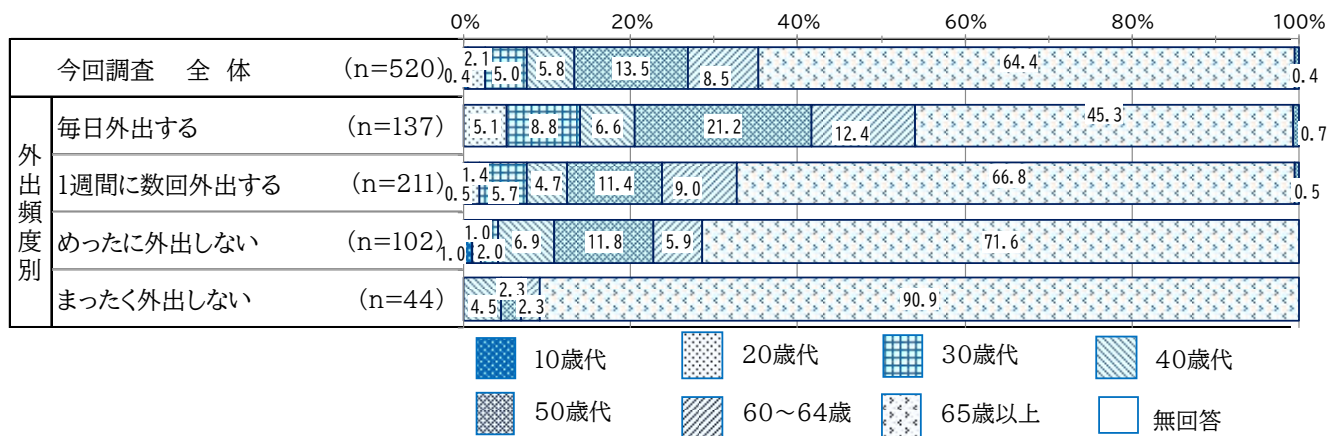
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「60～64 歳」が 4.1 ポイント高くなっています。



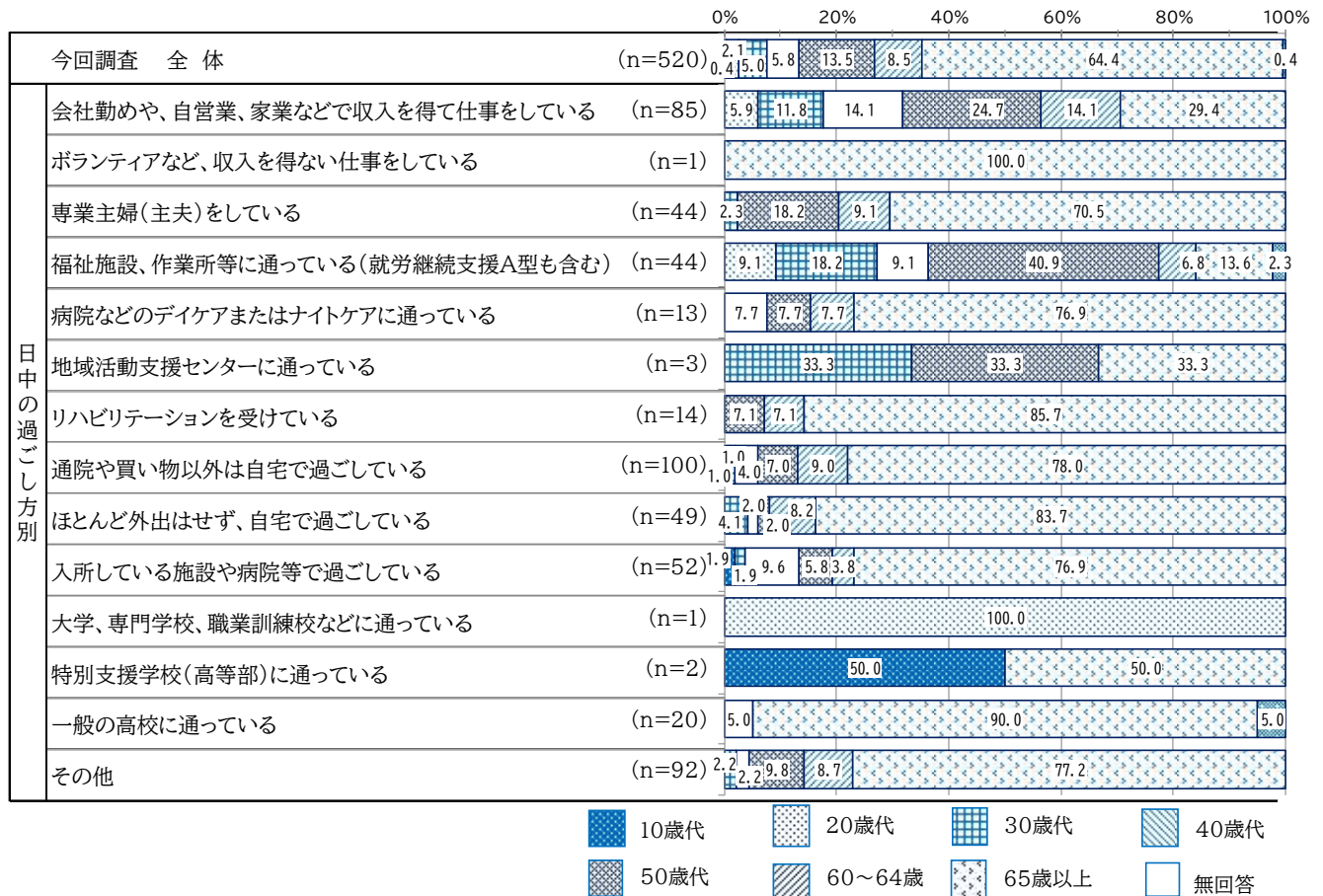
【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が少ない「65 歳以上」の割合が高くなっています。



【日中の過ごし方別】

日中の過ごし方別でみると、「20 歳代」から「50 歳代」までは『会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている』、『福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）』、『60～64 歳』は『会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている』、「65 歳以上」は『リハビリテーションを受けている』、『ほとんど外出せず、自宅で過ごしている』が8割以上で、実数で見ても高くなっています。

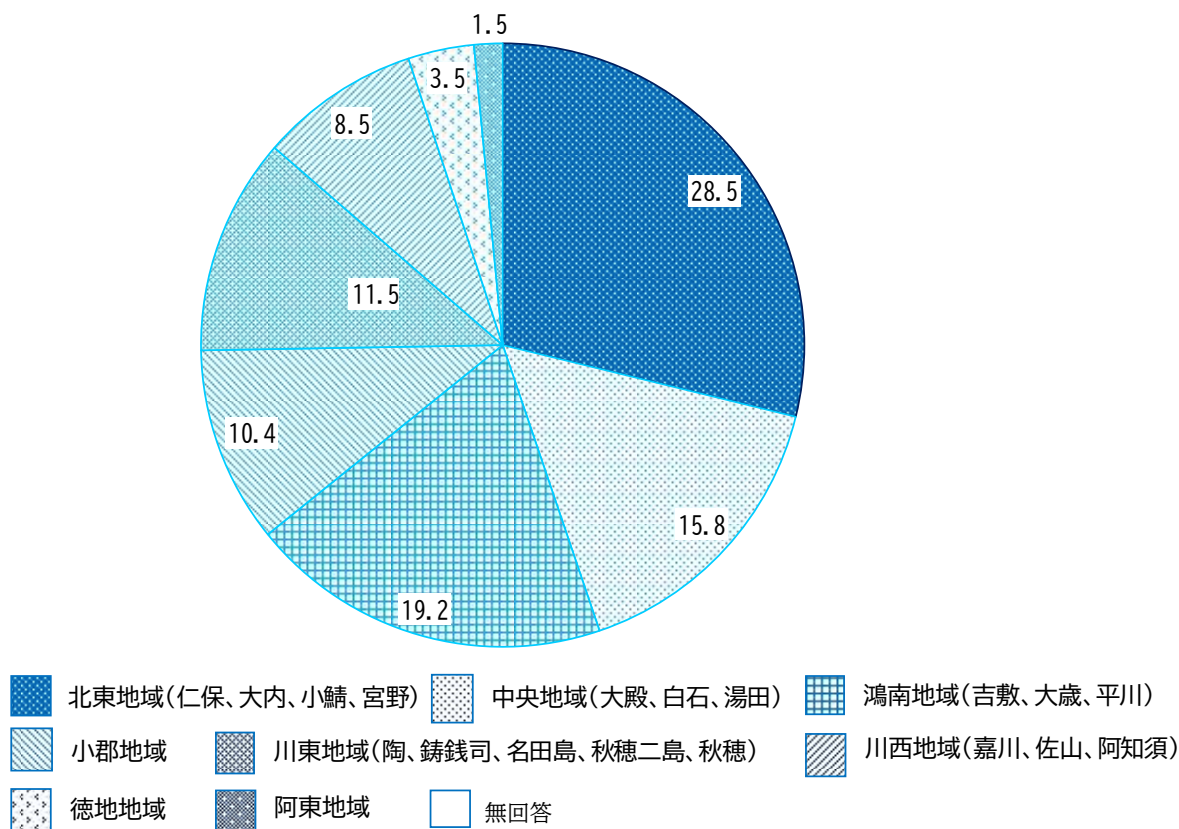


問4 あなたのお住まいはどちらの地域ですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

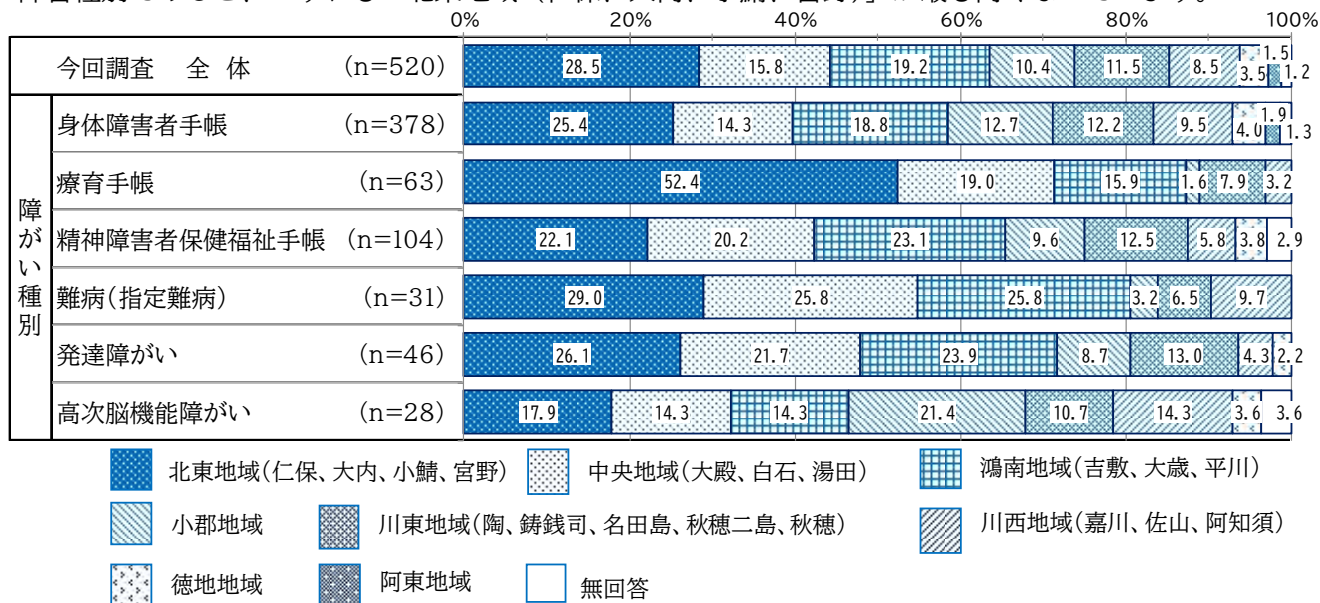
住んでいる地域について、「北東地域（仁保、大内、小鯖、宮野）」が 28.5%と最も高くなっています。次いで、「鴻南地域（吉敷、大歳、平川）」が 19.2%、「中央地域（大殿、白石、湯田）」が 15.8%となっています。

【全体】



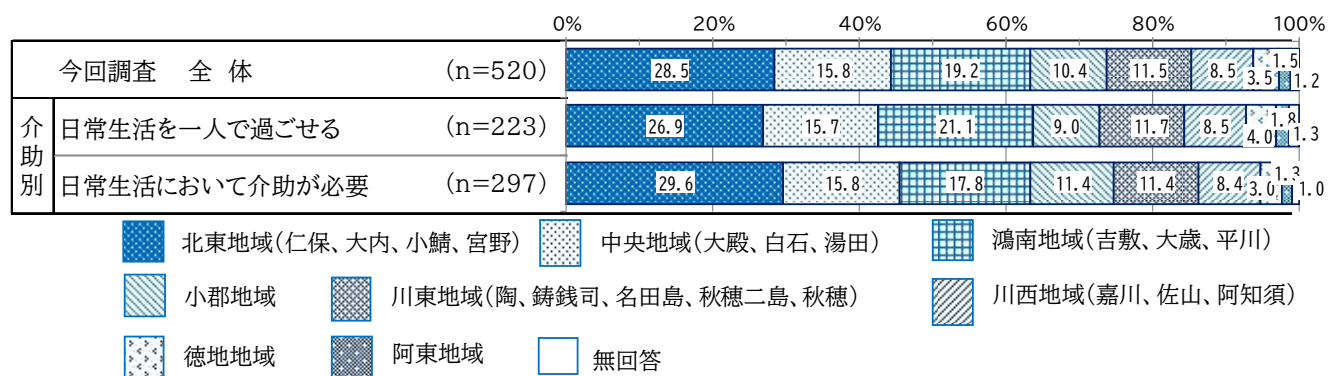
【障害種別】

障害種別でみると、いずれも「北東地域（仁保、大内、小鯖、宮野）」が最も高くなっています。



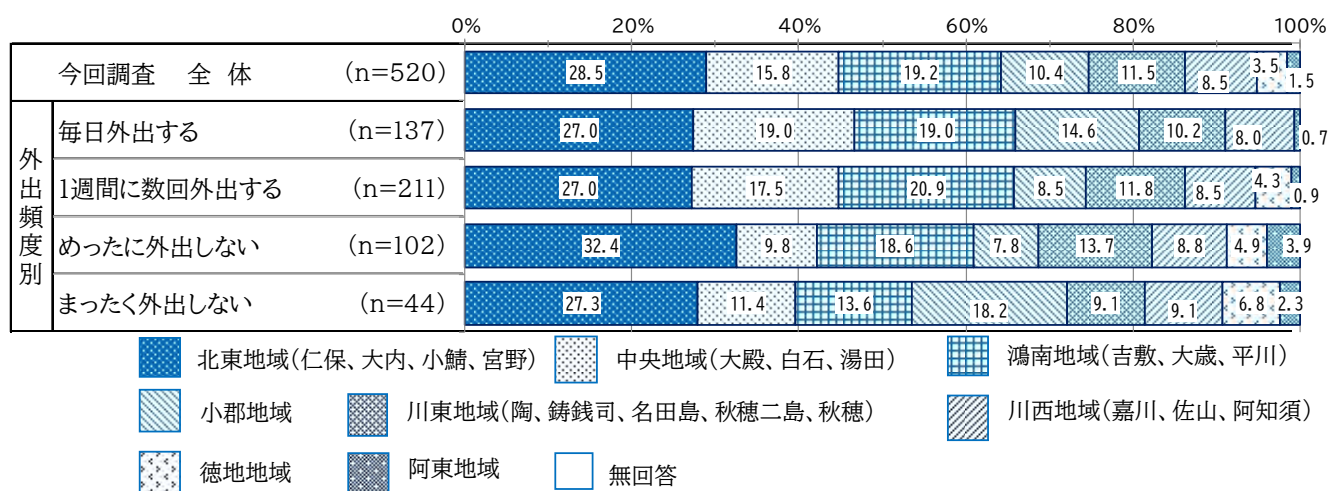
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「鴻南地域（吉敷、大歳、平川）」が 3.3 ポイント高くなっています。



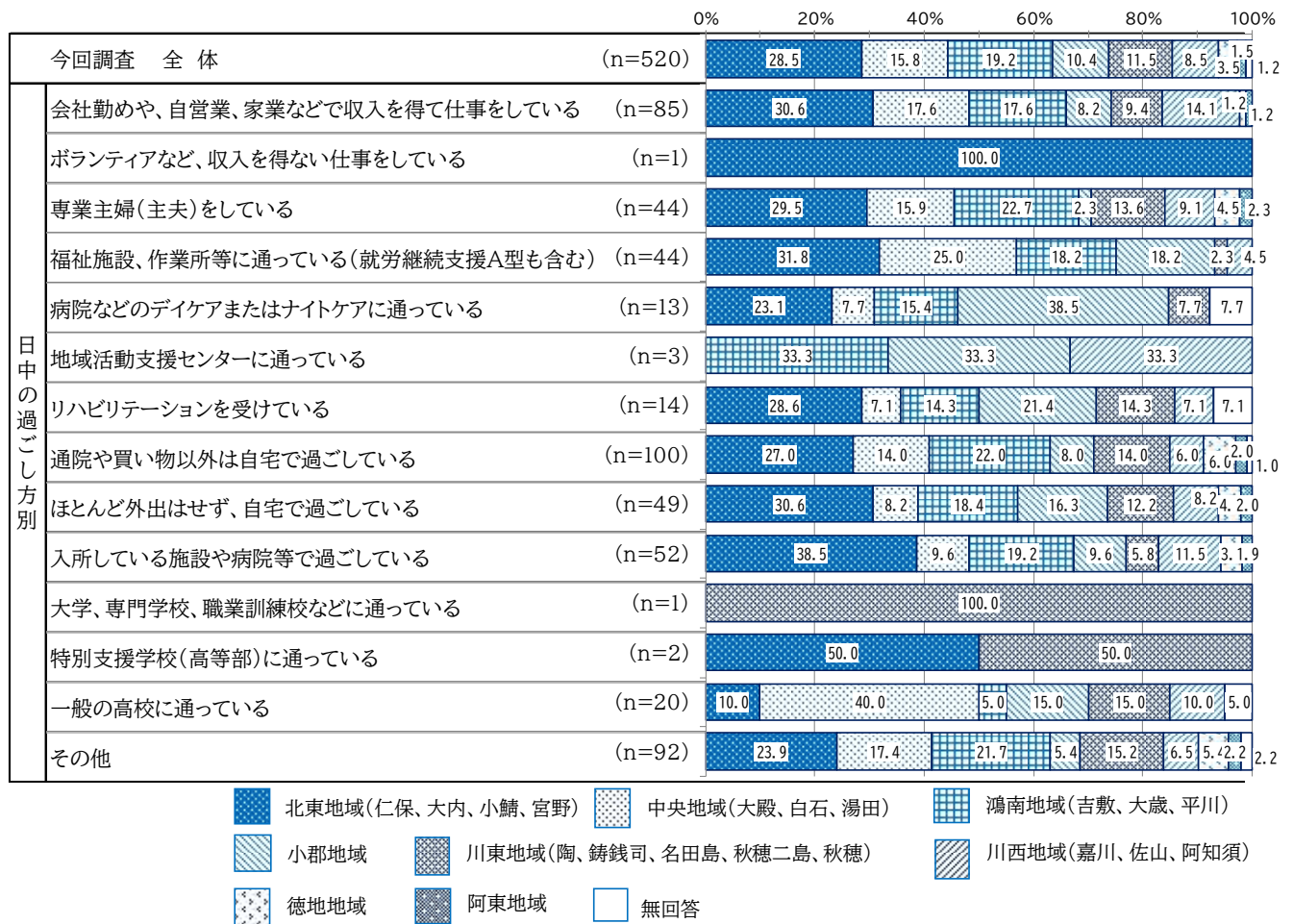
【外出頻度別】

外出頻度別でみると、「小郡地域」では『まったく外出しない』の割合が高くなっています。



【日中の過ごし方別】

日中の過ごし方別でみると、『病院などのデイケアまたはナイトケアに通っている』では「小郡地域」が、『一般の高校に通っている』は「中央地域（大殿、白石、湯田）」で、それ以外では全て「北東地域（仁保、大内、小鯖、宮野）」が最も高くなっています。

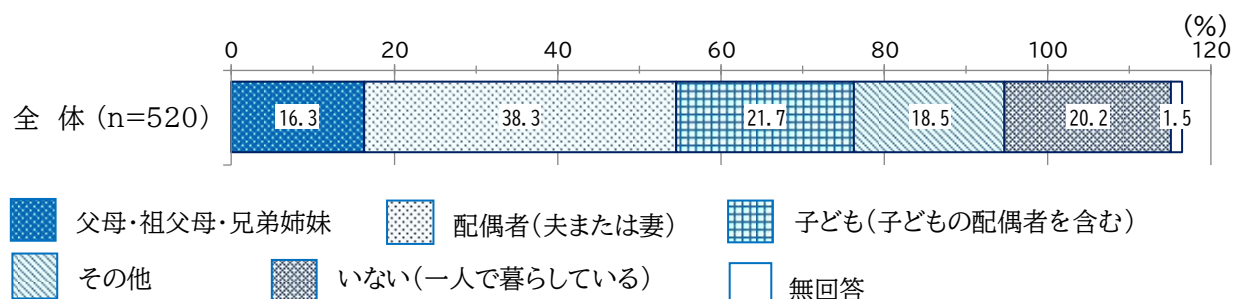


問5 現在、あなたが一緒に暮らしている人はどなたですか。

【該当する記号をすべて○】

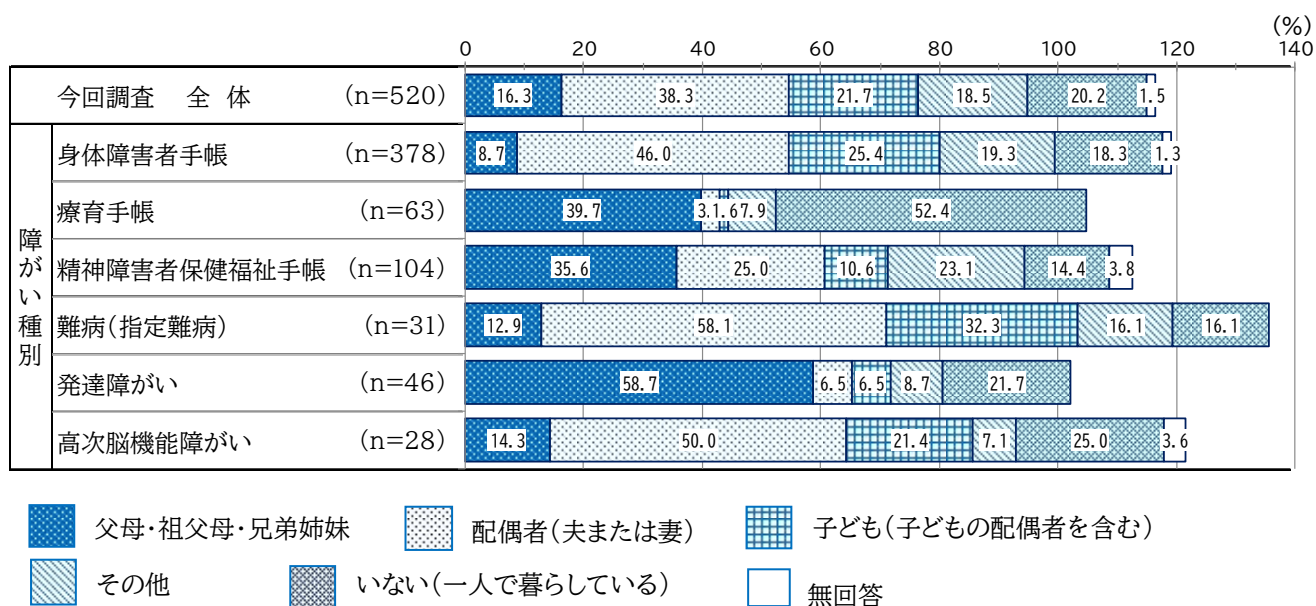
一緒に暮らしている人について、「配偶者（夫または妻）」が 38.3%と最も高くなっています。次いで、「子ども（子どもの配偶者を含む）」が 21.7%、「いない（一人で暮らしている）」が 20.2%となっています。

【全体】



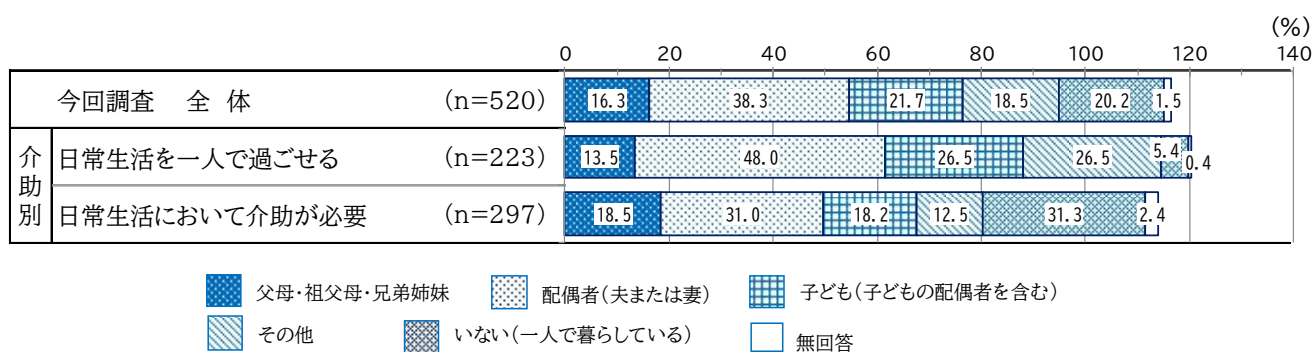
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』では「いない（一人で暮らしている）」、『精神障害者保健福祉手帳』、『発達障がい』では「父母・祖父母・兄弟姉妹」、それ以外では全て「配偶者（夫または妻）」が最も高くなっています。



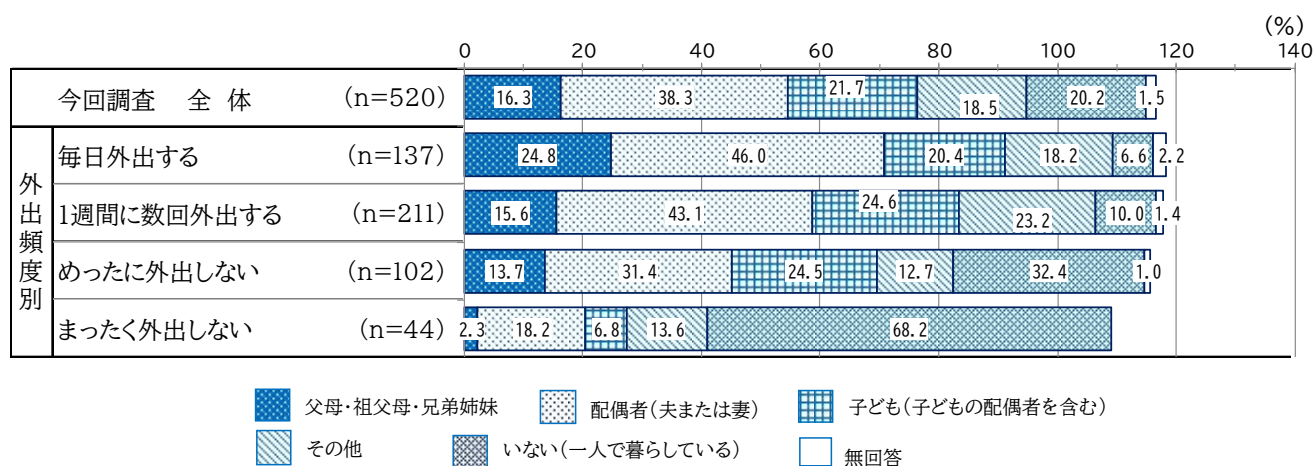
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「配偶者（夫または妻）」は、17ポイント高くなっています。「子ども（子どもの配偶者を含む）」は、8.3ポイント低くなっています。



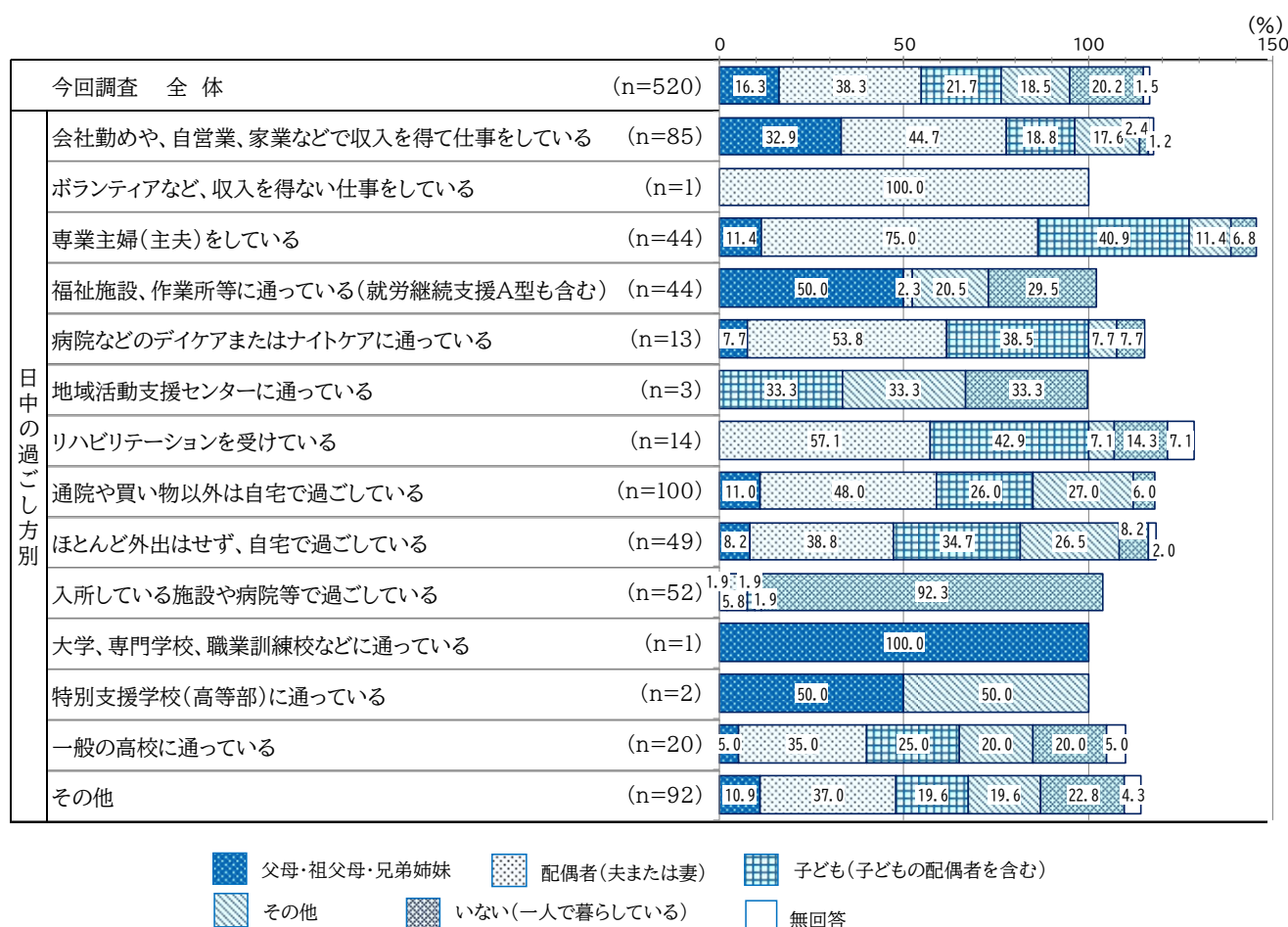
【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「いない（一人で暮らしている）」が高くなっています。



【日中の過ごし方別】

日中の過ごし方別でみると、『専業主婦(主夫)をしている』、『通院や買い物以外は自宅で過ごしている』では「配偶者(夫または妻)」が、『福祉施設、作業所等に通っている(就労継続支援A型も含む)』では「父母・祖父母・兄弟姉妹」が50.0%と高くなっています。また一方で『入所している施設や病院等で過ごしている』では「いない(一人で暮らしている)」が92.3%と高くなっています。

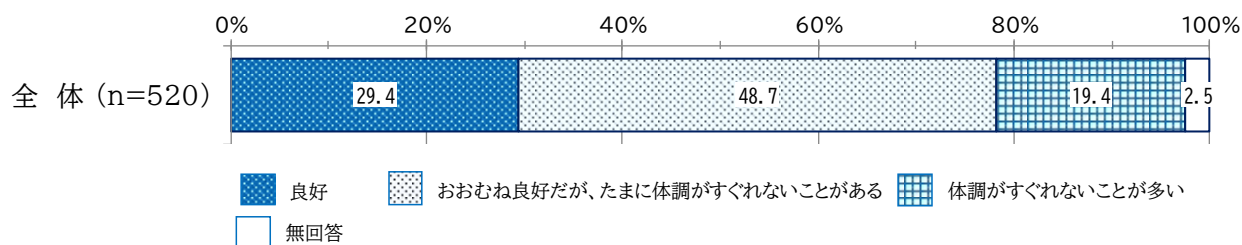


問6 あなたの現在の健康状態はいかがですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

健康状態について、「おおむね良好だが、たまに体調がすぐれないことがある」が48.7%と最も高くなっています。次いで、「良好」が29.4%、「体調がすぐれないことが多い」が19.4%となっています。

【全体】



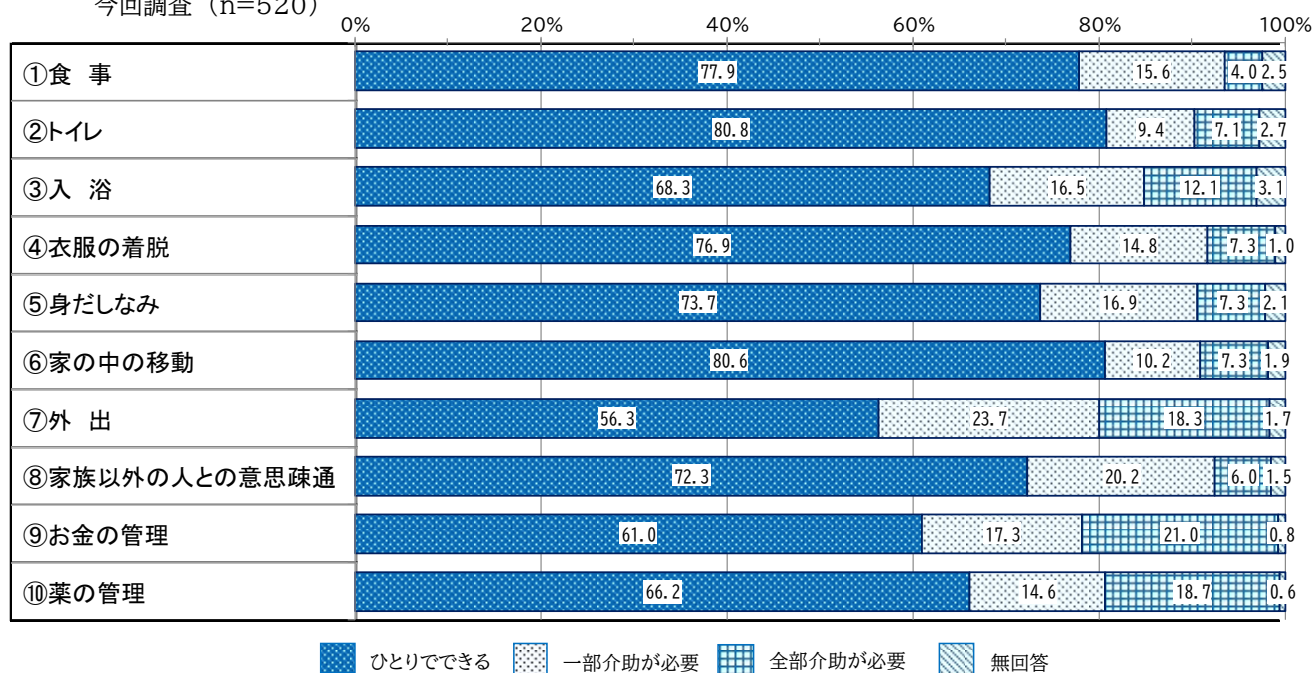
問7 日常生活で、次のことをどのようにしていますか。

【①から⑩のそれぞれに該当する記号をひとつだけ○】

日常生活について、介助の必要性について「⑦外出」、「⑨お金の管理」、「⑩薬の管理」が3割以上介助を必要だと回答があります。

【全体】

今回調査 (n=520)

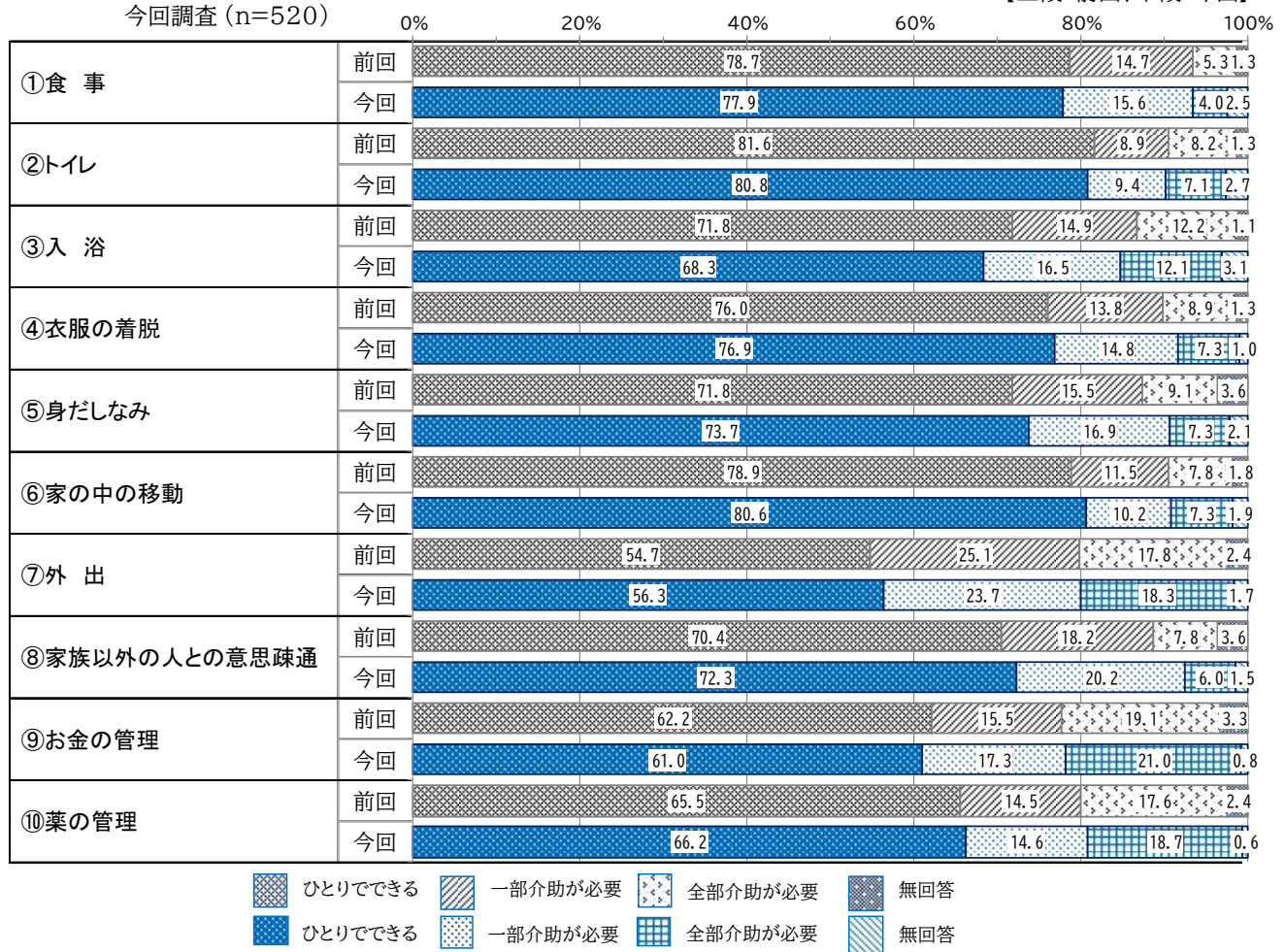


【前回比較】

前回調査 (n=550)

今回調査 (n=520)

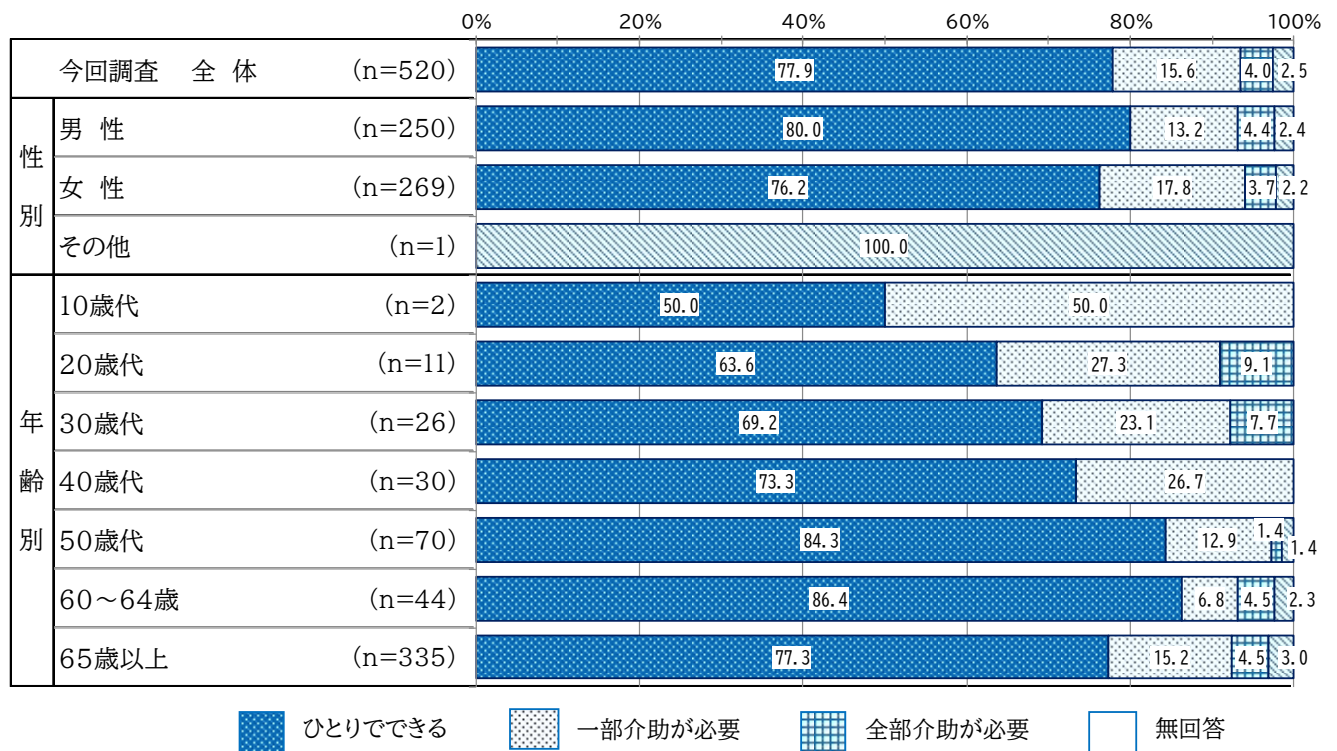
【上段:前回、下段:今回】



①食事

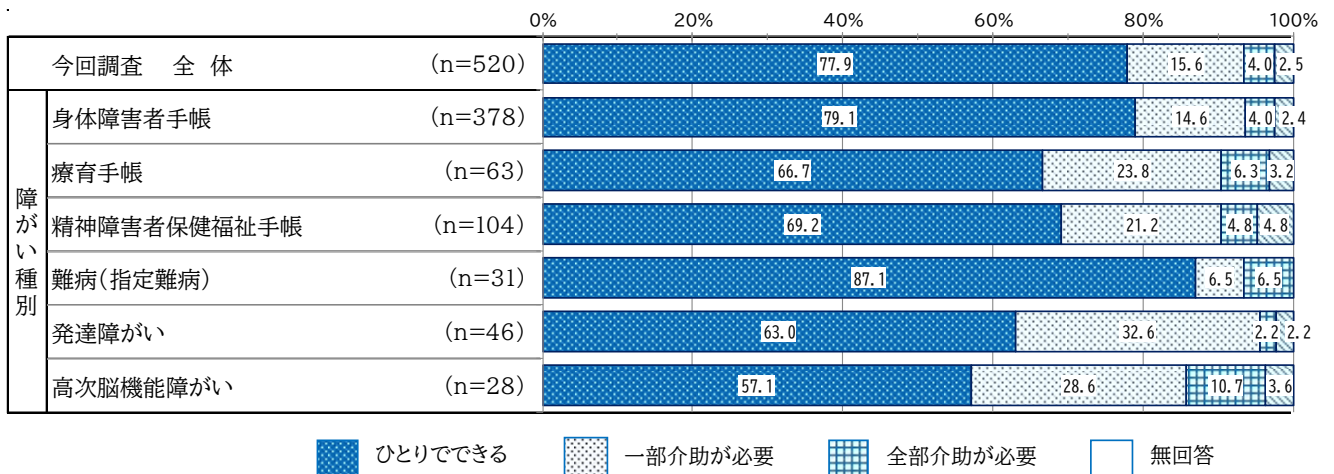
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「ひとりでできる」が3.8 ポイント高くなっています。



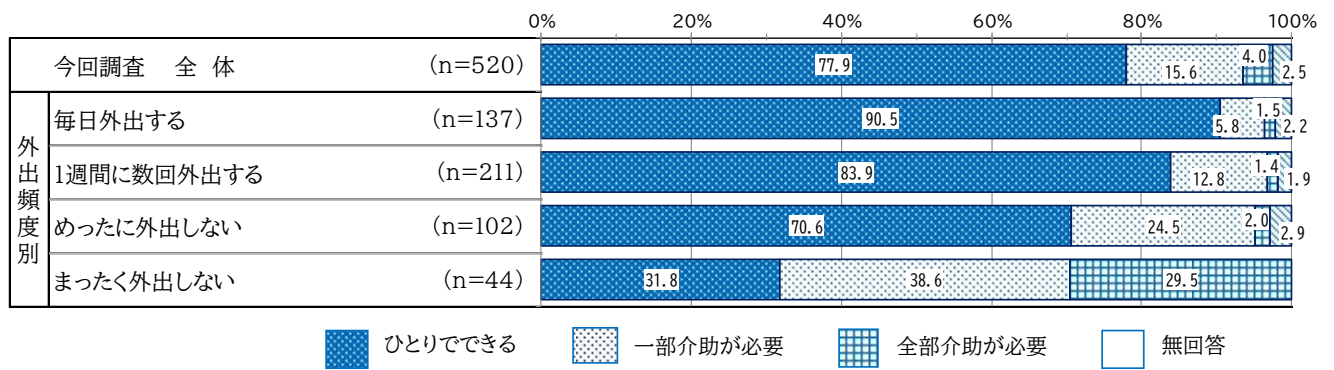
【障害種別】

障害種別でみると、全てにおいて「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

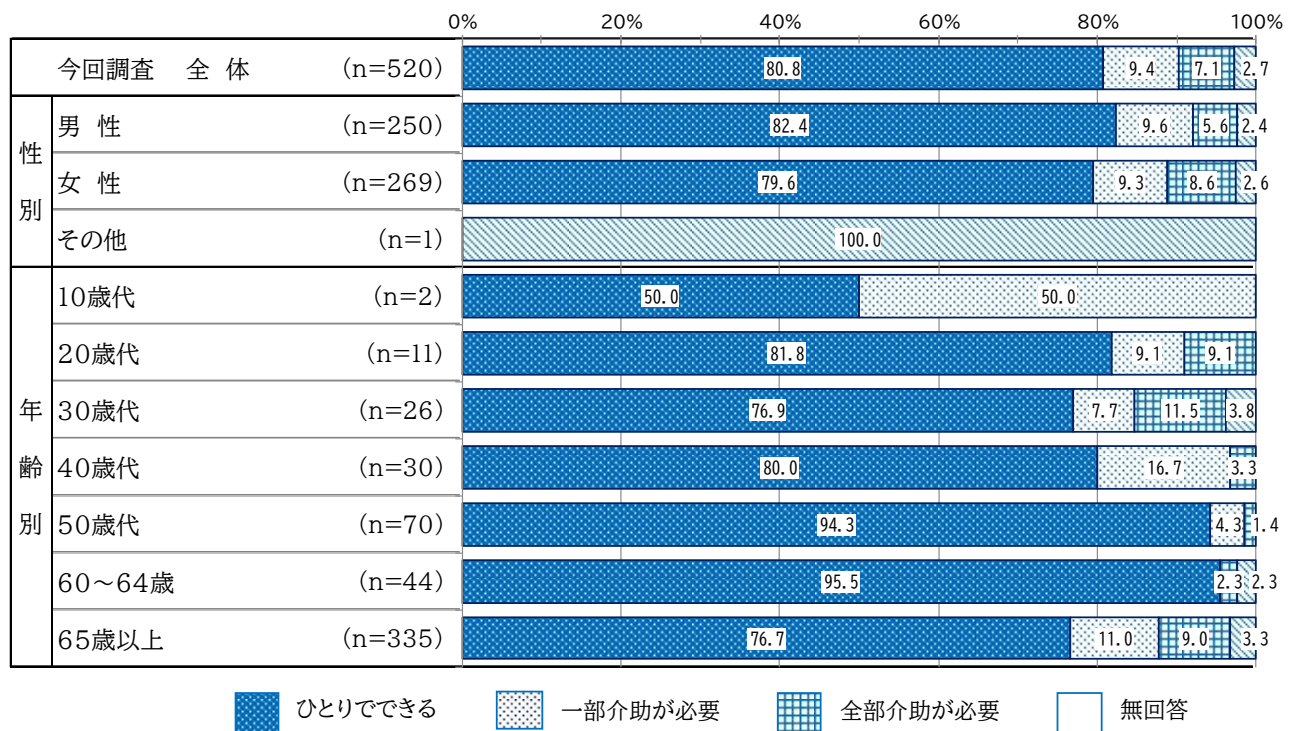
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「ひとりでできる」が低くなっています。



②トイレ

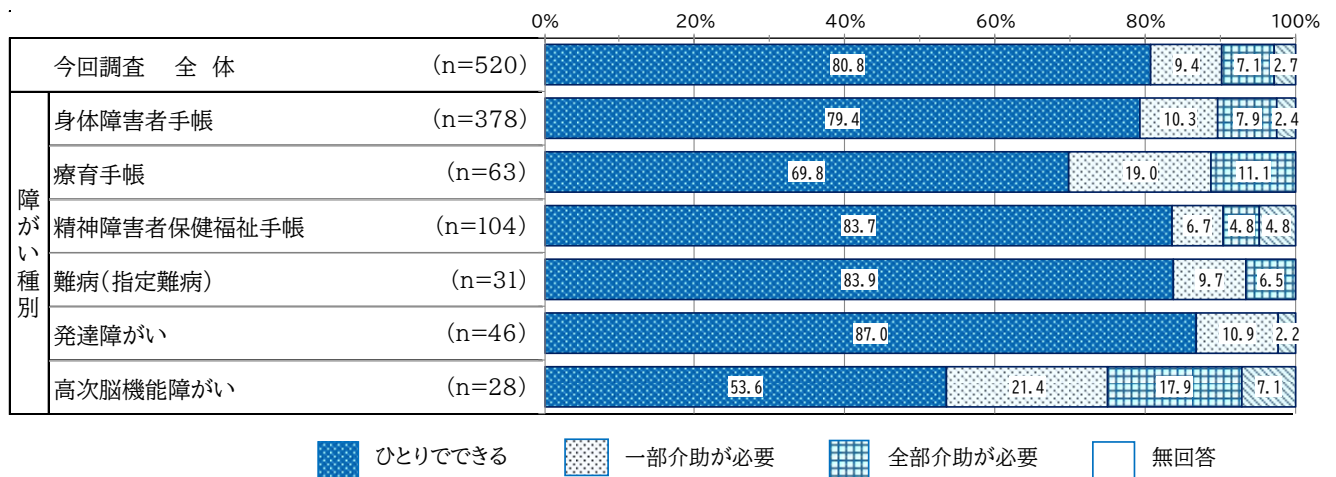
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『30 歳代』から『60～64 歳』に年齢が上がるにつれて、「ひとりでできる」が高くなっています。



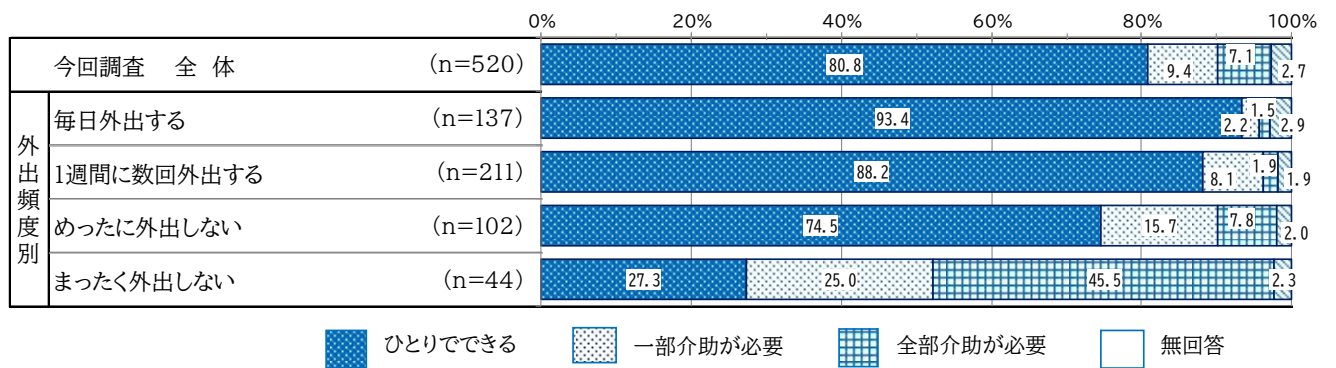
【障害種別】

障害種別でみると、全てにおいて「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

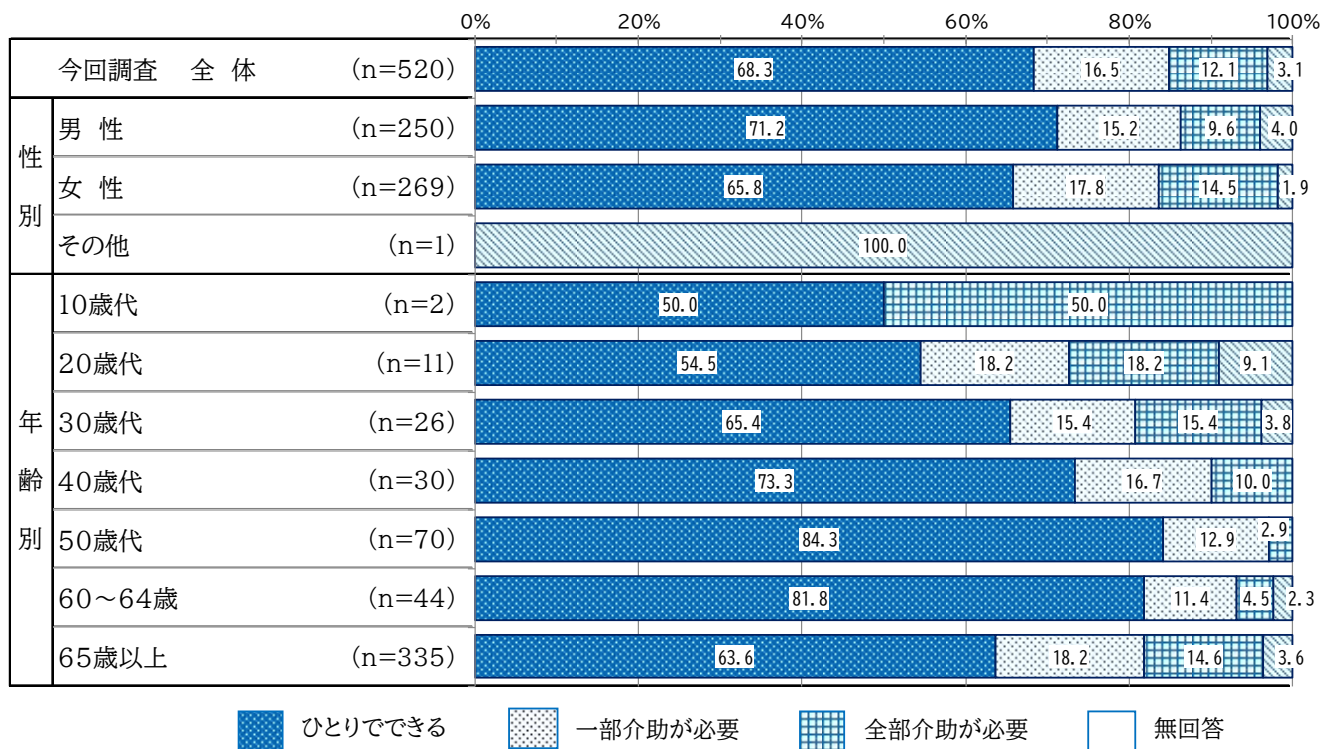
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「ひとりでできる」が低くなっています。



③入浴

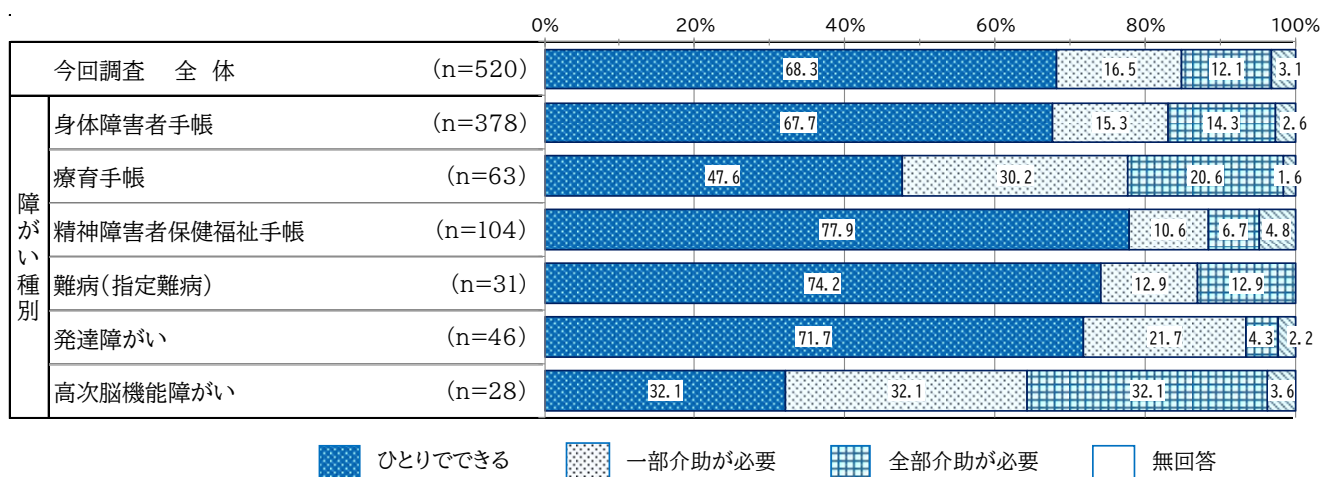
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「ひとりでできる」が5.4ポイント高くなっています。年齢別でみると、『20歳代』から『50歳以上』に年齢が上がるにつれて、「ひとりでできる」が高くなっています。



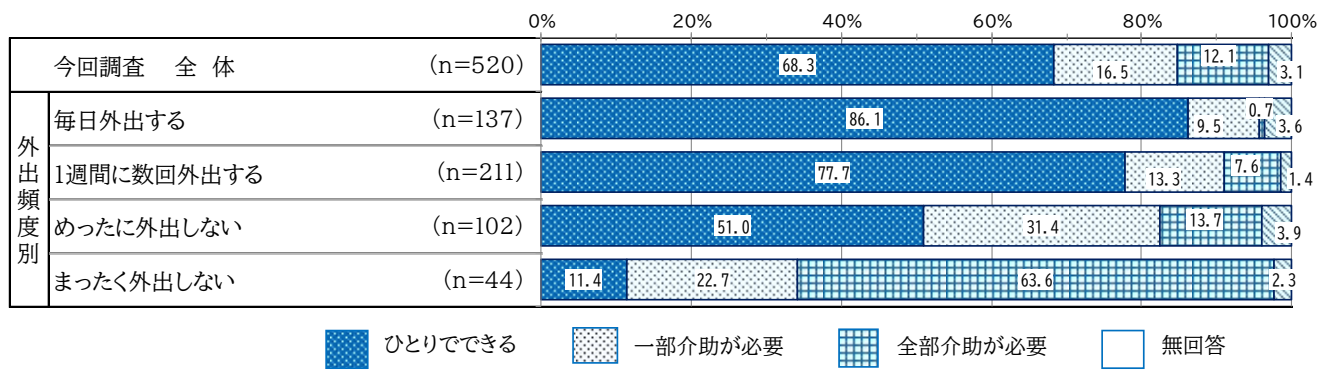
【障害種別】

障害種別でみると、全てにおいて「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

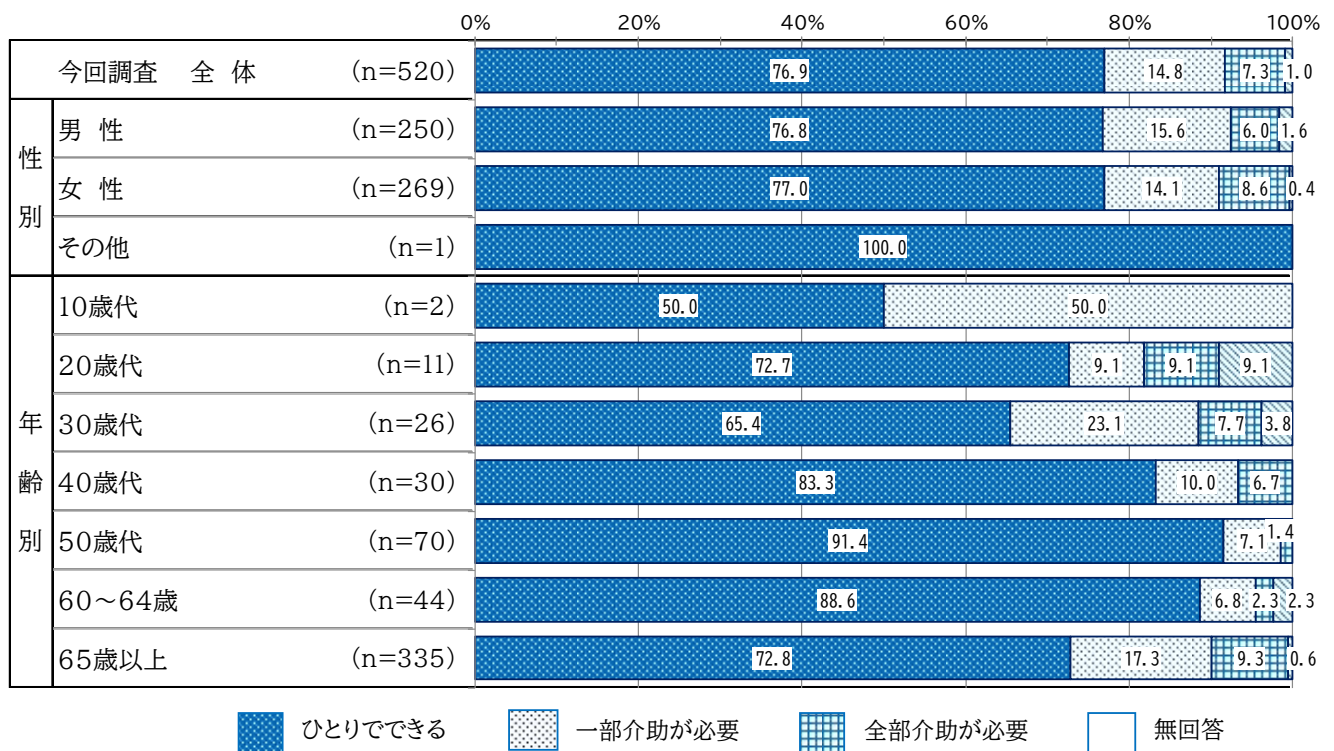
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「ひとりでできる」が低くなっています。



④衣服の着脱

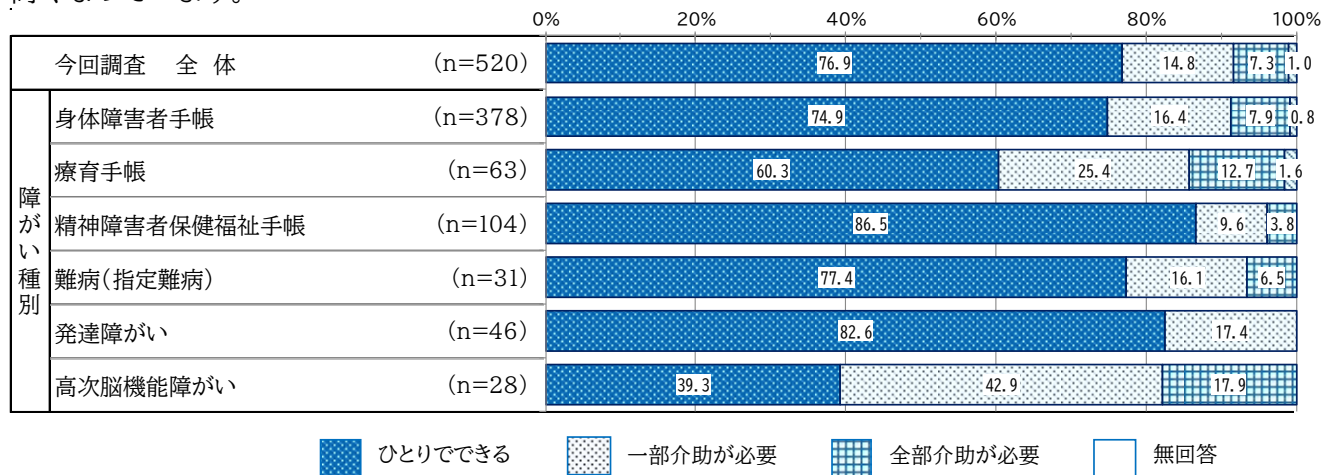
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』も『女性』もほぼ同じ割合となっています。年齢別でみると、『30 歳代』から『50 歳代』に年齢が上がるにつれて、「ひとりでできる」が高くなっています。



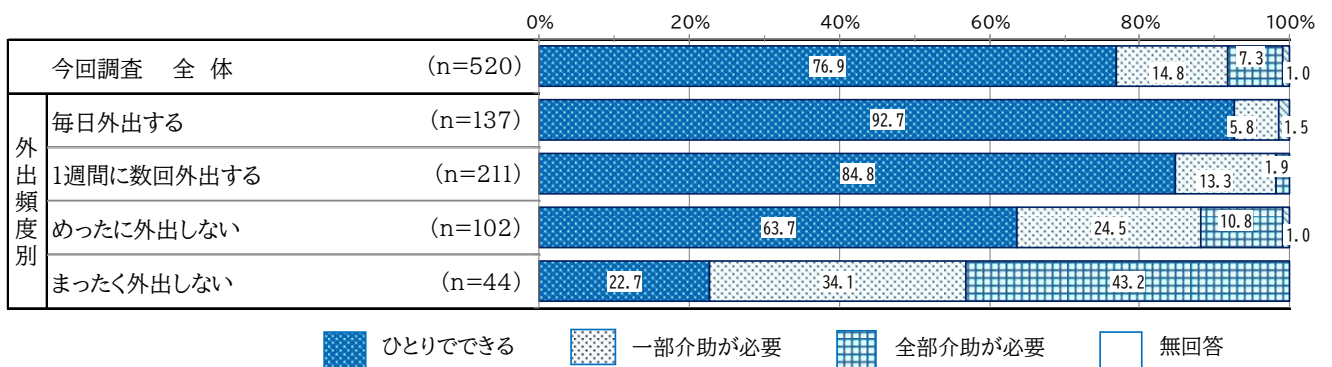
【障害種別】

障害種別でみると、『高次脳機能障がい』では「一部介助が必要」、それ以外は「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

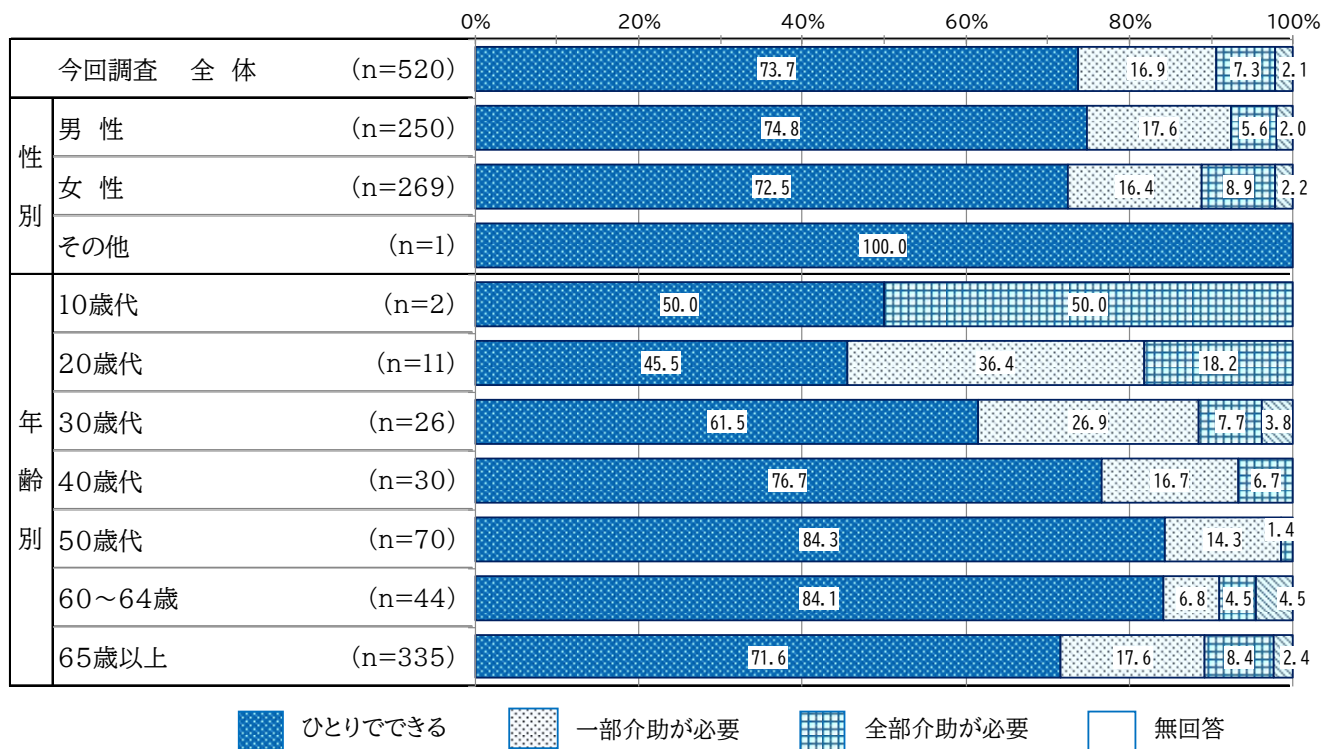
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「ひとりでできる」が低くなっています。



⑤身だしなみ

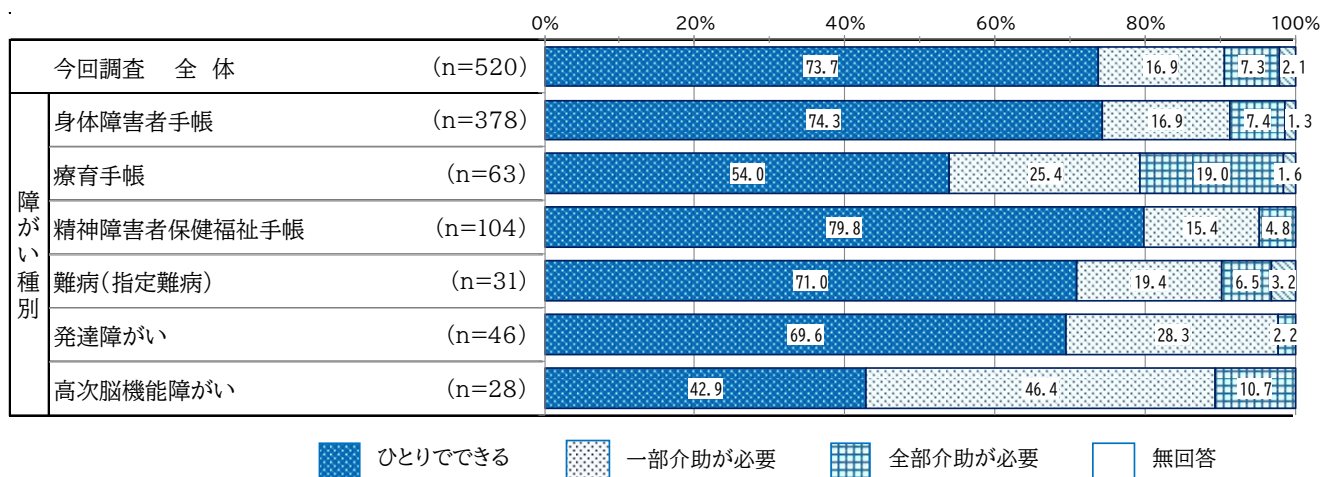
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『20 歳代』から『50 歳代』に年齢が上がるにつれて、「ひとりでできる」が高くなっています。



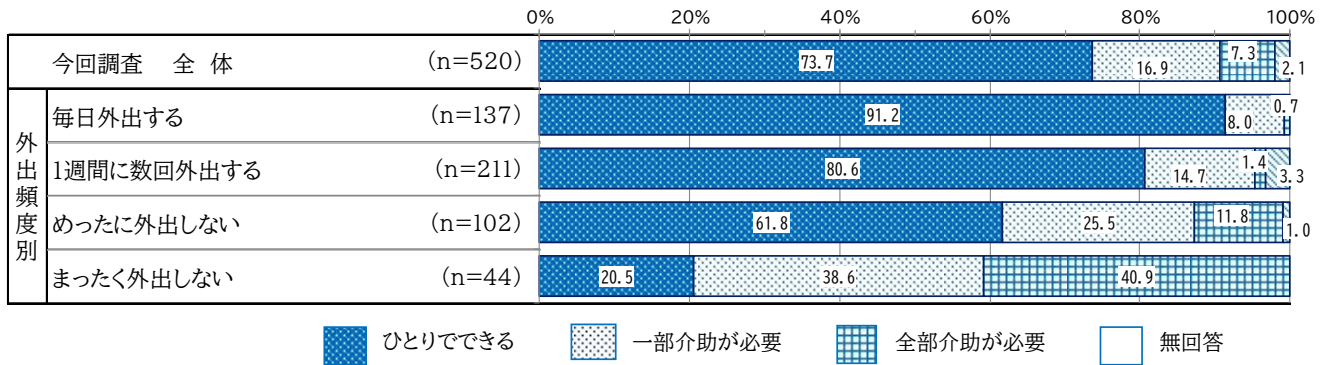
【障害種別】

障害種別でみると、『高次脳機能障がい』では「一部介助が必要」、それ以外は「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

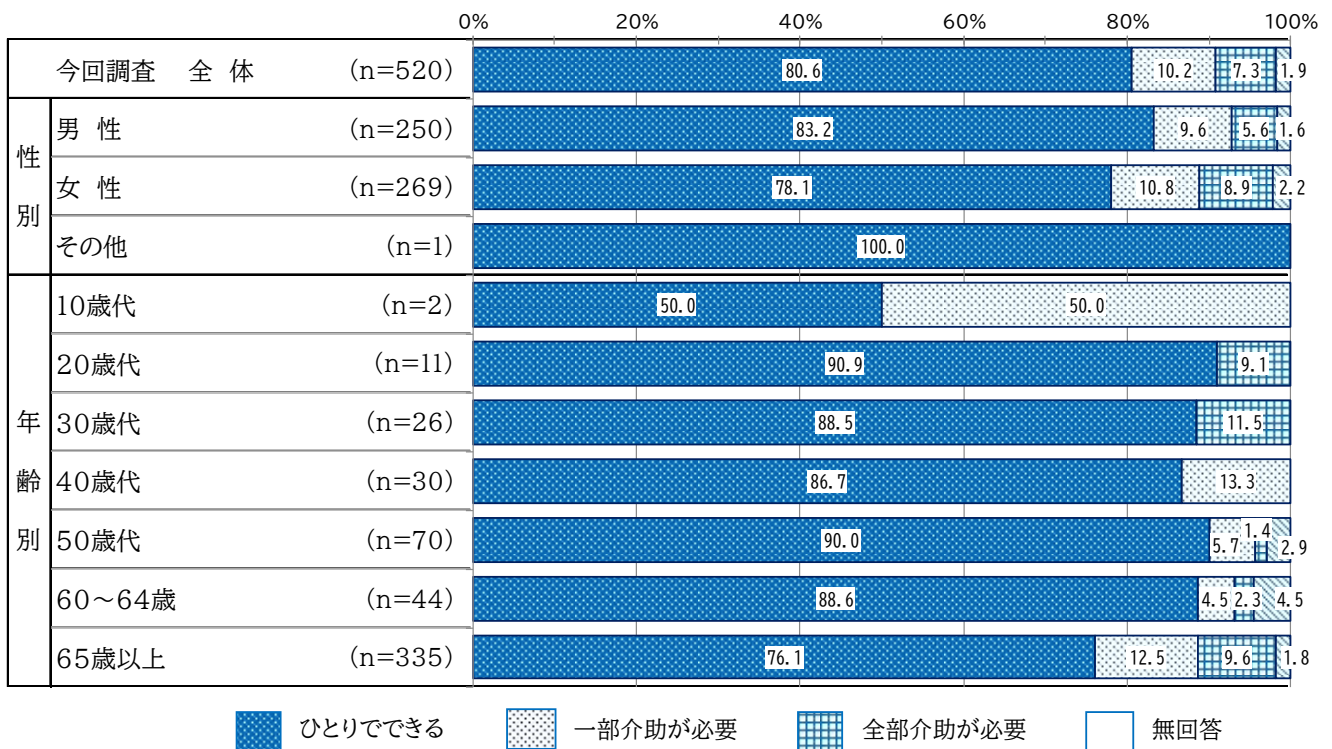
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「ひとりでできる」は低くなっており、「一部介助が必要」と「全部介助が必要」が高くなっています。



⑥家の中の移動

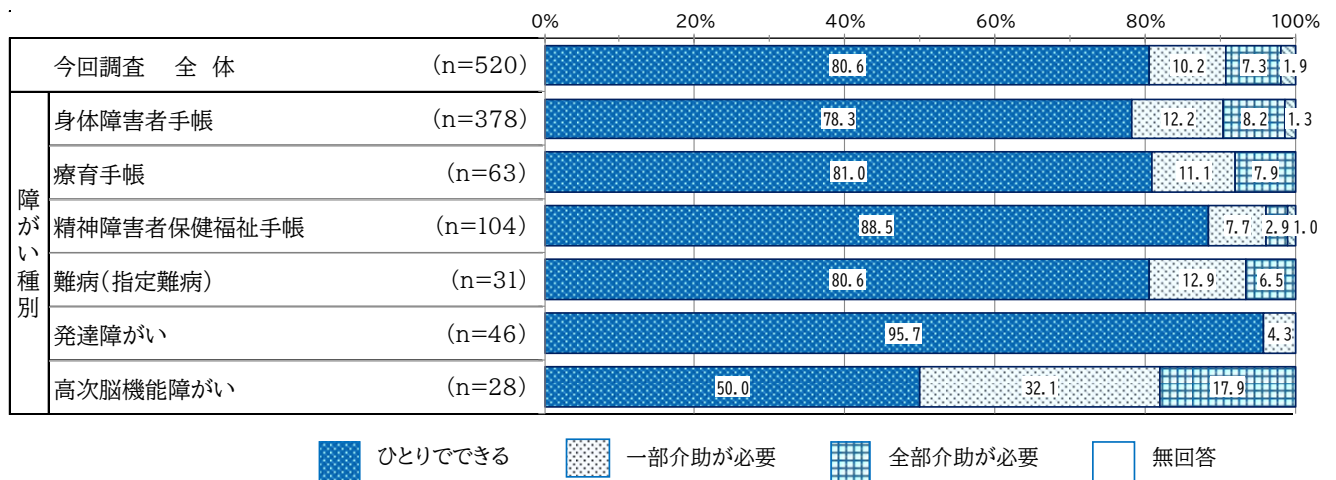
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「ひとりでできる」が 5.1 ポイント高くなっています。



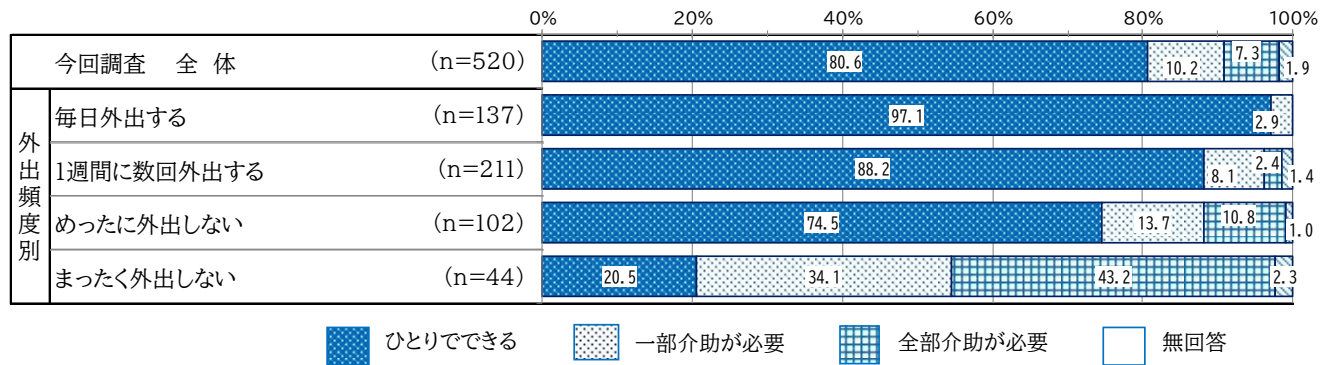
【障害種別】

障害種別でみると、全てにおいて「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

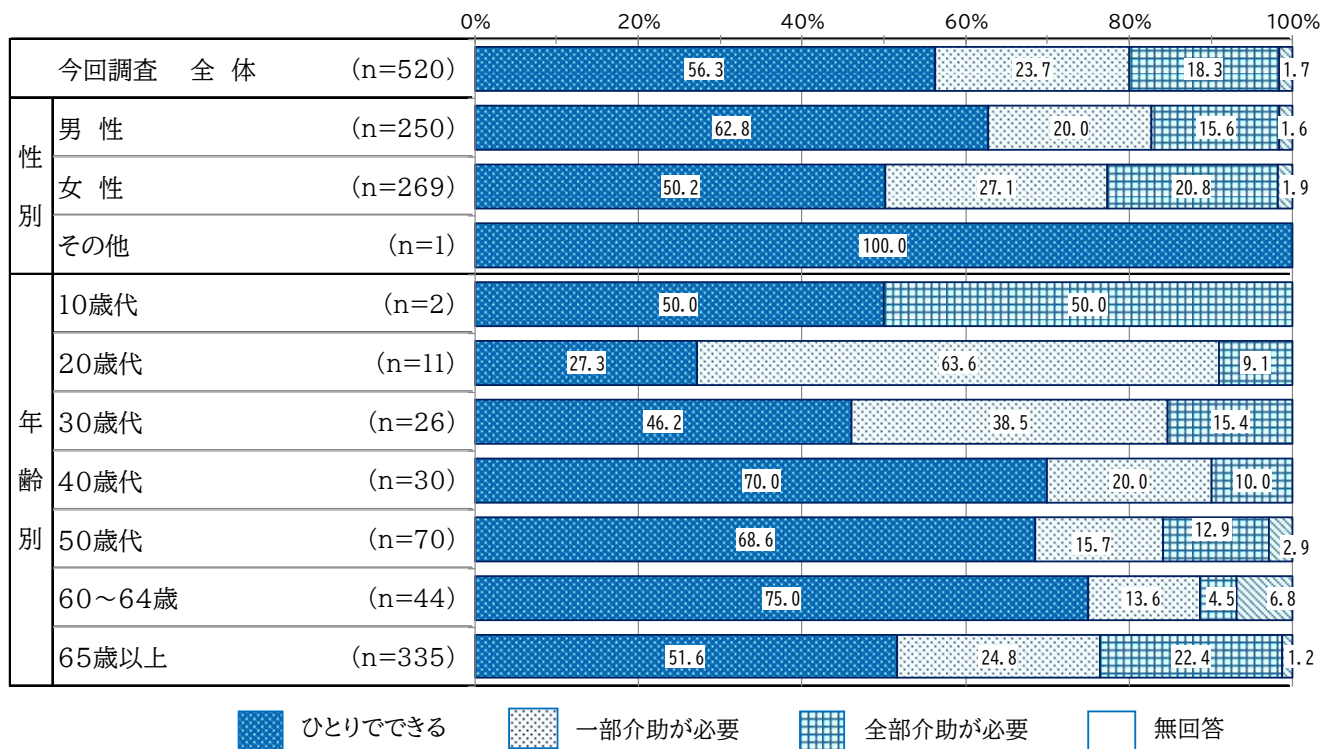
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「一部介助が必要」が高くなっています。



⑦外出

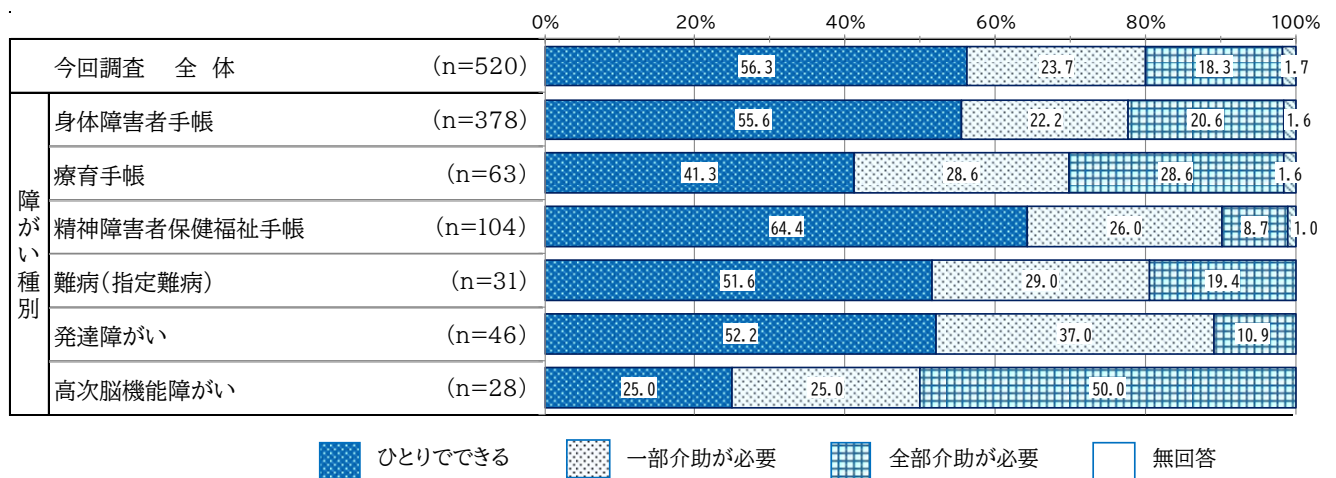
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「ひとりでできる」が12.6ポイント高くなっています。年齢別でみると、『20歳代』から『60～64歳』に年齢が上がるにつれて、「ひとりでできる」が高くなっています。



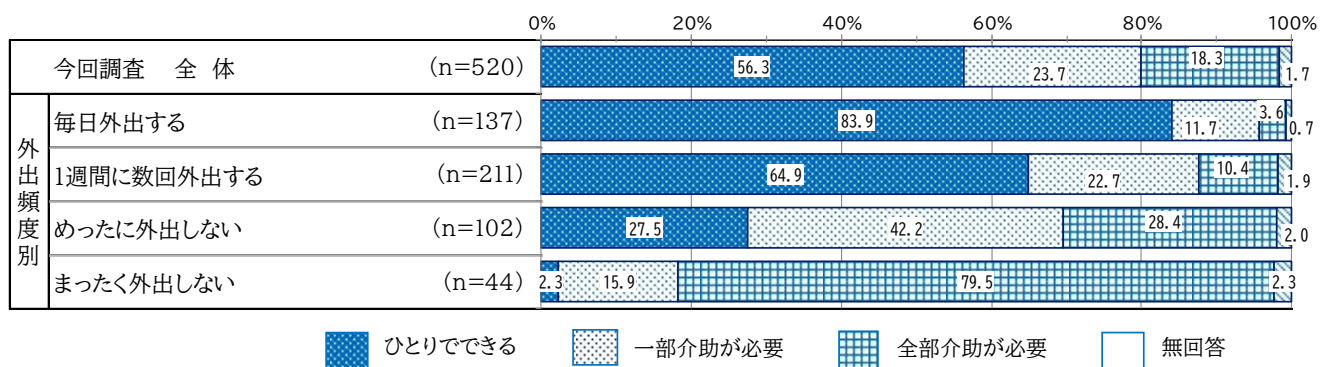
【障害種別】

障害種別でみると、『高次脳機能障がい』では「全部介助が必要」、それ以外では全て「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

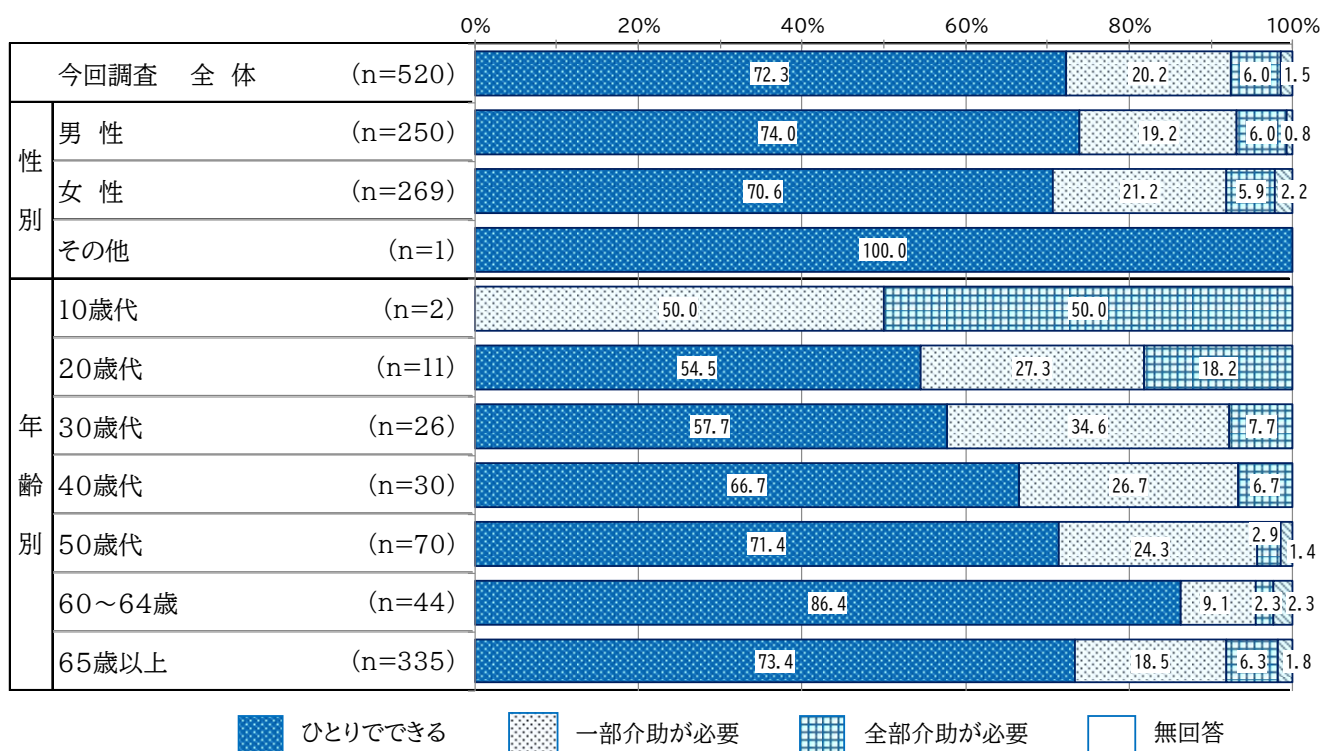
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「全部介助が必要」が高くなっています。



⑧家族以外の人との意思疎通

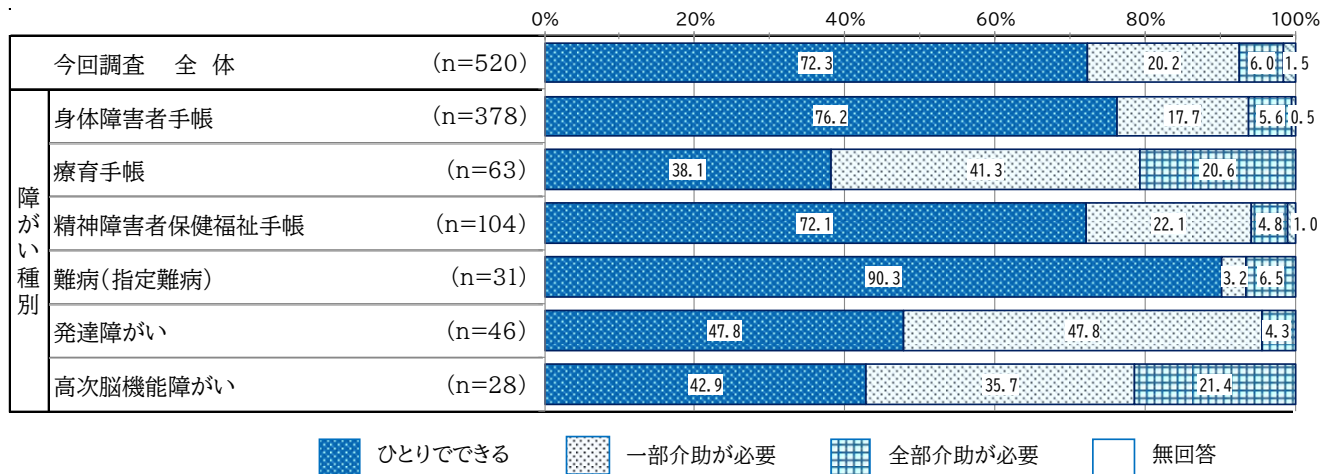
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『20 歳代』から『60～64歳』に年齢が上がるにつれて、「ひとりでできる」が高くなっています。



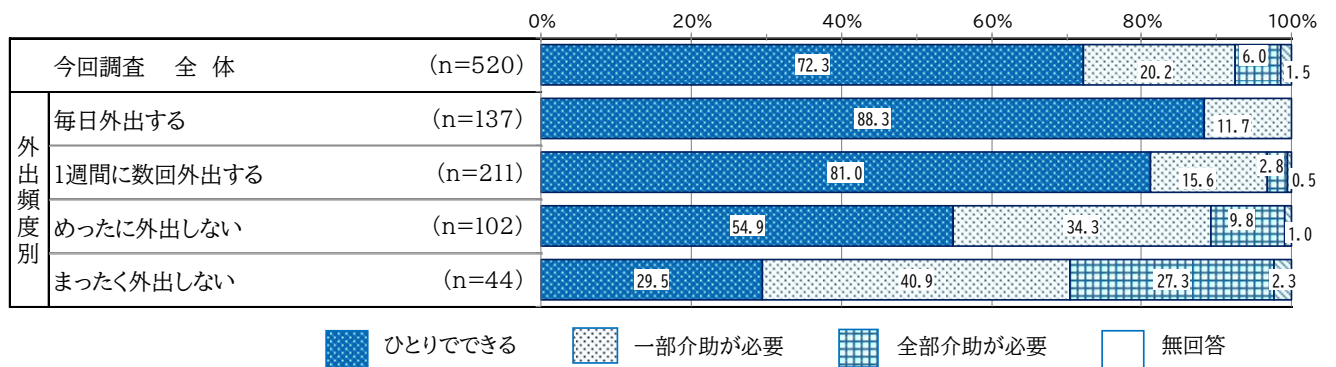
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』では「一部介助が必要」、それ以外では全て「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

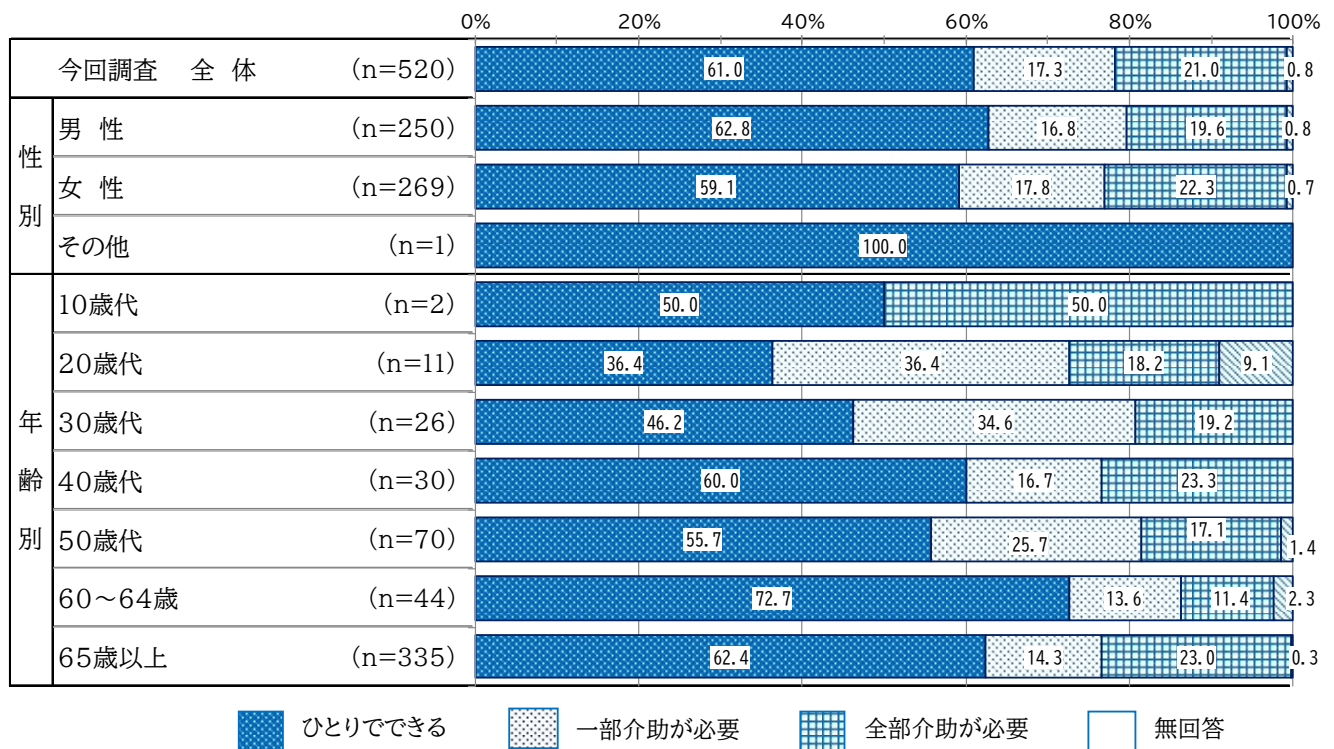
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「ひとりでできる」が低くなっています。



⑨お金の管理

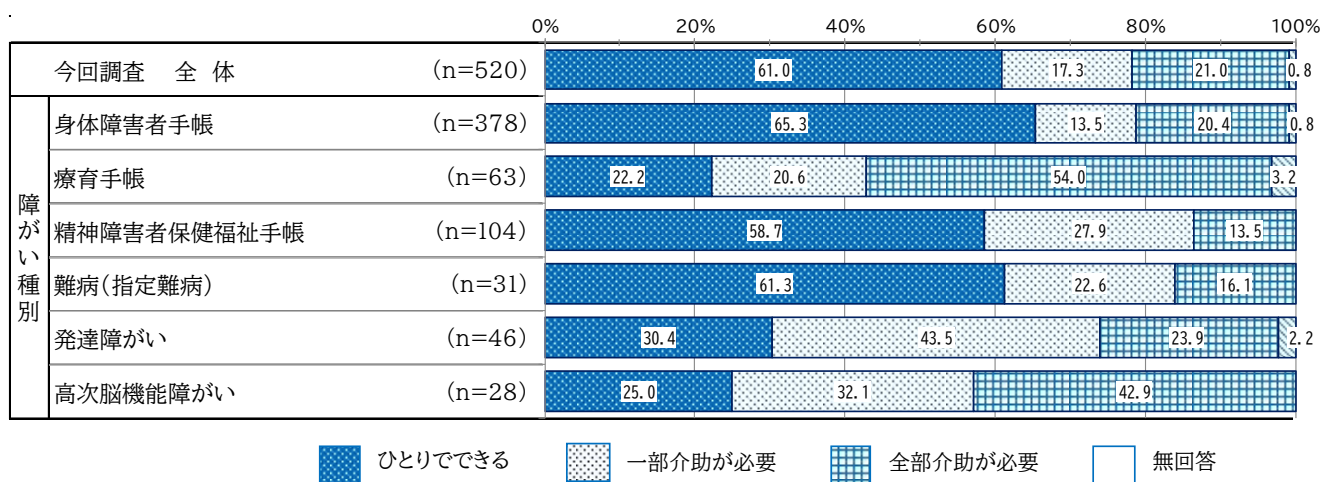
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『50 歳台』を除き『20 歳代』から『60～64 歳』に年齢が上がるにつれて、「ひとりでできる」が高くなっています。



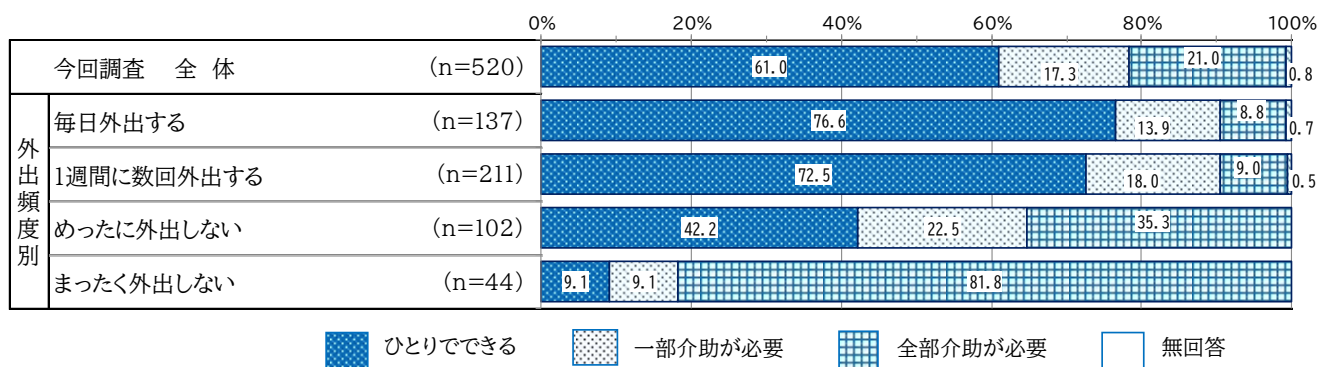
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』、『高次脳機能障がい』では「全部介助が必要」、『発達障がい』では「一部介助が必要」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

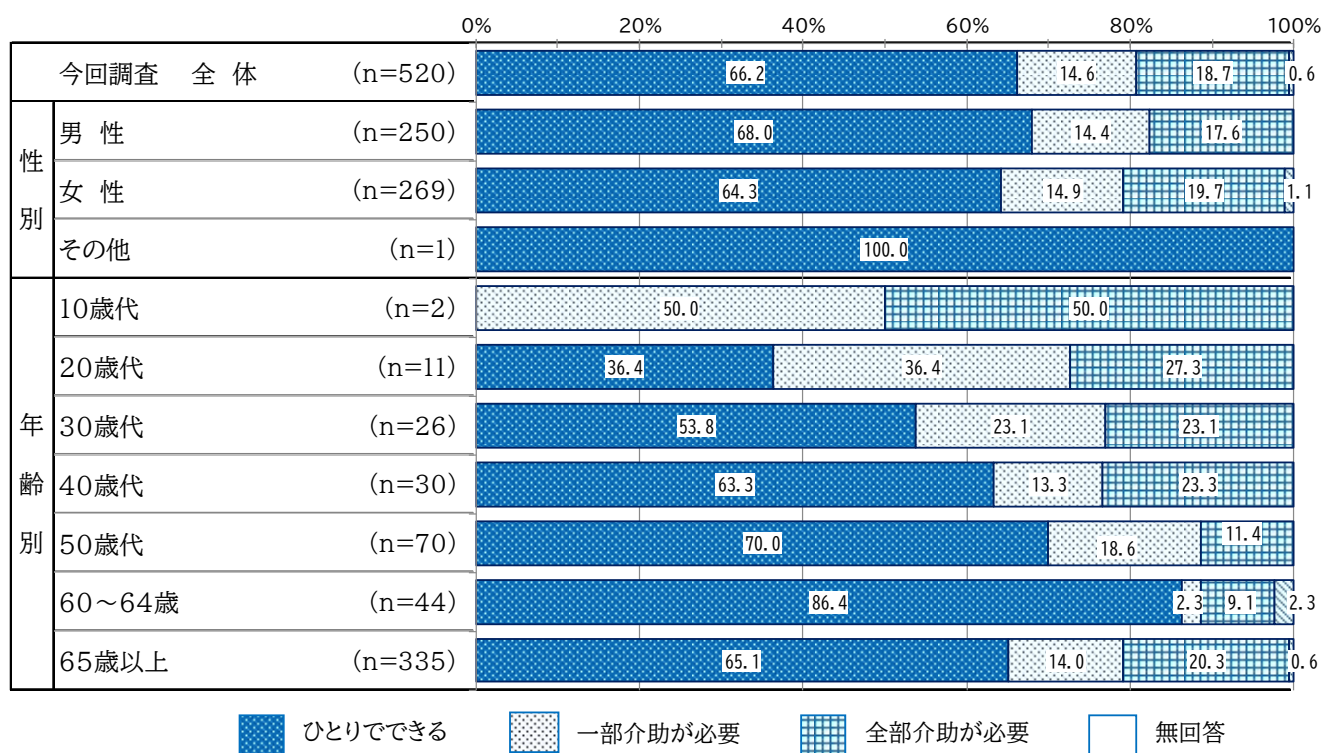
外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「ひとりでできる」が低くなっています。



⑩薬の管理

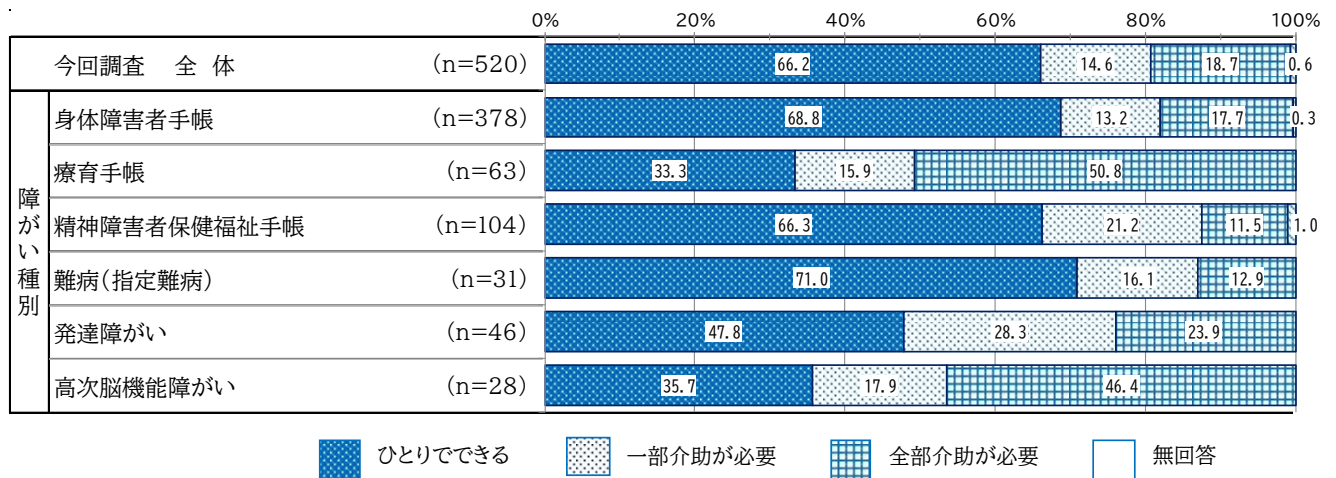
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『20 歳代』から『60～64 歳』に年齢が上がるにつれて、「ひとりでできる」が高くなっています。



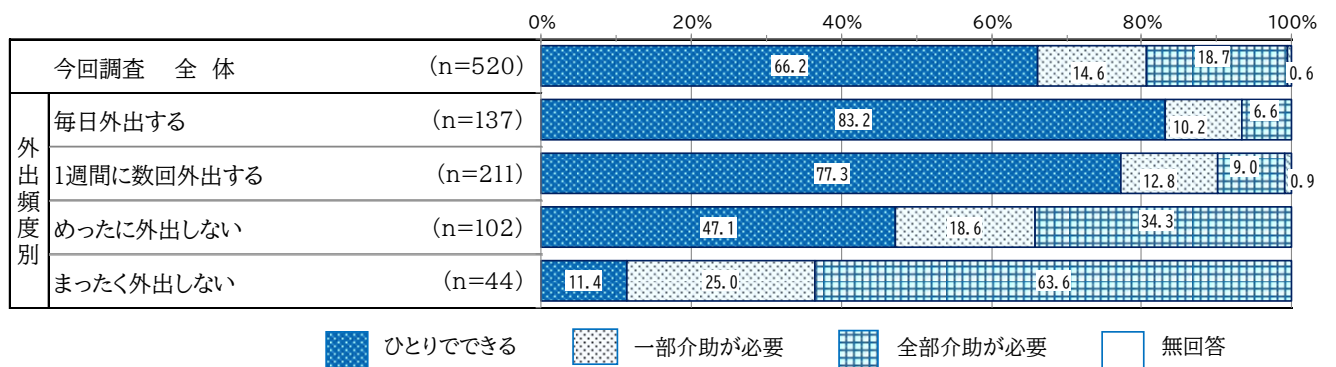
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』、『高次脳機能障がい』では「全部介助が必要」、それ以外では全て「ひとりでできる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「ひとりでできる」が低くなっています。



《問7で「イ 一部介助が必要」～「ウ 全部介助が必要」を選択された方のみが回答》

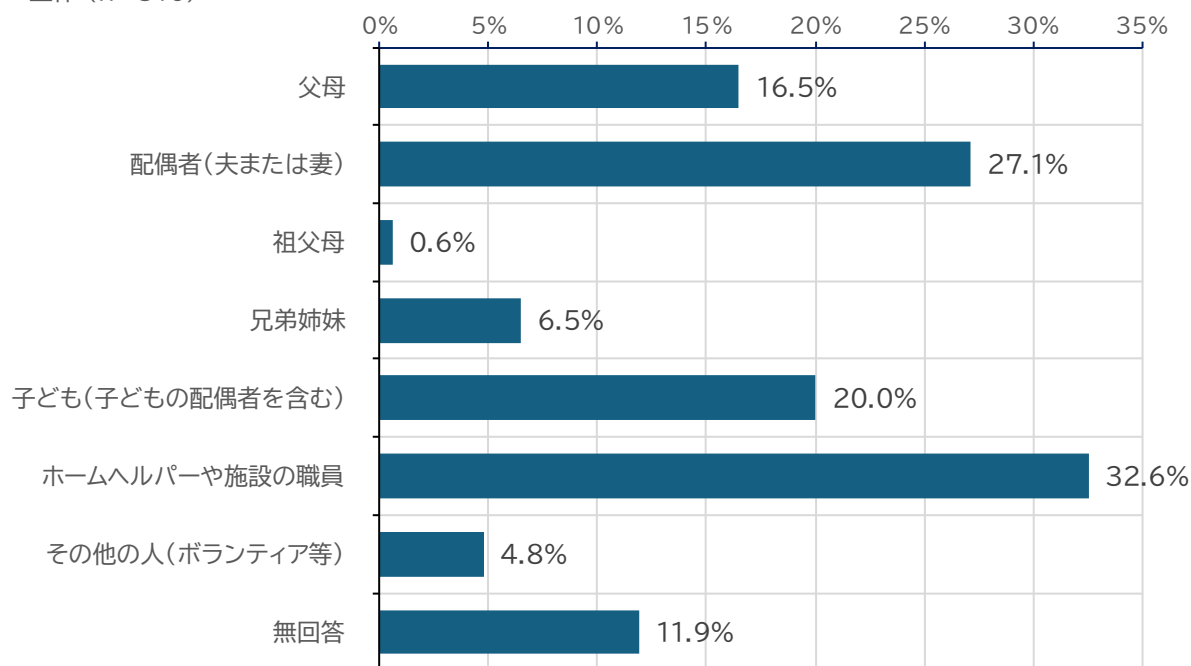
問8 あなたを介助または介護してくれる方は主に誰ですか。

【該当する記号をすべて○】

介助または介護してくる人について、「ホームヘルパーや施設の職員」が 32.6 %と最も高くなっています。次いで、「配偶者（夫または妻）」が 27.1 %、「子ども（子どもの配偶者を含む）」が 20.0 %となっています。

【全体】

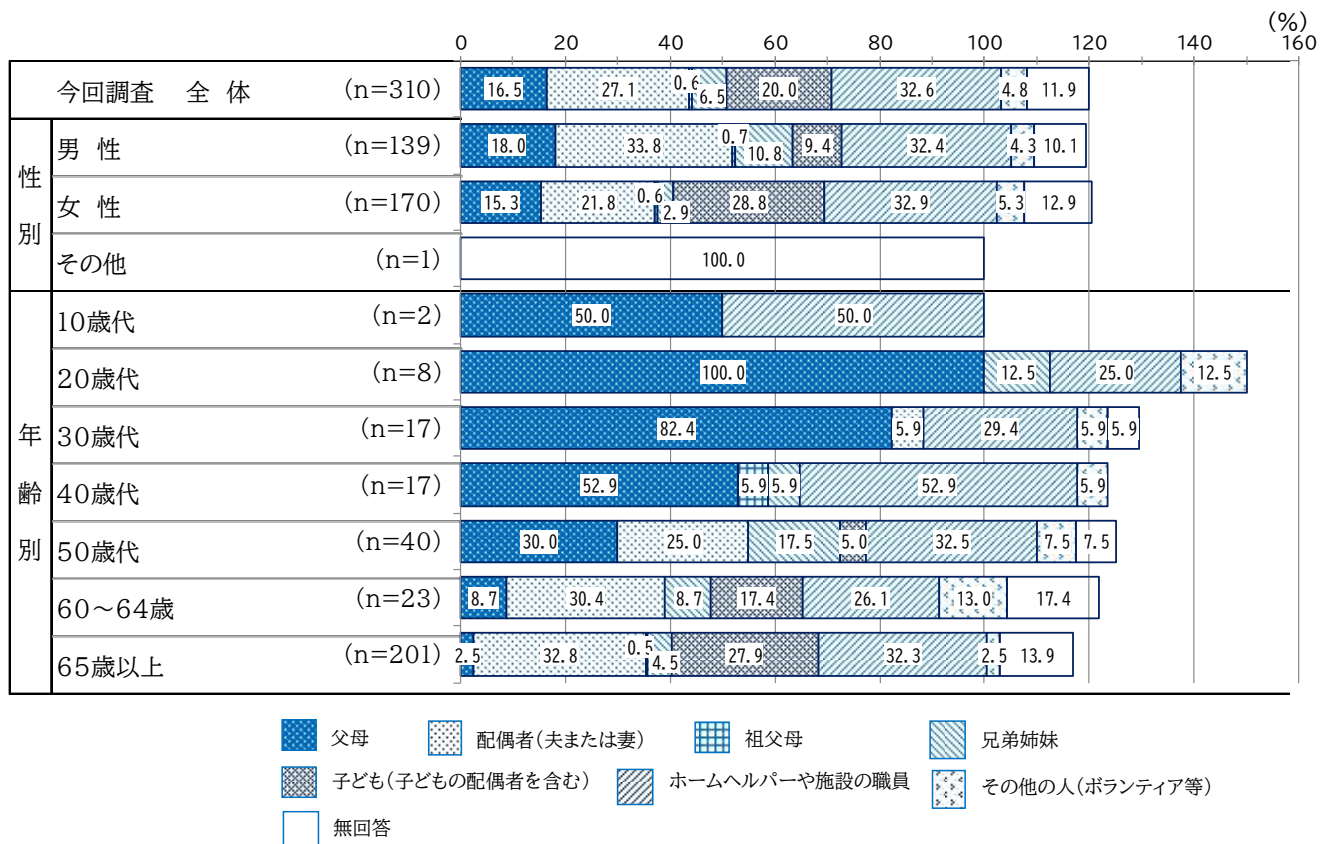
全体 (n=310)



【性別・年齢別】

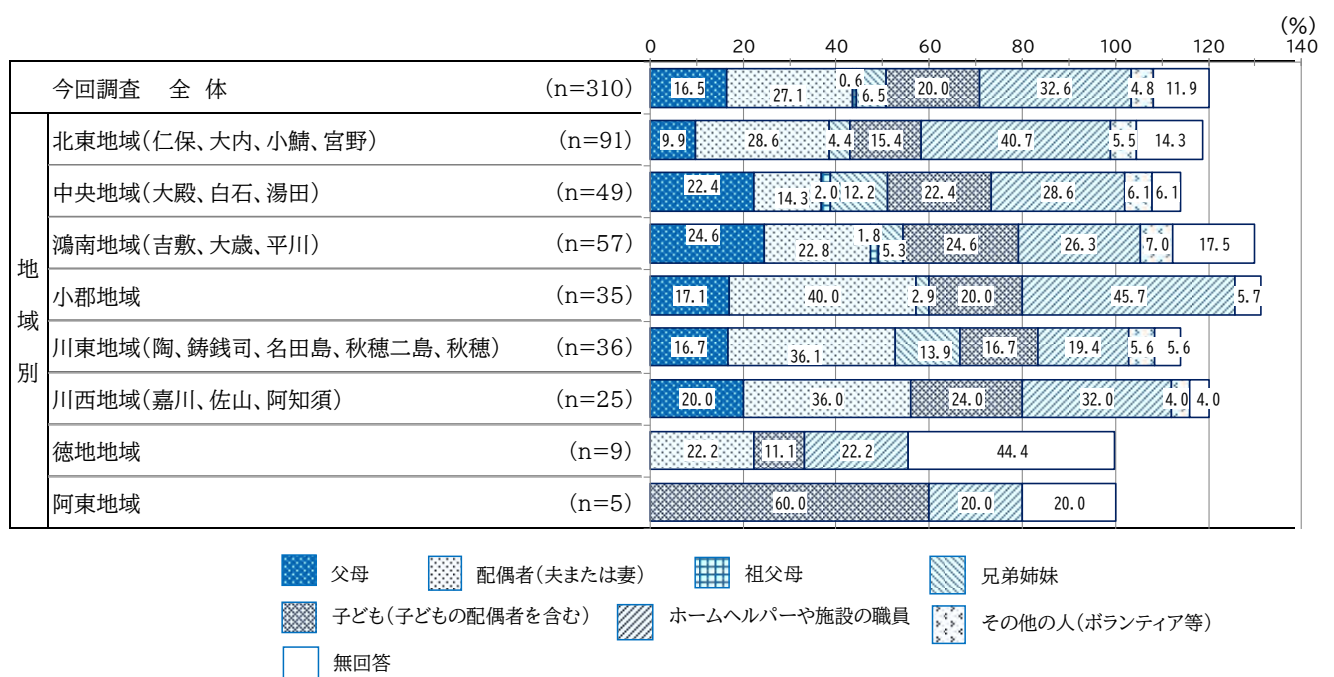
性別でみると、『男性』は『女性』より、「子ども（子どもの配偶者を含む）」が 19.4 ポイント低く、「配偶者（夫または妻）」が 12 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『20 歳代』から『65 歳以上』に年齢が上がるにつれて「父母」が低くなっています。



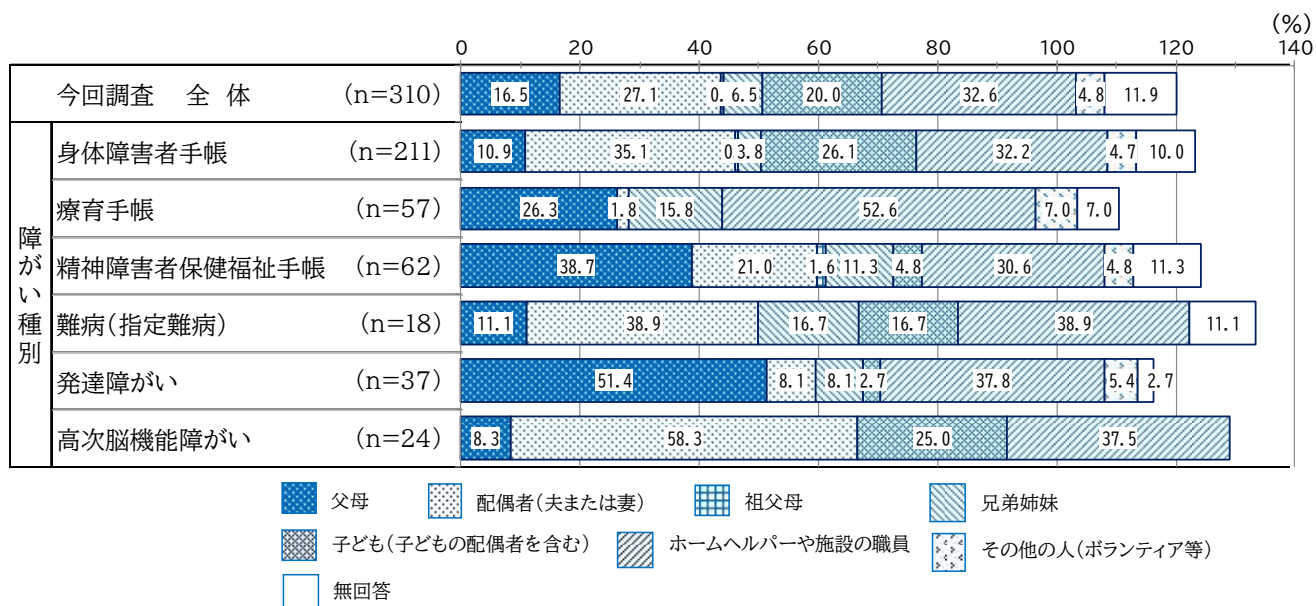
【地域別】

地域別でみると、『川東地域』（36.1%）、『川西地域』（36.0%）では「配偶者（夫または妻）」、『阿東地域』では「子ども（子どもの配偶者を含む）」、それ以外では全て「ホームヘルパーや施設の職員」が高くなっています。



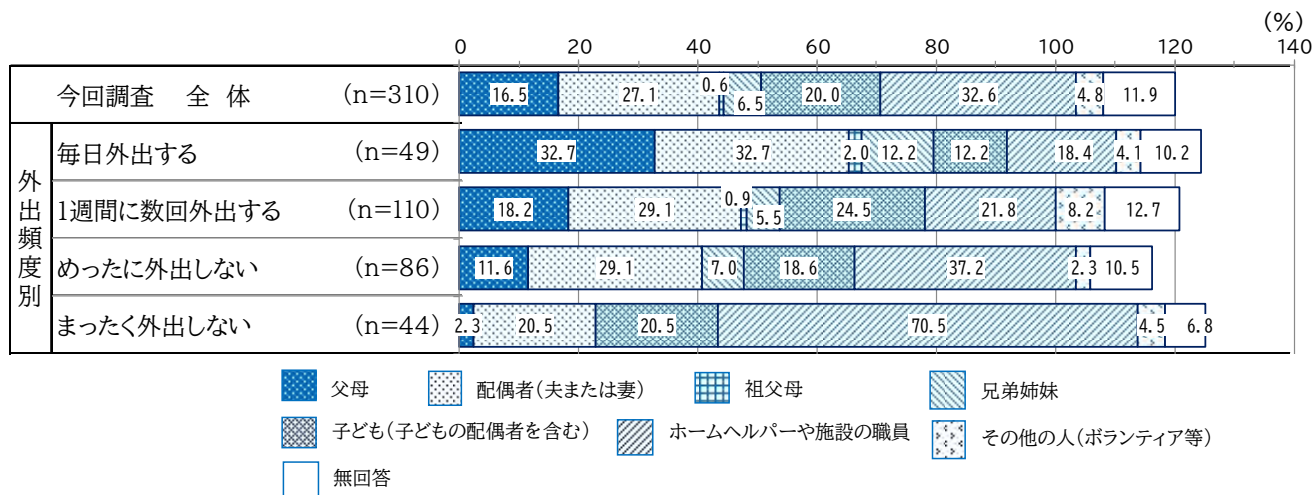
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』では「ホームヘルパーや施設の職員」、「発達障害」では「父母」、「高次脳機能障がい」では「配偶者（夫または妻）」が5割以上と高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「父母」が低くなっており、「ホームヘルパーや施設の職員」が高くなっています。



《問8で「ア 父母」～「オ 子ども（子どもの配偶者を含む）」を選択された方のみが回答》

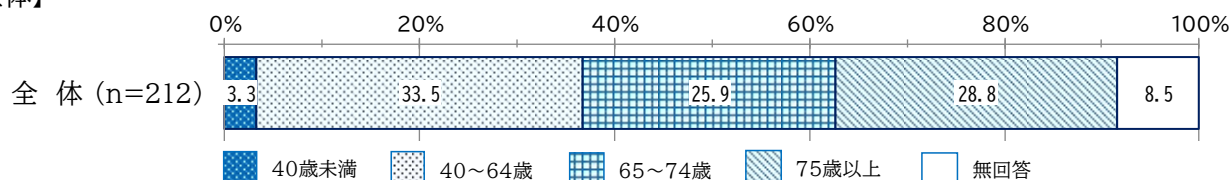
あなたを介護している家族で、特に中心となっている方の年齢、性別、健康状態、仕事の有無、悩み等をお答えください。

問9 年齢

【該当する記号をひとつだけ○】

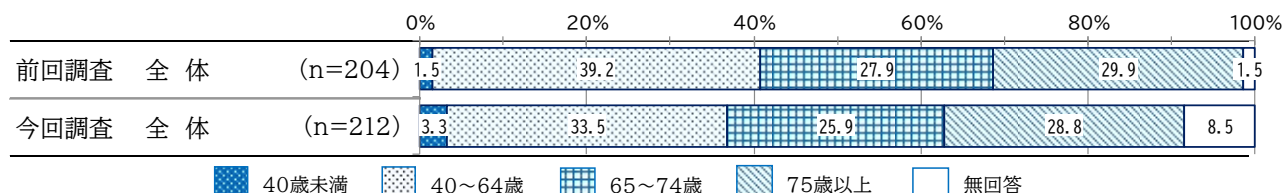
介護している家族の年齢について、「40～64 歳」が 33.5%と最も高くなっています。次いで、「75 歳以上」が 28.8%、「65～74 歳」が 25.9%となっています。

【全体】



【前回比較】

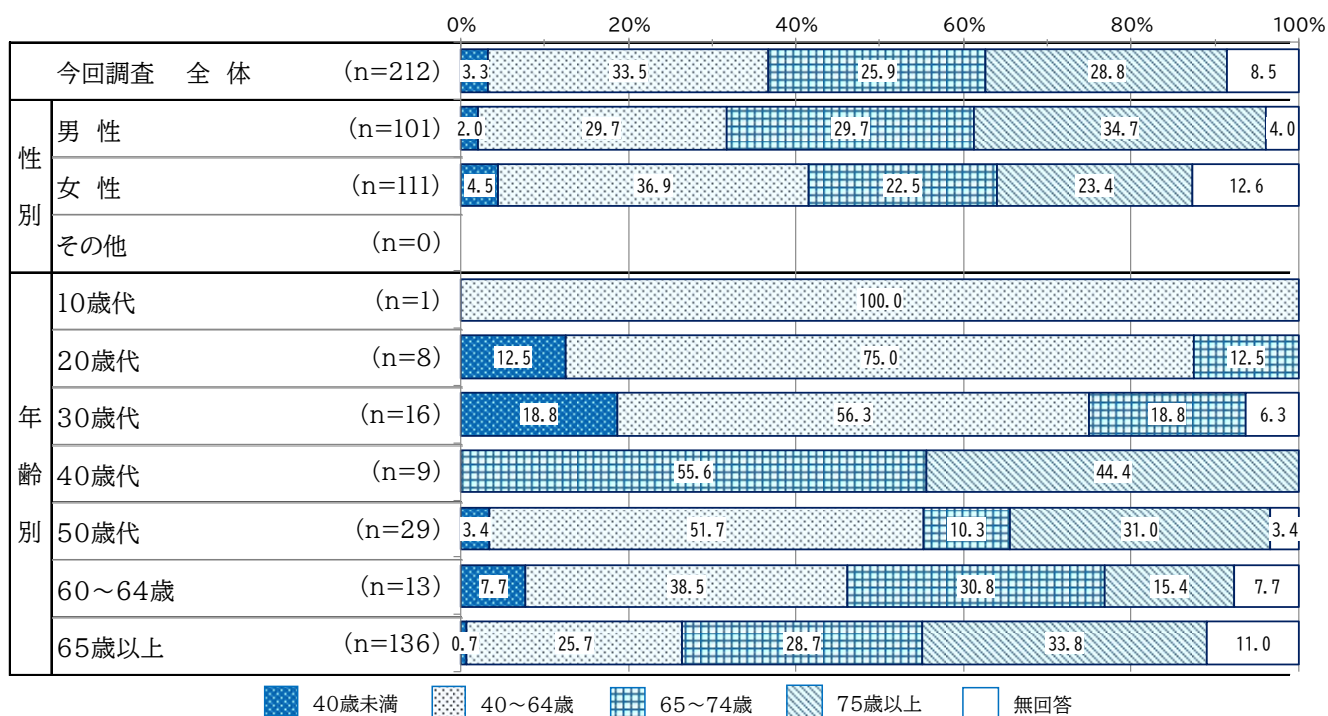
介護している家族の年齢について、「40～64 歳」が前回よりも 5.7ポイント低くなっています。



【性別・年齢別】

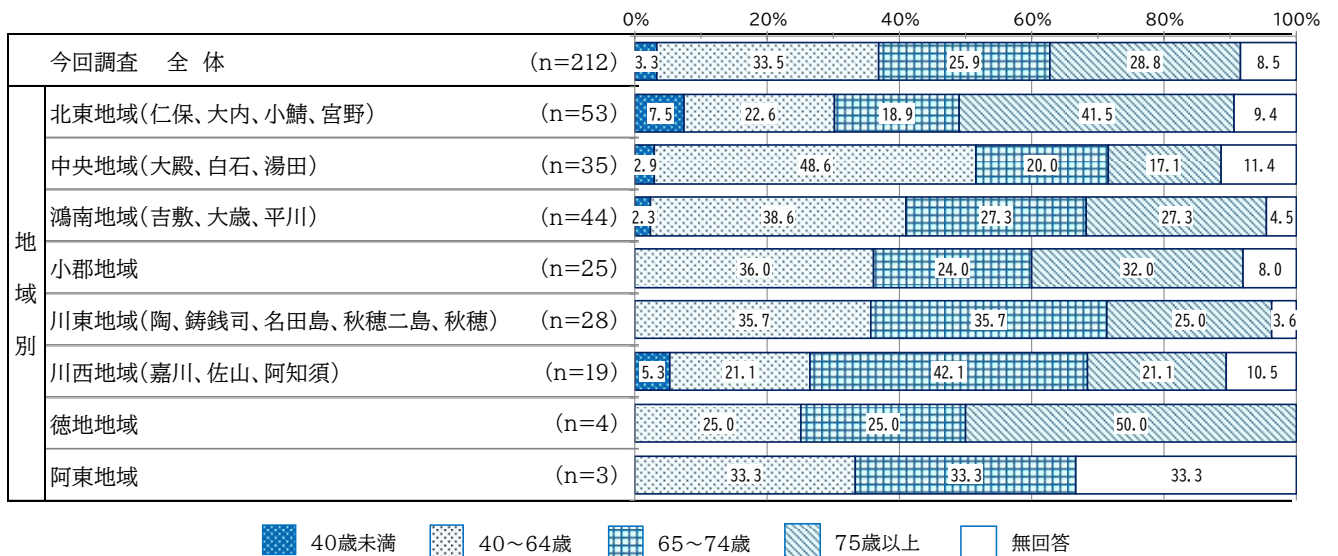
性別でみると、『男性』は『女性』より、「75 歳以上」が 11.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『40 歳代』では「65～74 歳」、『65 歳以上』では「75 歳以上」、それ以外では全て「40～64 歳」が最も高くなっています。



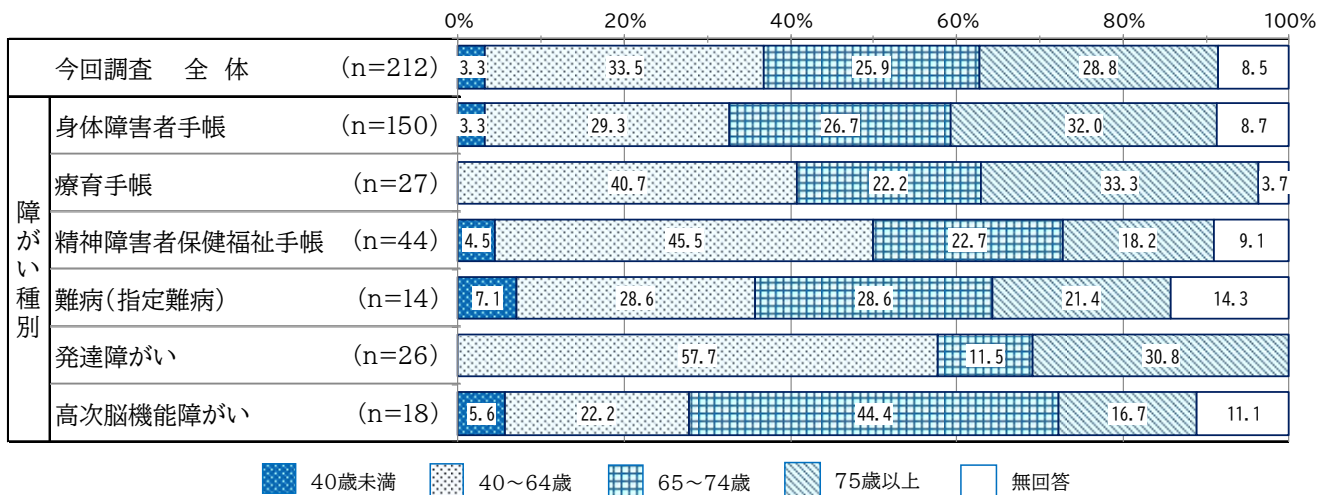
【地域別】

地域別でみると、『北東地域』と『徳地地域』では「75 歳以上」、『川西地域』では「65～74 歳」、『川東地域』と『阿東地域』では「40～64 歳」「65～74 歳」が同じ、それ以外では全て「40～64 歳」が最も高くなっています。



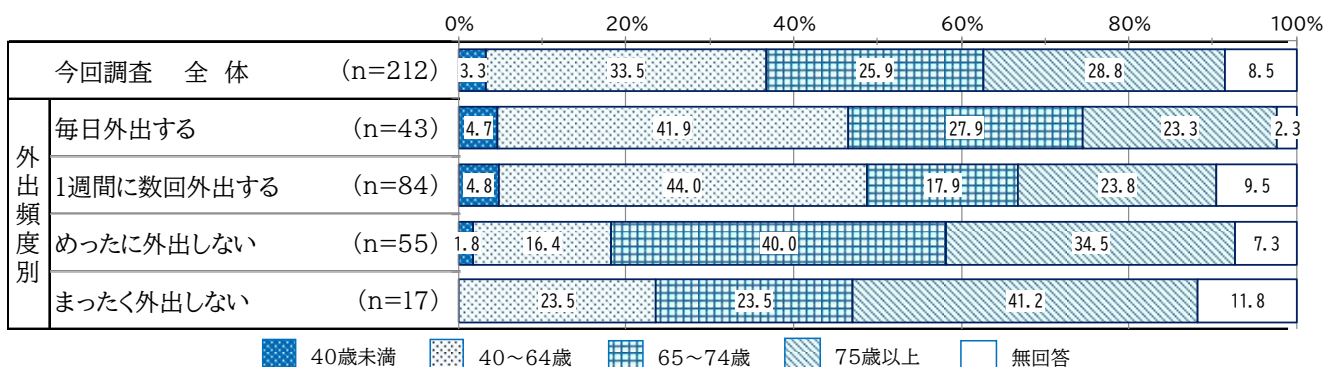
【障害種別】

障害種別でみると、『身体障害者』では「75 歳以上」、『難病（指定難病）』では「40～64 歳」と「65～74 歳」が同じ、『高次脳機能障がい』では「65～74 歳」、それ以外では全て「40～64 歳」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が低いと、「75 歳以上」が 3 割～4 割と高くなっています。

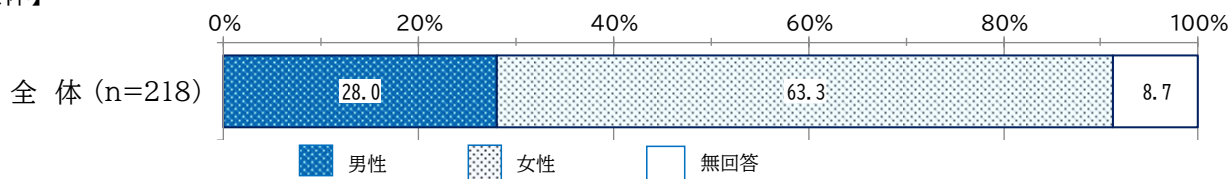


問10 性別

【該当する記号をひとつだけ○】

介護している家族の性別について、「男性」が 28.0%、「女性」が 63.3%となっています。

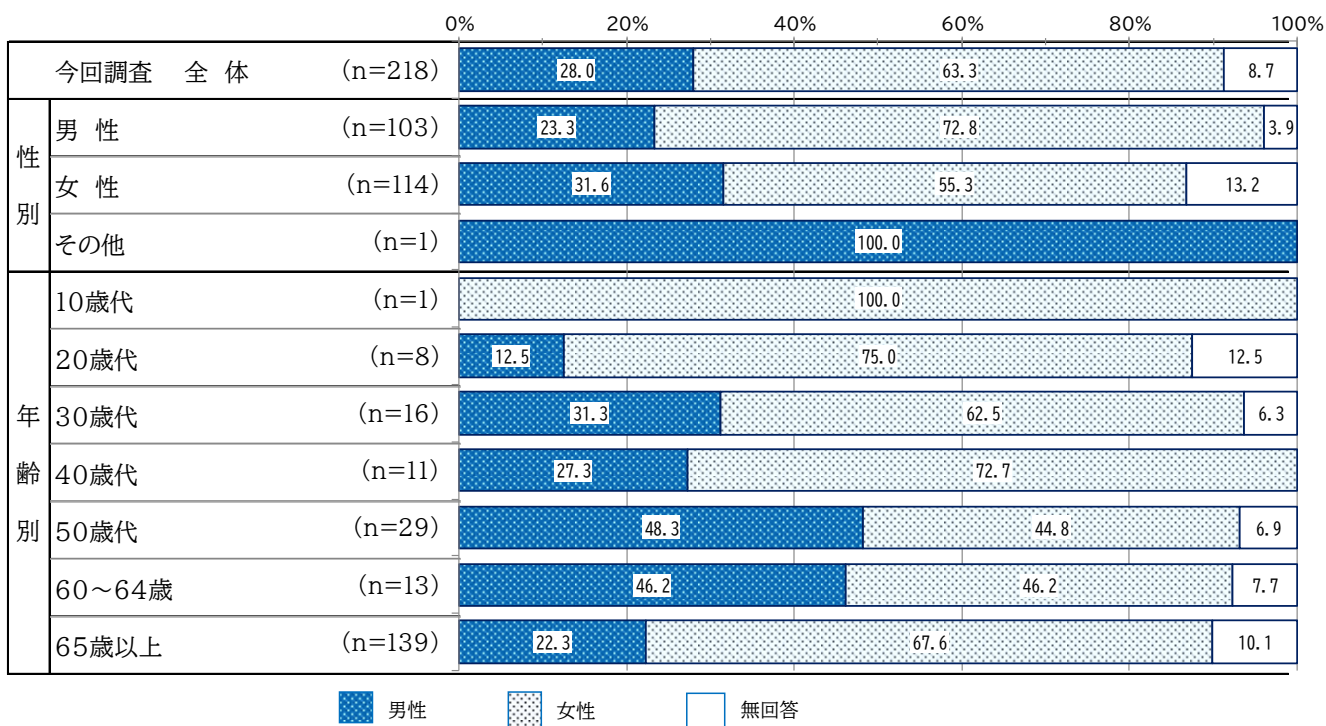
【全体】



【性別・年齢別】

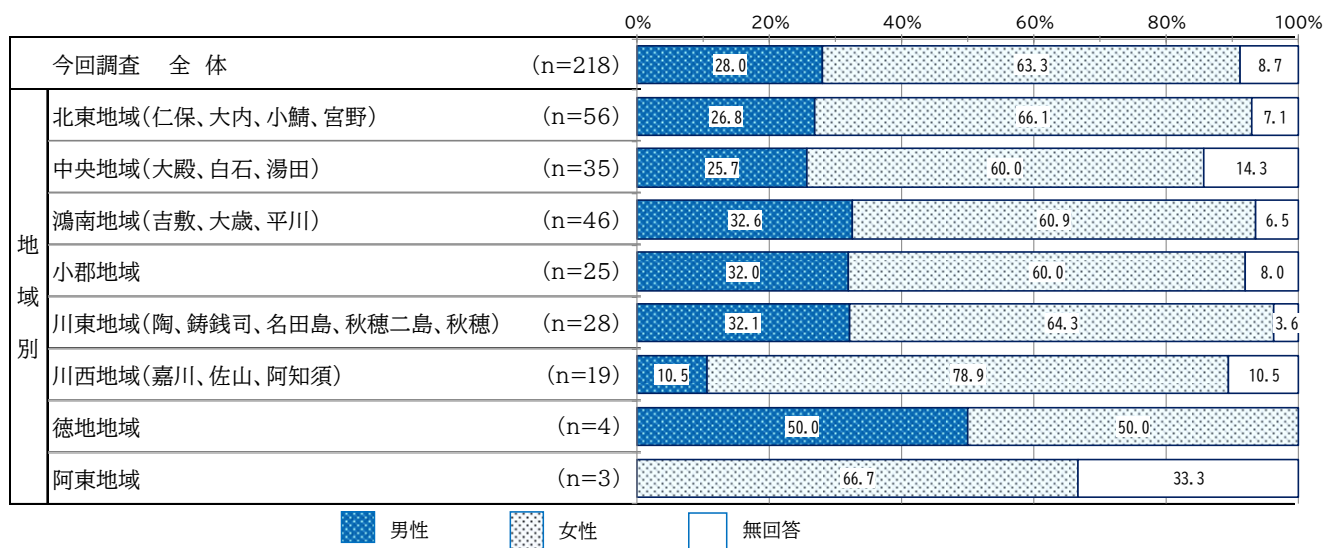
性別でみると、『男性』は『女性』より、「男性」が 8.3ポイント低くなっています。

年齢別でみると、『50 歳代』と『60～64 歳』において、「男性」が5割弱と高くなっています。



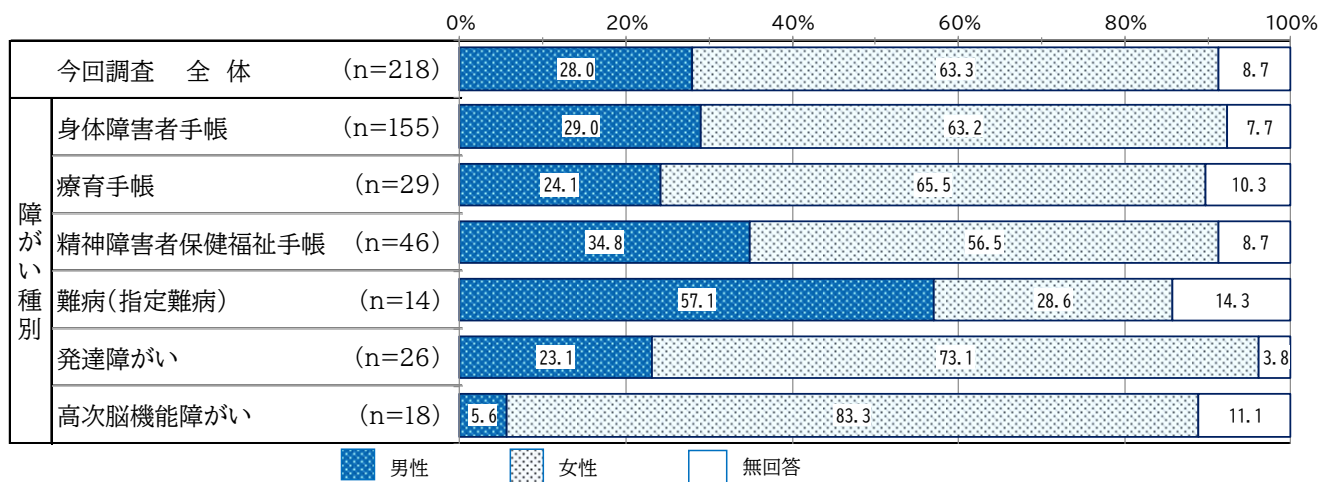
【地域別】

地域別でみると、「徳地地域」を除く全ての地域において「女性」の方が高くなっています。



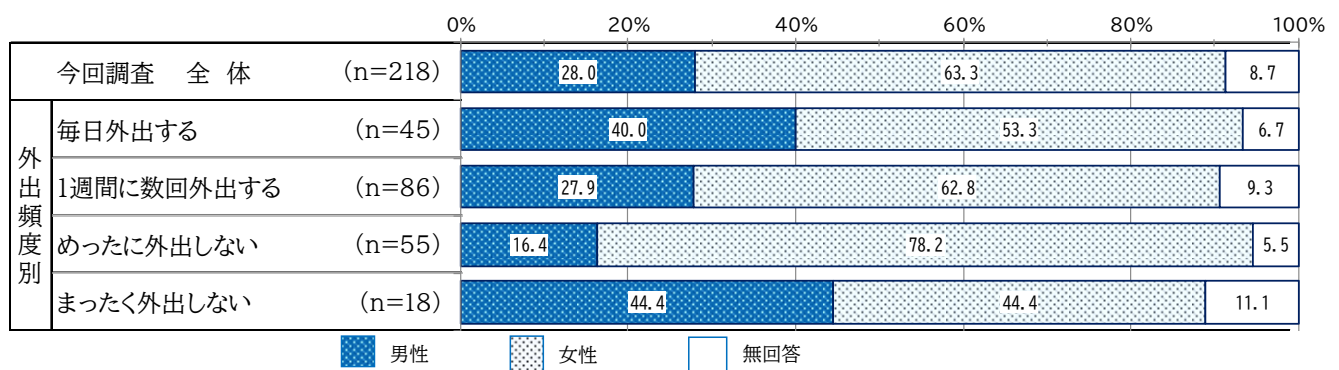
【障害種別】

障害種別でみると、『難病（指定難病）』は「男性」が 57.1%、それ以外はすべて「女性」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、『めったに外出しない』の「女性」の割合が高くなっています。

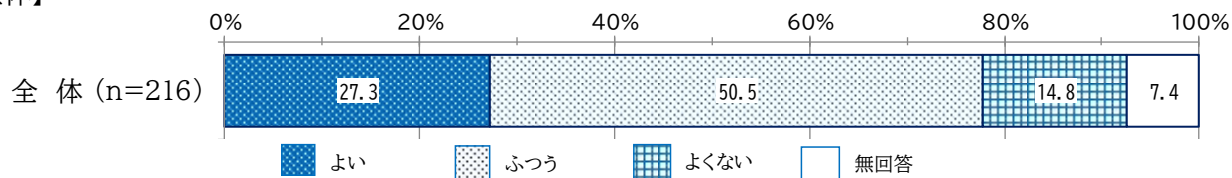


問 1 1 健康状態

【該当する記号をひとつだけ○】

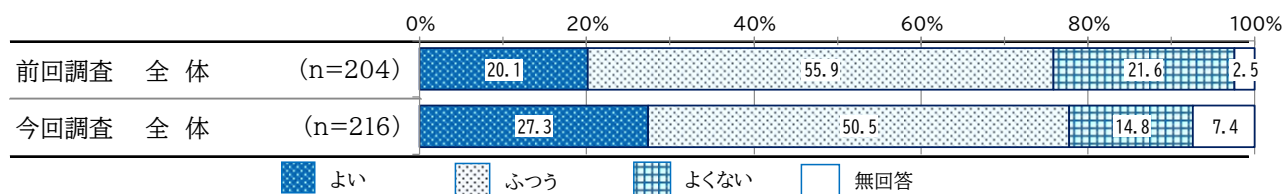
介護している家族の健康状態について、「ふつう」が 50.5%と最も高くなっています。次いで、「よい」が 27.3%、「よくない」が 14.8%となっています。

【全体】



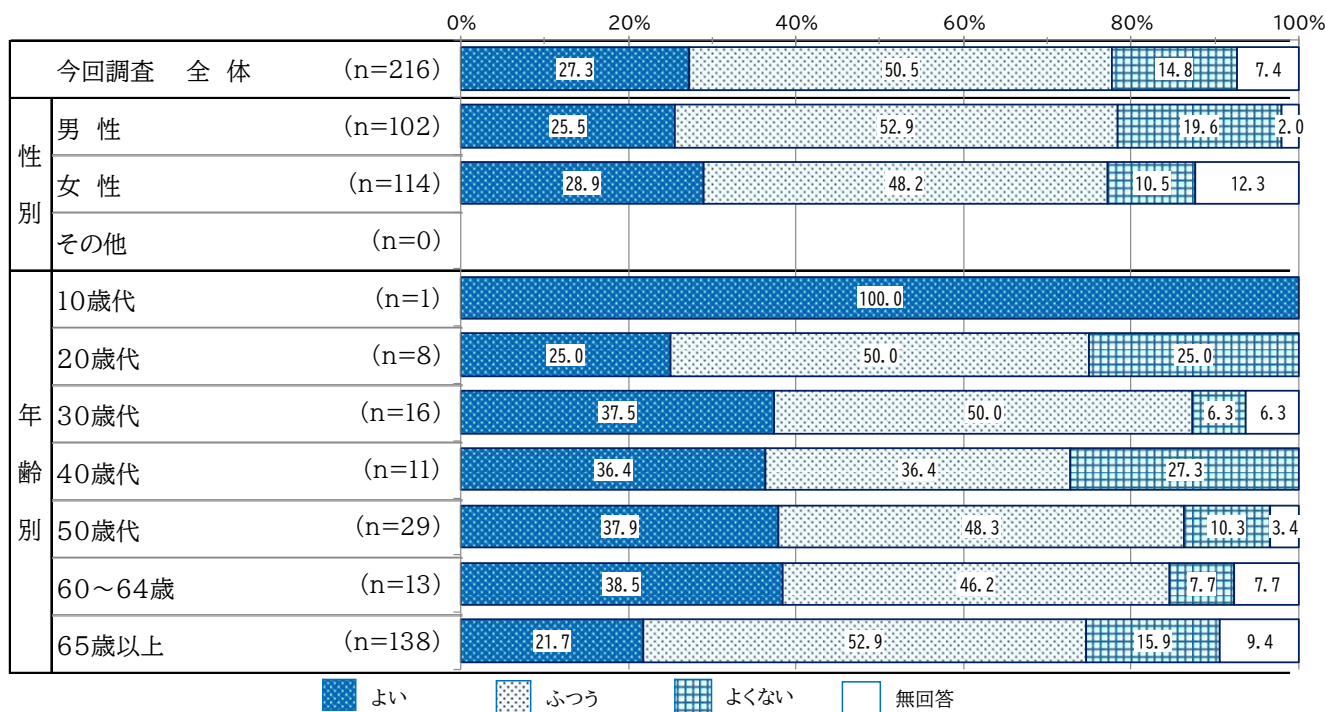
【前回比較】

介護している家族の健康状態について、「よい」が前回よりも 7.2ポイント高くなっています。



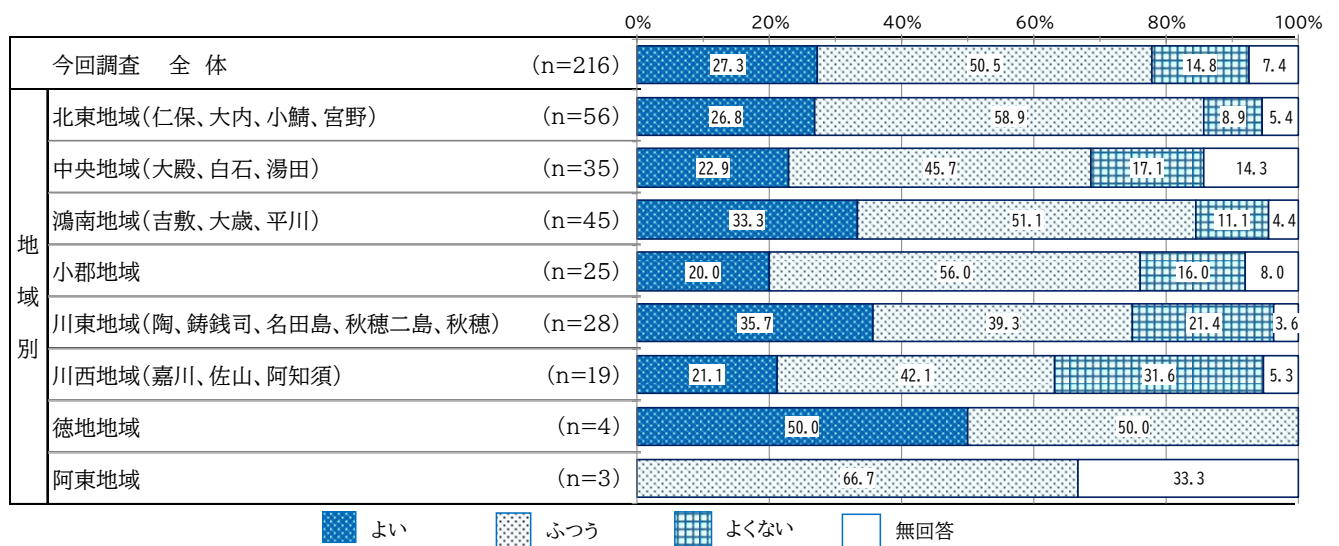
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『20 歳代』と『40 歳代』において、「よくない」が3割弱と高くなっています。



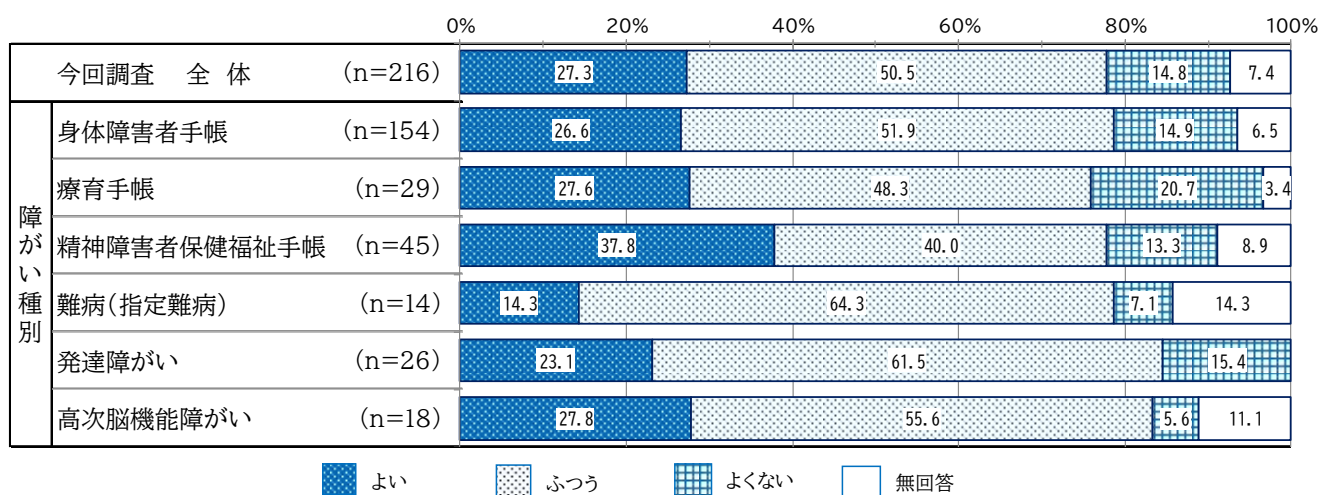
【地域別】

地域別でみると、全ての地域において「ふつう」が最も高くなっています。



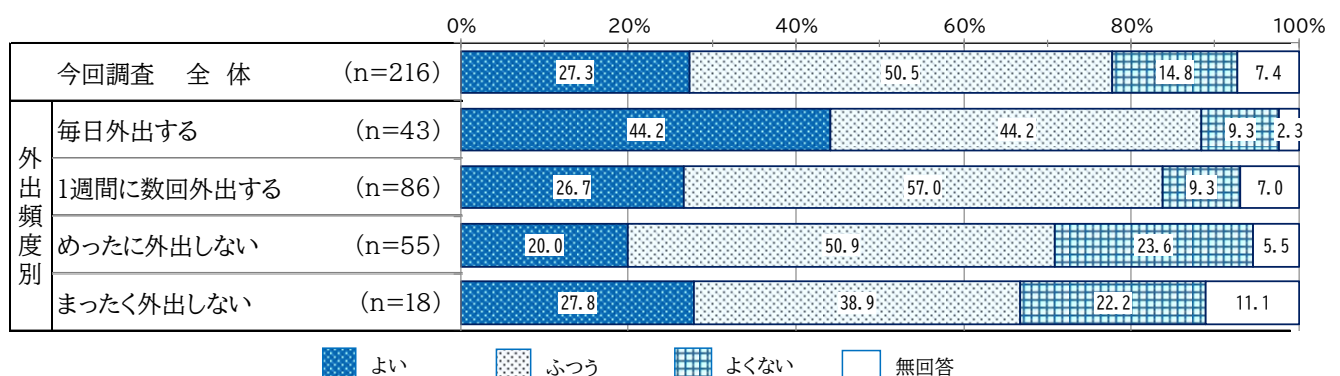
【障害種別】

障害種別でみると、『精神障害者』では「よい」と「ふつう」がほぼ4割弱であることを除き、全てにおいて「ふつう」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、『1週間に数回外出する』から『まったく外出しない』に外出頻度が下がるにつれて、「よくない」が高くなっています。

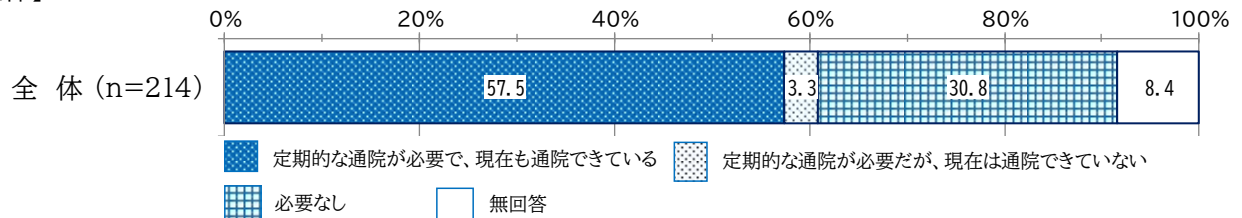


問 1 2 主な介護者の方は通院の必要がありますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

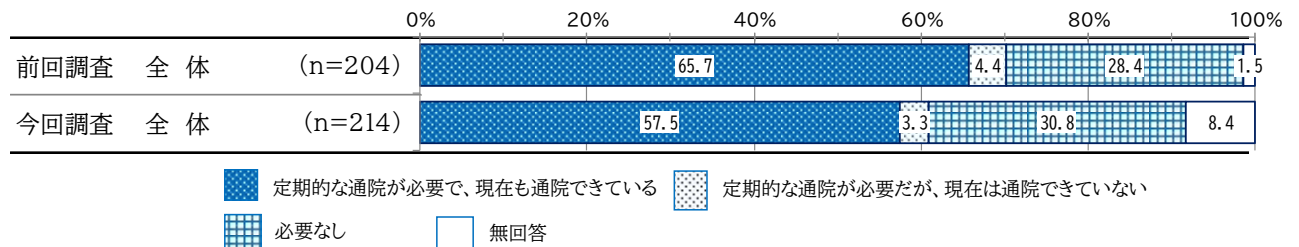
介護している家族の通院の必要性について、「定期的な通院が必要で、現在も通院できている」57.5%と最も高くなっています。次いで、「必要なし」が30.8%、「定期的な通院が必要だが、現在は通院できていない」が3.3%となっています。

【全体】



【前回比較】

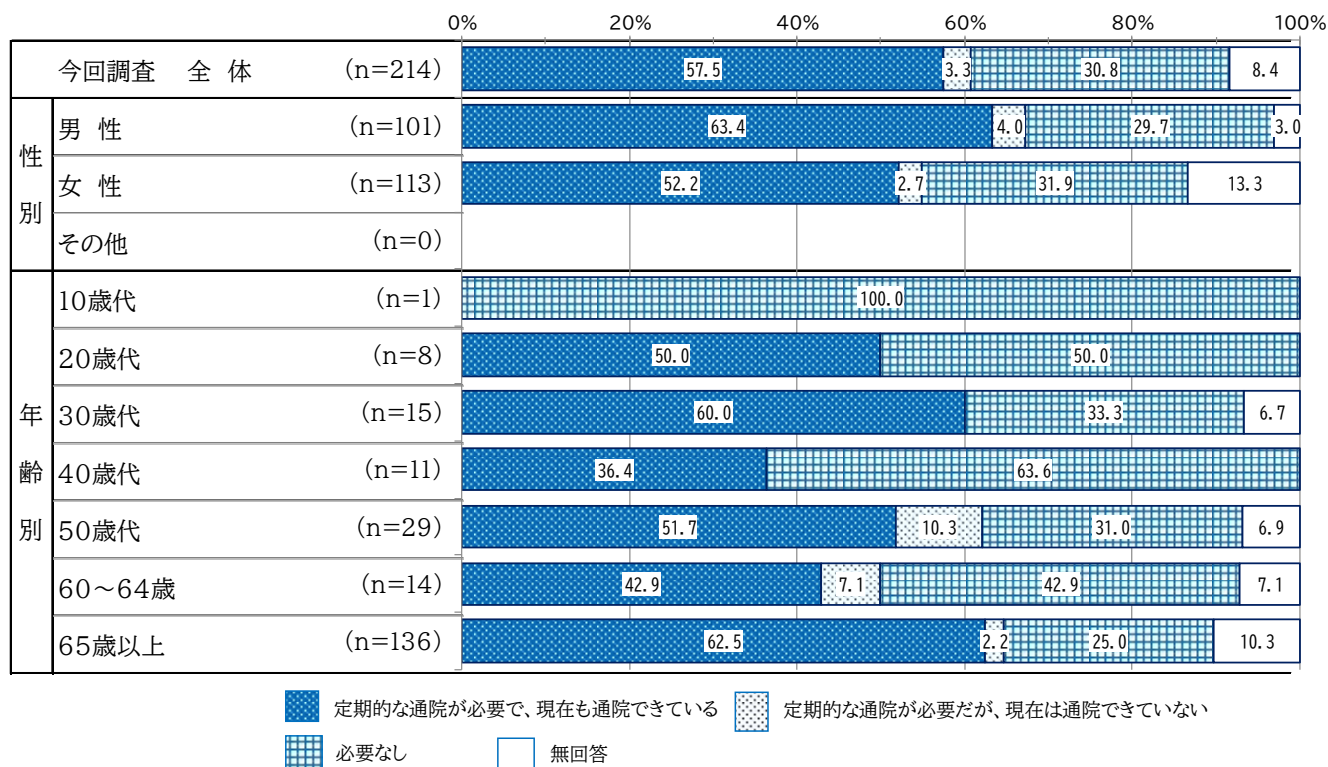
介護している家族の通院の必要性について、「定期的な通院が必要で、現在も通院ができている」が前回よりも8.2ポイント低くなっています。逆に「必要なし」は2.4ポイント高くなっています。



【性別・年齢別】

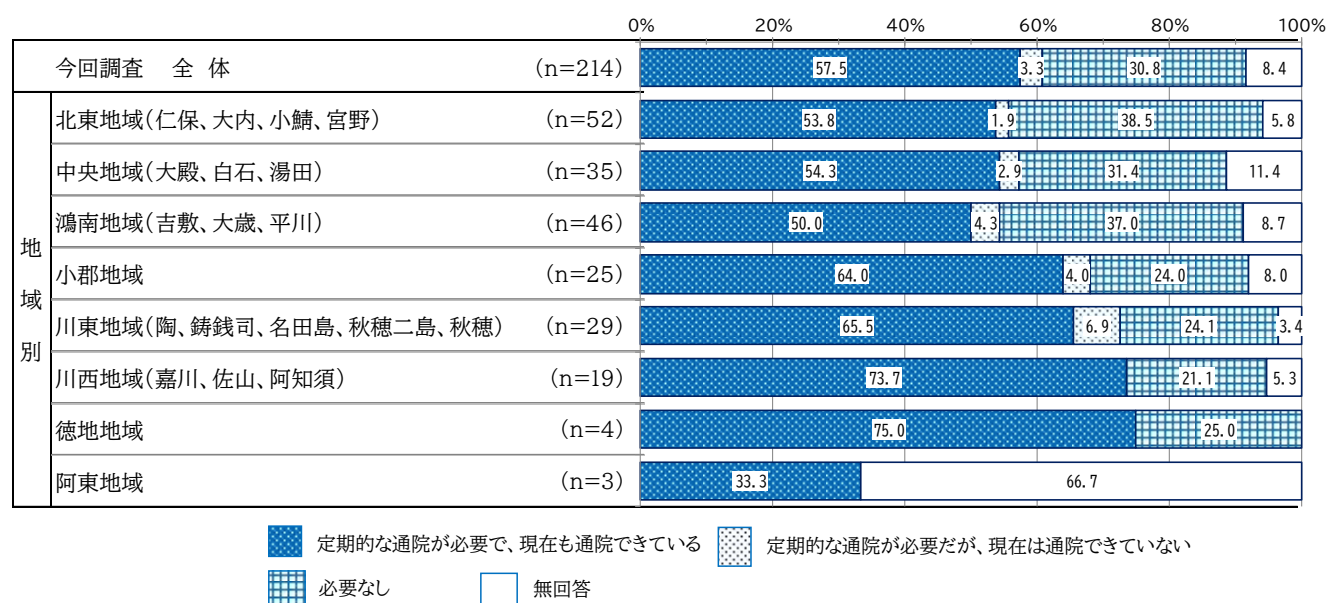
性別でみると、『男性』は『女性』より、「定期的な通院が必要で、現在も通院できている」が11.2ポイント高くなっています。

年齢でみると、『50歳代』から『65歳以上』に、「定期的な通院が必要だが、現在は通院できていない」の回答者がいます。



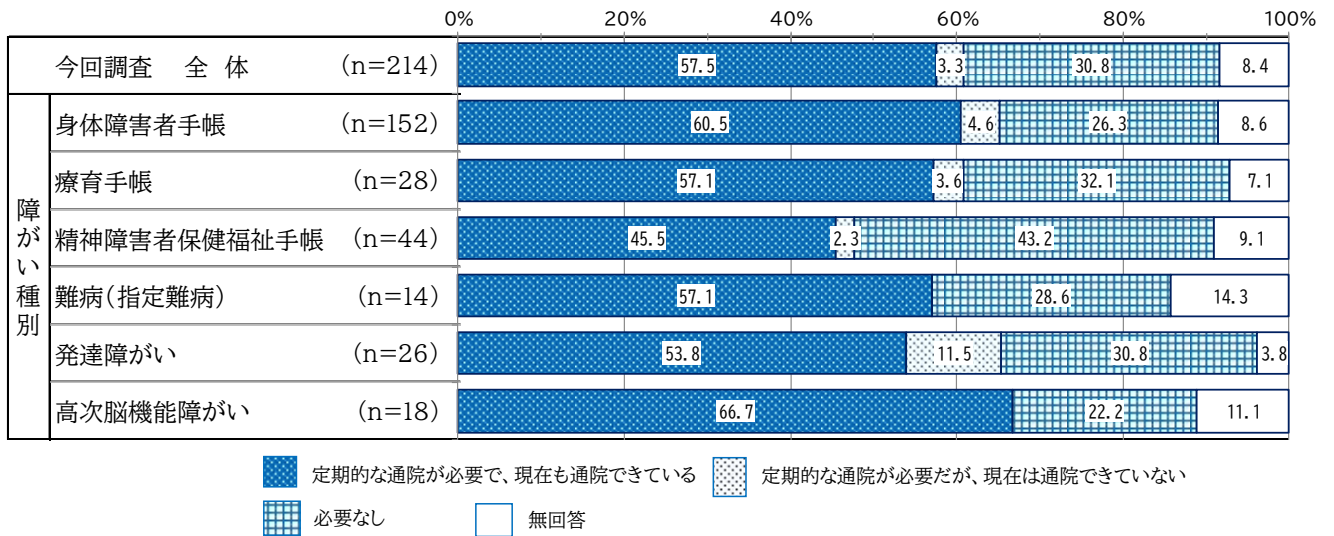
【地域別】

地域別でみると、『北東地域』、『中央地域』、『鴻南地域』、『小郡地域』、『川東地域』に、「定期的な通院が必要だが、現在は通院できていない」の回答者がいます。



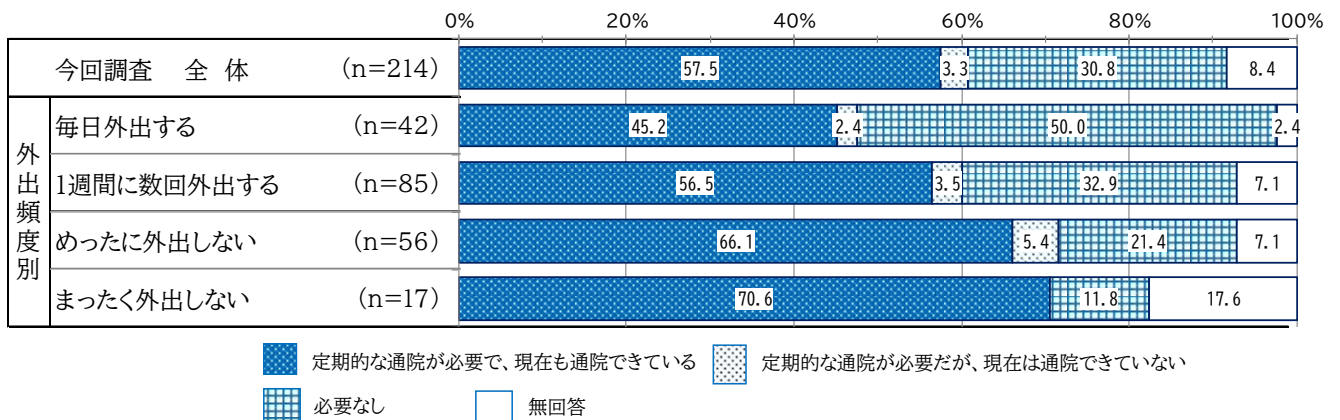
【障害種別】

障害種別でみると、『難病（指定難病）』と『高次脳機能障がい』の他全てに、「定期的な通院が必要だが、現在は通院できていない」の回答者がいます。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、『まったく外出しない』ほか全てに、「定期的な通院が必要だが、現在は通院できていない」の回答者がいます。

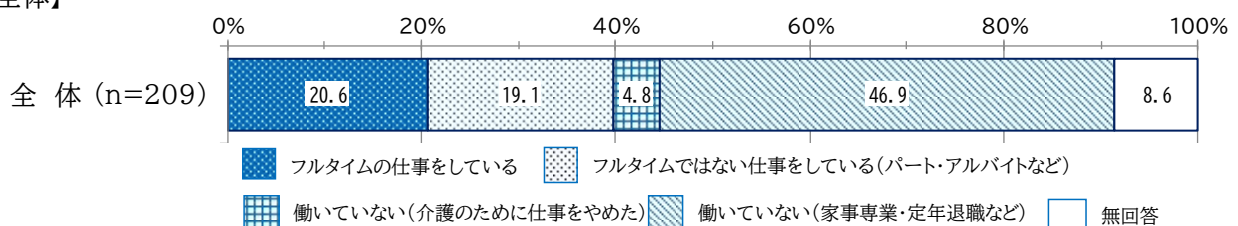


問 1 3 主な介護者の方は仕事をされていますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

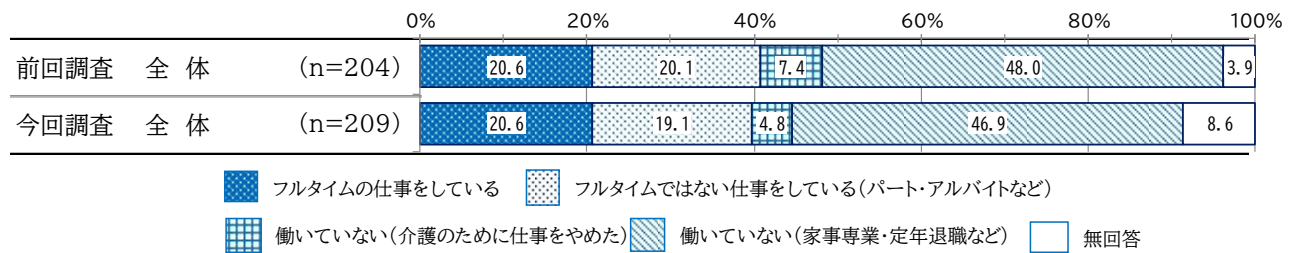
介護者の仕事の有無について、「働いていない（家事専業・定年退職など）」が 46.9%と最も高くなっています。次いで、「フルタイムの仕事をしている」が 20.6%、「フルタイムではない仕事をしている（パート・アルバイトなど）」が 19.1%となっています。

【全体】



【前回比較】

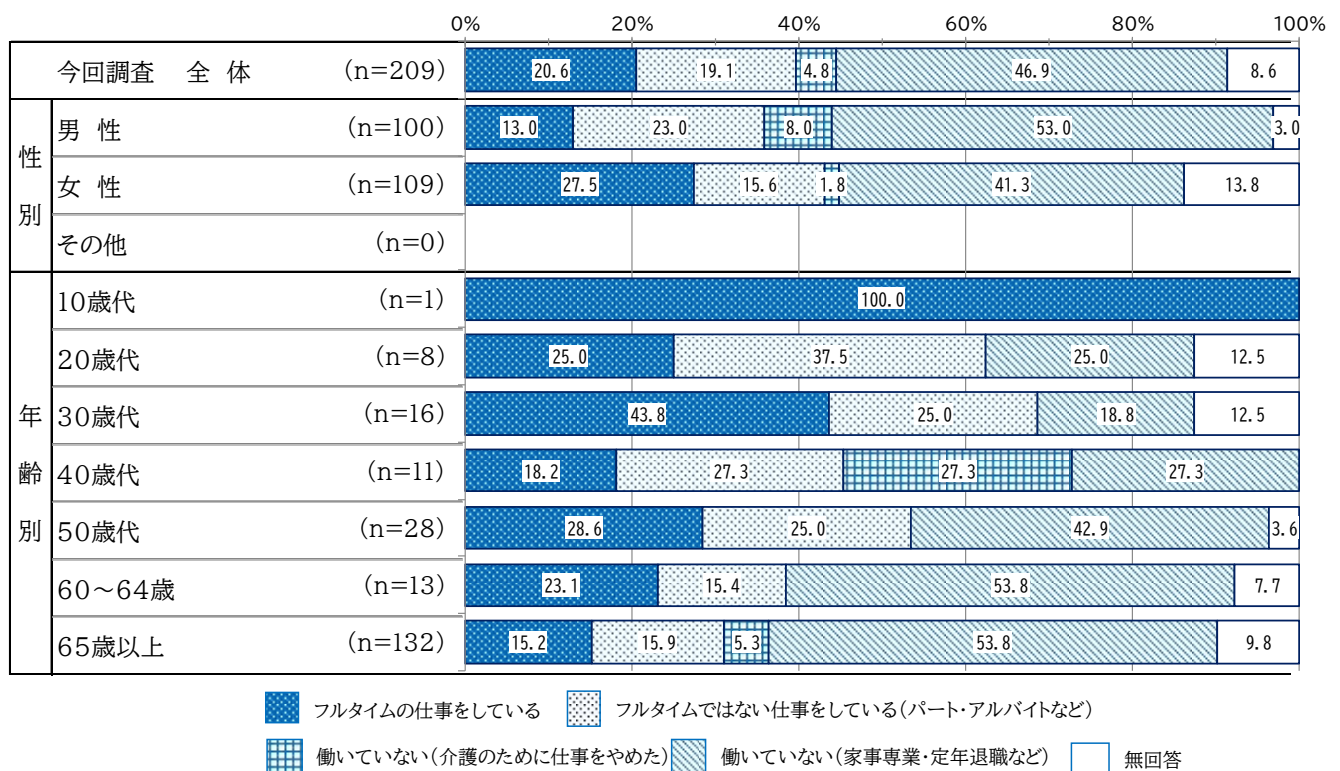
介護者の仕事の有無について、「フルタイムの仕事をしている」は前回と同じだが、他全ては前回よりも1～2.6ポイント低くなっています。



【性別・年齢別】

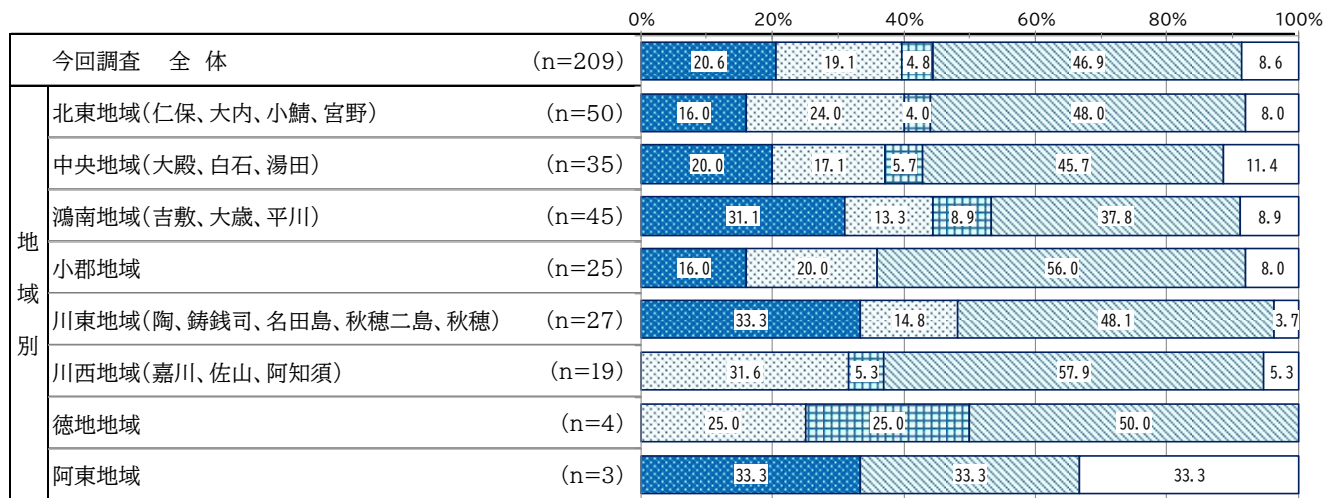
性別でみると、『男性』は『女性』より、「働いていない(家事専業・定年退職など)」が11.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『50歳代』、『65歳以上』で「働いていない(家事専業・定年退職など)」が5割以上と高くなっています。



【地域別】

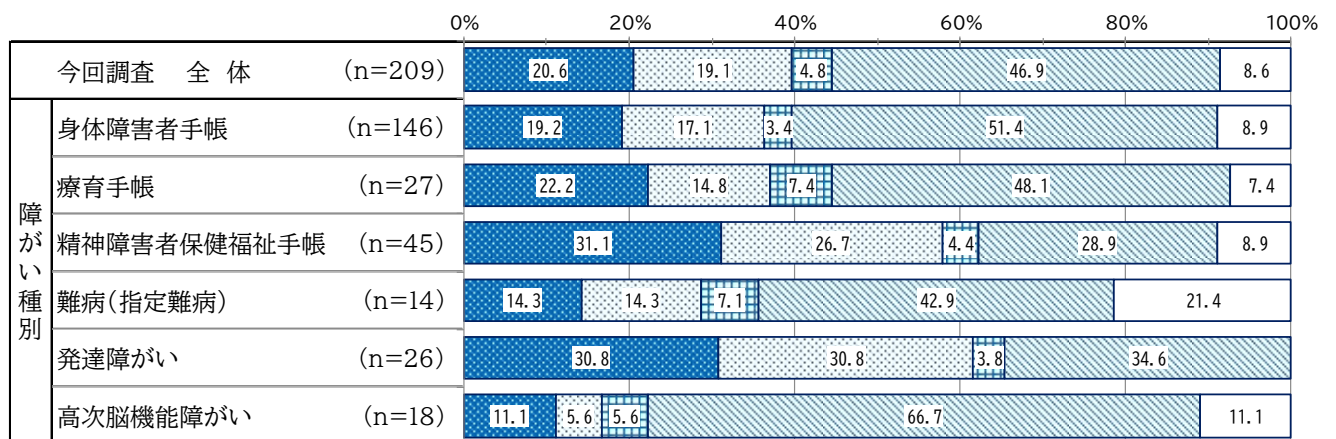
地域別でみると、全ての地域において「働いていない（家事専業・定年退職など）」が高くなっています。



フルタイムの仕事をしている
 フルタイムではない仕事をしている(パート・アルバイトなど)
 働いていない(介護のために仕事をやめた)
 働いていない(家事専業・定年退職など)
 無回答

【障害種別】

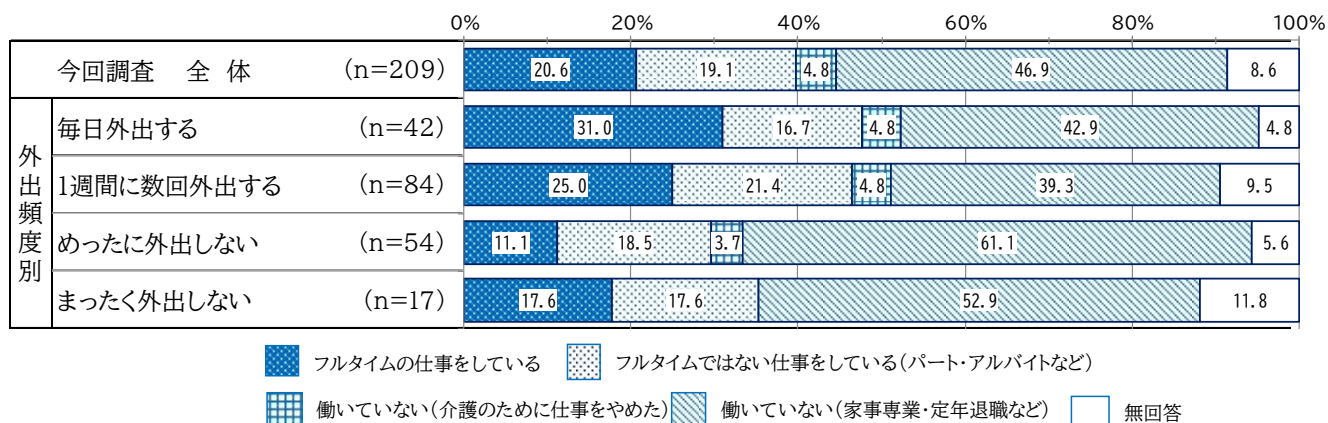
障害種別でみると、『精神障害者』では「フルタイムの仕事をしている」、それ以外では「働いていない（家事専業・定年退職など）」が高くなっています。



フルタイムの仕事をしている
 フルタイムではない仕事をしている(パート・アルバイトなど)
 働いていない(介護のために仕事をやめた)
 働いていない(家事専業・定年退職など)
 無回答

【外出頻度別】

外出頻度別でみると、『めったに外出しない』が、「働いていない（家事専業・定年退職など）」が6割超となっています。

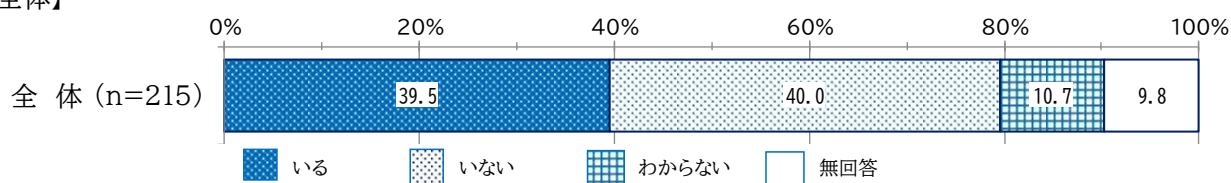


問14 介護者の方が介護できないときに介護を頼める人はいますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

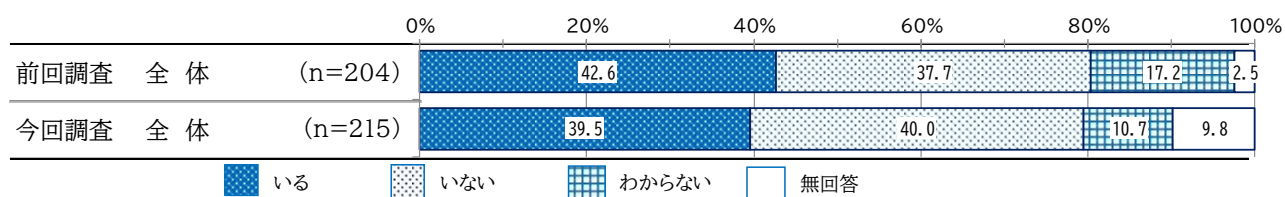
介護を頼める人がいるかについて、「いない」が40.0%、「いる」が39.5%となっています。

【全体】



【前回比較】

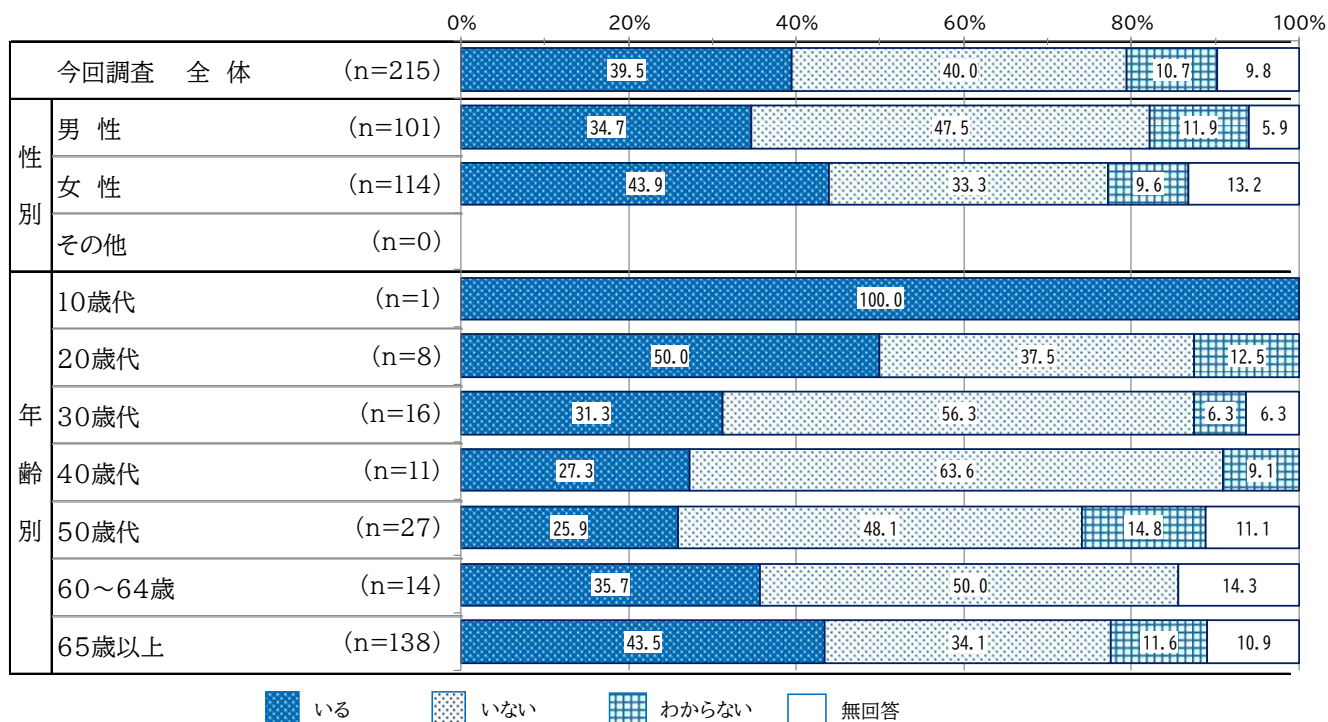
介護を頼める人がいるかについて、「いない」が前回よりも2.3ポイント高くなっています。



【性別・年齢別】

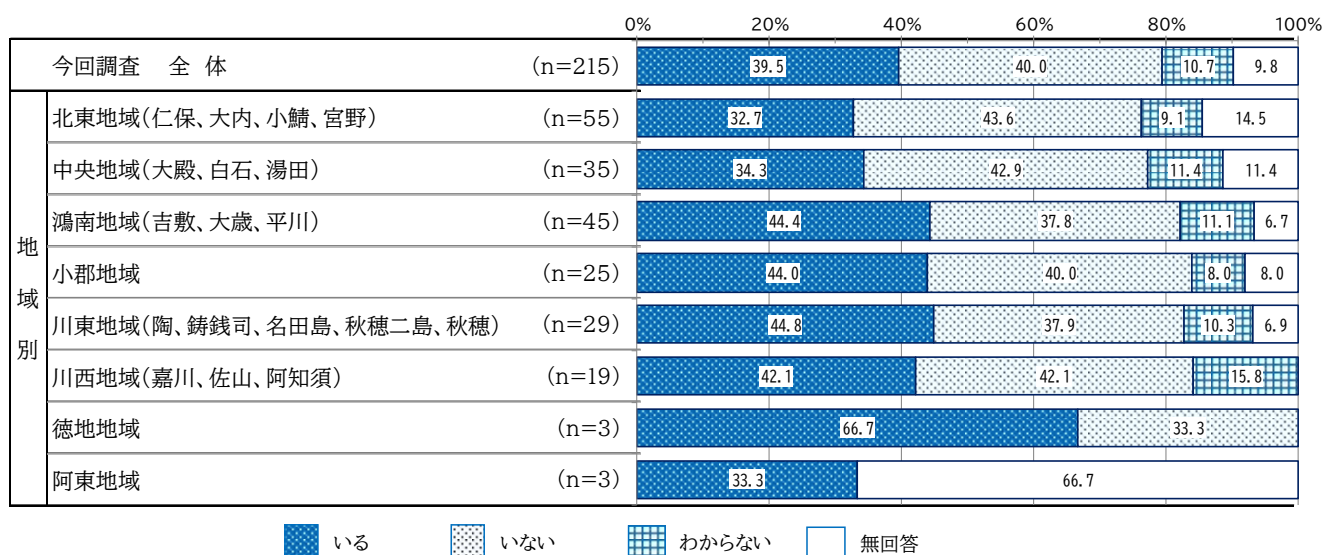
性別でみると、『男性』は『女性』より、「いない」が14.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『50歳代』から『65歳以上』に年齢が上がるにつれて、「いる」が高くなっています。



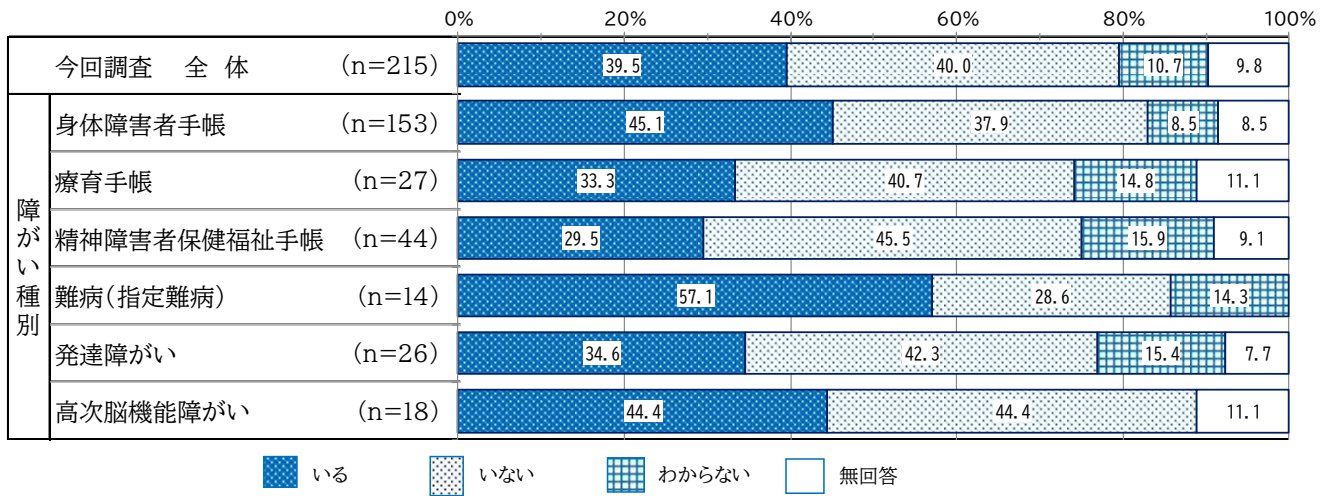
【地域別】

地域別でみると、『北東地域』、『中央地域』、『阿東地域』それ以外では全て「いる」が4割以上と高くなっています。



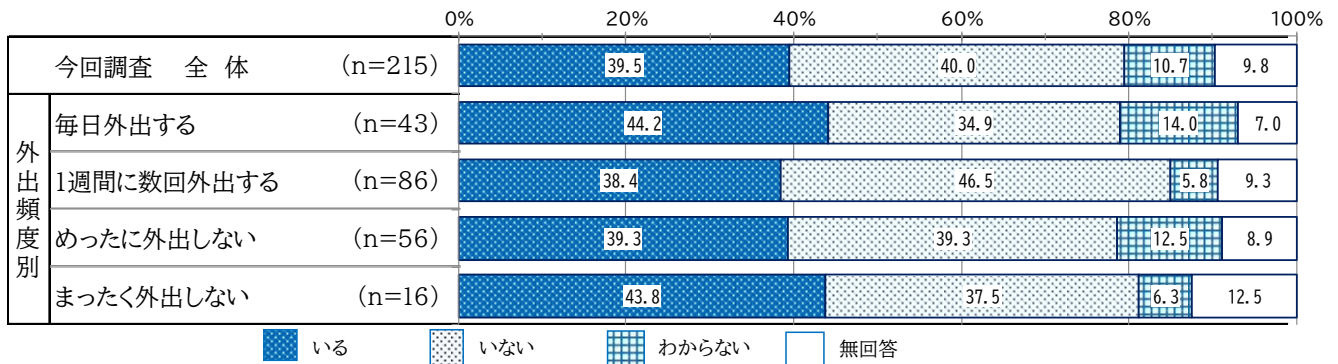
【障害種別】

障害種別でみると、『難病（指定難病）』（57.1%）と『身体障害者』（45.1%）では「いる」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、『1週間に数回外出する』では、「いない」がもっとも高くなっています。



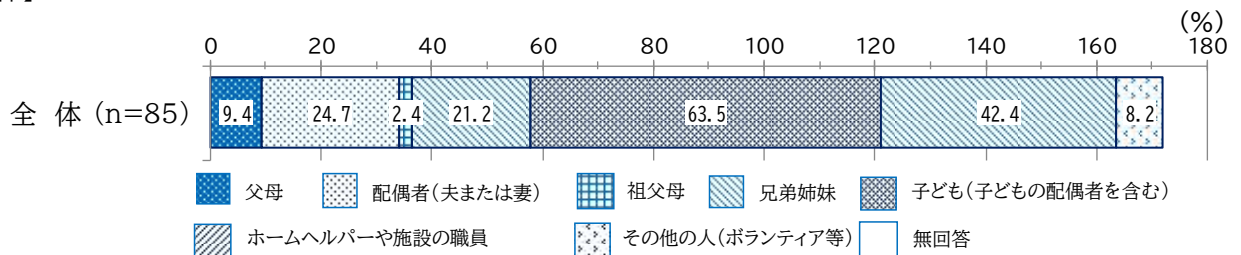
《問14で「ア いる」を選択された方が回答》

問15 介護を頼める人は誰ですか。

【該当する記号をすべて○】

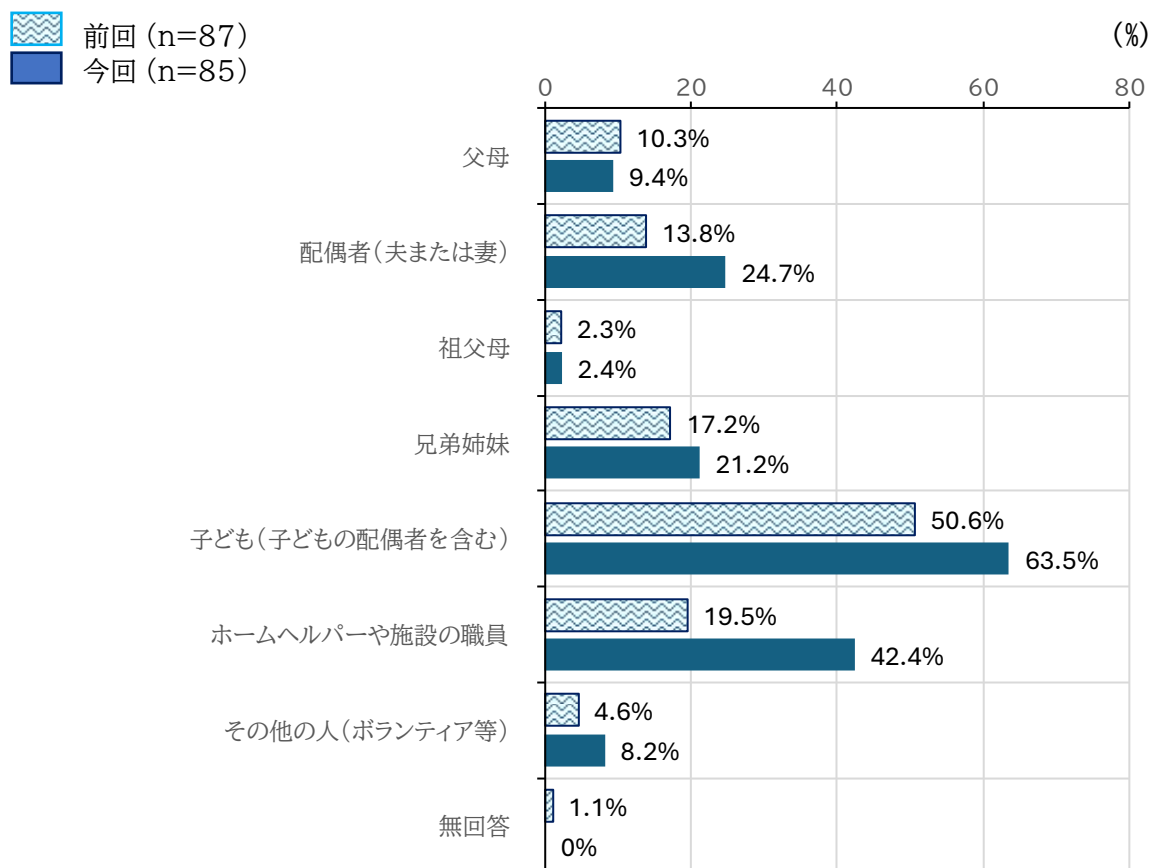
介護を頼める人について、「子ども（子どもの配偶者を含む）」が63.5%と最も高くなっています。次いで、「ホームヘルパーや施設の職員」が42.4%、「配偶者（夫または妻）」が24.7%となっています。

【全体】



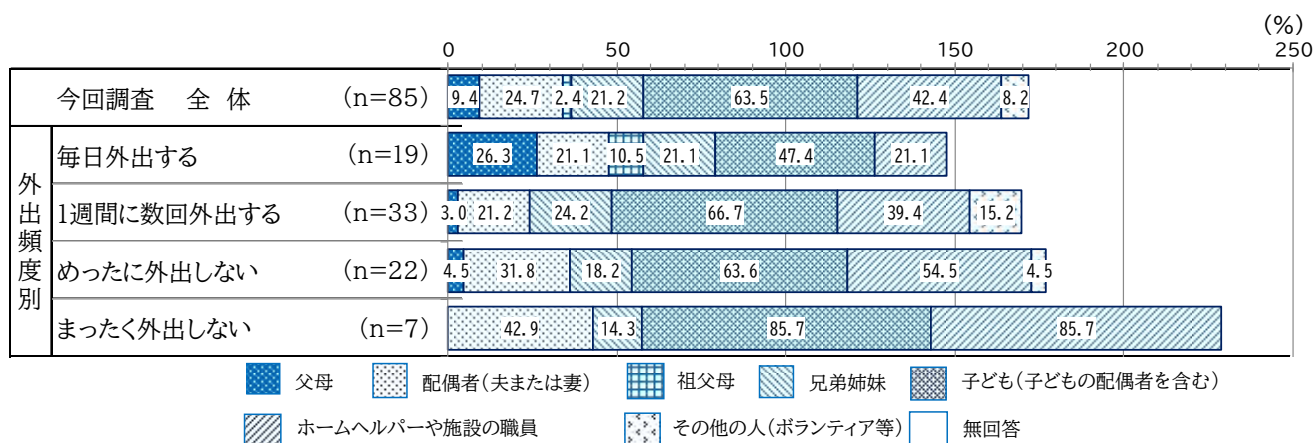
【前回比較】

介護を頼める人について、「ホームヘルパーや施設の職員」が前回よりも 22.9ポイント高く、「父母」が前回よりも 0.9ポイント高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、すべて「ホームヘルパーや施設の職員」が高く、『毎日外出する』以外では6割以上となっています。

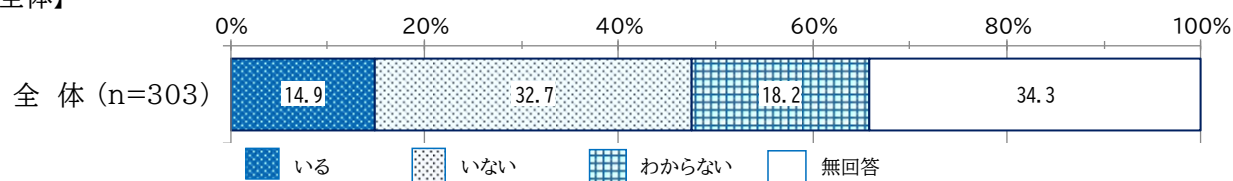


問16 将来、介護者が介護できなくなった場合に介護を頼める人（頼む予定の人）はいますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

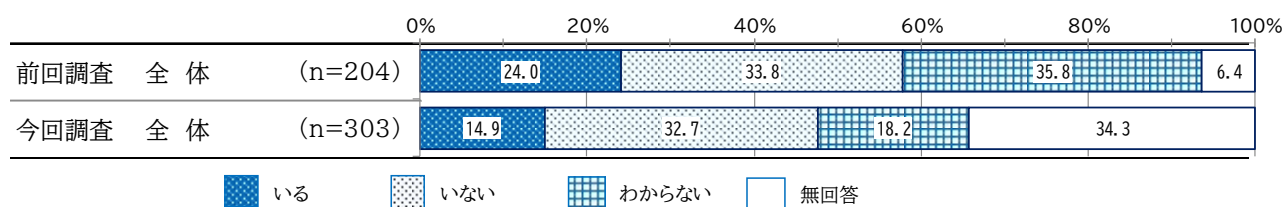
将来、介護を頼める人（頼む予定の人）について、「いる」が14.9%、「いない」が32.7%となっています。

【全体】



【前回比較】

将来、介護を頼める人（頼む予定の人）について、「いる」が前回よりも9.1ポイント低くなっています。

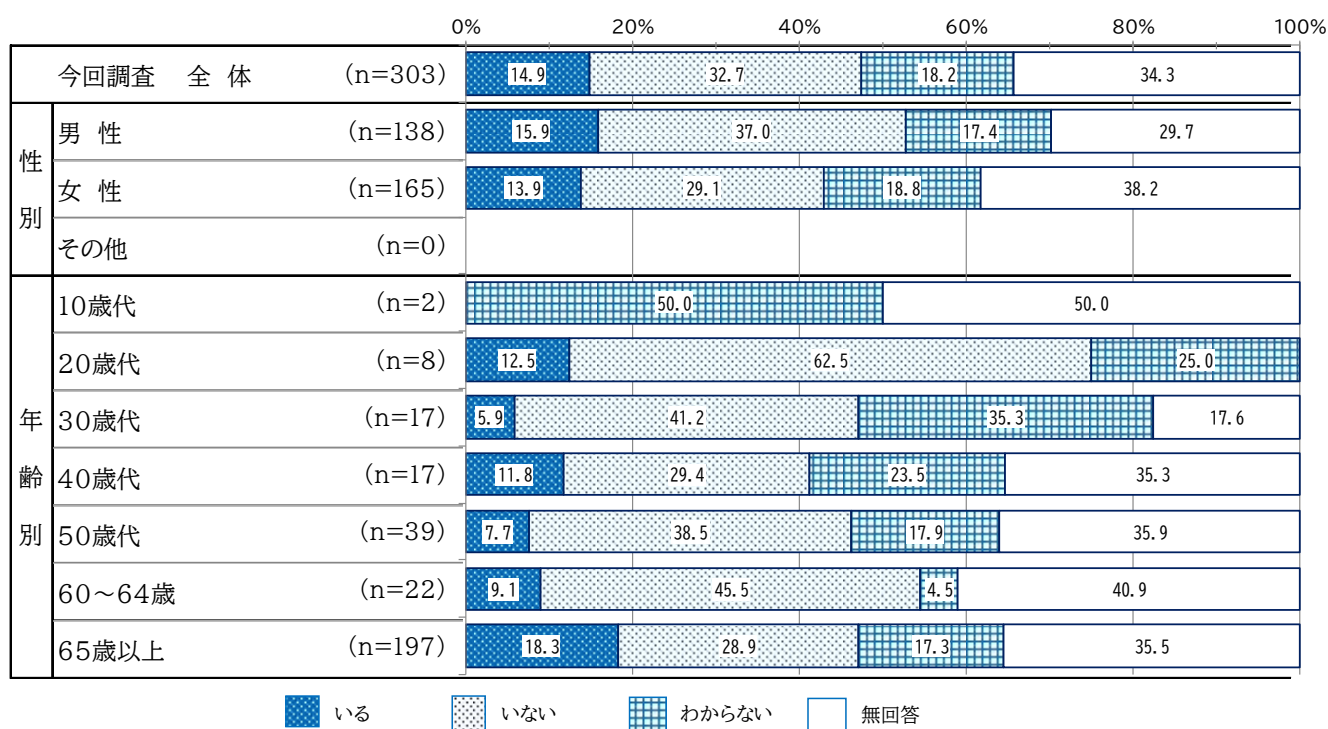


【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「いない」が7.9ポイント高くなっています。

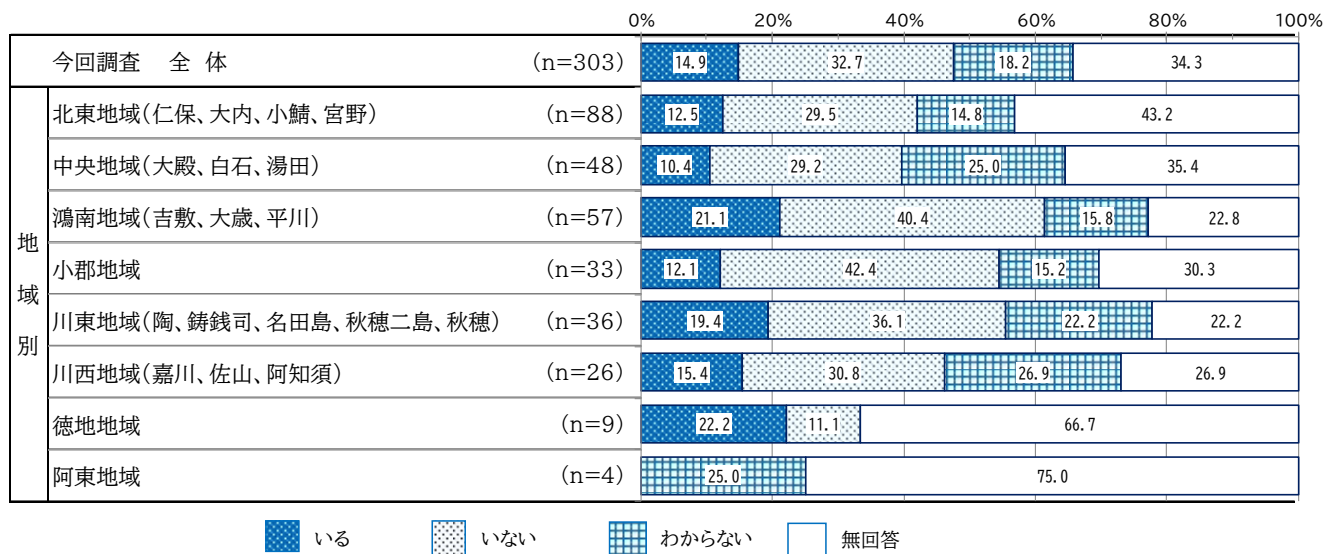
年齢別でみると、『50歳代』から年齢が上がるにつれて、「いる」が高くなっています。

(



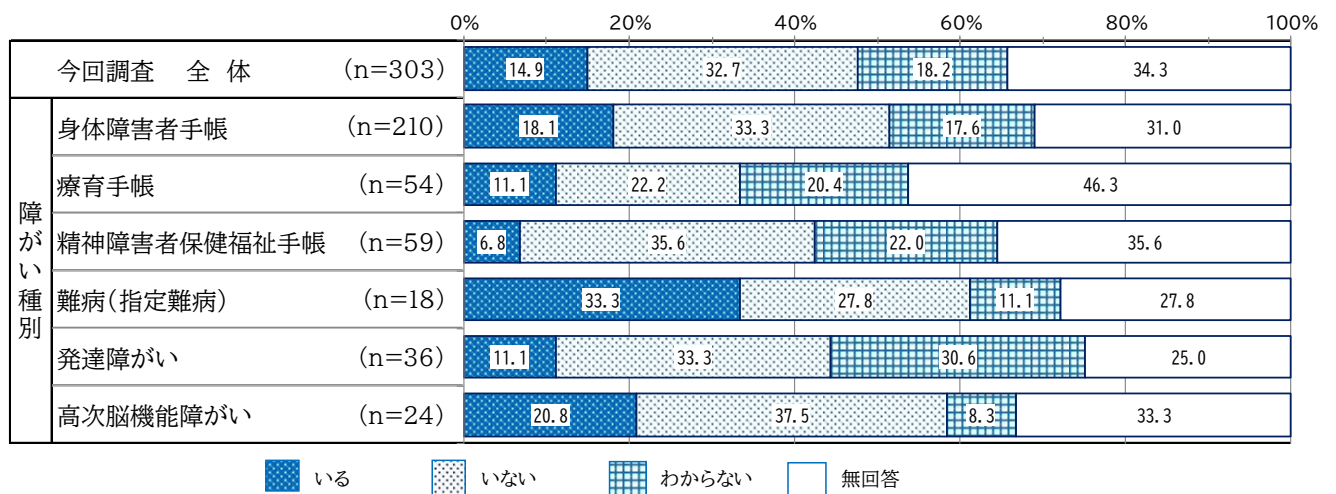
【地域別】

地域別でみると、『徳地地域』では「いる」、それ以外では全て「いない」が高くなっています。



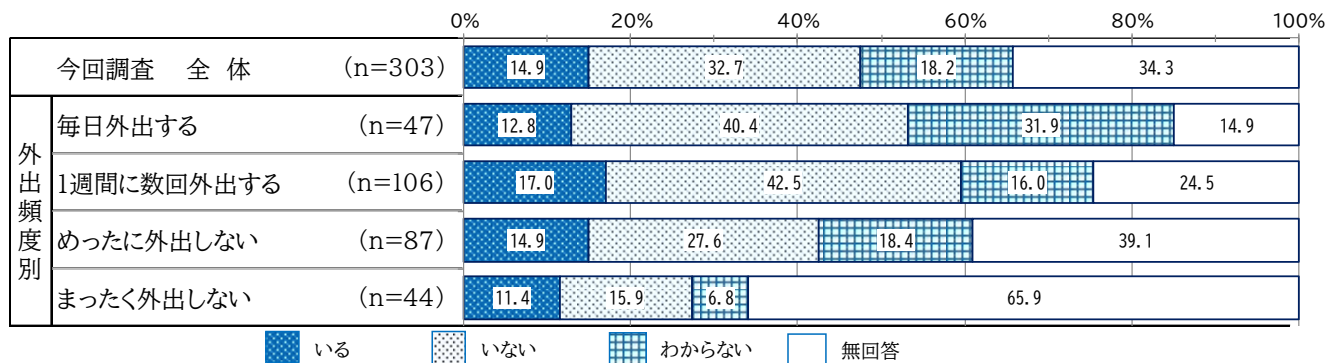
【障害種別】

障害種別でみると、『難病（指定難病）』では「いる」、それ以外では全て「いない」が最も高くなっています。



【外出頻度別】

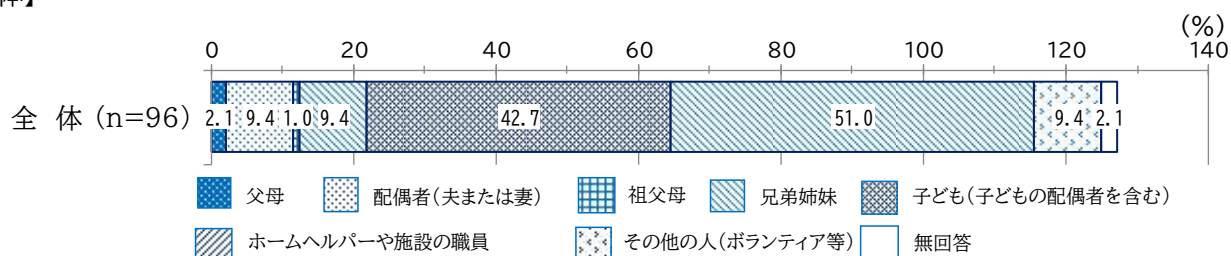
外出頻度別でみると、全てにおいて、「いない」が高くなっています。



問17 将来、介護を頼める人（頼む予定の人）は誰ですか。 【該当する記号をすべて○】

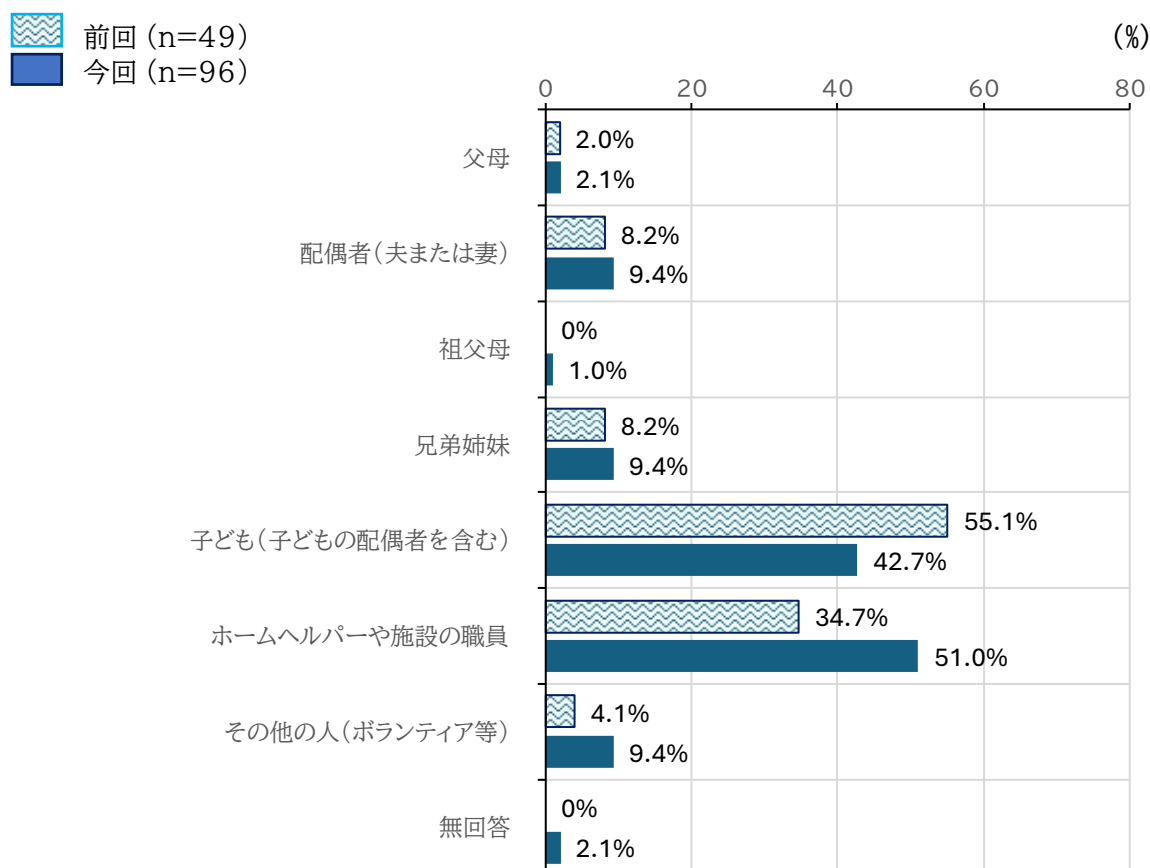
将来、介護を頼める人について、「ホームヘルパーや施設の職員」が51.0%と最も高くなっています。次いで「子ども（子どもの配偶者を含む）」が42.7%、「配偶者（夫または妻）」と「兄弟姉妹」が共に9.4%となっています。

【全体】



【前回比較】

将来、介護を頼める人について、「子ども（子どもの配偶者を含む）」が前回よりも12.4ポイント低くなっています。

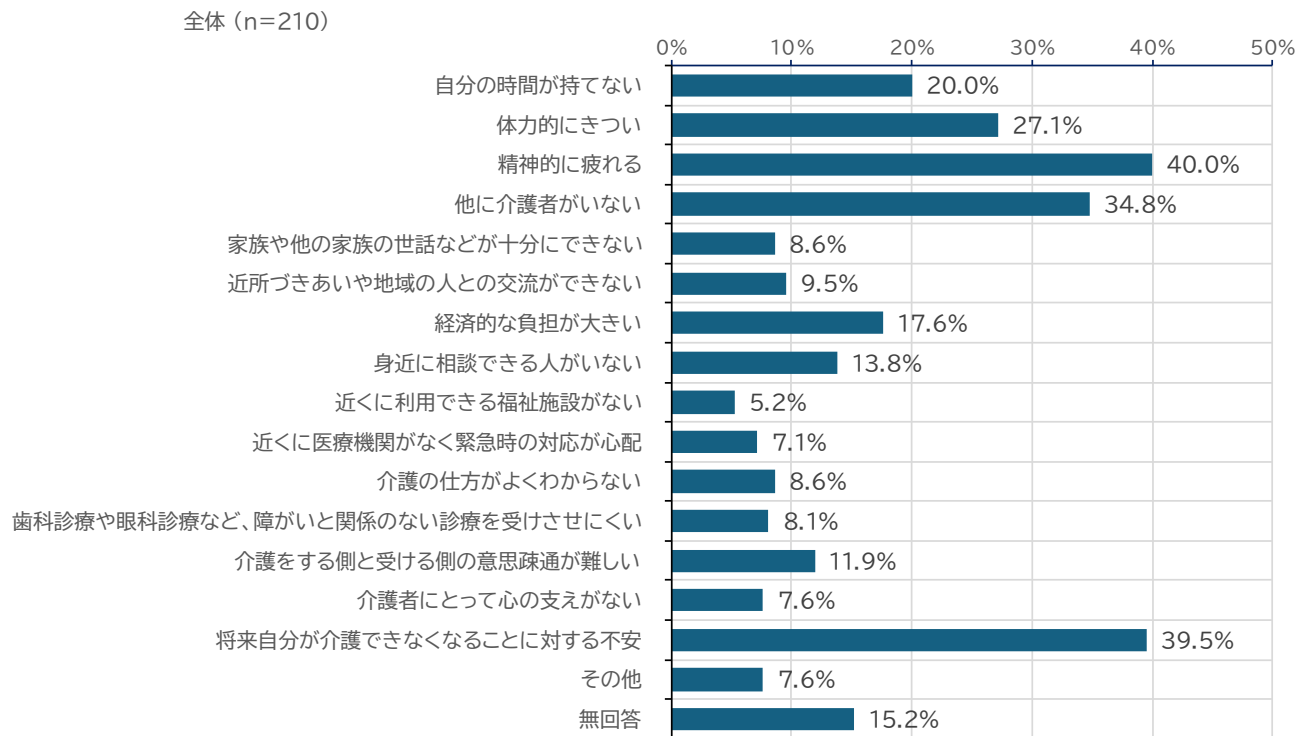


問18 主な介護者が介護する上での問題や悩みは何ですか。

【該当する記号をすべて○】

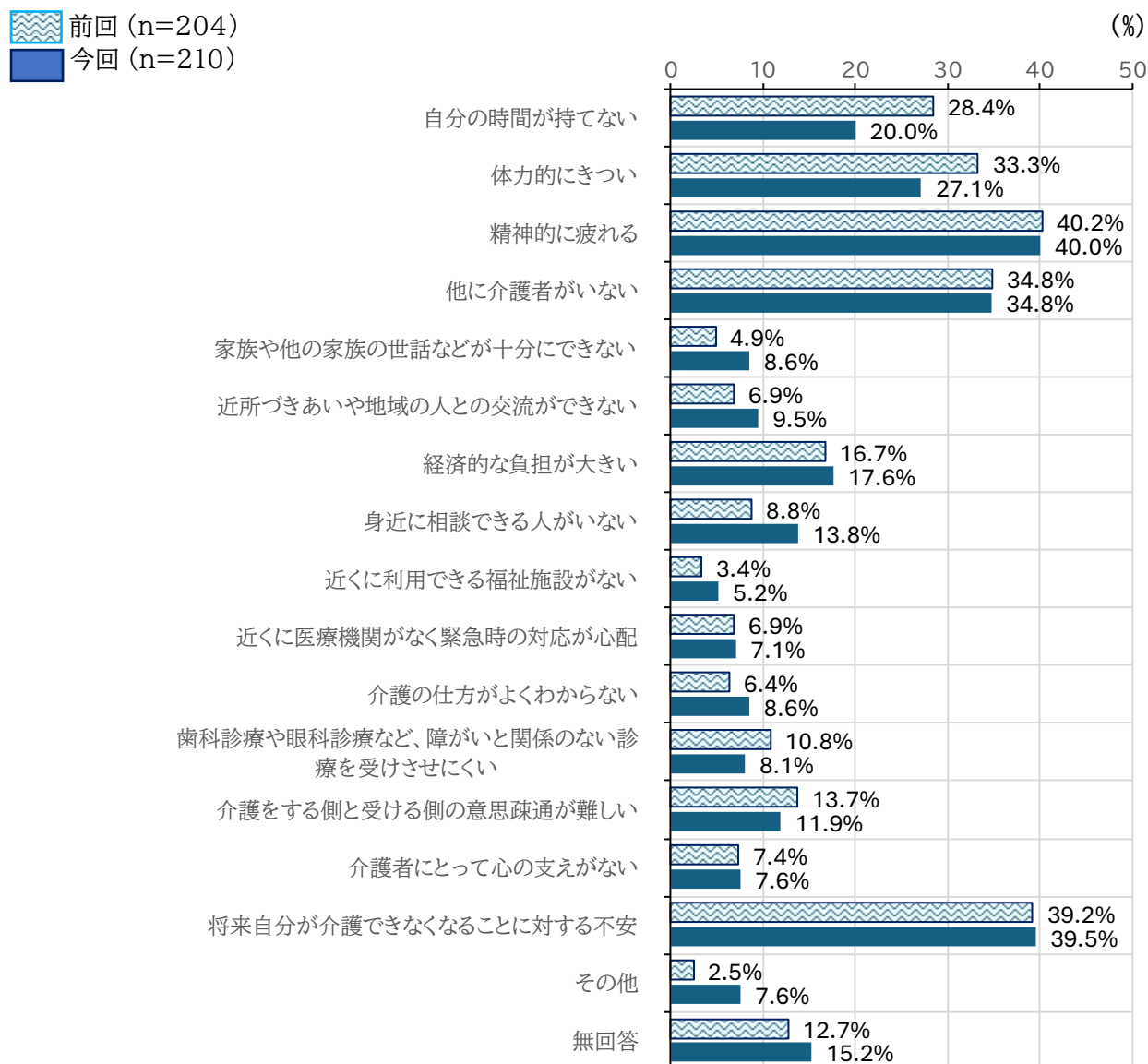
介護する上での問題や悩みについて、「精神的に疲れる」が40.0%と最も高くなっています。次いで、「将来自分が介護できなくなることに対する不安」が39.5%、「他に介護者がいない」が34.8%となっています。

【全体】



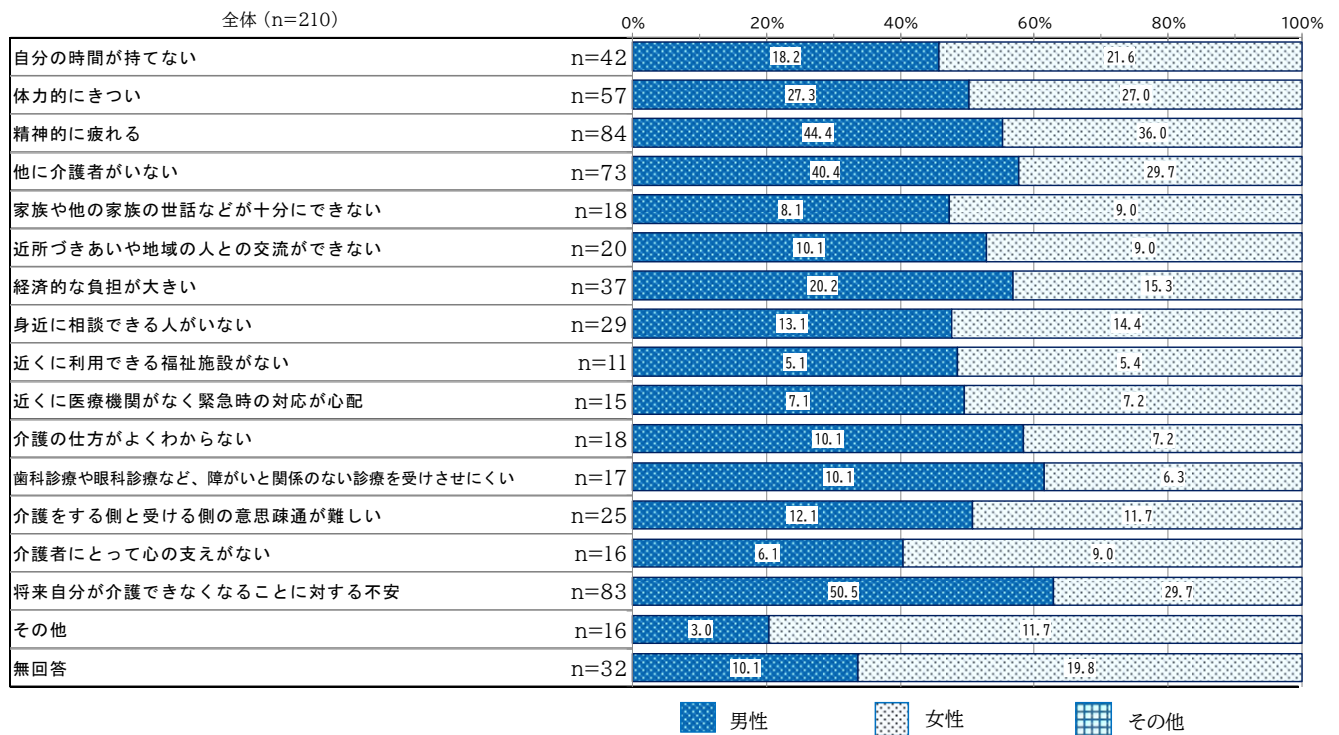
【前回比較】

介護する上での問題や悩みについて、「身近に相談できる人がいない」が前回よりも 5.0 ポイント高くなっています。



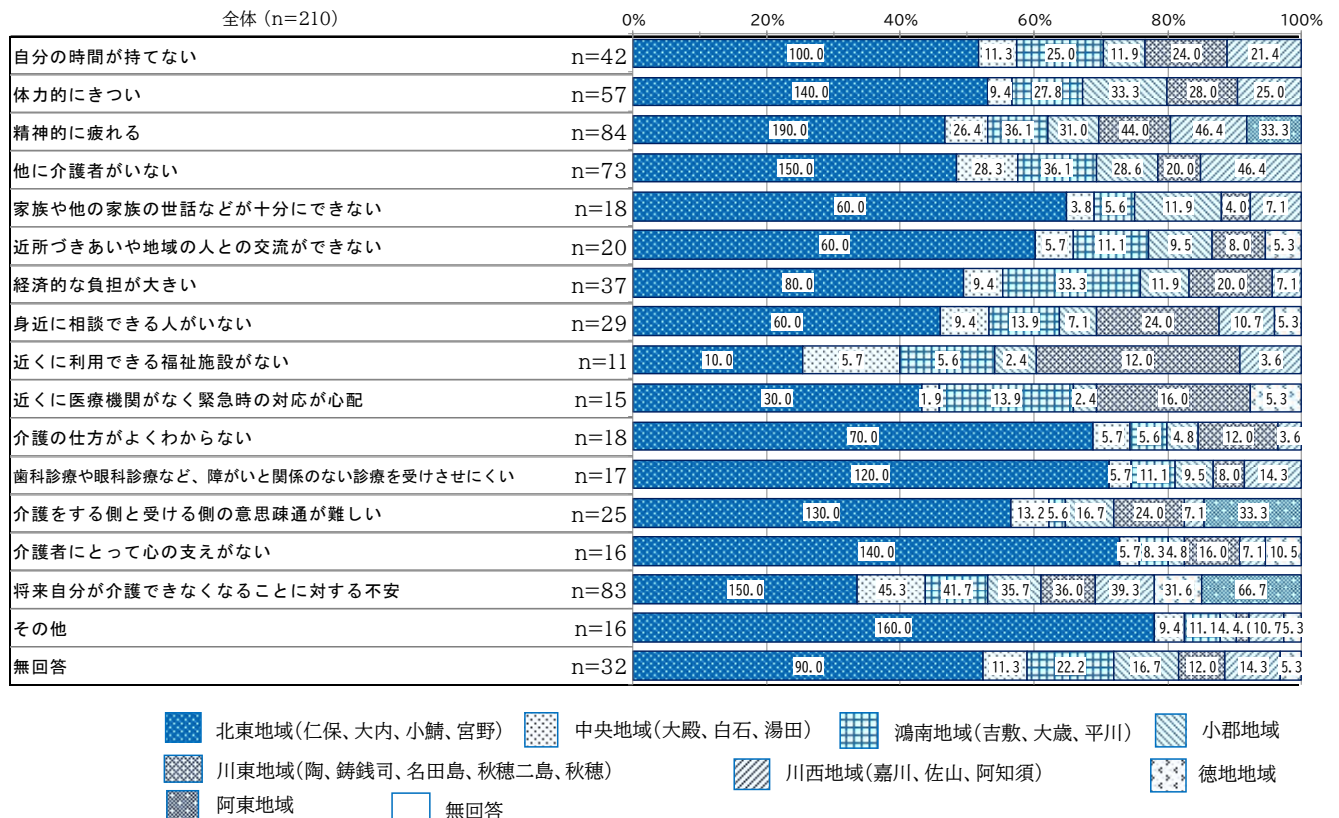
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「将来自分が介護できなくなることにに対する不安」が20.8ポイント高くなっています。



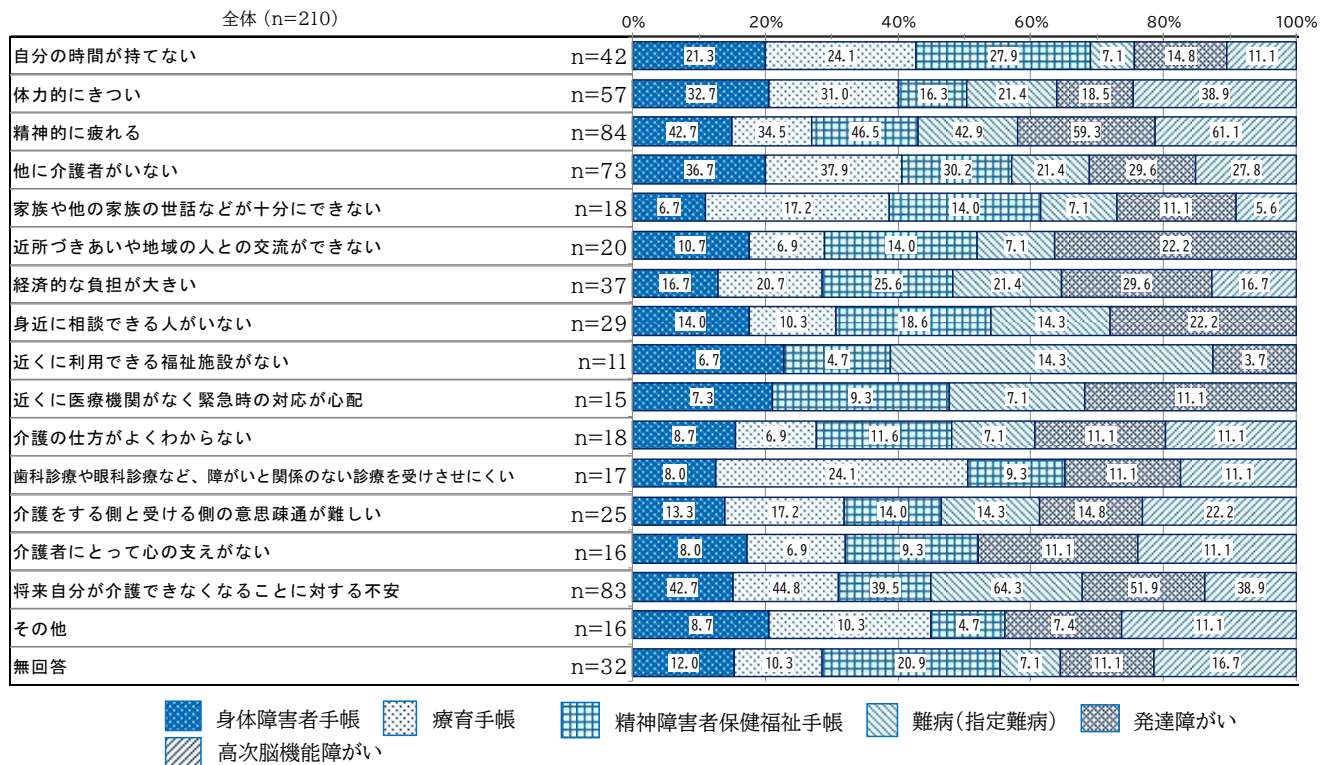
【地域別】

地域別でみると、『北東地域』、『川東地域』、『川西地域』では「精神的に疲れる」が最も高く、それ以外全て、「将来自分が介護できなくなることにに対する不安」が最も高くなっています。



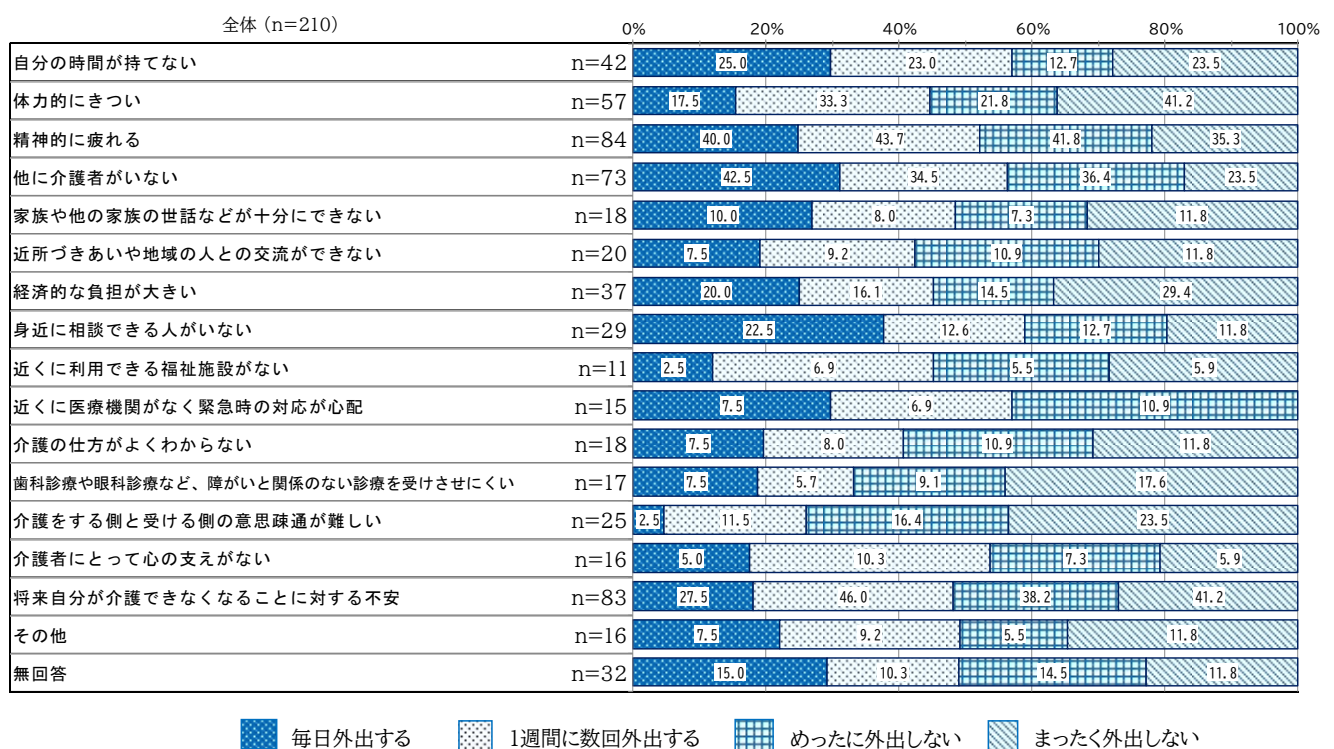
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』では「将来自分が介護できなくなることに対する不安」が44.8%、『難病（特定疾患）』では「精神的に疲れる」が61.1%と高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、『1週間に数回外出する』、『めったに外出しない』、『まったく外出しない』では、「将来自分が介護できなくなることに対する不安」が最も高くなっています。



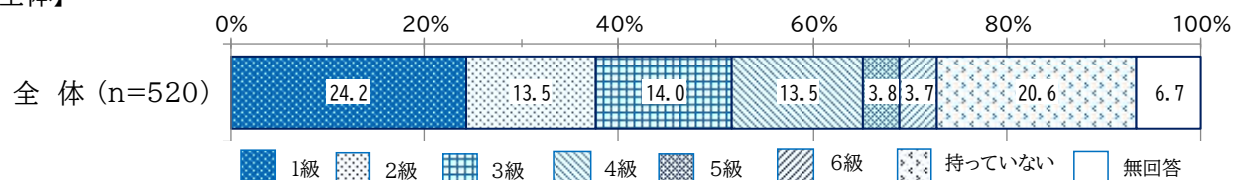
3. 障がいの状況について

問19 あなたは、身体障害者手帳をお持ちですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

身体障害者手帳の所持について、「1級」が24.2%と最も高くなっています。次いで、「6級」が20.6%、「2級」と「4級」が同じ13.5%となっています。

【全体】



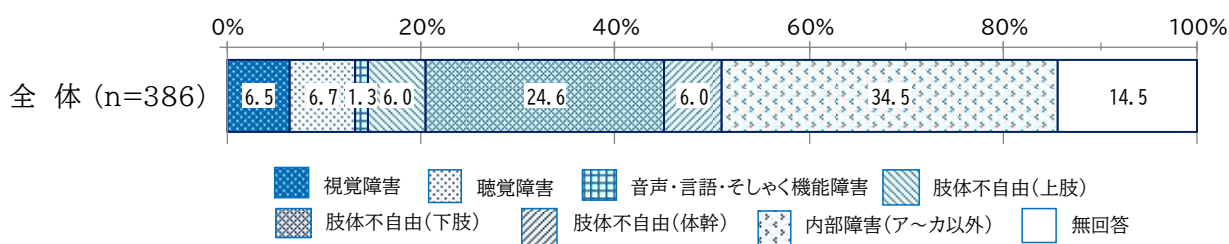
回答	人数 (人)	割合 (%)
1級	126	24.2
2級	70	13.5
3級	73	14.0
4級	70	13.5
5級	20	3.8
6級	19	3.7
持っていない	107	20.6
無回答	35	6.7
合計	520	100

問20 身体障害者手帳をお持ちの場合、主たる障がいをお答えください。

【該当する記号をひとつだけ○】

身体障害者手帳の所持について、「内部障害（ア～カ以外）」が34.5%と最も高くなっています。次いで、「肢体不自由（下肢）」が24.6%、「聴覚障害」が6.7%となっています。

【全体】



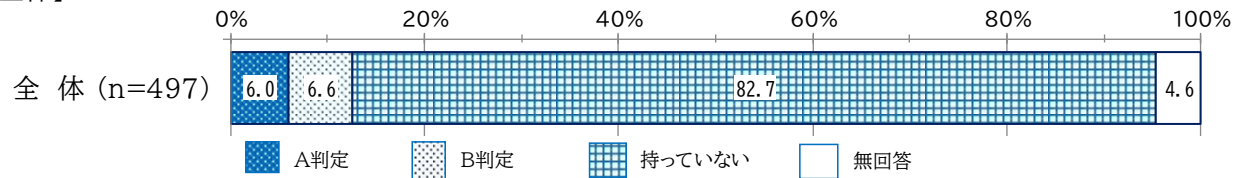
回答	人数 (人)	割合 (%)
視覚障害	25	6.5
聴覚障害	26	6.7
音声・言語・そしゃく機能障害	5	1.3
音声・言語・そしゃく機能障害	23	6.0
肢体不自由(上肢)	95	24.6
肢体不自由(下肢)	23	6.0
肢体不自由(体幹)	133	34.5
内部障害(ア～カ以外)	56	14.5
無回答	0	0
合計	386	100

問2 1 あなたは療育手帳をお持ちですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

療育手帳の所持について、「持っていない」が82.7%と最も高くなっています。次いで、「B判定」が6.6%、「A判定」が6.0%となっています。

【全体】



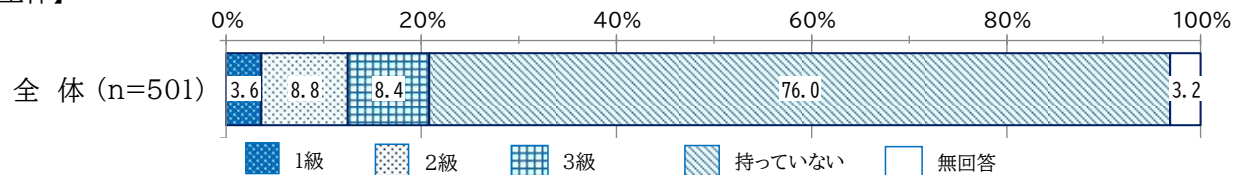
回答	人数 (人)	割合 (%)
A判定	30	6.0
B判定	33	6.6
持っていない	411	82.7
持っていない	23	4.6
無回答	0	0.0
合 計	497	100

問2 2 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

精神障害者保健福祉手帳の所持について、「持っていない」が76.0%と最も高くなっています。次いで、「2級」が8.8%、「3級」が8.4%となっています。

【全体】



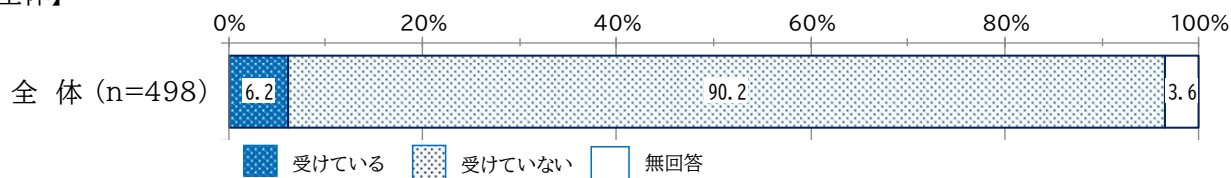
回答	人数 (人)	割合 (%)
1級	18	3.6
2級	44	8.8
3級	42	8.4
3級	381	76.0
持っていない	16	3.2
無回答	0	0
合 計	501	100

問23 あなたは難病（指定難病）の認定を受けていますか。 【該当する記号をひとつだけ○】

※難病（指定難病）とは、筋委縮性側索硬化症（ALS）やパーキンソン病などの治療法が確立していない疾病その他の特殊の疾病をいいます。

難病（指定難病）の認定について、「受けている」6.2%、「受けていない」90.2%となっています。

【全体】



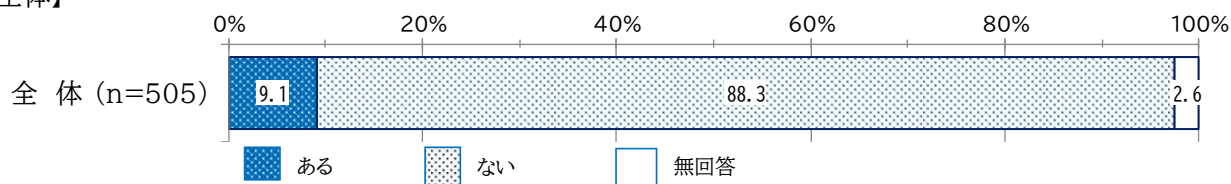
回答	人数 (人)	割合 (%)
受けている	31	6.2
受けていない	449	90.2
無回答	18	3.6
合 計	498	100

問24 あなたは発達障がいとして診断されたことがありますか。 【該当する記号をひとつだけ○】

※発達障がいとは自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などをいいます。

発達障がいの診断について、「ある」9.1%、「ない」88.3%となっています。

【全体】



回答	人数 (人)	割合 (%)
ある	46	9.1
ない	446	88.3
無回答	13	2.6
合 計	505	100

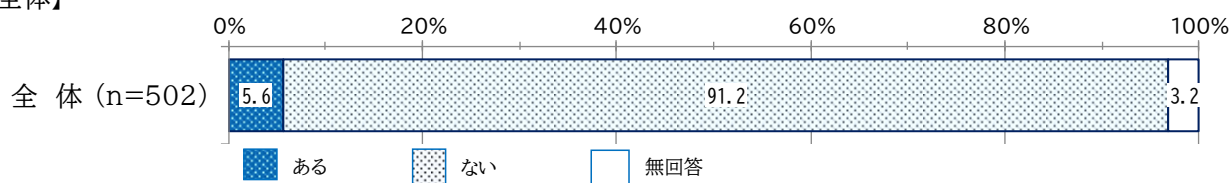
問25 あなたは高次脳機能障がいとして診断されたことがありますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

※高次脳機能障がいとは、一般に、外傷性脳損傷、脳血管障害等による脳に損傷を受けてその後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指すものとされており、具体的には、「会話がうまくかみ合わない」等の症状があります。

高次脳機能障がいの診断について、「ある」5.6%、「ない」91.2%となっています。

【全体】



回答	人数 (人)	割合 (%)
ある	28	5.6
ない	458	91.2
無回答	16	3.2
合 計	502	100

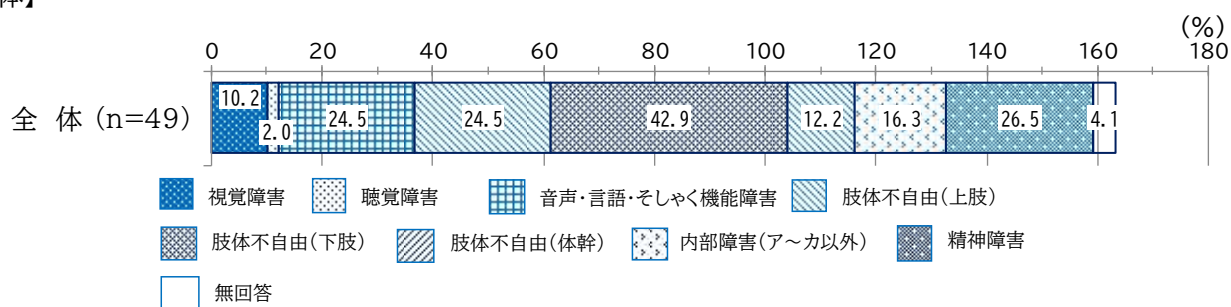
《問25で「ア ある」を選択された方のみが回答》

問26 高次脳機能障がいとして診断されたことがある場合、その関連障がいをお答えください。

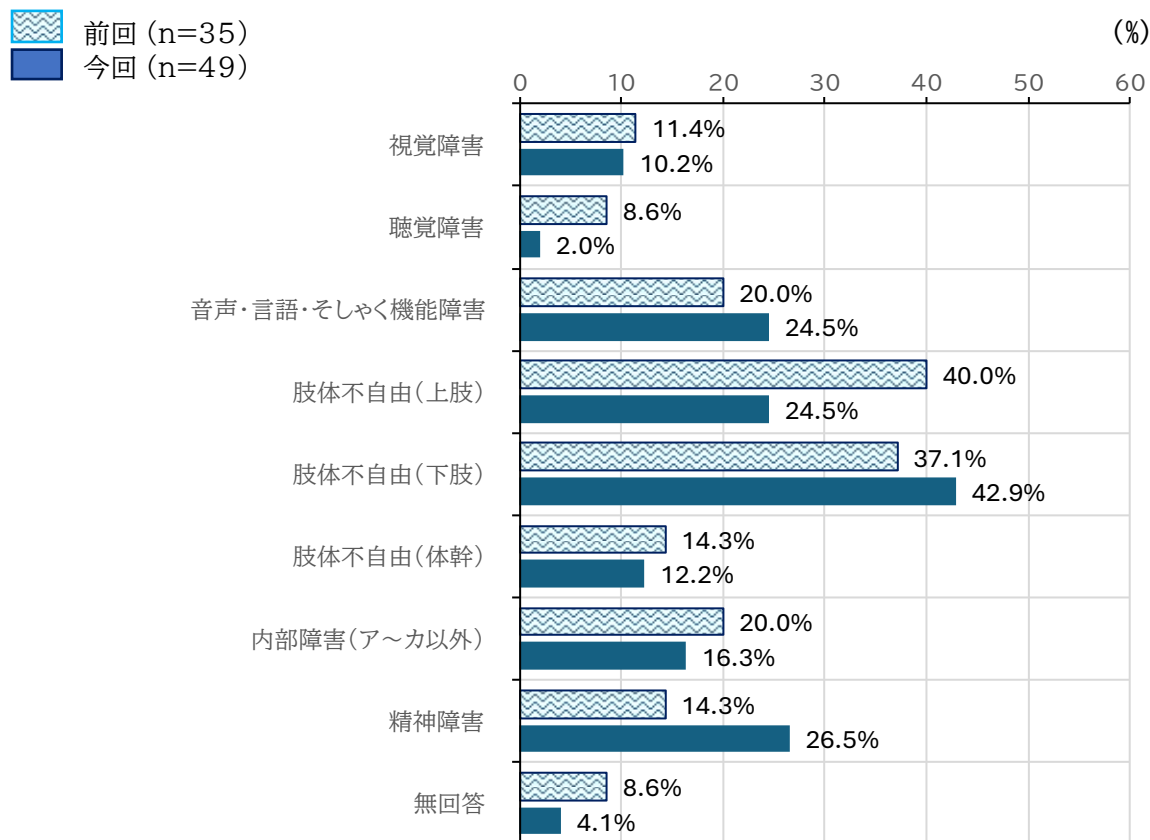
【該当する記号をすべて○】

高次脳機能障がいの関連障がいについて、「肢体不自由（下肢）」42.9%と最も高くなっています。次いで、「精神障害」26.5%となっています。

【全体】

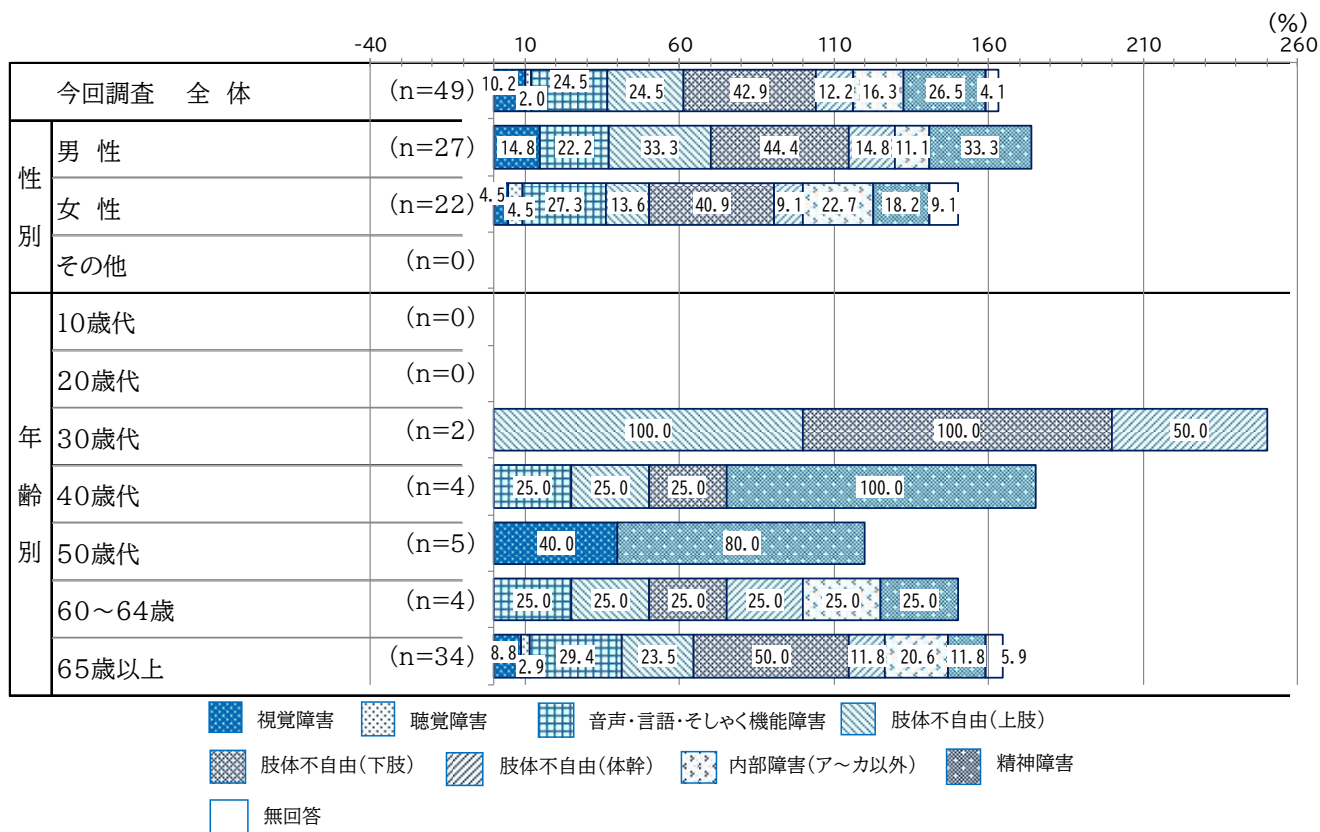


【前回比較】



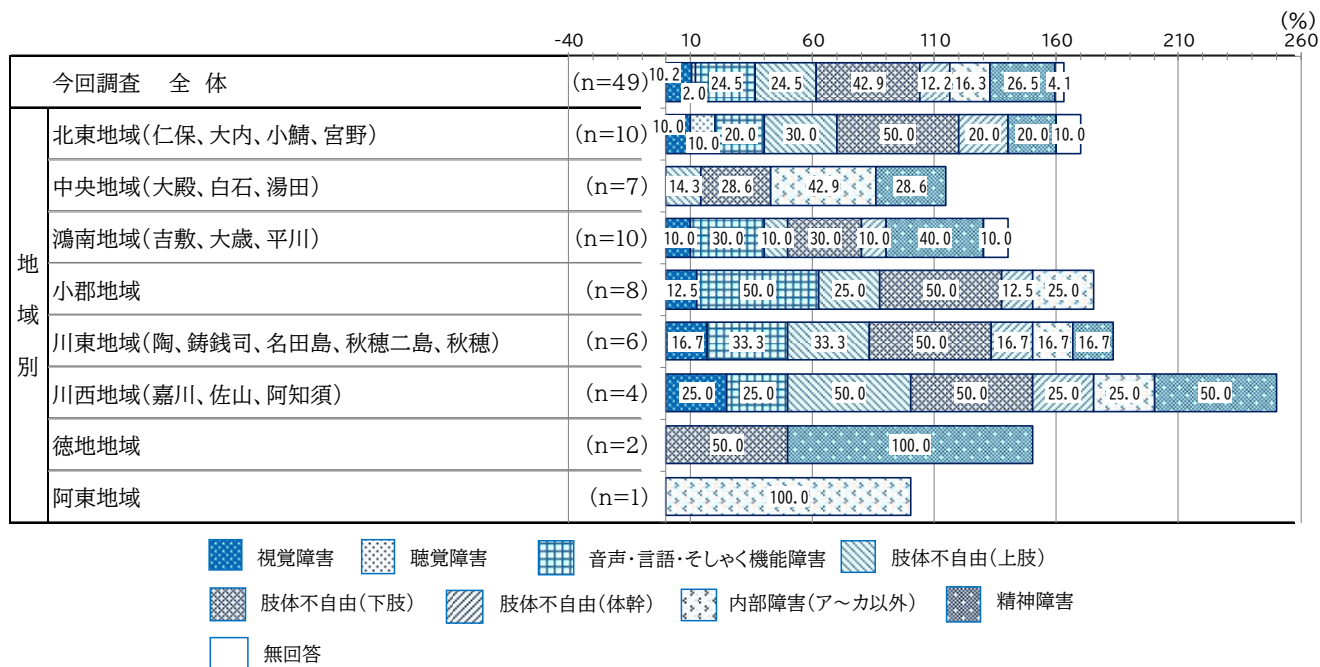
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「肢体不自由（上肢）」が 19.7ポイント高くなっています。



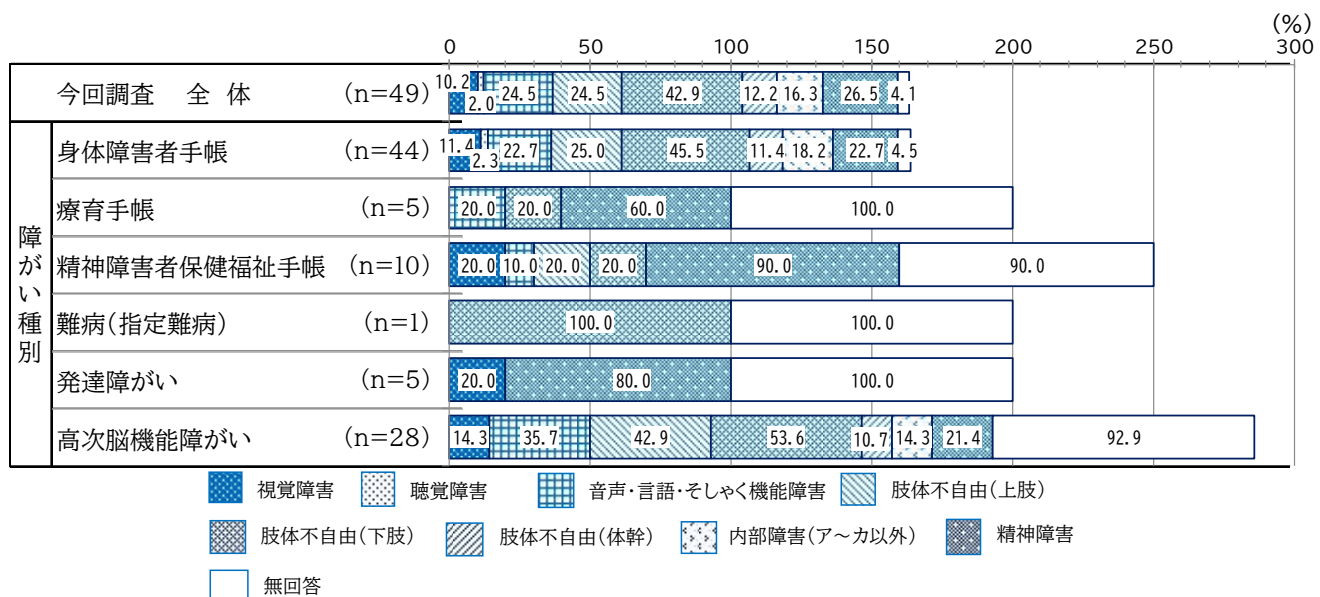
【地域別】

地域別でみると、『小郡地域』では「音声・言語・そしゃく機能障害」と「肢体不自由（下肢）」が、『川東地域』では「肢体不自由（上肢）」と「肢体不自由（下肢）」が、『北東地域』、『川東地域』では「肢体不自由（下肢）」が、『中央地域』、『阿東地域』では「内部障害」が、それ以外全て「精神障害」が高くなっています。



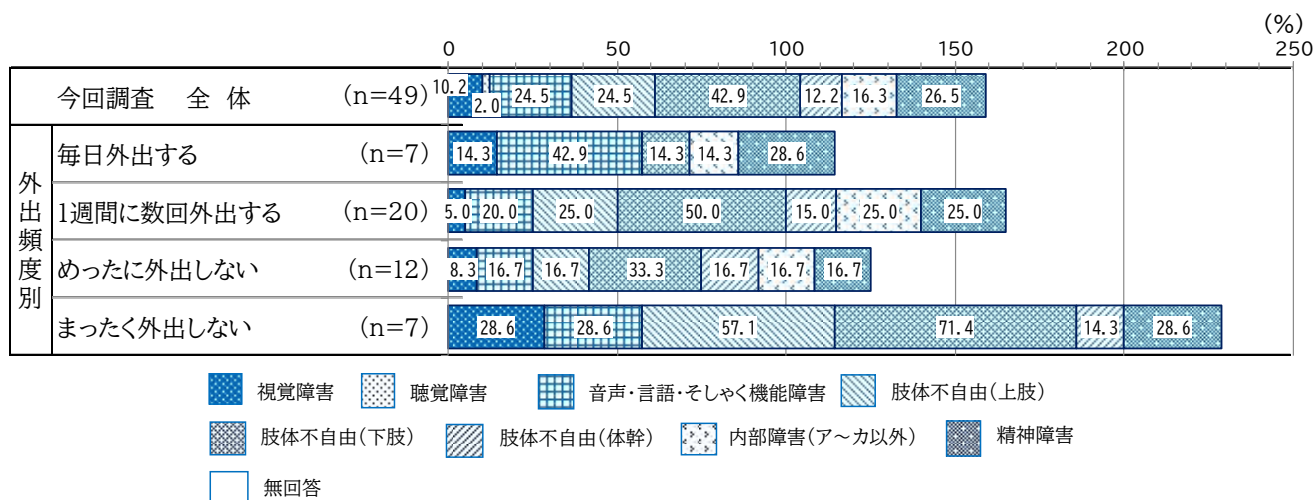
【障害種別】

障害種別でみると、「無回答」を除き、『身体障害者手帳』、『難病（特定疾患）』、『発達障害』では「肢体不自由（下肢）」が、それ以外全て「精神障害」が高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、『まったく外出しない』では「肢体不自由（下肢）」が7割以上と高くなっています。



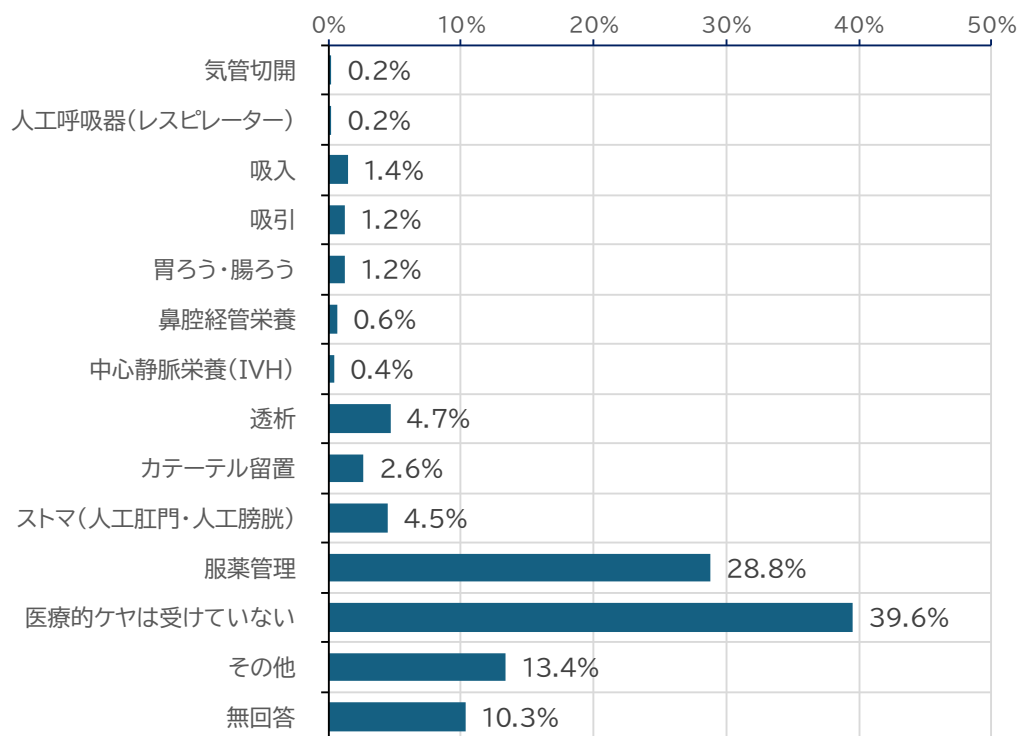
問27 あなたが現在受けている医療ケアをご回答ください。

【該当する記号をすべて○】

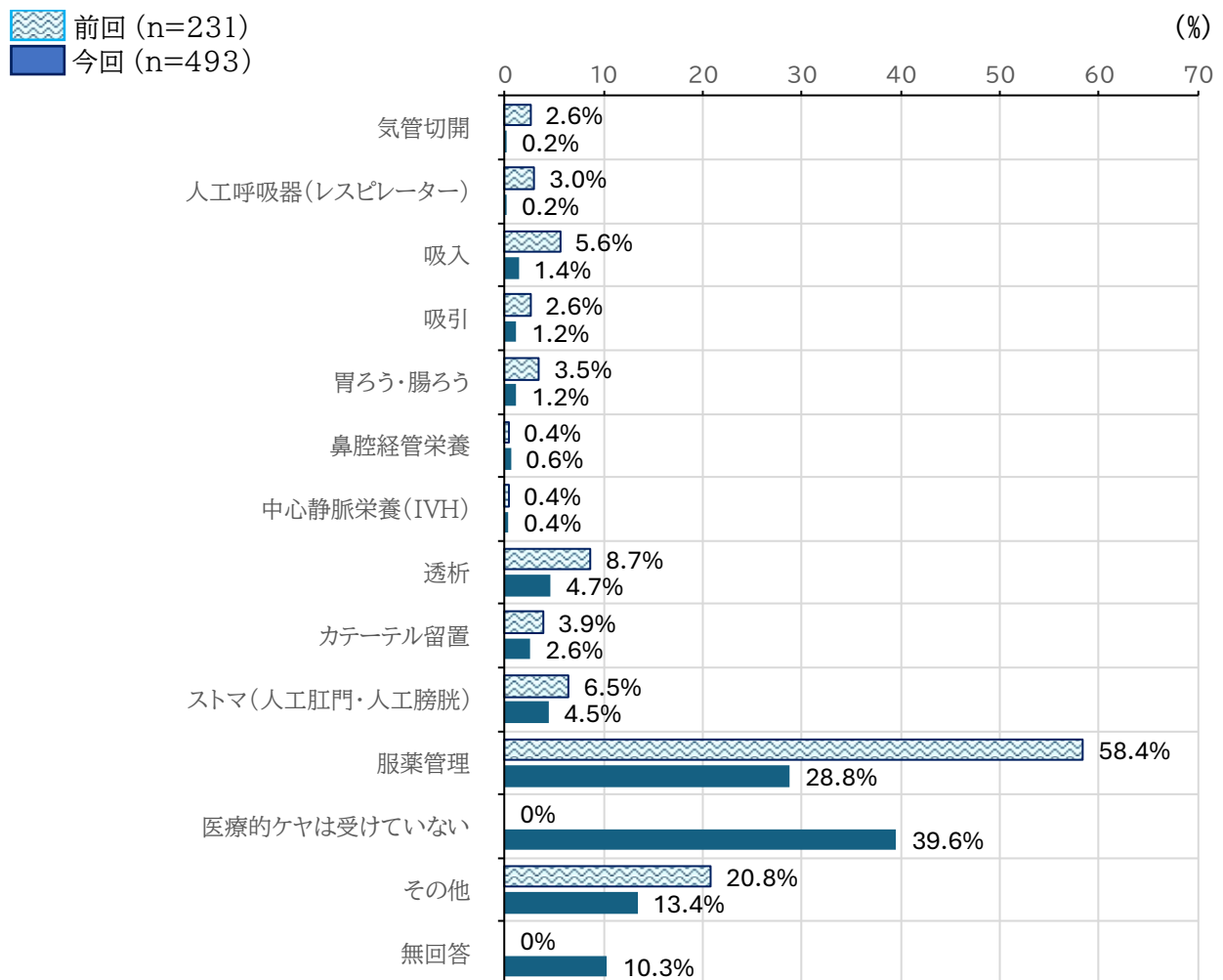
現在受けている医療ケアについて、「医療ケアを受けていない」が 39.6%と最も高くなっています。次いで、「服薬管理」が 28.8%、「その他」が 13.4%となっています。

【全体】

全体 (n=493)



【前回比較】



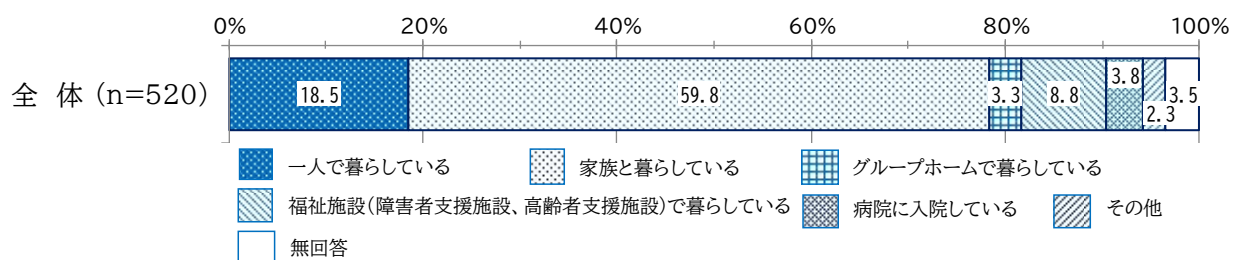
4. 住まいや暮らしについて

問28 あなたは現在どのように暮らしていますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

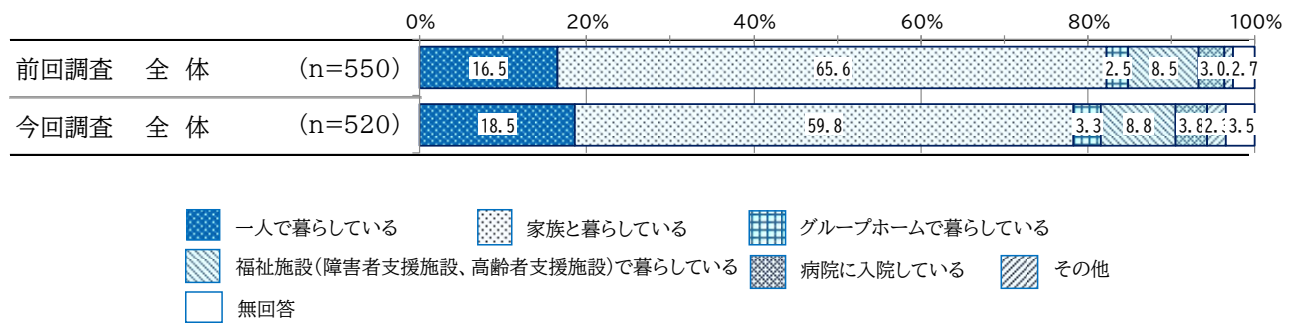
現在の暮らしについて、「家族と暮らしている」が 59.8%と最も高くなっています。次いで、「一人で暮らしている」が 18.5%、「福祉施設(障害者支援施設、高齢者支援施設)で暮らしている」が 8.8%となっています。

【全体】



【前回比較】

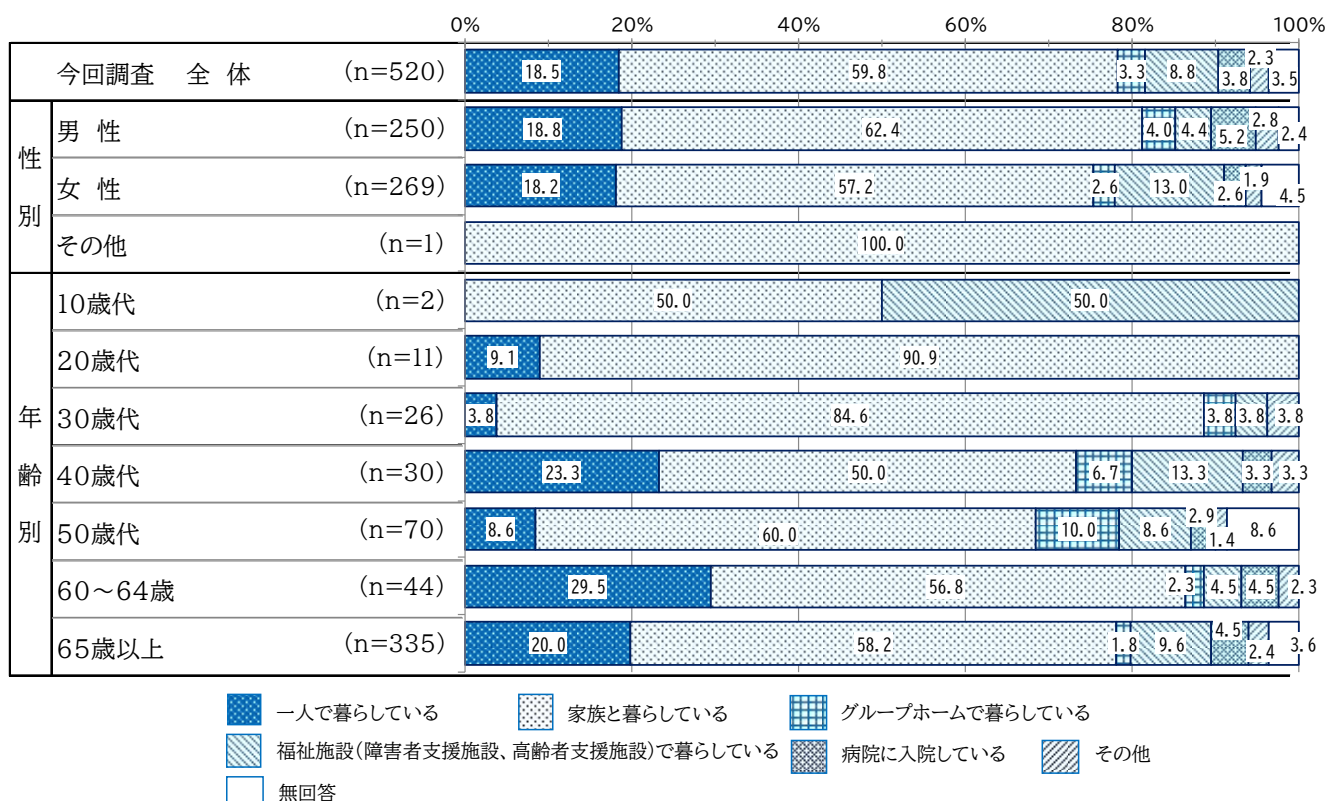
現在の暮らしについて、「一人で暮らしている」が前回より 2.0ポイント高くなっています。



【性別・年齢別】

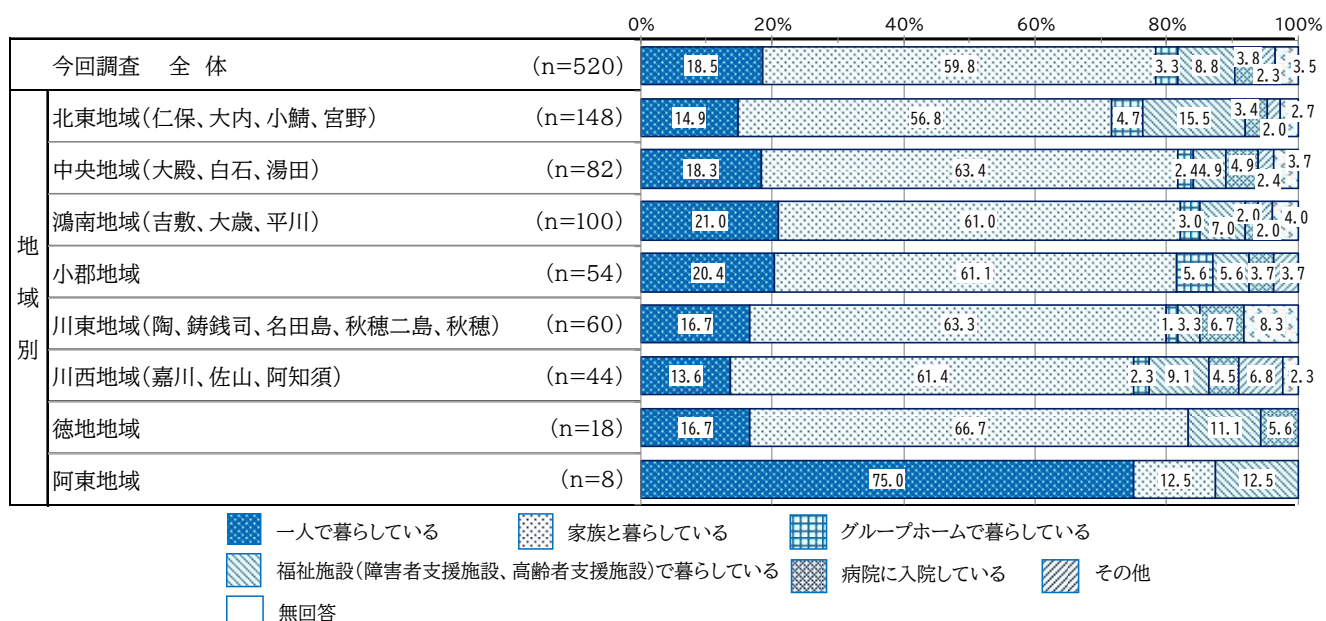
性別でみると、『男性』は『女性』より、「家族と暮らしている」が5.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、全ての年代において、「家族と暮らしている」が最も高くなっています。



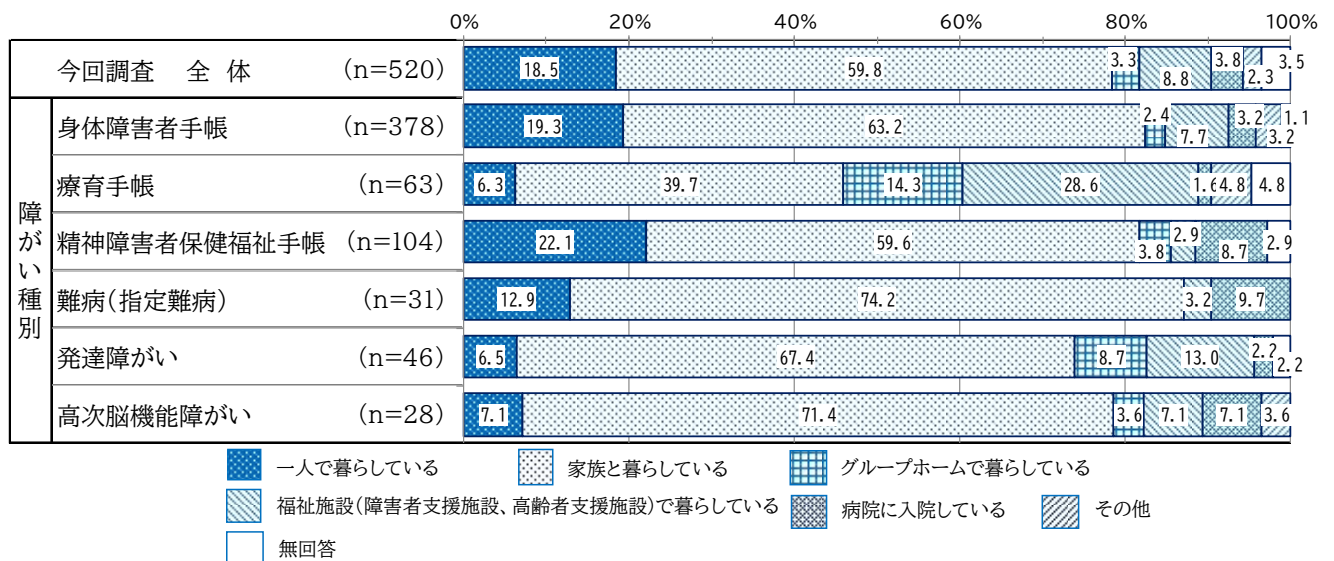
【地域別】

地域別でみると、『阿東地域』を除き全ての地域において「家族と暮らしている」が最も高くなっています。



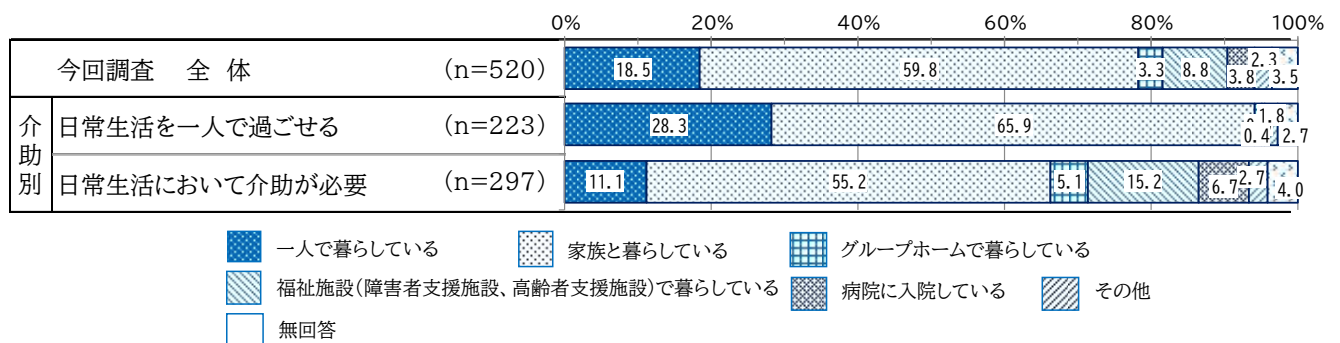
【障害種別】

障害種別でみると、全てにおいて「家族と暮らしている」が最も高くなっています。



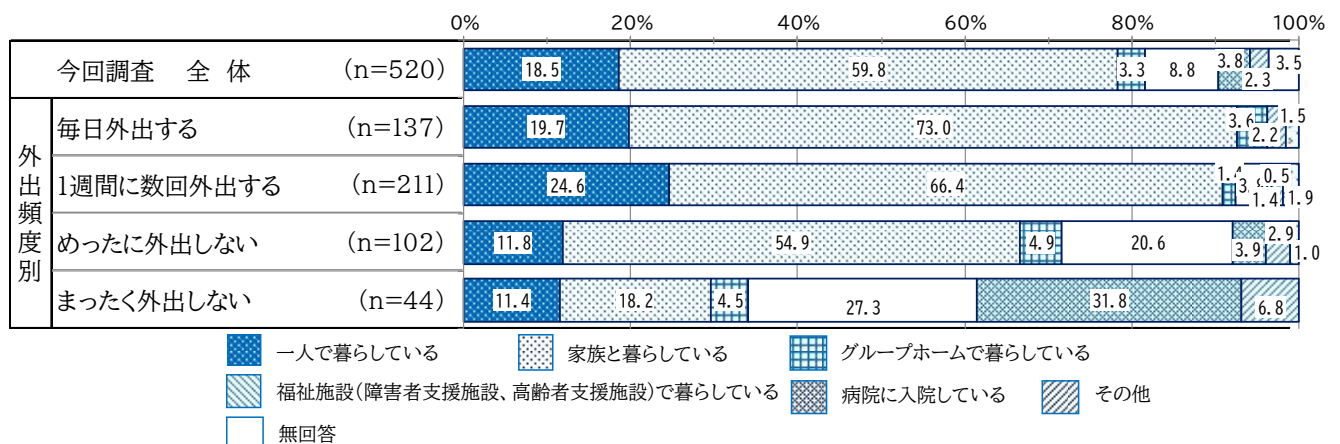
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「一人で暮らしている」が 17.2ポイント高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「家族と暮らしている」が低くなっています。



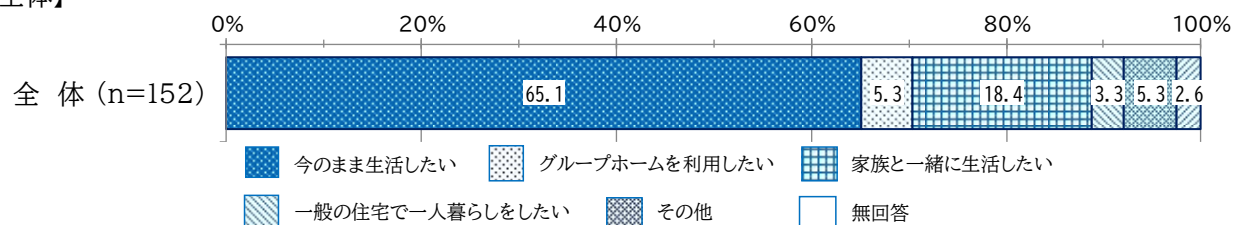
《問 29 と問 30 は、問 28 で「エ 福祉施設（障害者支援施設、高齢者支援施設）で暮らしている」または「オ 病院に入院している」を選択された方のみが回答》

問 29 あなたは将来、地域で生活したいと思いますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

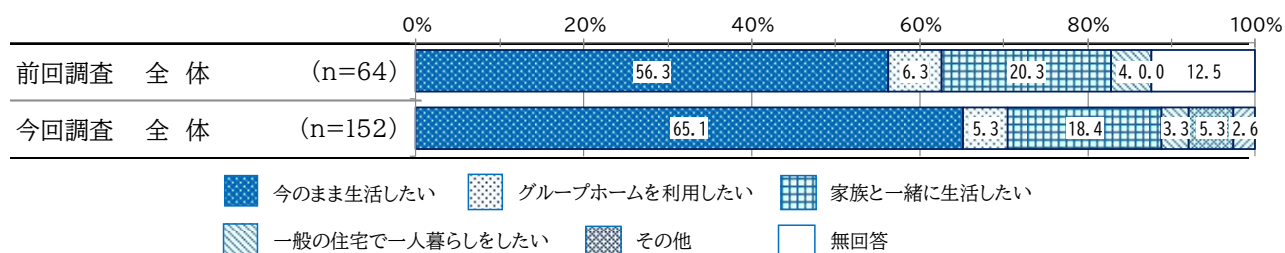
将来、地域で生活したいかについて、「今のまま生活したい」が 65.1%と最も高くなっています。次いで、「家族と一緒に生活したい」が 18.4%、「グループホームを利用したい」が 5.3%となっています。

【全体】



【前回比較】

将来、地域で生活したいかについて、「家族と一緒に生活したい」が前回より 1.9ポイント低くなっています。

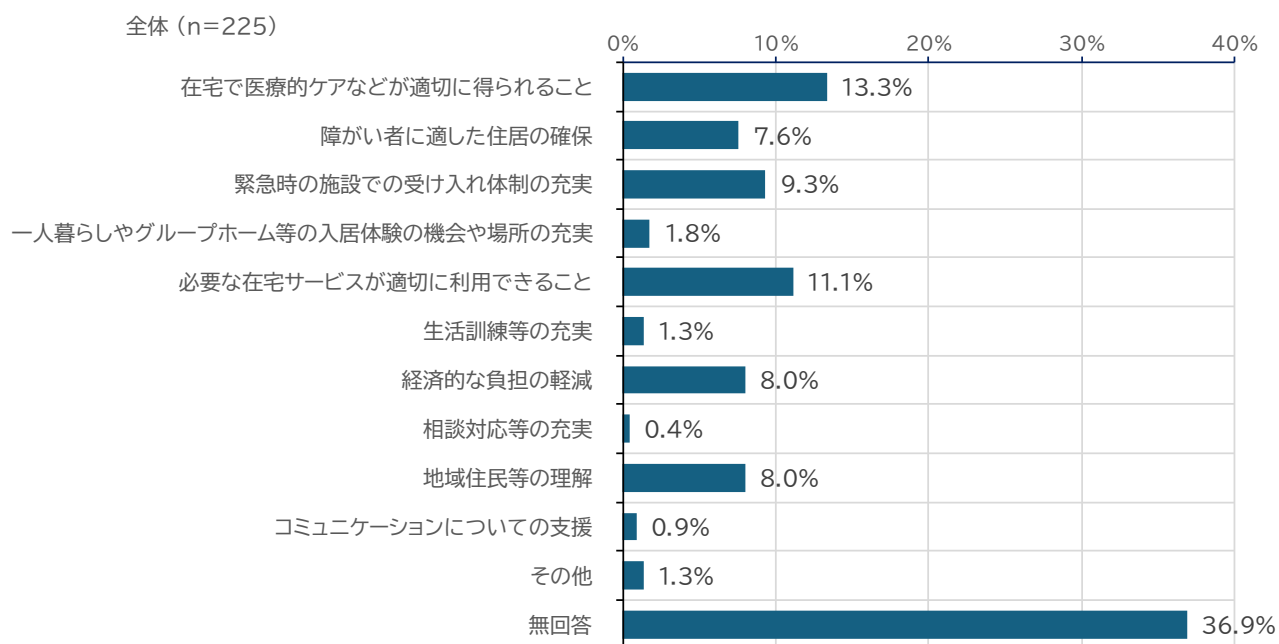


問30 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

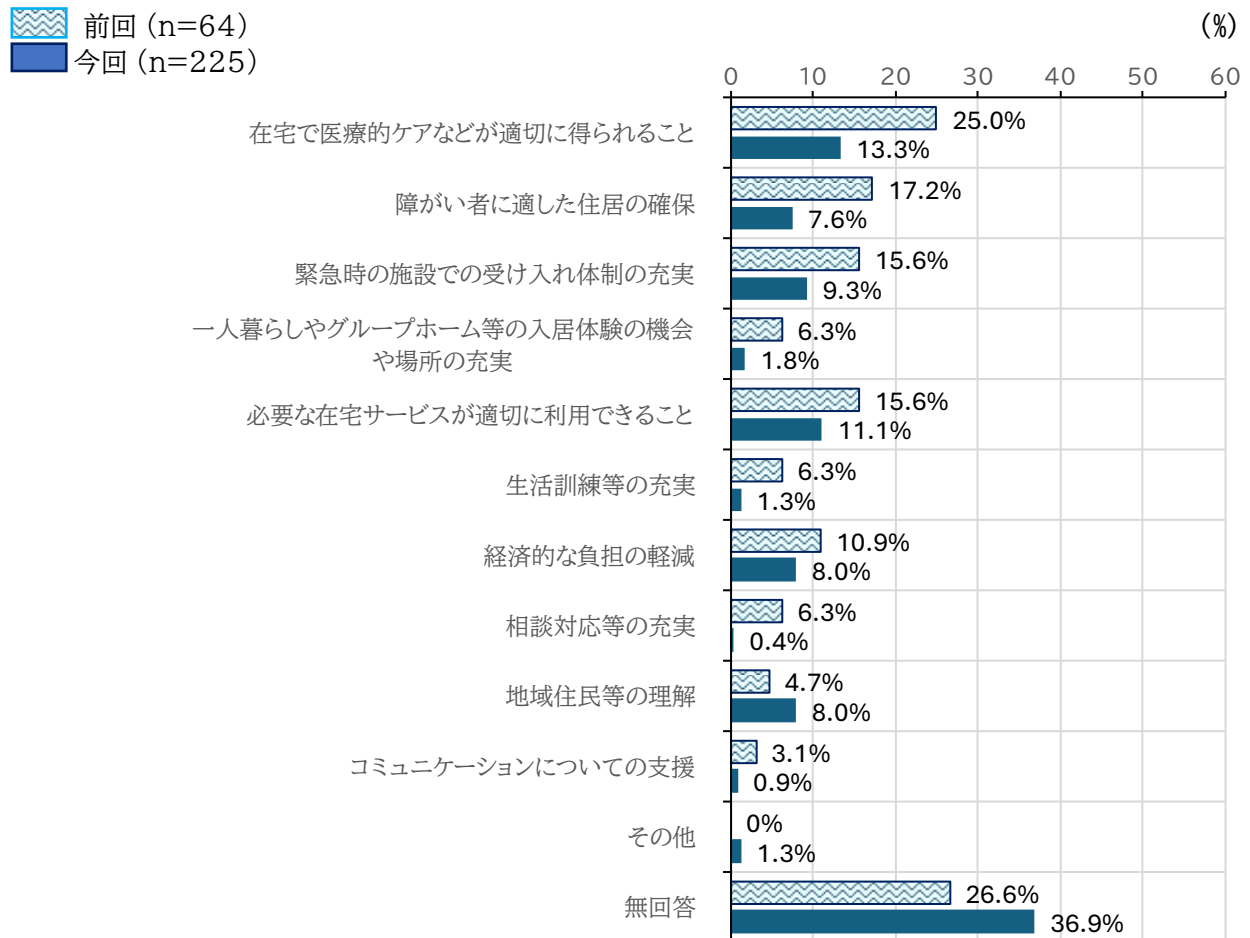
地域で生活するための支援について、「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」が13.3%と最も高くなっています。次いで、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が11.1%、「緊急時の施設での受け入れ体制の充実」が9.3%となっています。

【全体】



【前回比較】

どのような支援があればよいと思かについて、「地域住民等の理解」が前回より 3.3 ポイント高くなっています。



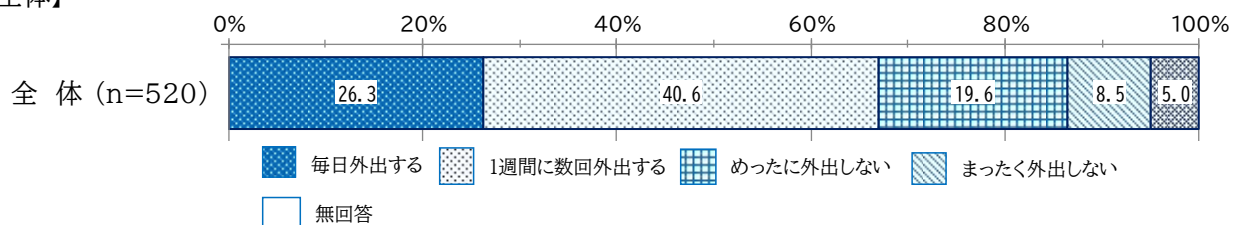
5. 日中活動や就労について

問3 1 あなたは1週間にどの程度外出しますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

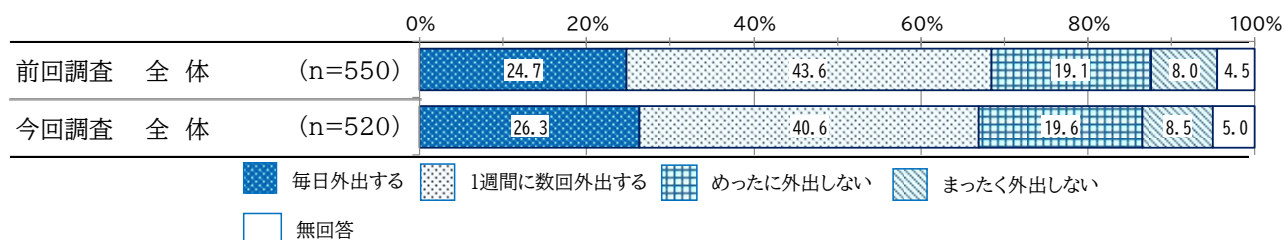
外出の頻度について、「1週間に数回外出する」が 40.6%と最も高くなっています。次いで、「毎日外出する」が 26.3%、「めったに外出しない」が 19.6%となっています。

【全体】



【前回比較】

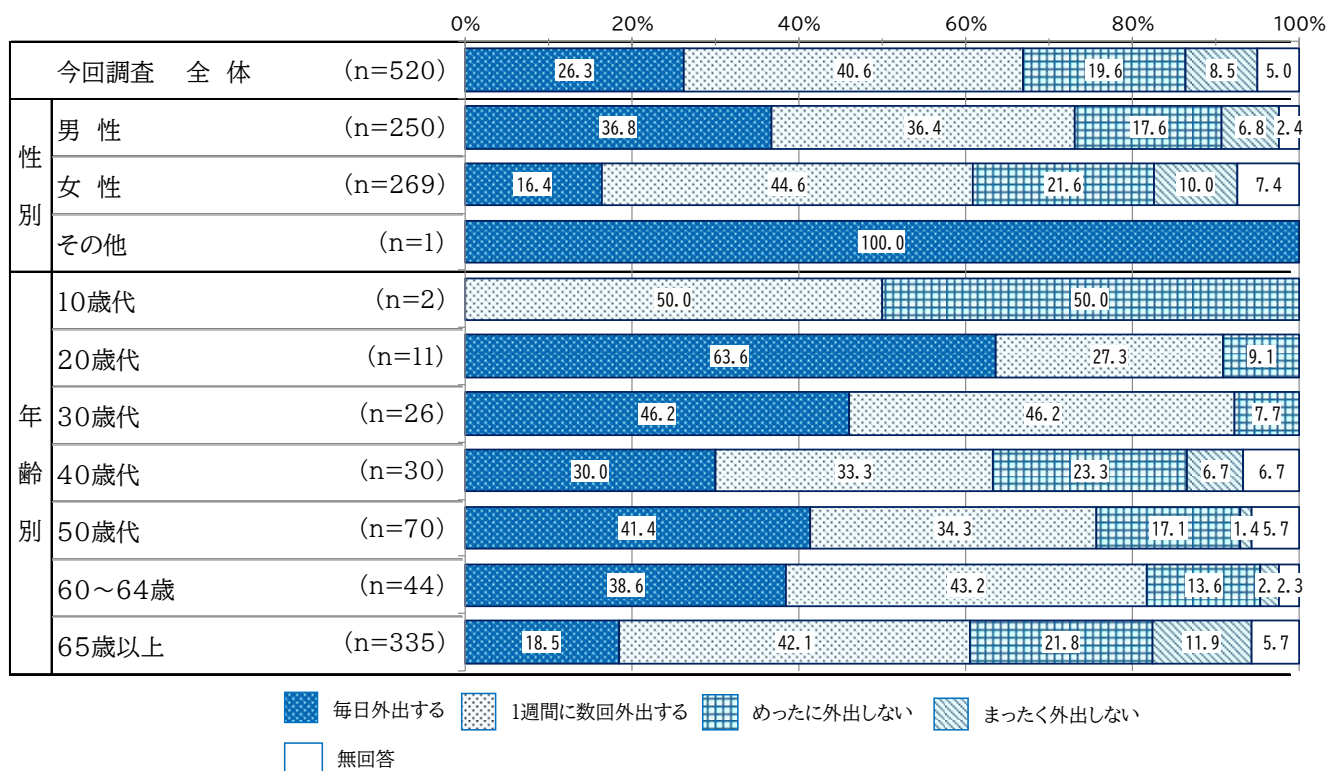
外出の頻度について、「毎日外出する」が前回より 1.6 ポイント高くなっています。



【性別・年齢別】

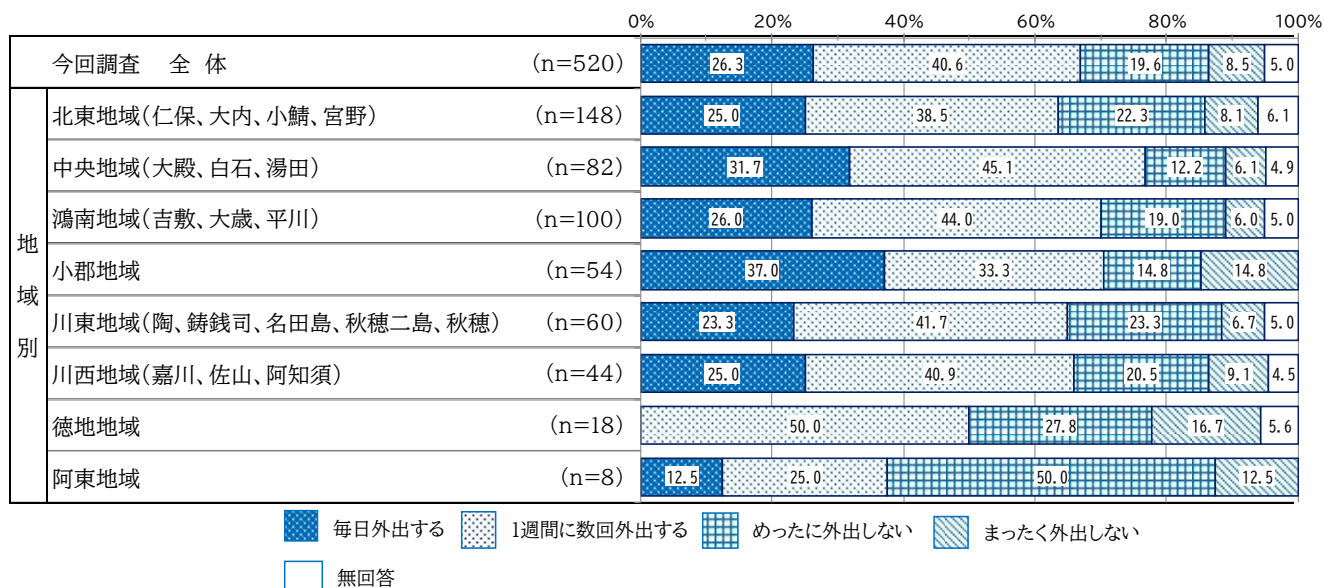
性別でみると、『男性』は『女性』より、「毎日外出する」が 20.4 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『20 歳代』から『40歳代』に年齢が上がるにつれて、「毎日外出する」が低くなっています。



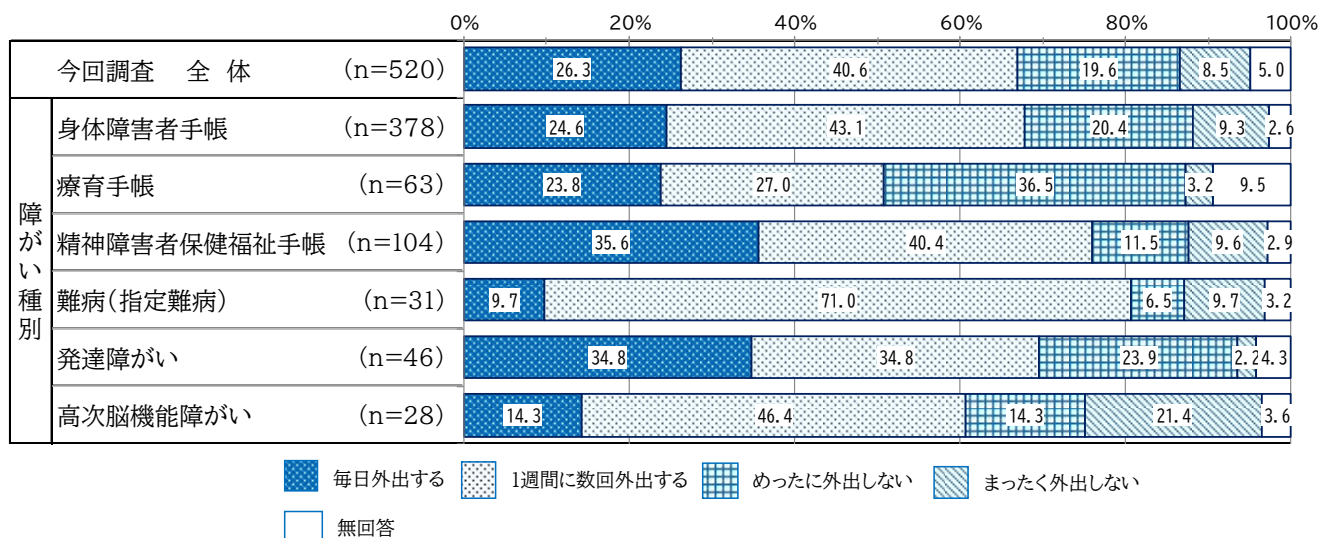
【地域別】

地域別でみると、『小郡地域』では「毎日外出する」、『阿東地域』では「めったに外出しない」、それ以外では全て「1週間に数回外出する」が高くなっています。



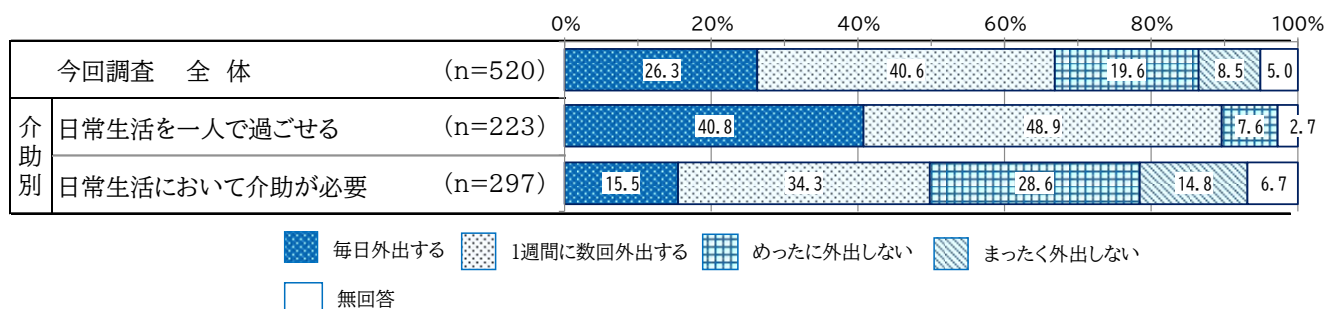
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』では「めったに外出しない」、『発達障害』では「毎日外出する」と「1週間に数回外出する」が同じ、それ以外では全て「1週間に数回外出する」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「毎日外出する」が 25.3 ポイント高くなっています。



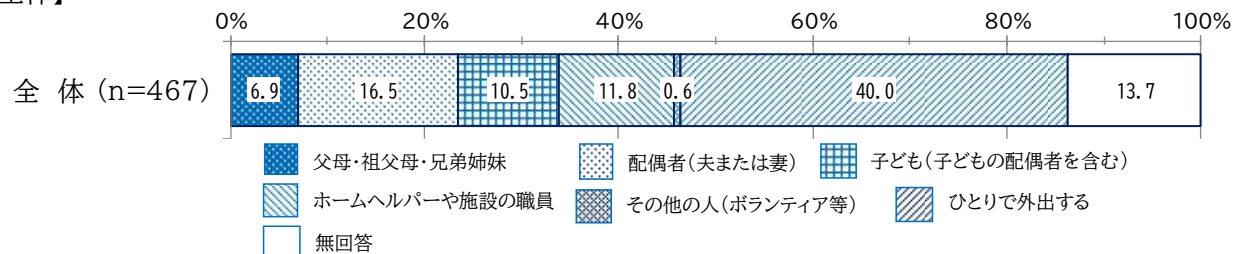
《問 3 2 から問 3 4 は、問 3 1 で「エ まったく外出しない」以外を選択された方のみが回答》

問 3 2 あなたが外出する際の主な同伴者は誰ですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

外出の際の主な同伴者について、「ひとりで外出する」が 40.0%と最も高くなっています。次いで、「配偶者（夫または妻）」が 16.5%、「ホームヘルパーや施設の職員」が 11.8%となっています。

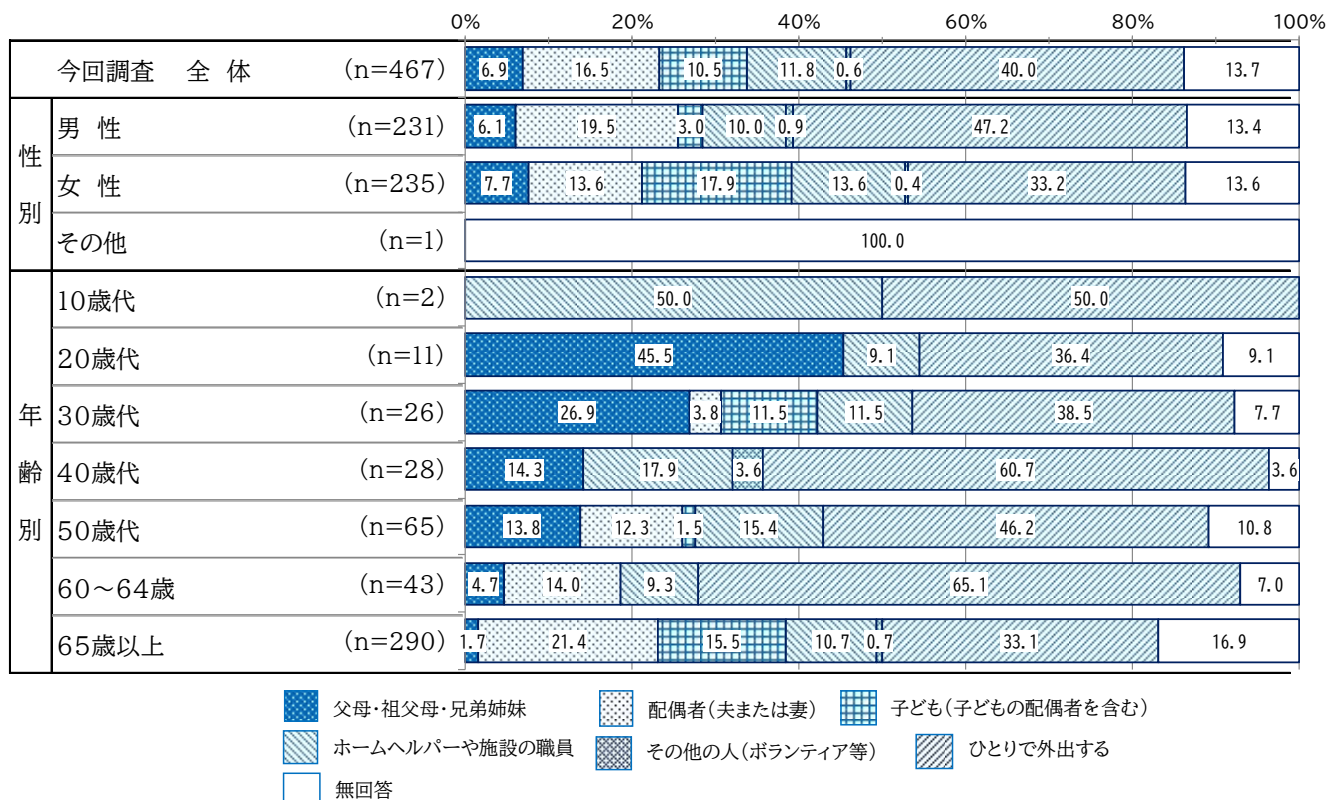
【全体】



【性別・年齢別】

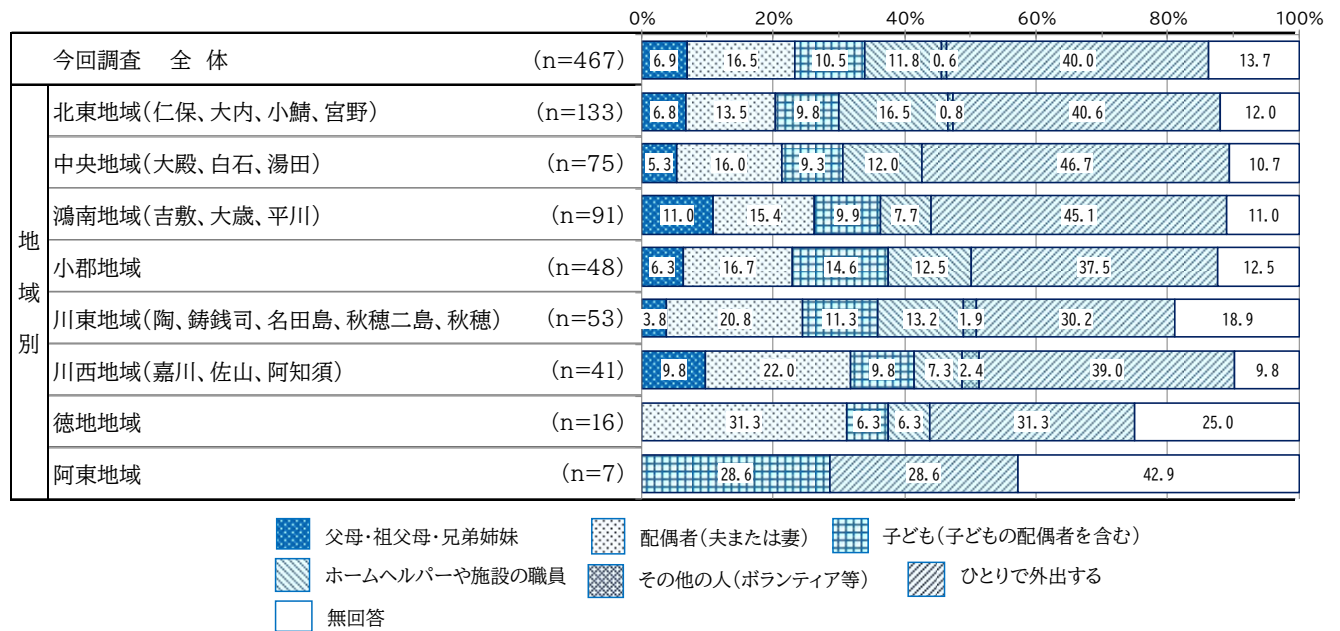
性別でみると、『男性』は『女性』より、「子ども（子どもの配偶者を含む）」が 14.9ポイント低くなっています。

年齢別でみると、『50 歳代』から年齢が上がるにつれて、「配偶者（夫または妻）」が高くなっています。



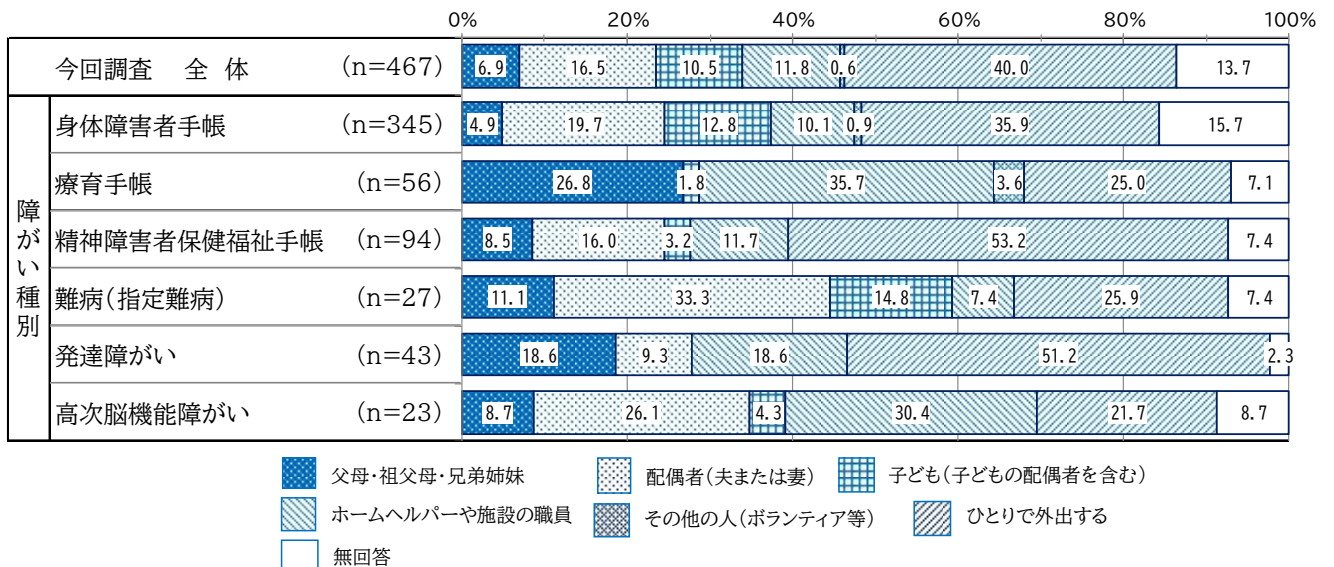
【地域別】

地域別でみると、『徳地地域』では「配偶者（夫または妻）」と「ひとりで外出する」が、『阿東地域』では「子ども（子どもの配偶者を含む）」と「ひとりで外出する」が同じで、それ以外では全て「ひとりで外出する」が最も高くなっています。



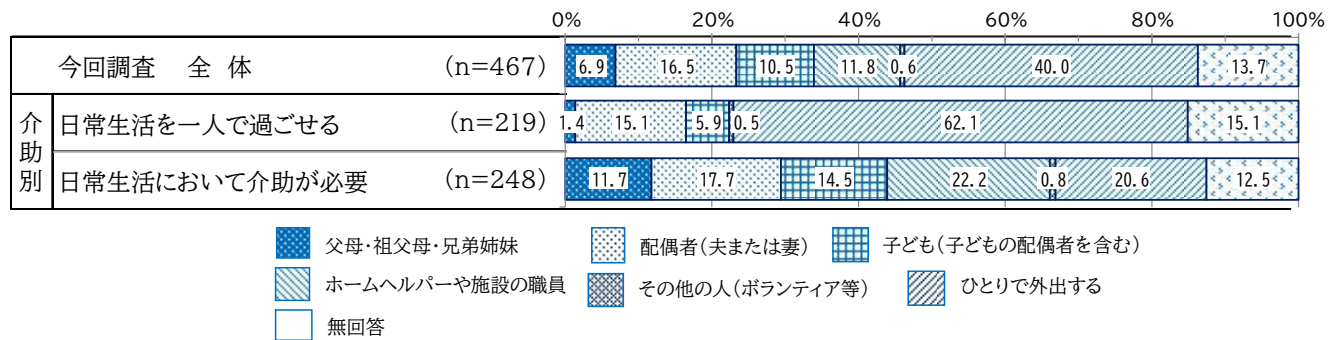
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』と『高次脳機能障がい』では「ホームヘルパーや施設の職員」、『難病（指定難病）』では「配偶者（夫または妻）」、それ以外では全て「ひとりで外出する」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

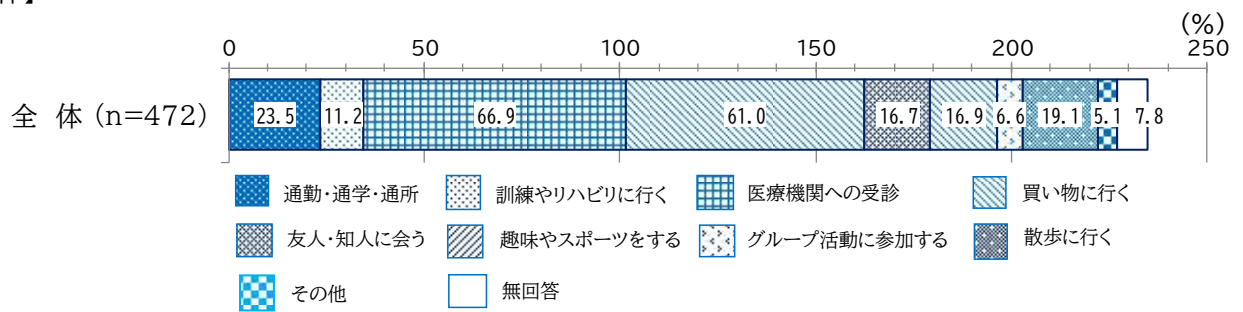
介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「ひとりで外出する」が 41.5 ポイント高くなっています。



問 3 3 あなたは、どのような目的で外出することが多いですか。 【該当する記号をすべて○】

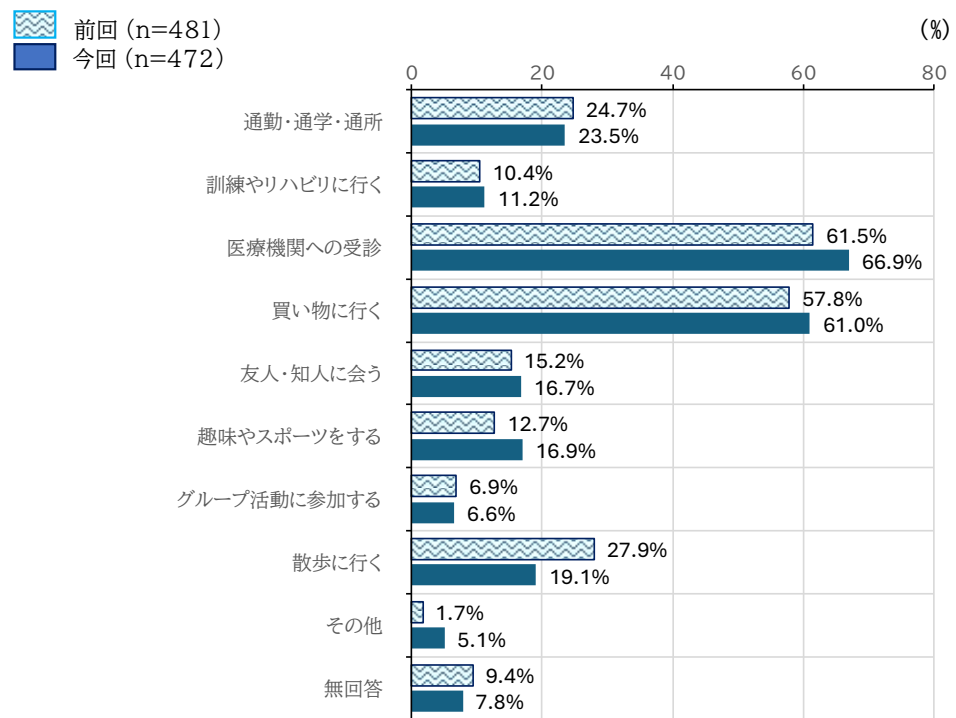
外出の際の目的について、「医療機関への受診」が 66.9%と最も高くなっています。次いで、「買い物に行く」61.0%、「通勤・通学・通所」23.5%となっています。

【全体】



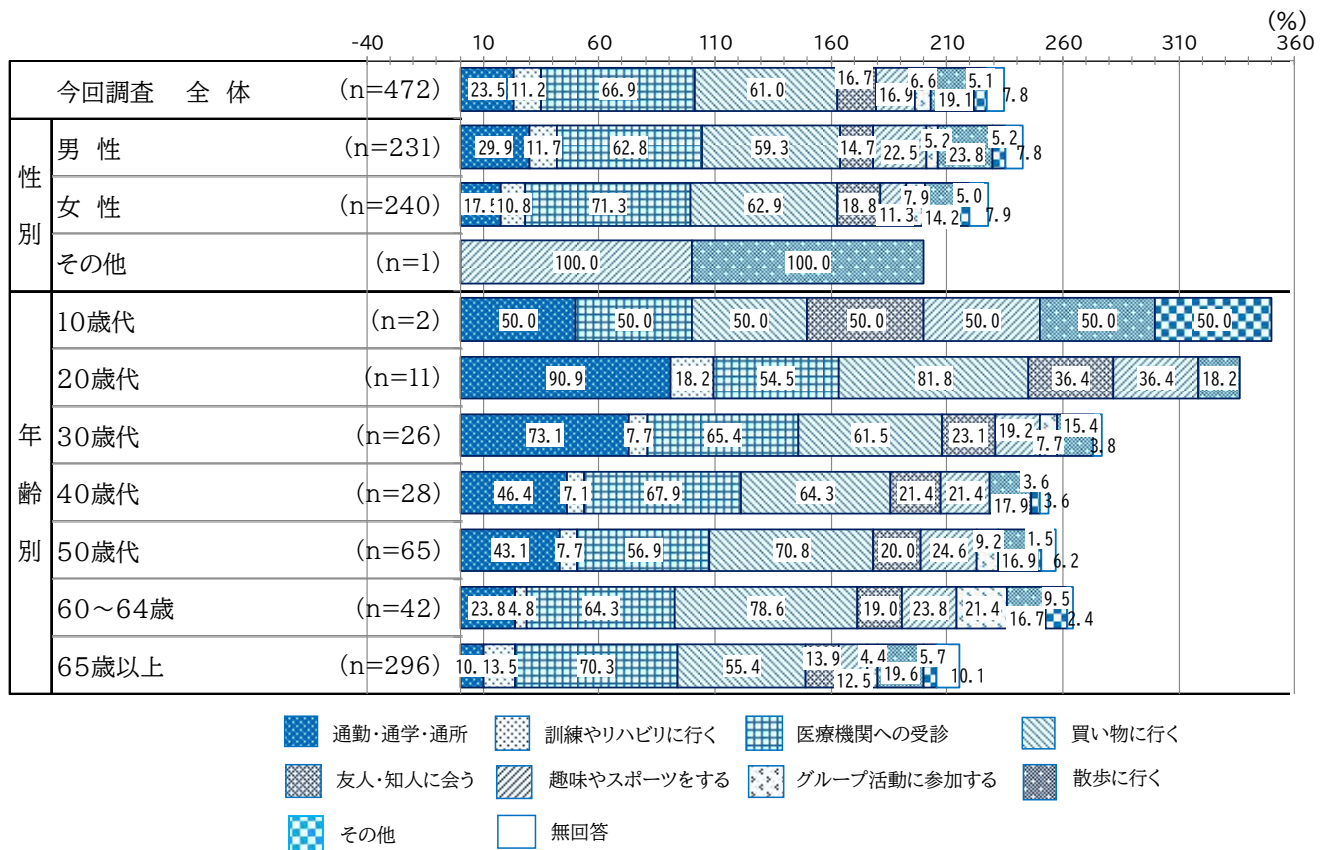
【前回比較】

外出の際の目的について、「散歩に行く」が前回より 8.8 ポイント低くなっています。



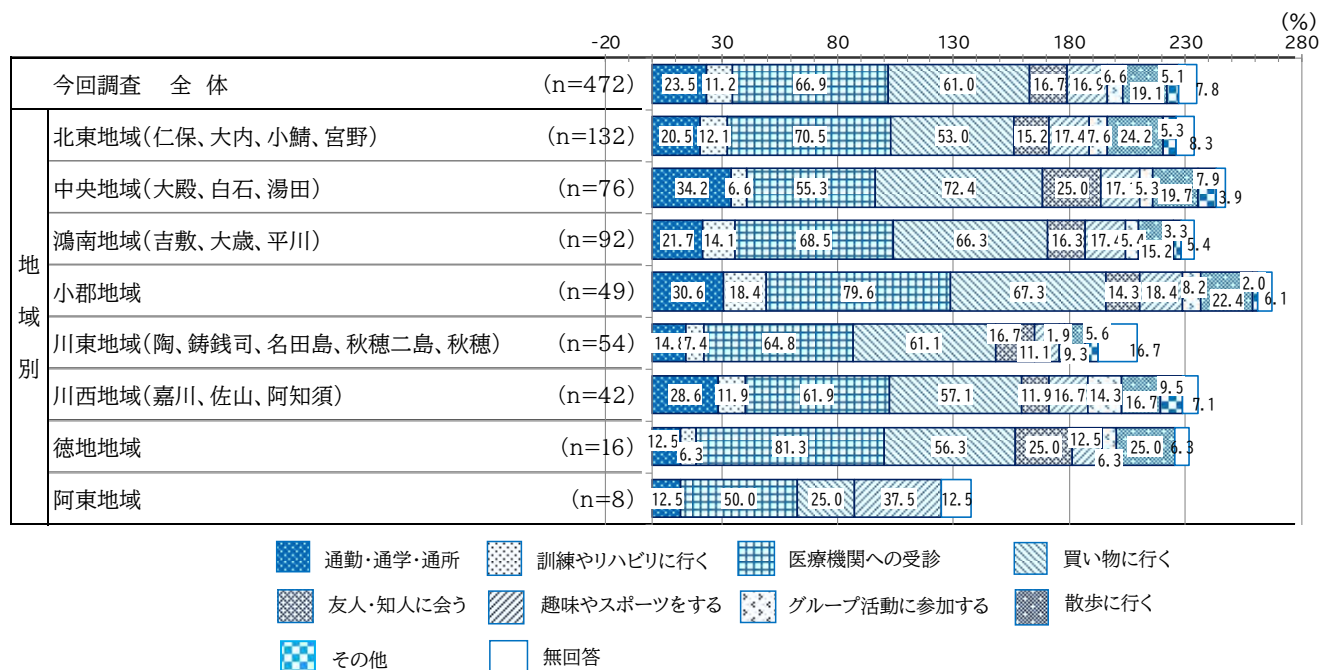
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「通勤・通学・通所」が12.4ポイント高くなっています。年齢別でみると、『20歳代』、『30歳代』では「通勤・通学・通所」、『40歳代』、『65歳以上』では『医療機関への受診』、『50歳代』、『60～64歳』、では「買い物に行く」が最も高くなっています。



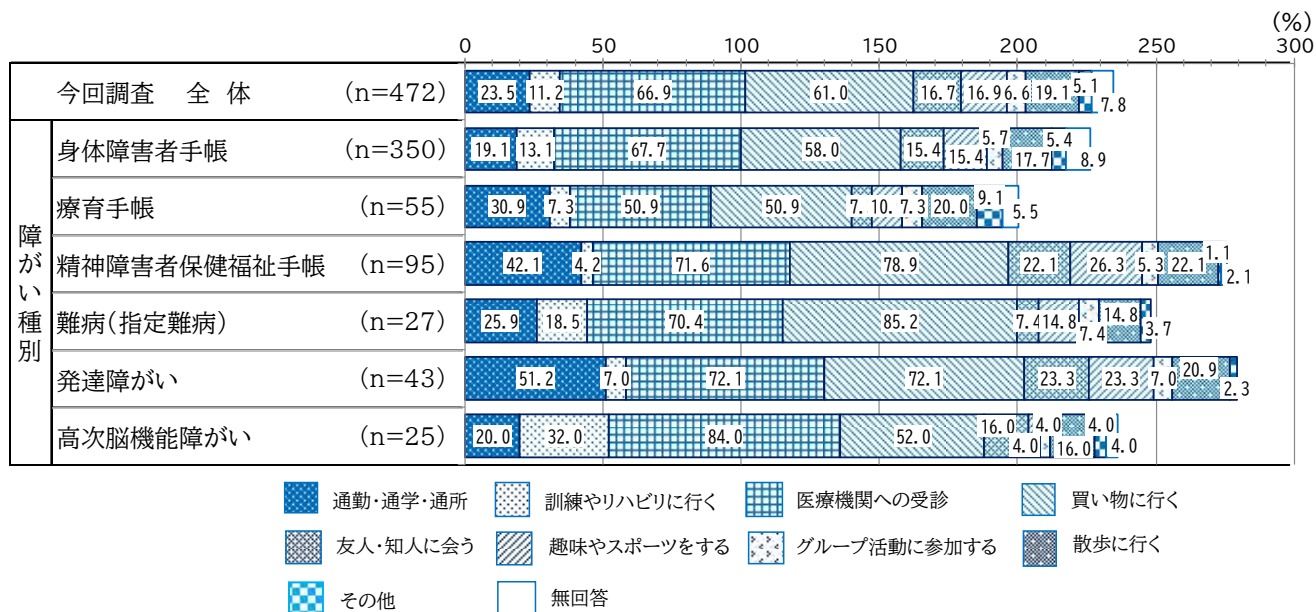
【地域別】

地域別でみると、『中央地域』では「買い物に行く」、それ以外では全て「医療機関への受診」が最も高くなっています。



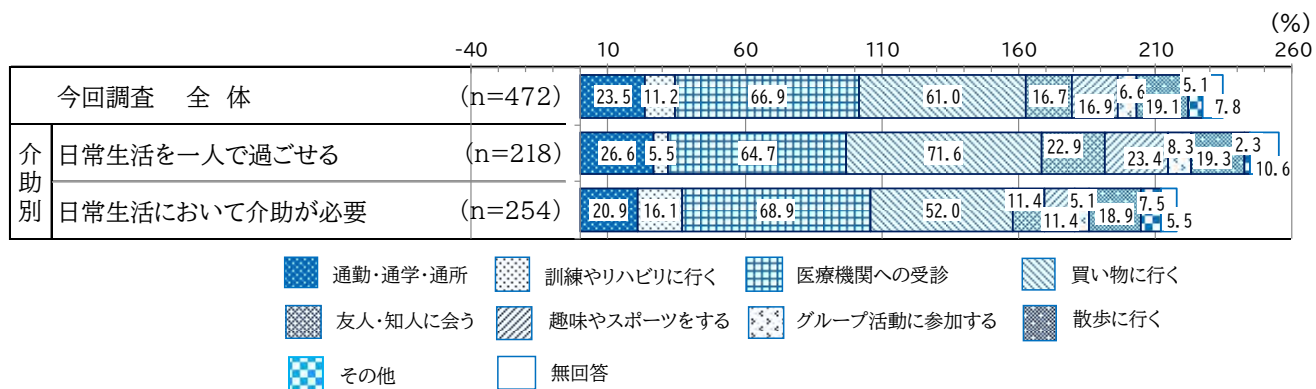
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』と『発達障がい』では「医療機関への受診」と「買い物に行く」が同じで、『身体障害』と『高次脳機能障がい』では「医療機関への受診」、それ以外では全て「買い物に行く」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「買い物に行く」が 19.6 ポイント高くなっています。

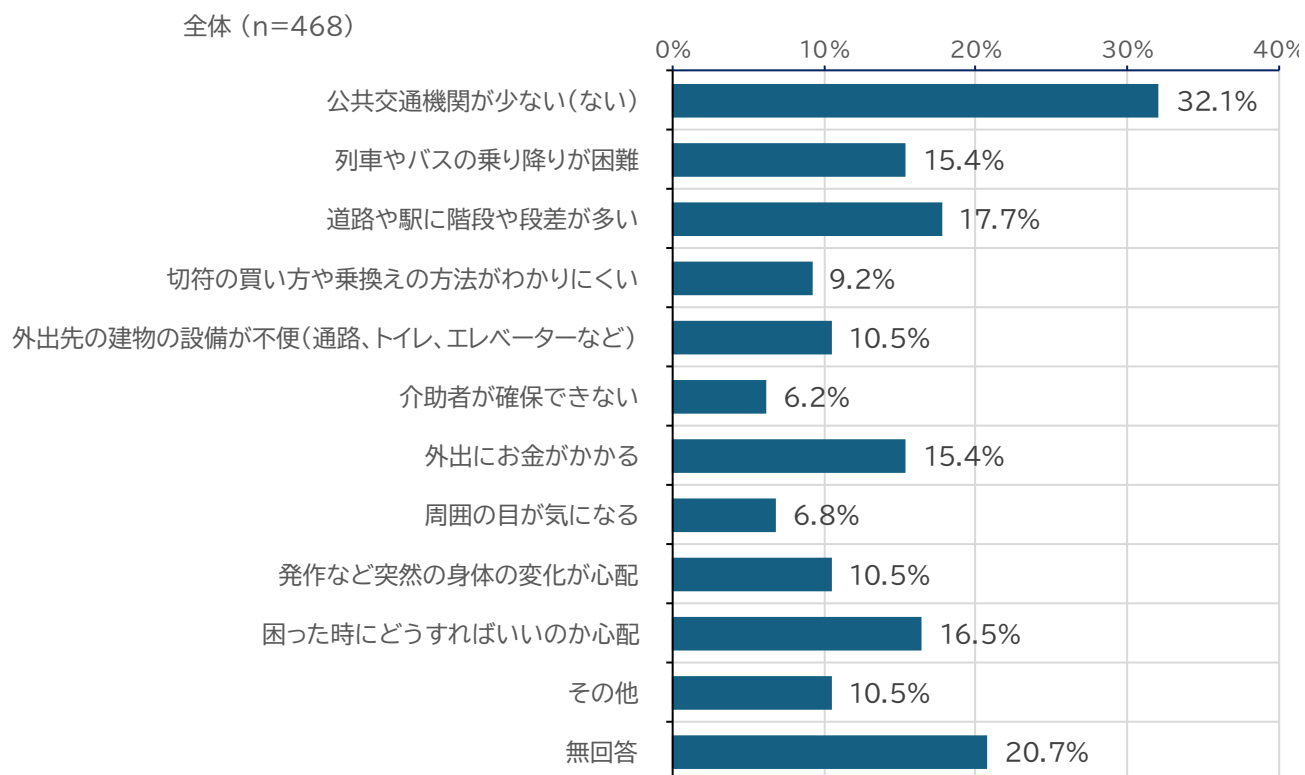


問34 あなたが外出するときに困ることは何ですか。

【該当する記号をすべて○】

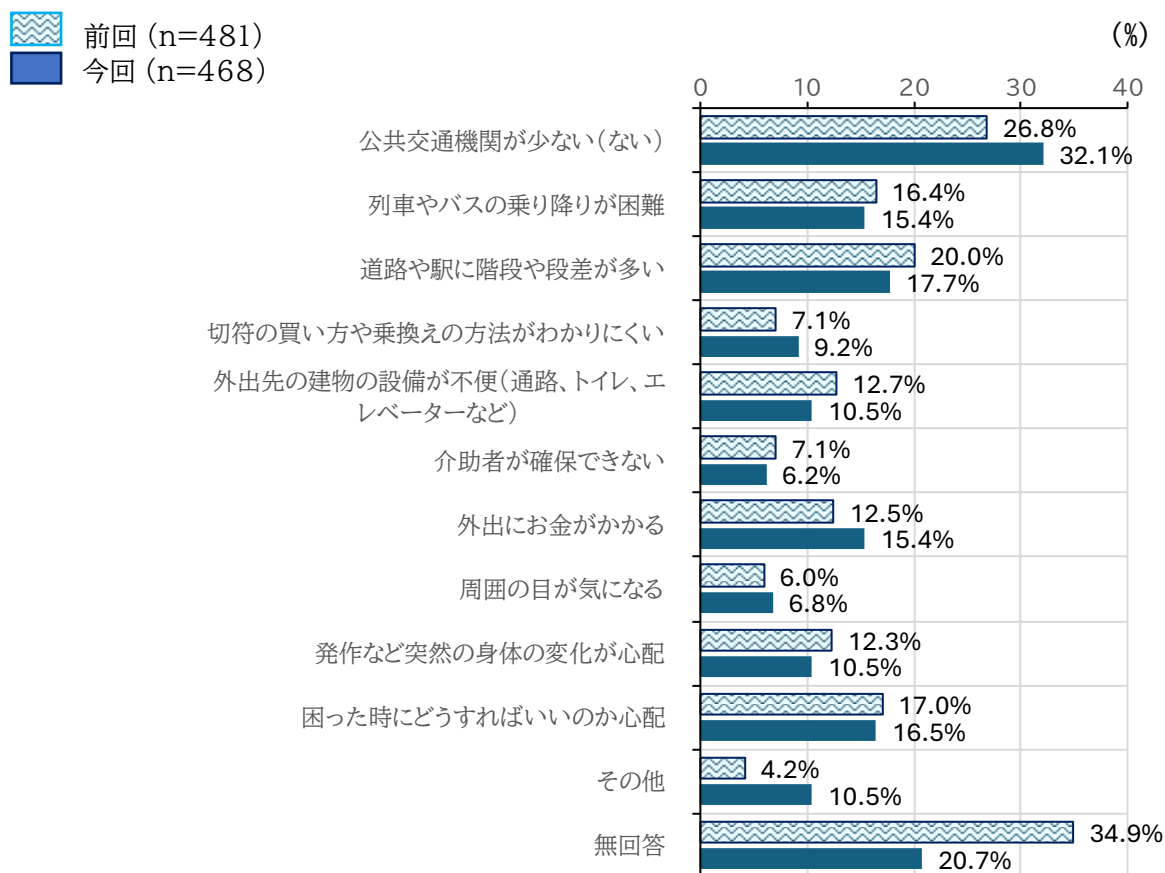
外出するときに困ることについて、「公共交通機関が少ない(ない)」が32.1%と最も高くなっています。次いで、「道路や駅に階段や段差が多い」が17.7%、「困った時にどうすればいいのか心配」が16.5%となっています。

【全体】



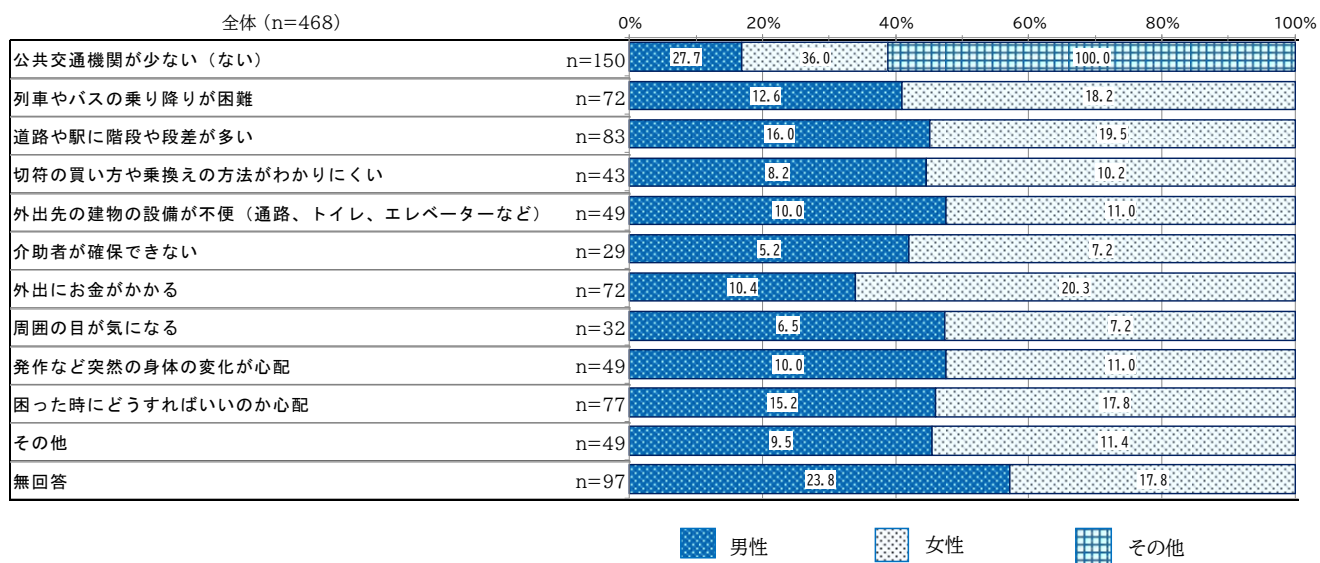
【前回比較】

外出するときに困ることについて、「公共交通機関が少ない（ない）」が前回より 5.3ポイント高くなっています。

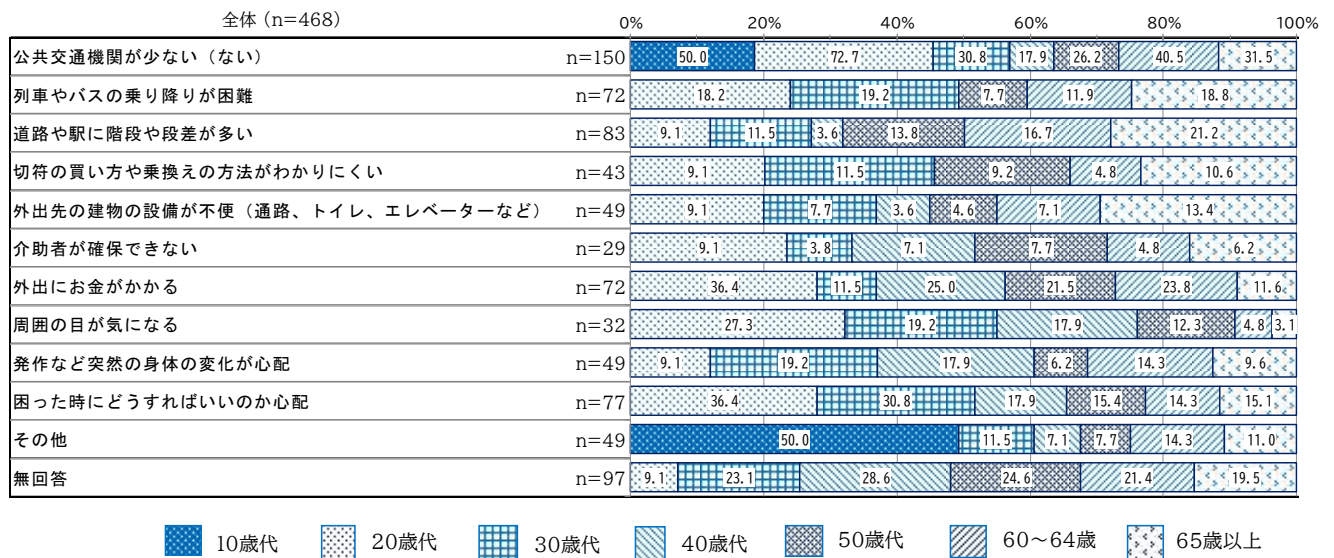


【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「外出にお金がかかる」が 9.9 ポイント低くなっています。

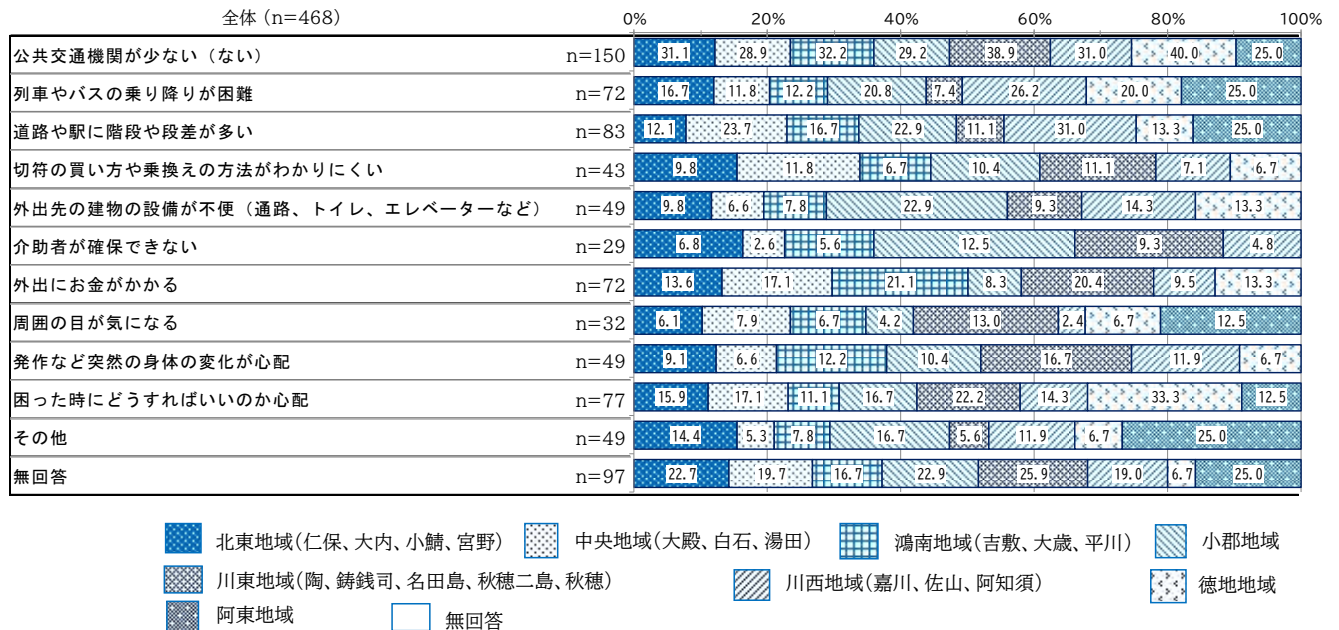


年齢別でみると、『50 歳代』から『65 歳以上』に年齢が上がるにつれて、「列車やバスの乗り降りが困難」「道路や駅に階段や段差が多い」が高くなっています。



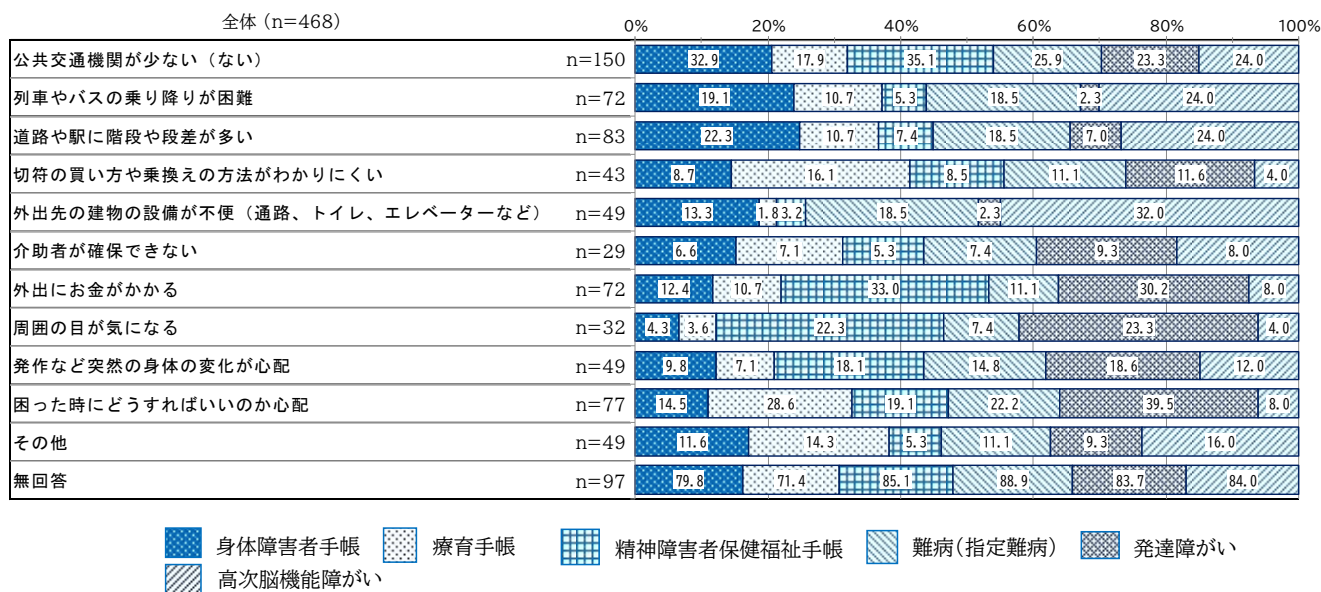
【地域別】

地域別でみると、『川西地域』では「公共交通機関が少ない (ない)」と「道路や駅に階段や段差が多い」が、『阿東地域』では「公共交通機関が少ない (ない)」、「列車やバスの乗り降りが困難」、「道路や駅に階段や段差が多い」、「その他」の4つが、それ以外では全て「公共交通機関が少ない (ない)」が最も高くなっています。



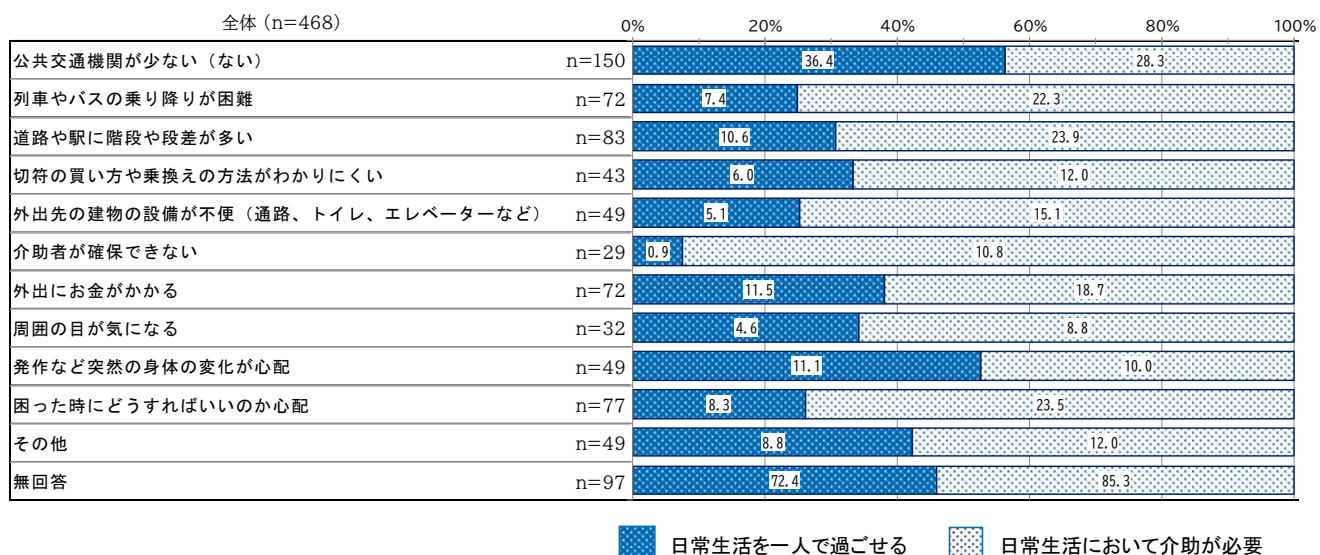
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』と『発達障がい』では「困った時にどうすればいいのか心配」、『高次脳機能障がい』では「外出先の建物の設備が不便（通路、トイレ、エレベーターなど）」が、それ以外では全て「公共交通機関が少ない（ない）」が高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「困った時にどうすればいいのか心配」が 15.2 ポイント低くなっています。

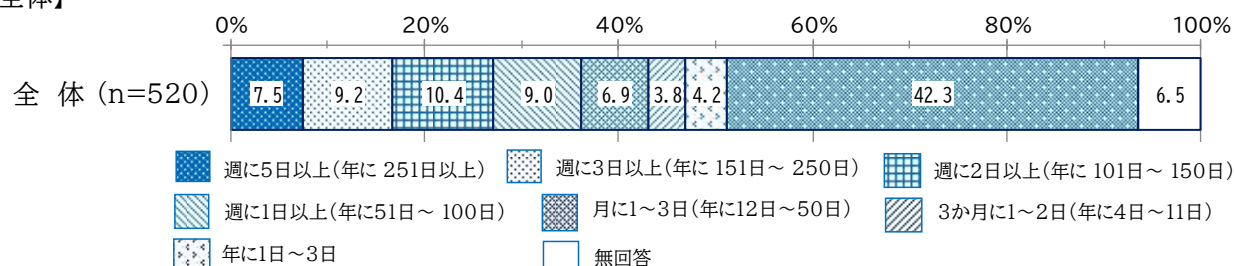


問35 あなたはこの1年間にどの程度運動やスポーツを行いましたか。

【該当する記号をひとつだけ○】

運動やスポーツの頻度について、「行っていない」が42.3%と最も高くなっています。次いで、「週に2日以上（年に101日～150日）」が10.4%、「週に3日以上（年に151日～250日）」が9.2%となっています。

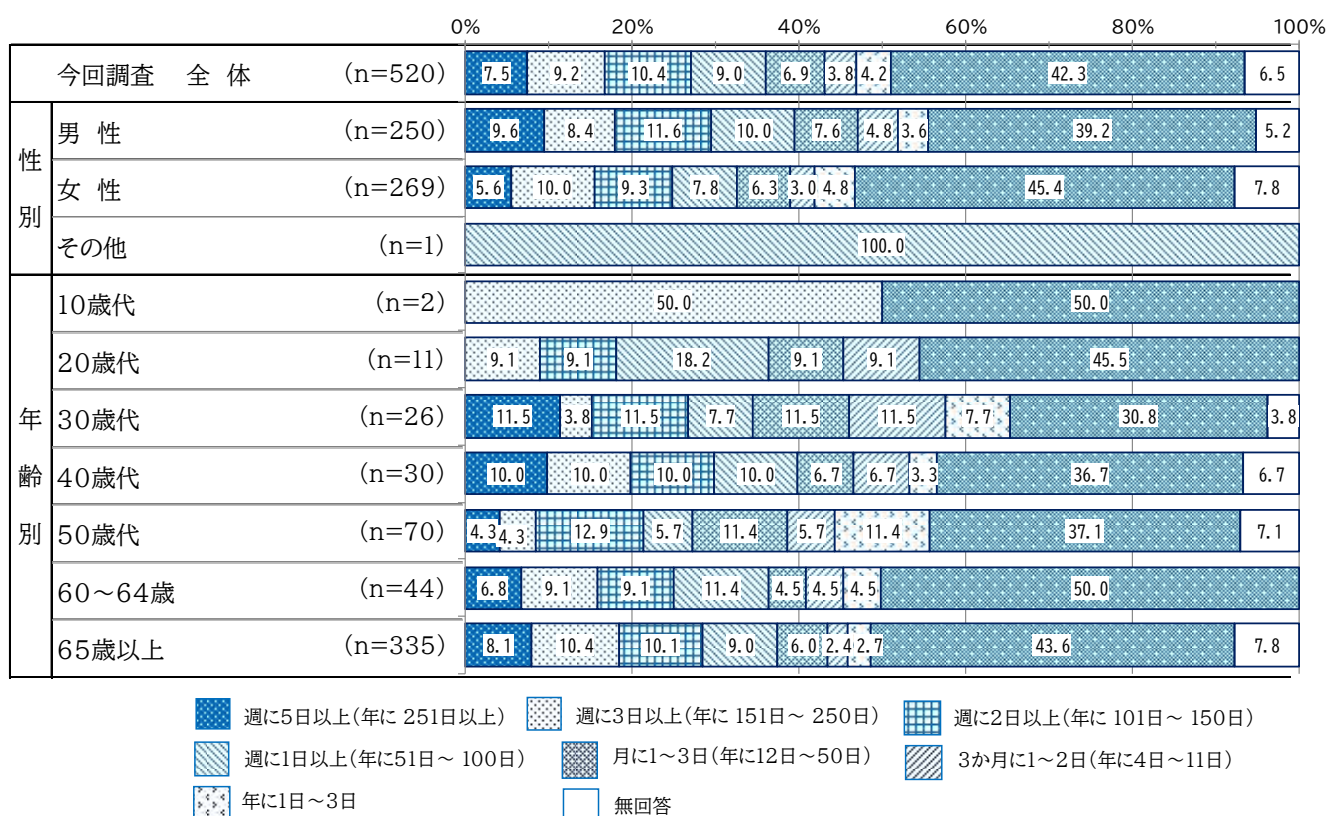
【全体】



【性別・年齢別】

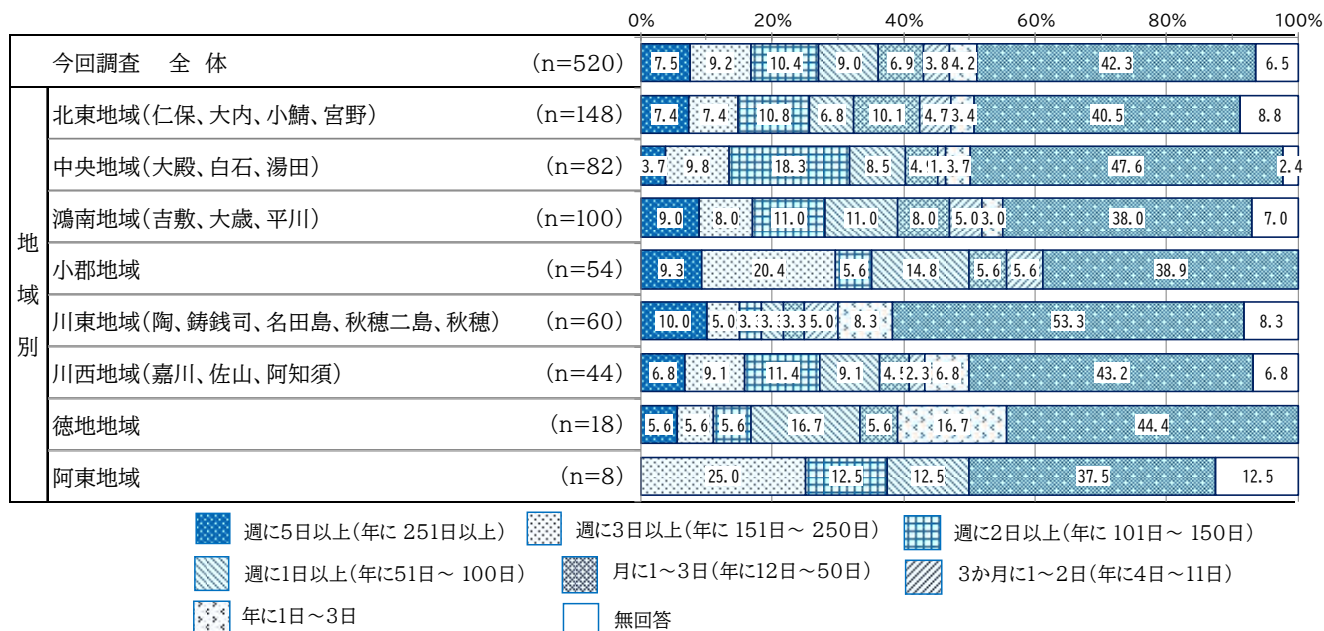
性別でみると、『男性』は『女性』より、「行っていない」が6.2ポイント低くなっています。

年齢別でみると、全年齢において「行っていない」が最も高くなっています。



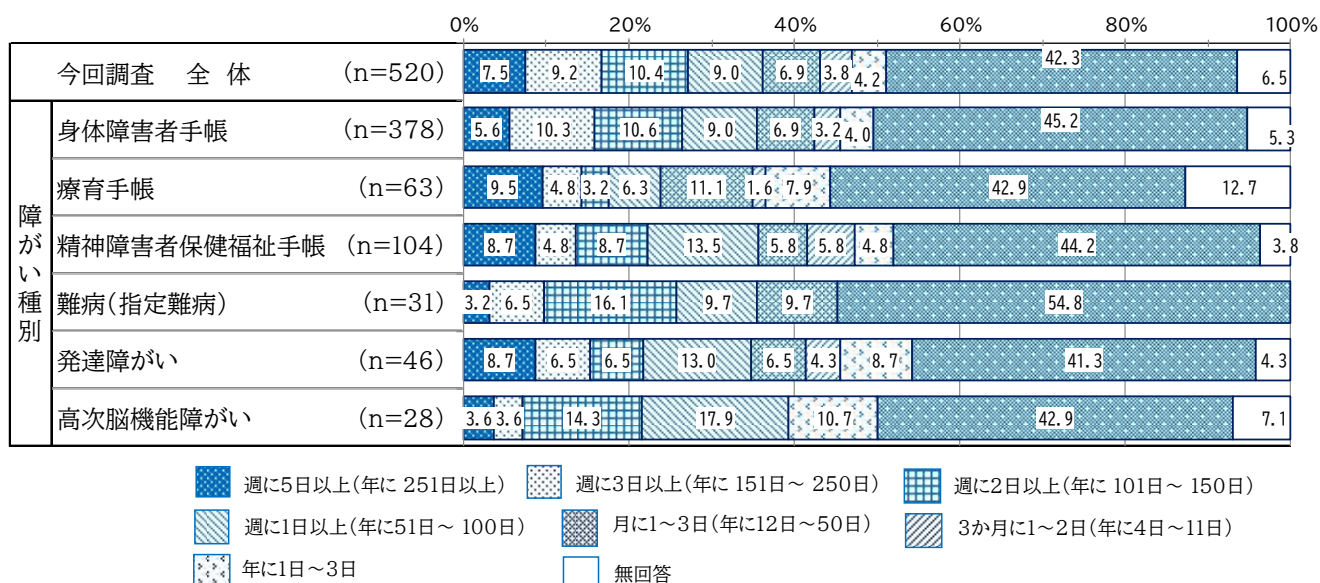
【地域別】

地域別でみると、「行っていない」を除き、『小郡地域』と『阿東地域』では「週に3日以上（年に151日～250日）」、『川東地域』では「週に5日以上（年に251日以上）」、『鴻南地域』では「週に2日以上（年に101日～150日）」と「週に1日以上（年に51日～100日）」が共に11.0%、『徳地地域』では「週に1日以上（年に51日～100日）」と「年に1日～3日」が共に16.7%、『北東地域』と『中央地域』と『川西地域』では「週に2日以上（年に101日～150日）」が最も高くなっています。



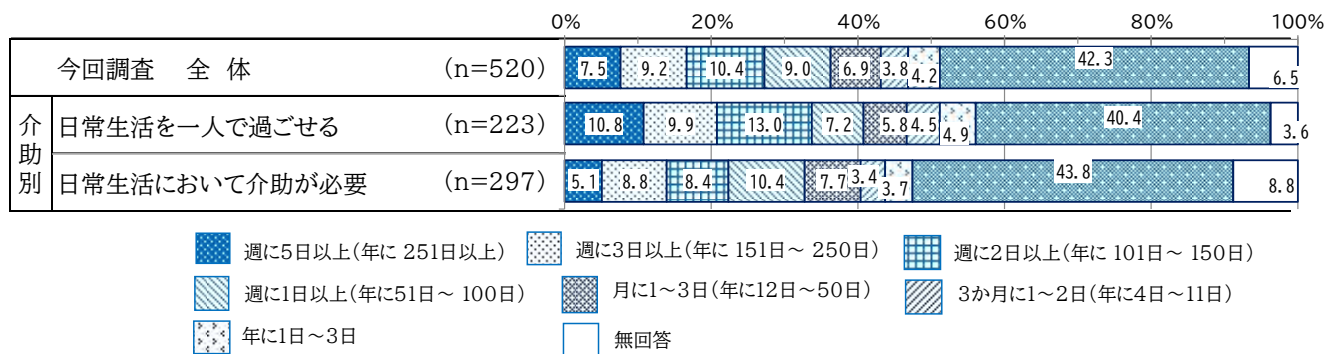
【障害種別】

障害種別でみると、「行っていない」を除き、『身体障害者手帳』と『難病（指定難病）』では「週に2日以上（年に101日～150日）」、『療育手帳』では「月に1～3日（年に12日～50日）」、『精神障害者保健福祉手帳』と『発達障がい』と『高次脳機能障がい』では「週に1日以上（年に51日～100日）」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「行っていない」が 3.4 ポイント低くなっています。



《問 35で「ク 行っていない」を選択された方のみが回答》

問 36 その理由を書いてください。

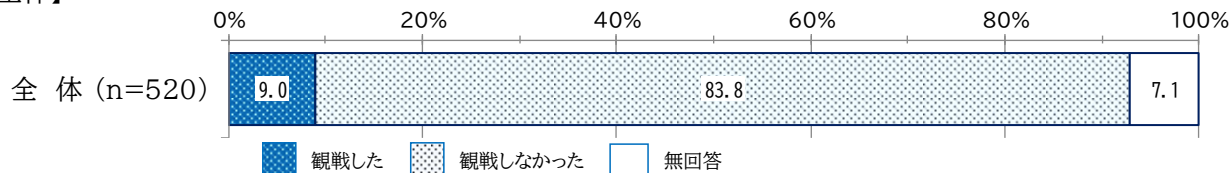
記載内容	件数	主な内容・文脈
身体的障害・疾患	78	肢体不自由、麻痺、脳梗塞、視覚障害、人工関節、心臓疾患など
高齢・体力不足	33	高齢による衰え、体力がない、疲れやすい、息切れ、寝たきり状態
心理的要因・意欲	16	めんどくさい、やる気が起きない、苦手、関心がない、怖い
生活習慣・代用行動	15	仕事や家事で手一杯、農作業・歩行・リハビリで十分だと考えている
環境・機会の欠如	8	施設入居中、場所がない、情報がない、季節（暑い・寒い）
その他・不明	2	特になし、理由を話そうとしない
合 計	152	

問37 あなたはこの1年間に競技会場でスポーツ観戦を行いましたか。

【該当する記号をひとつだけ○】

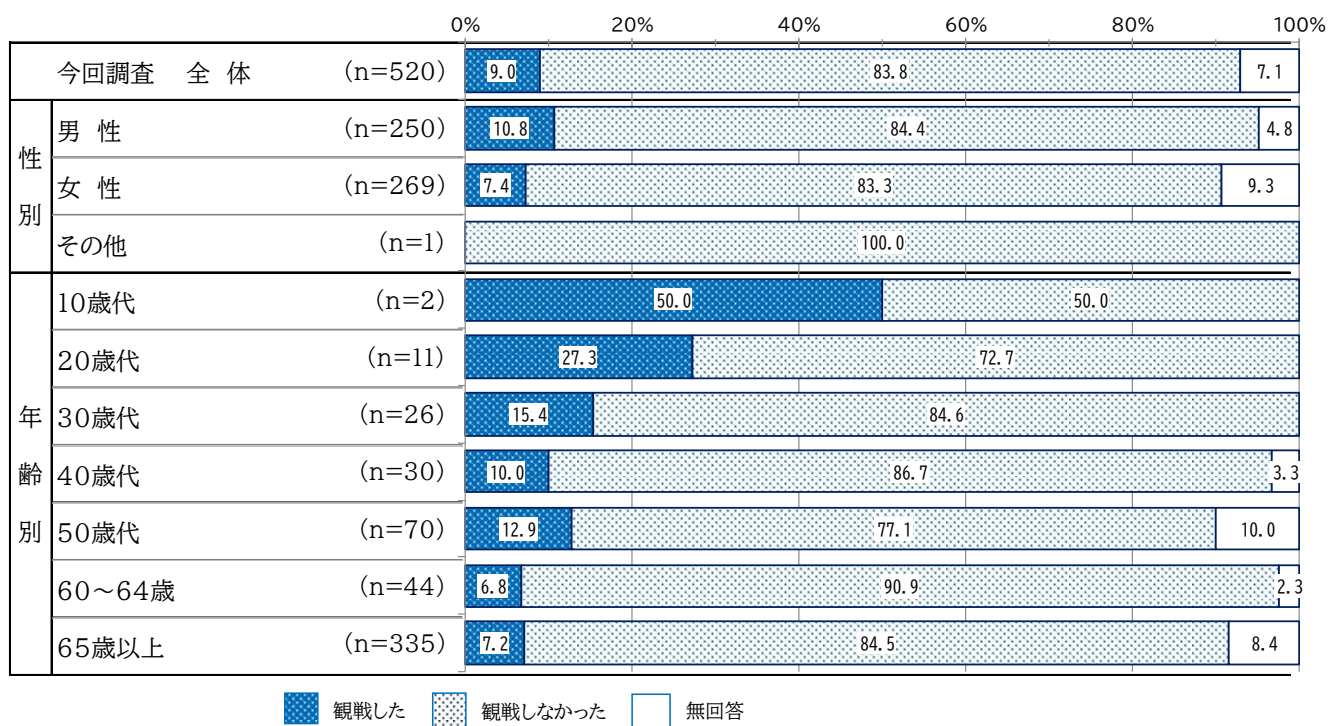
スポーツ観戦の有無について、「観戦しなかった」が83.8%と最も高くなっています。次いで、「観戦した」が9.0%となっています。

【全体】



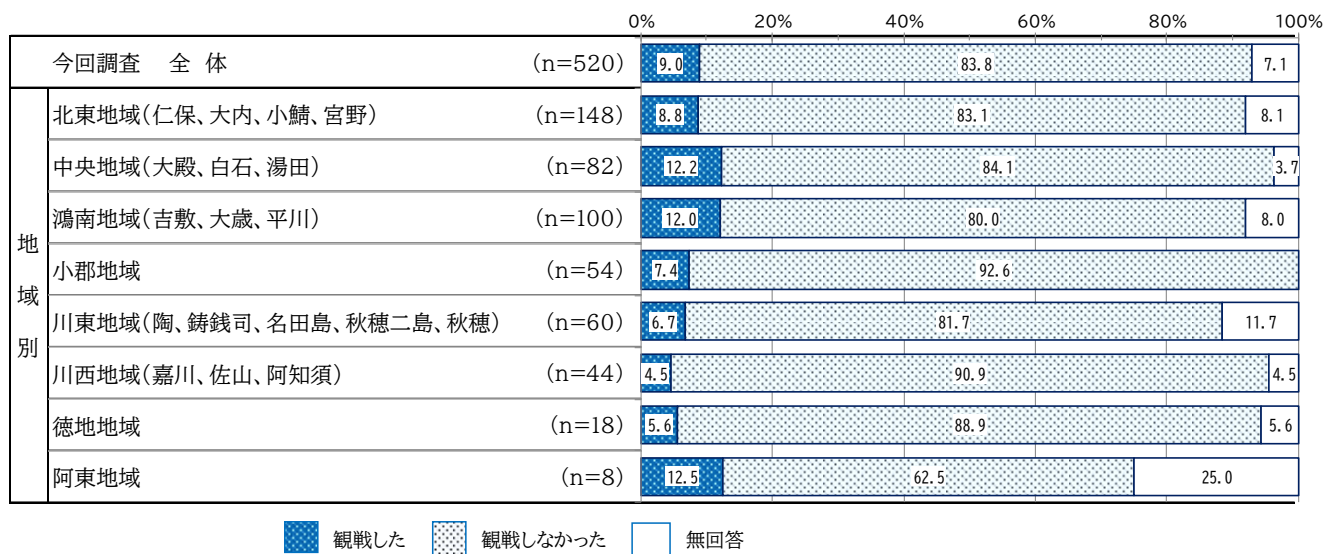
【性別・年齢別】

年齢別でみると、「観戦した」では『20歳代』、「観戦しなかった」では『60～64歳』が高くなっています。（『10歳代』はn=2のため参考値）



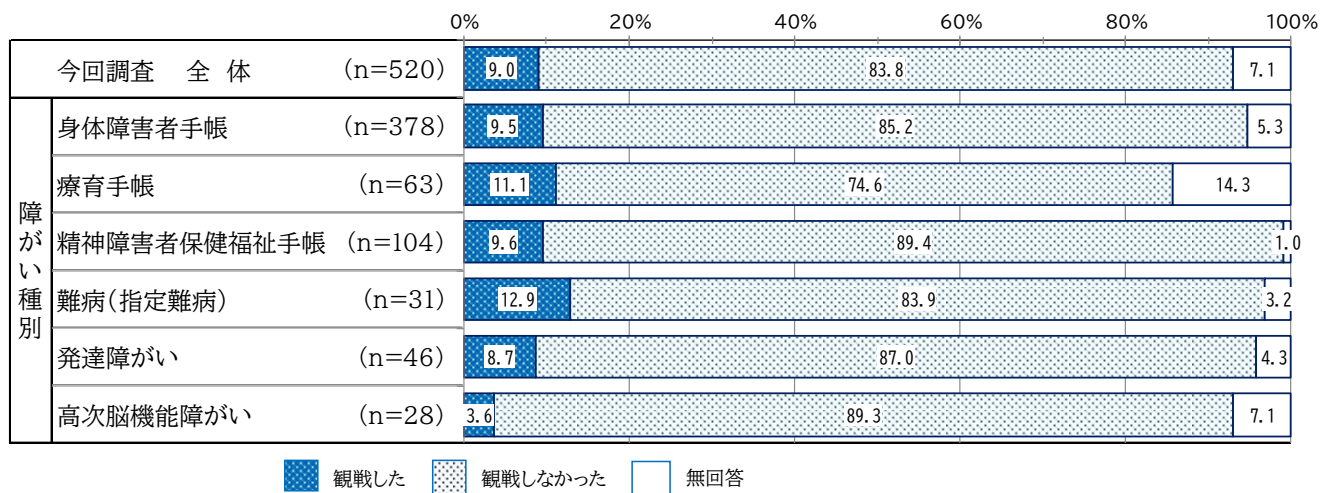
【地域別】

地域別でみると、「観戦した」では『阿東地域』、「観戦しなかった」では『小郡地域』が高くなっています。



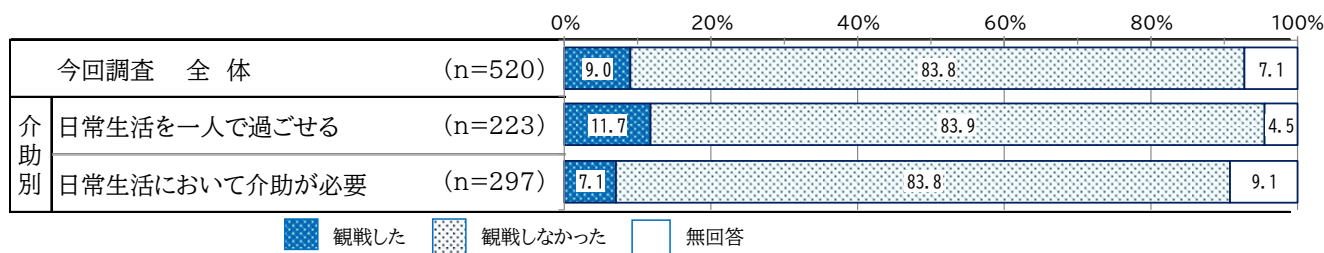
【障害種別】

障害種別でみると、「観戦した」では『難病（指定難病）』、「観戦しなかった」では『精神障害者保健福祉手帳』が高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、大きな差はありません。



問 3 8 「ア 観戦した」を選んだ方はその競技名を、「イ 観戦しなかった」を選んだ方はその理由を書いてください。

【観戦した競技名】

記載内容	件数	備考
サッカー	22	レノファ、J2（Jリーグ）、子供の部活
野球	12	高校野球、プロ野球
バスケットボール	3	孫の試合
バレーボール	3	
ラグビー	3	車イスラグビー
陸上競技	2	孫が出場（走り高跳び）
硬式テニス	1	
ソフトボール	1	
太極拳	1	
バドミントン	1	
フライングディスク	1	
ボートレース	1	
合 計	51	

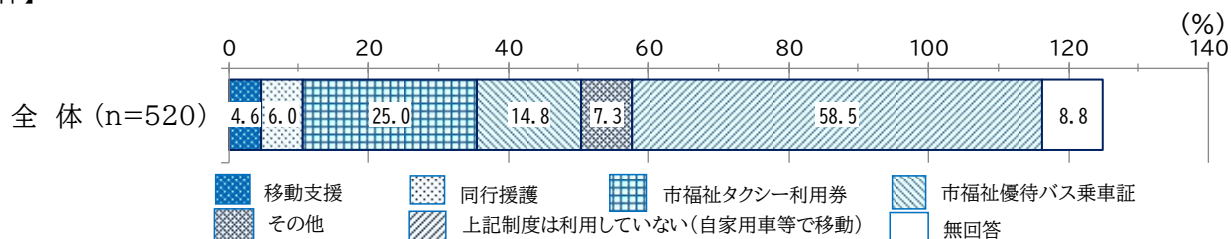
【観戦しなかった理由】

記載内容	件数	主な内容・文脈
興味・関心がない	64	興味がない、関心がない、スポーツが好きではない、ルールを知らない
身体的理由・健康状態	44	高齢、病気、足腰が悪い、杖・車椅子利用、体力が乏しい、入院・通院
外出困難・環境的制約	22	外出できない、施設入所中の制限、介助者不足、一人では不安
テレビ観戦で満足	16	テレビで十分、TVの方がよく見える、家でゆっくり見たい
交通・アクセスの不便	12	会場が遠い、交通の便が悪い、駐車場がない、移動が大変
機会・時間がなかった	11	機会がない、仕事が忙しい、都合が合わなかった、いつどこでやるか不明
人混み・騒音への抵抗	10	人が多いのが苦手、人混みで転倒するのが不安、大きな音が苦手
経済的理由	5	お金がかかる、経済的に苦しい、チケット代など
感染症対策	3	コロナ・インフルエンザ流行による施設制限や自粛
その他・特になし	11	特になし、理由不明、特定の競技（レノファ等）への言及のみ
合 計	198	

問39 あなたは外出するときに、次のどのような制度を利用していますか。【該当する記号をすべて○】

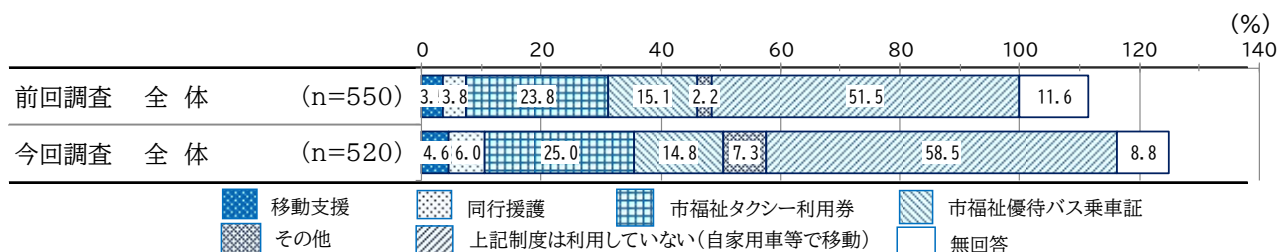
外出するときに利用する制度について、「上記制度は利用していない（自家用車等で移動）」が 58.5%と最も高くなっています。次いで、「市福祉タクシー利用券」25.0%、「市福祉優待バス乗車証」14.8%となっています。

【全体】



【前回比較】

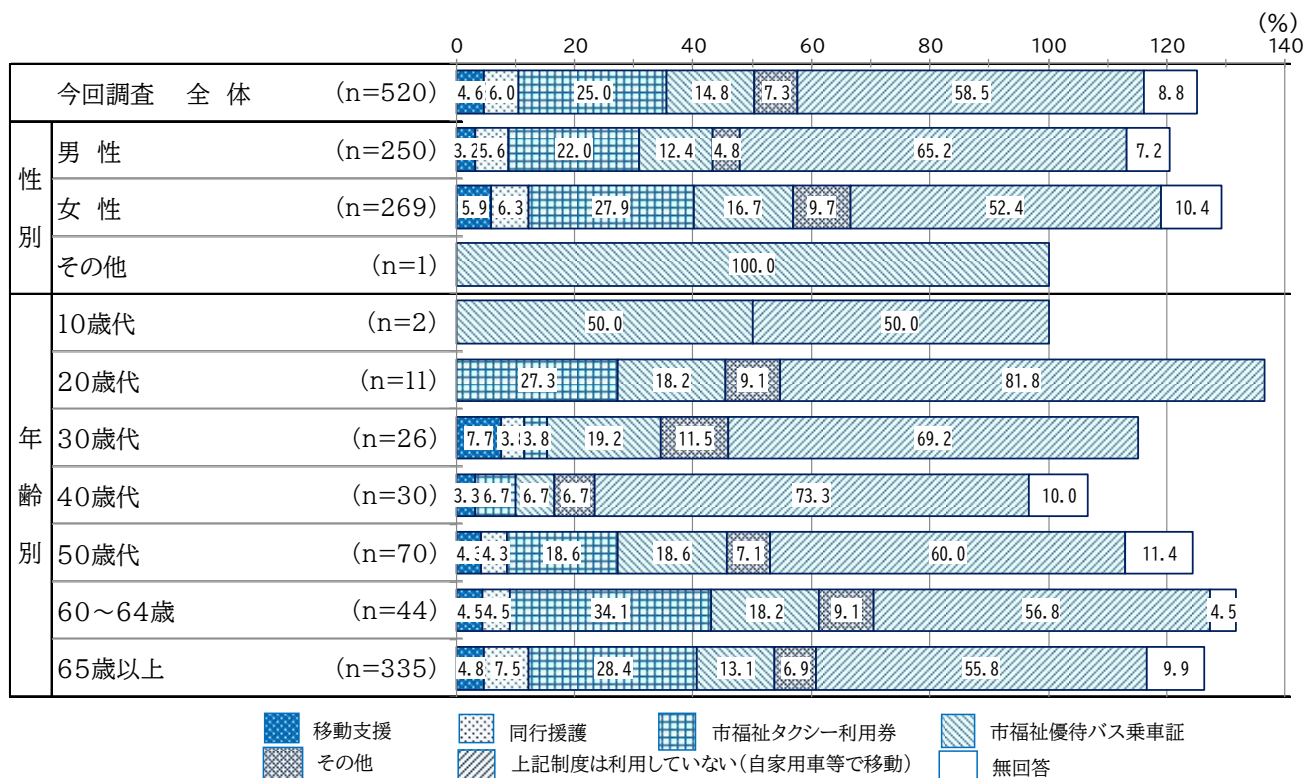
外出するときに利用する制度について、大きな変化はありません。



【性別・年齢別】

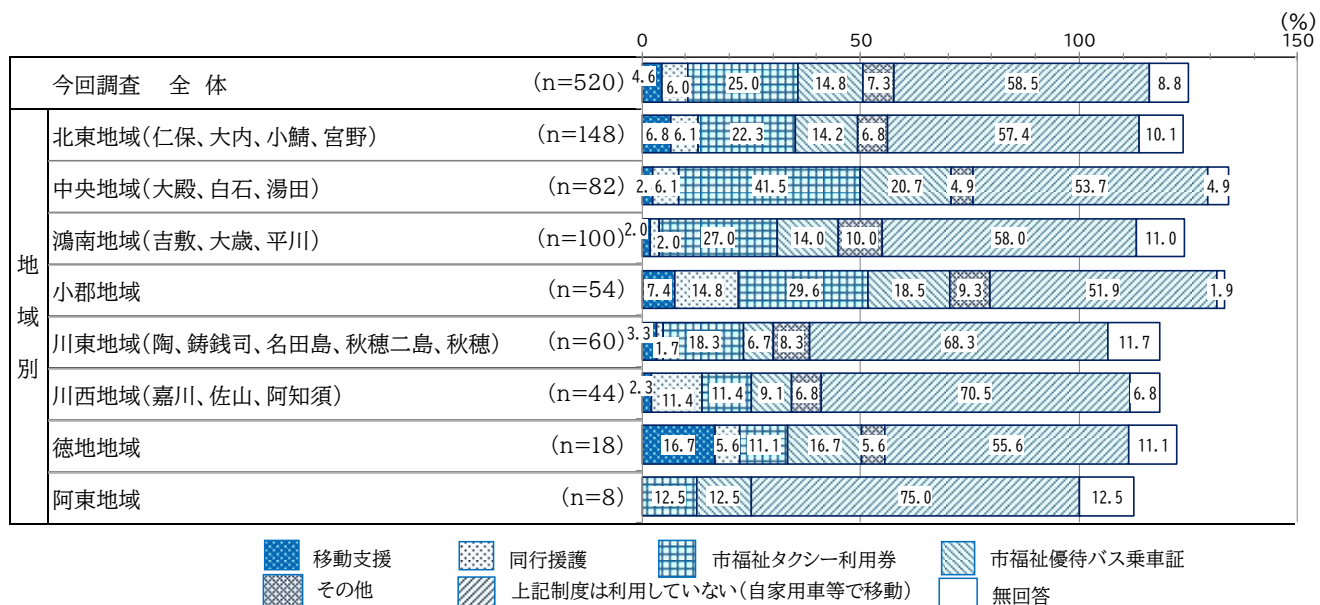
性別でみると、『男性』は『女性』より、「上記制度は利用していない（自家用車等で移動）」が 12.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『40 歳代』から『65 歳以上』では、「市福祉タクシー利用券」の割合が高くなっています。



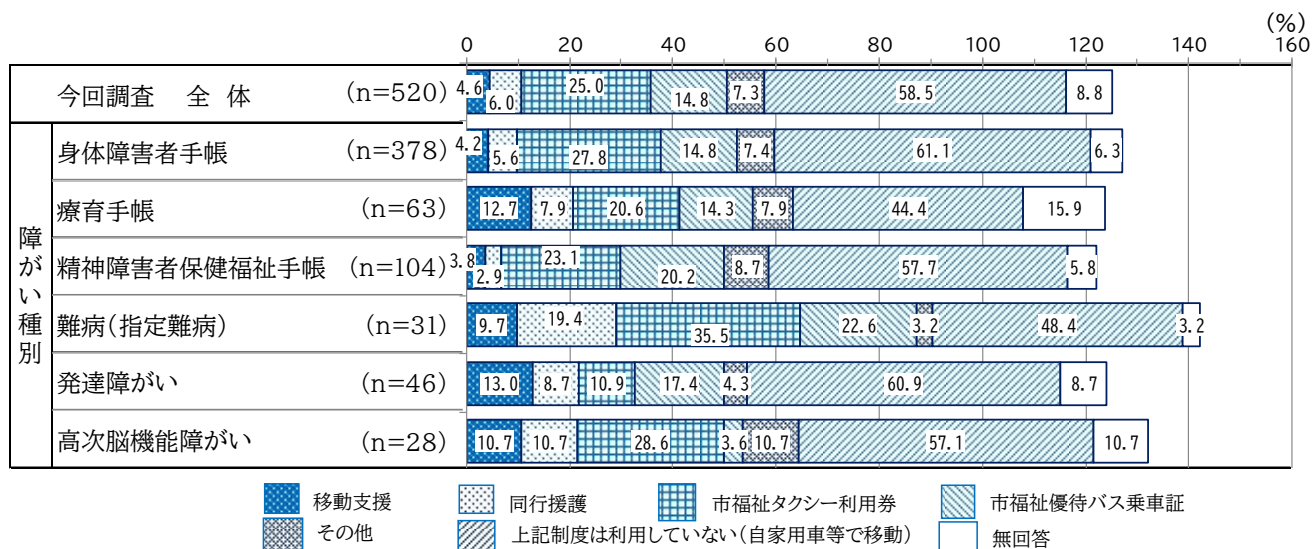
【地域別】

地域別でみると、全てにおいて「上記制度は利用していない（自家用車等で移動）」が最も高くなっています。



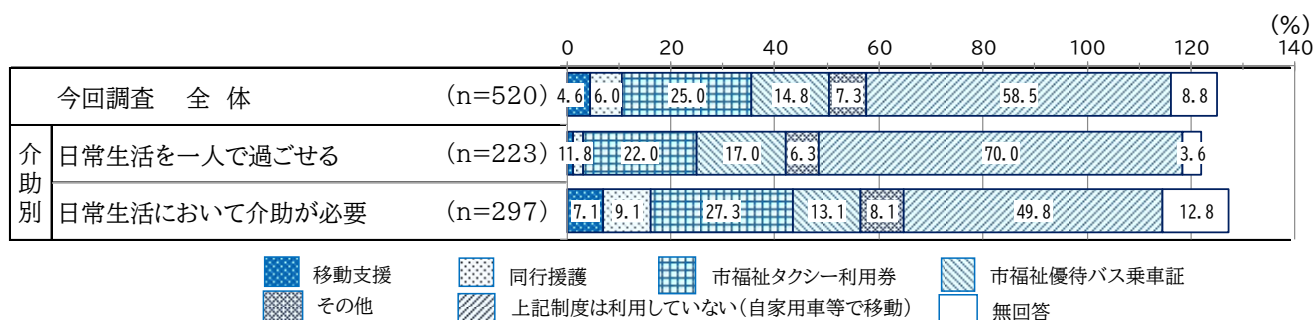
【障害種別】

障害種別でみると、全てにおいて「上記制度は利用していない（自家用車等で移動）」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「上記制度は利用していない（自家用車等で移動）」が 20.2 ポイント高くなっています。



《問 39で「オ その他」を選択された方のみが回答》

問40 その制度を書いてください。

記載内容	件数	主な内容・文脈
公共交通機関・割引制度	8	バス・電車・コミュニティバスの利用、障がい者手帳による割引、運賃半額など
タクシー（一般・福祉）	6	普通タクシー、タクシーチケット利用、有料福祉タクシーなど
自家用車（本人・家族）	5	自家用車、家族による送迎、孫や子供の車での移動
施設・団体による送迎	4	施設の乗用車、マイクロバス、施設送迎車、相談員による介助
介護保険・福祉サービス	3	介護タクシー、介護保険（通院介助）、社協の車イス対応車
施設入所・居住	2	特別養護老人ホーム
その他（徒歩・自転車等）	2	徒歩、自転車
合 計	30	

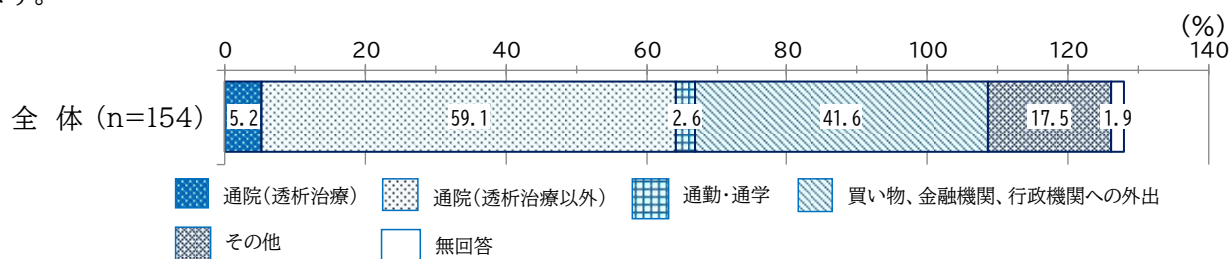
《問 41から問43は、問39で「ウ 福祉タクシー利用券」を選択された方のみが回答》

問41 福祉タクシー利用券を使って外出するのは、どのような場面ですか。

【該当する記号をすべて○】

【全体】

福祉タクシー利用券の使用目的については、「通院（透析治療以外）」が 59.1%と最も高くなっています。次いで、「買い物、金融機関、行政機関への外出」が 41.6%、「その他」が 17.5%となっています。



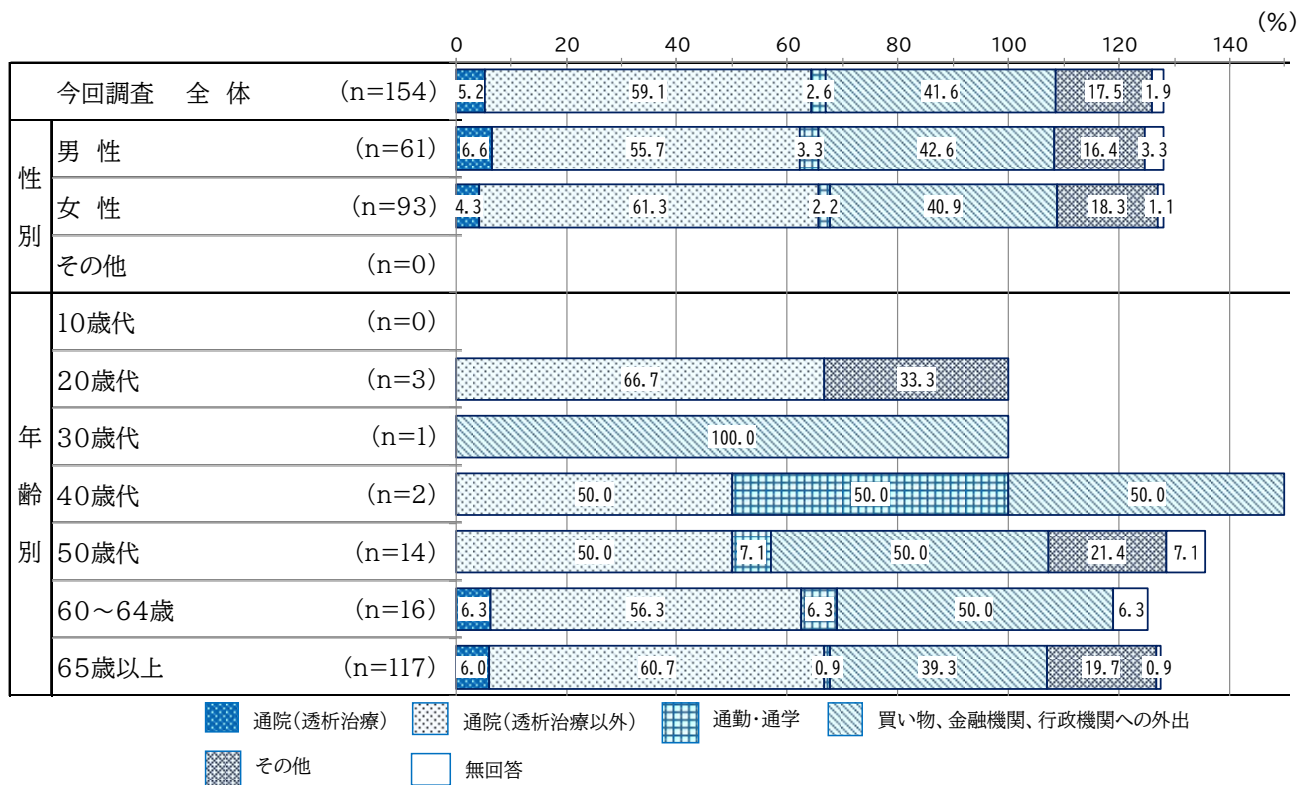
【その他 自由記述】

記載内容	件数	主な内容・文脈
イベント・レジャー	6	スポーツ観戦、イベント参加、旅行時の駅までの移動など
通院・福祉・介護	5	予防接種、転院・退院時の移動、介護同行など
他手段の補完（駅・バス停）	4	新幹線利用時、電車・バス停までの移動、夜遅い帰宅など
私用・生活サービス	3	美容院（散髪）、買い物、レストランでの食事
帰省・自宅への移動	2	帰省、自宅（空き家）の様子見、自宅への帰宅
代替手段の不在	2	送迎者の都合が悪い時、公共交通が不便な場所への移動
突発的な事由	1	骨折したとき
交流・社交	1	飲み会等
未認知・未利用	1	福祉タクシーを知らない
合 計	25	

【性別・年齢別】

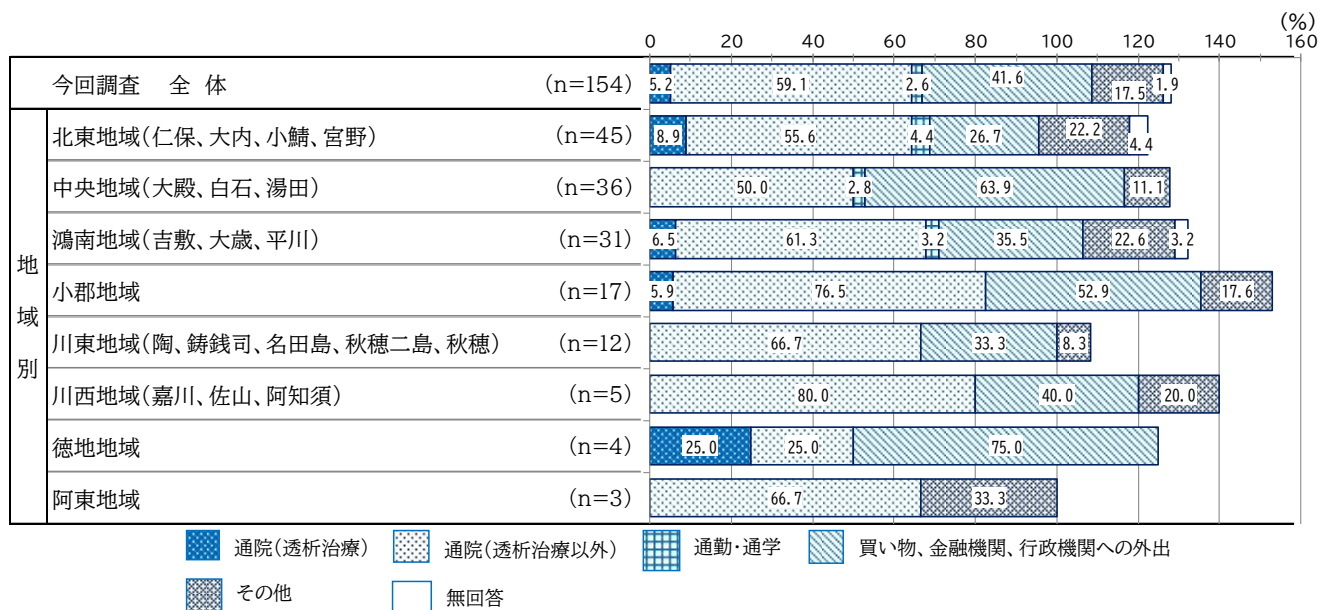
性別別、年齢別、全てにおいて「通院（透析治療以外）」が高くなっています。

（『30 歳代』は n=1 のため参考値）



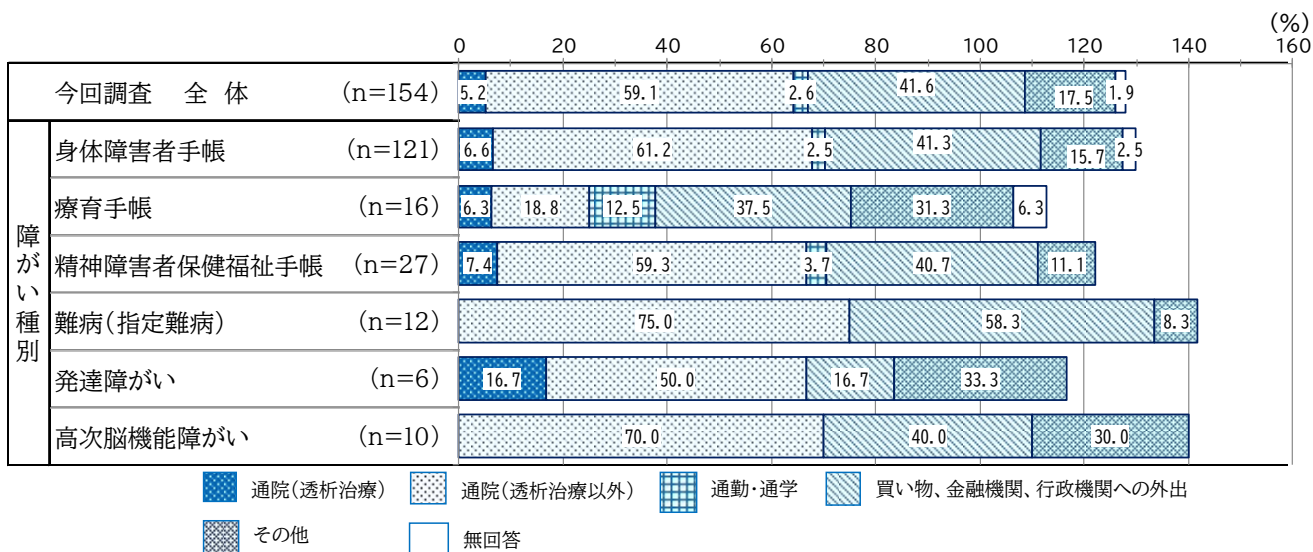
【地域別】

地域別みると、『中央地域』と『徳地地域』では、「買い物、金融機関、行政機関への外出」、それ以外では「通院（透析治療以外）」が最も高くなっています。



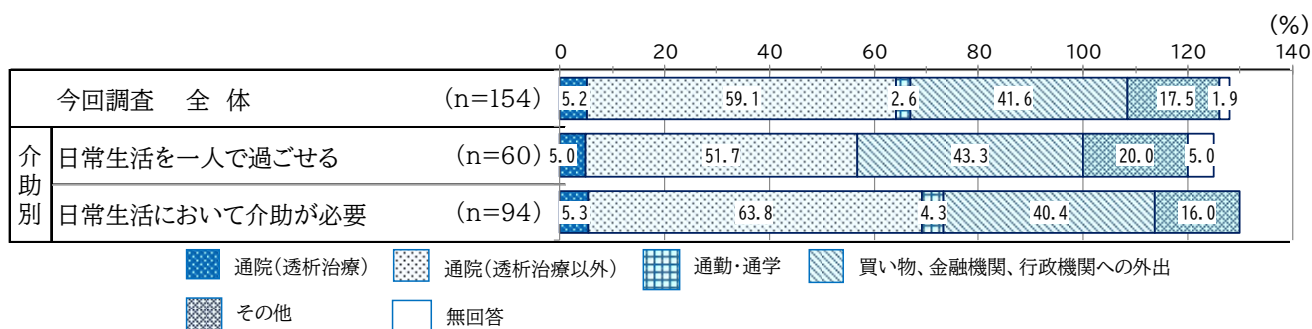
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』では、「買い物、金融機関、行政機関への外出」、それ以外では「通院（透析治療以外）」が最も高くなって



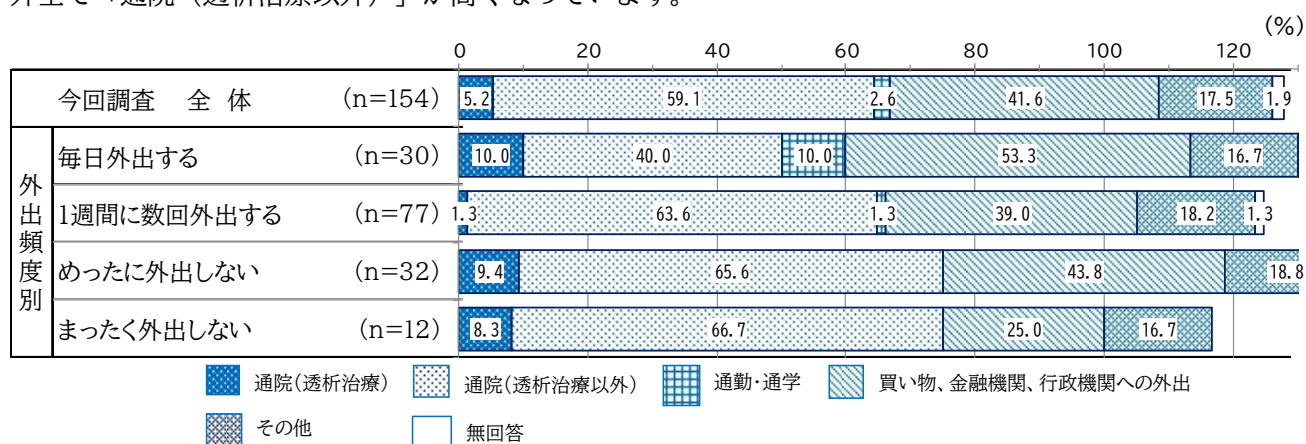
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「買い物、金融機関、行政機関への外出」が 2.9 ポイント高くなっています。



【外出頻度別】

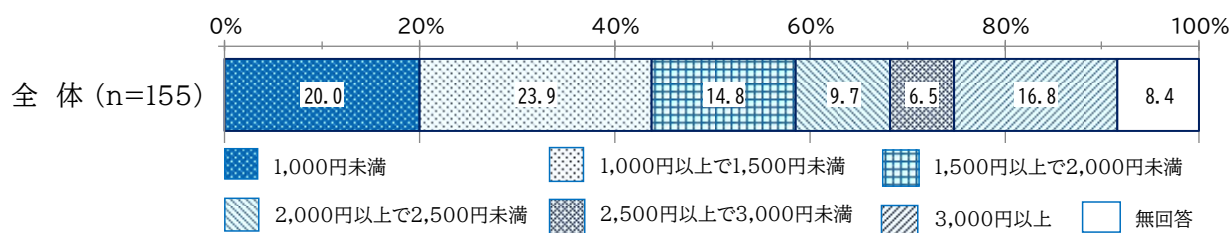
外出頻度別でみると、『毎日外出する』では、「買い物、金融機関、行政機関への外出」が、それ以外全て「通院（透析治療以外）」が高くなっています。



問4 2 問4 1での外出の際、1回のタクシー料金はどのくらいですか。 【該当する記号をひとつ○】

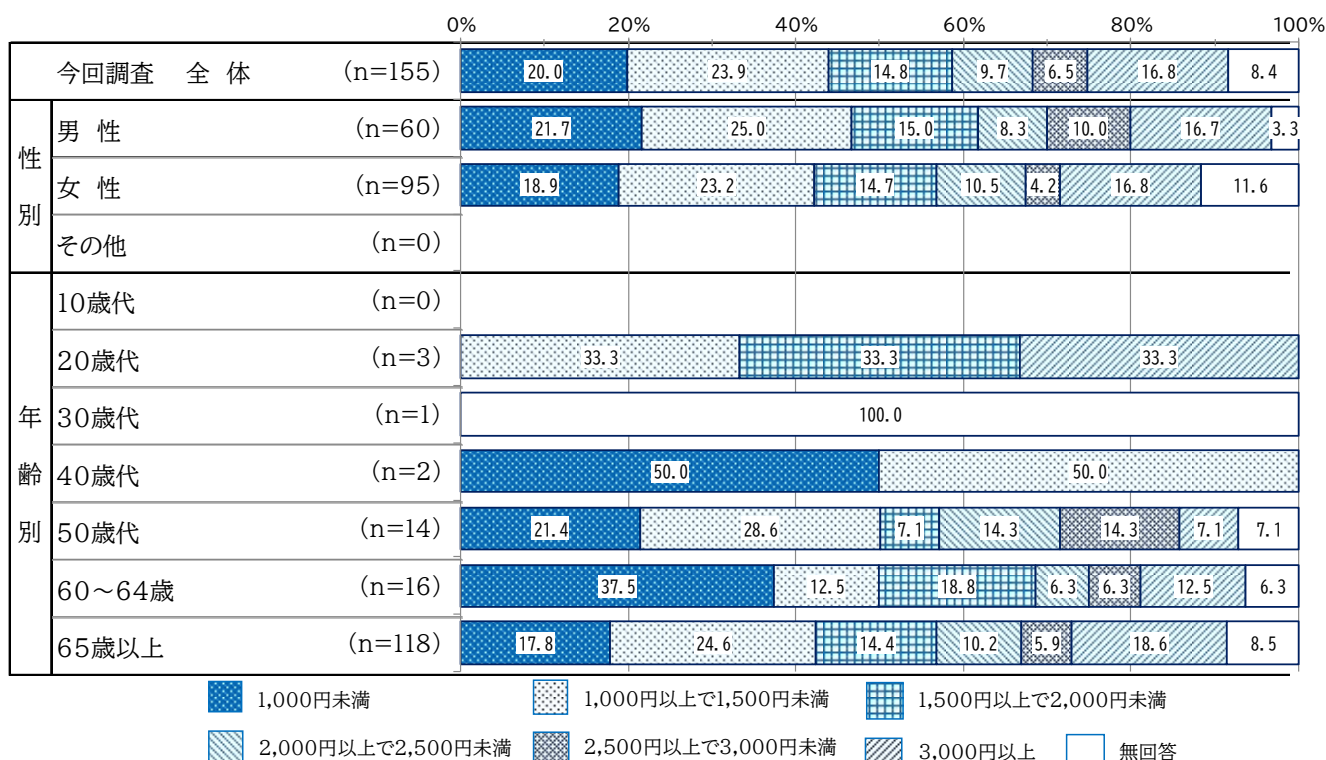
【全体】

1回のタクシー料金は、「1,000円以上で1,500円未満」が 23.9%と最も高くなっています。次いで「1,000円未満」が 20.0%、「3,000円以上」が 16.8%となっています。



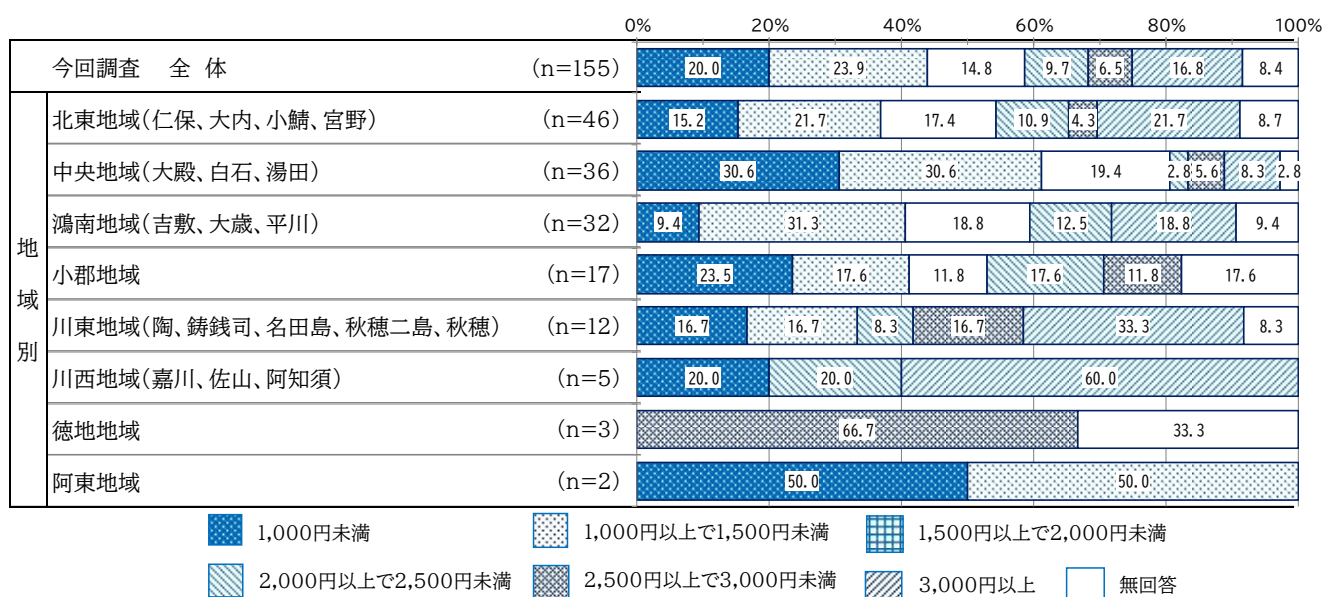
【性別・年齢別】

年齢別にみると、『50歳代』と『65歳以上』では、「1,000円以上で1,500円未満」が、『60～64歳』では、「1,000円未満」が最も高くなっています。



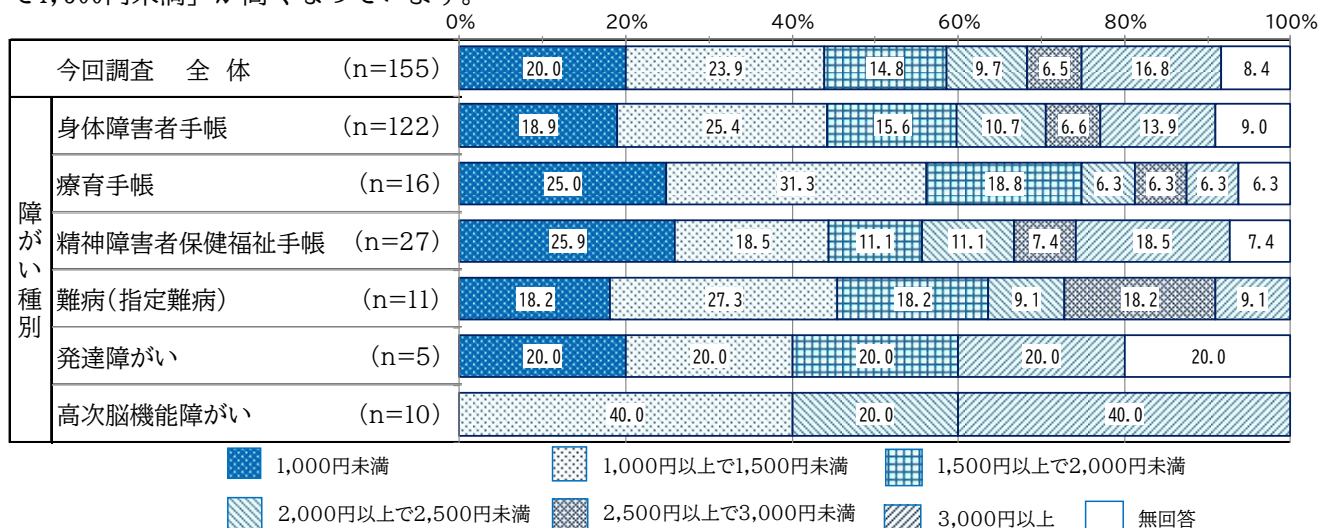
【地域別】

地域別にみると、『北東地域』では、「1,000円以上で1,500円未満」と「3,000円以上」が共に21.7%、『中央地域』では、「1,000円未満」と「1,000円以上で1,500円未満」が共に30.6%、『鴻南地域』では、「1,000円以上で1,500円未満」が、『小郡地域』では「1,000円未満」が、『川東地域』と『川西地域』では、「3,000円以上」が高くなっています。



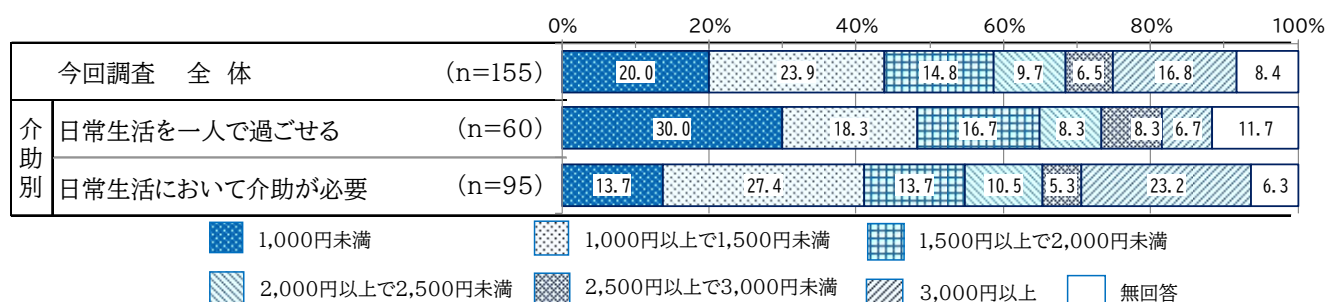
【障害種別】

障害者別でみると、『高次脳機能障がい』では、「1,000円以上で1,500円未満」と「3,000円以上」が共に40.0%が『精神障害者保健福祉手帳』では、「1,000円未満」が、それ以外では全て「1,000円以上で1,500円未満」が高くなっています。



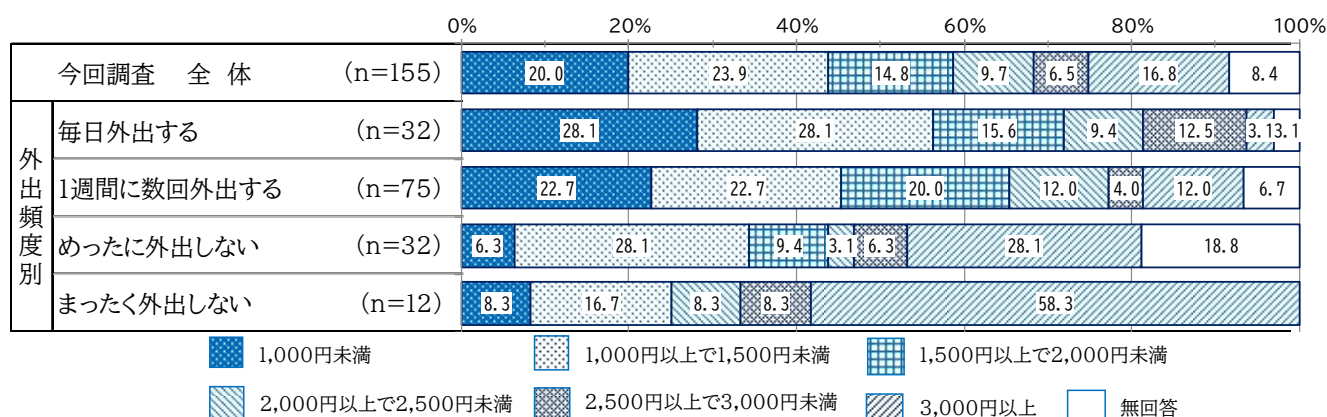
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「1,000円未満」が16.3ポイント高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「3,000円以上」が高くなっています。

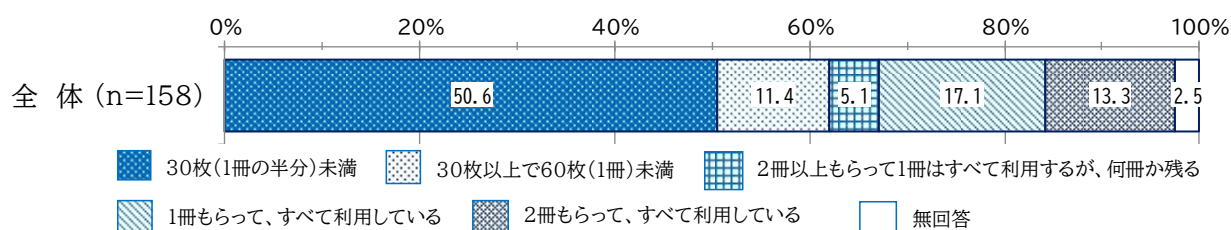


問43 1年間でタクシー利用券をどのくらい利用しますか。

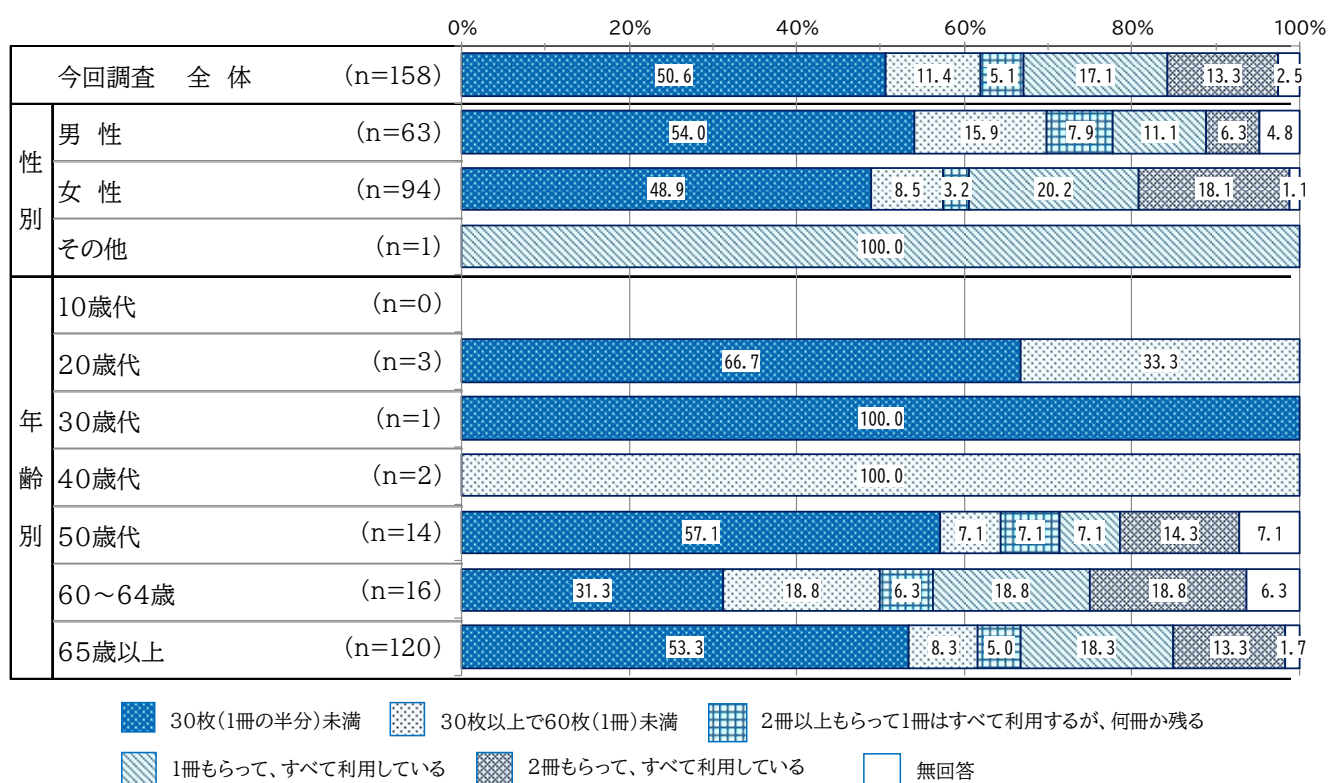
【該当する記号をひとつ○】

【全体】

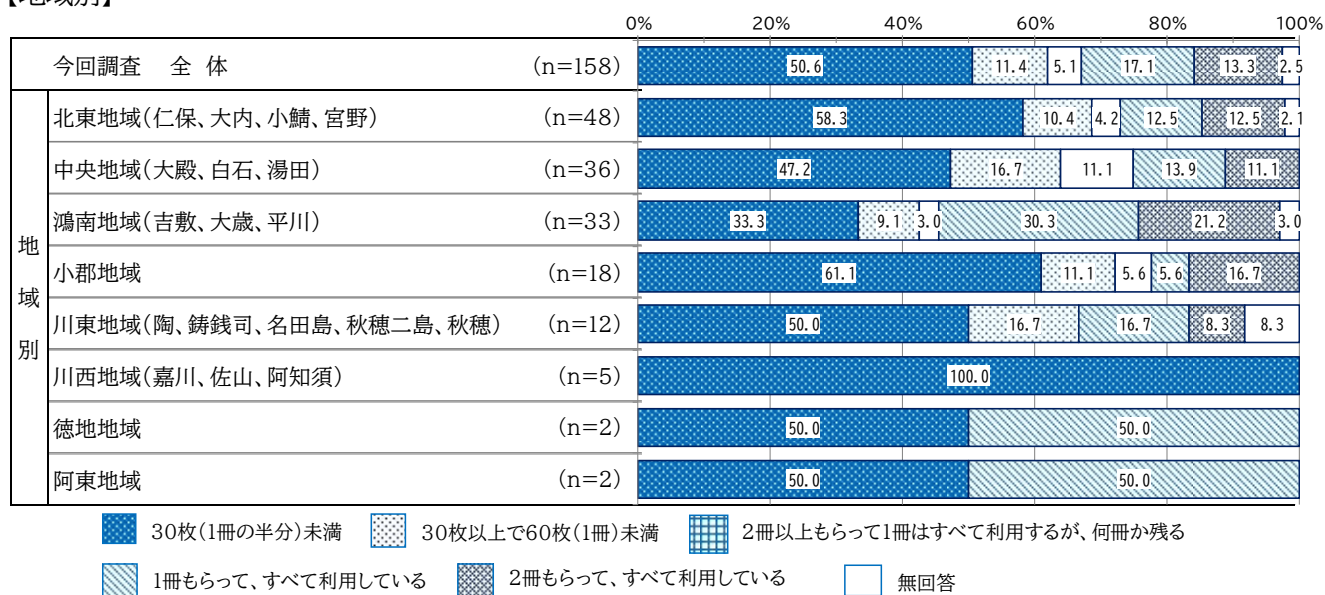
タクシー利用券の利用について、「30枚（1冊の半分）未満」が、50.6%と最も高く、次いで「1冊もらって、すべて利用している」が17.1%、「2冊もらって、すべて利用している」が13.3%となっています。



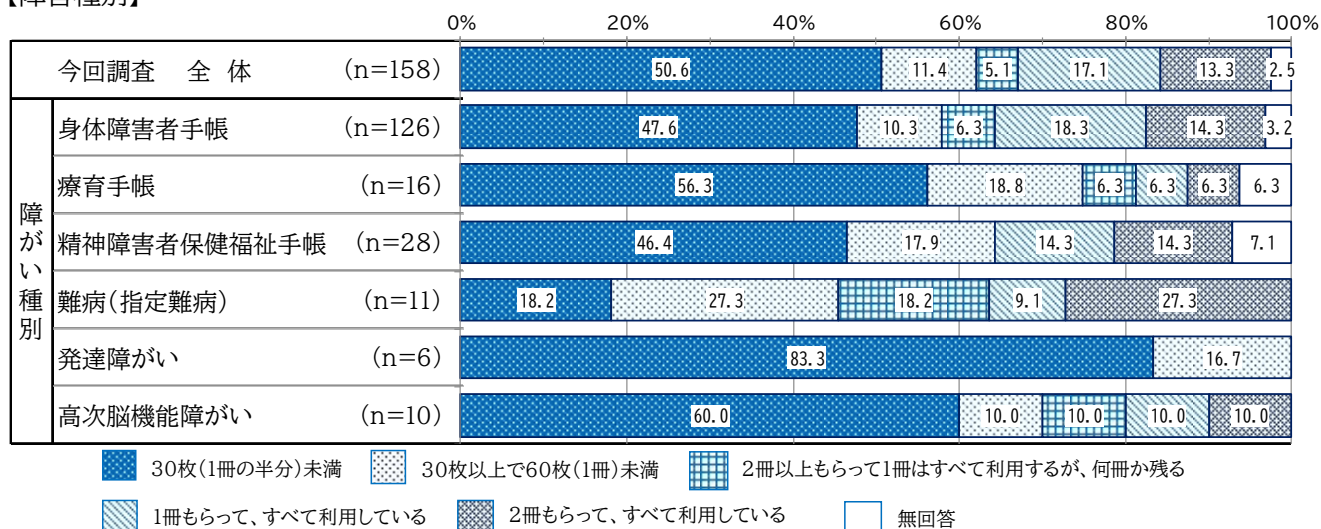
【性別・年齢別】



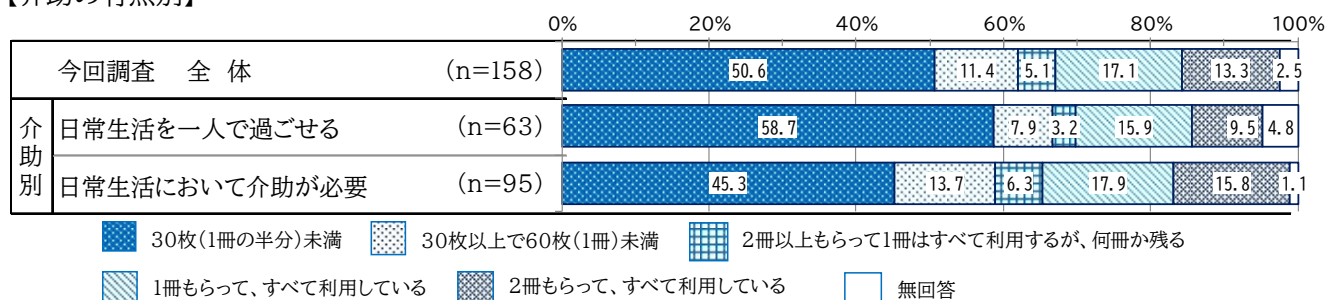
【地域別】



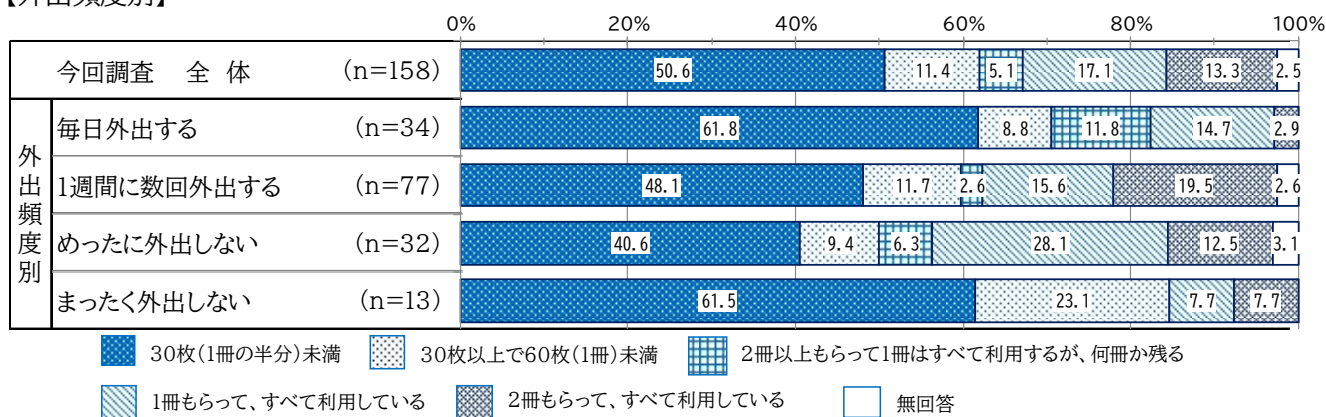
【障害種別】



【介助の有無別】



【外出頻度別】



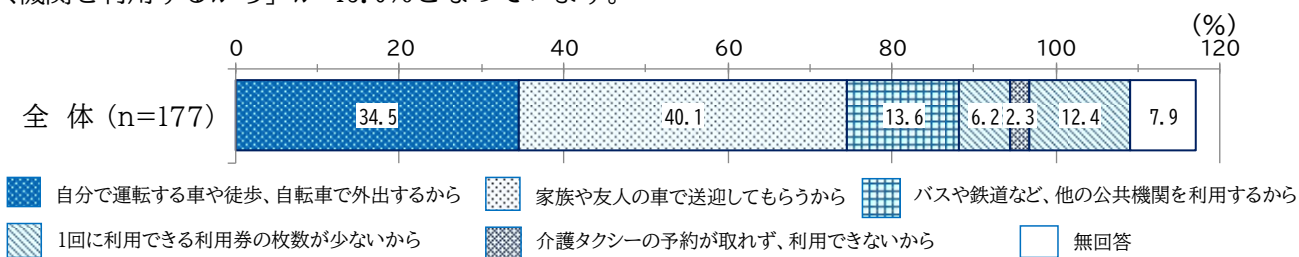
《問 4 4 は、問 4 3 で「ア」「イ」「ウ」を選択された方のみが回答》

問 4 4 福祉タクシー利用券をすべて利用しない（できない）のはなぜですか。

【該当する記号をひとつ○】

【全体】

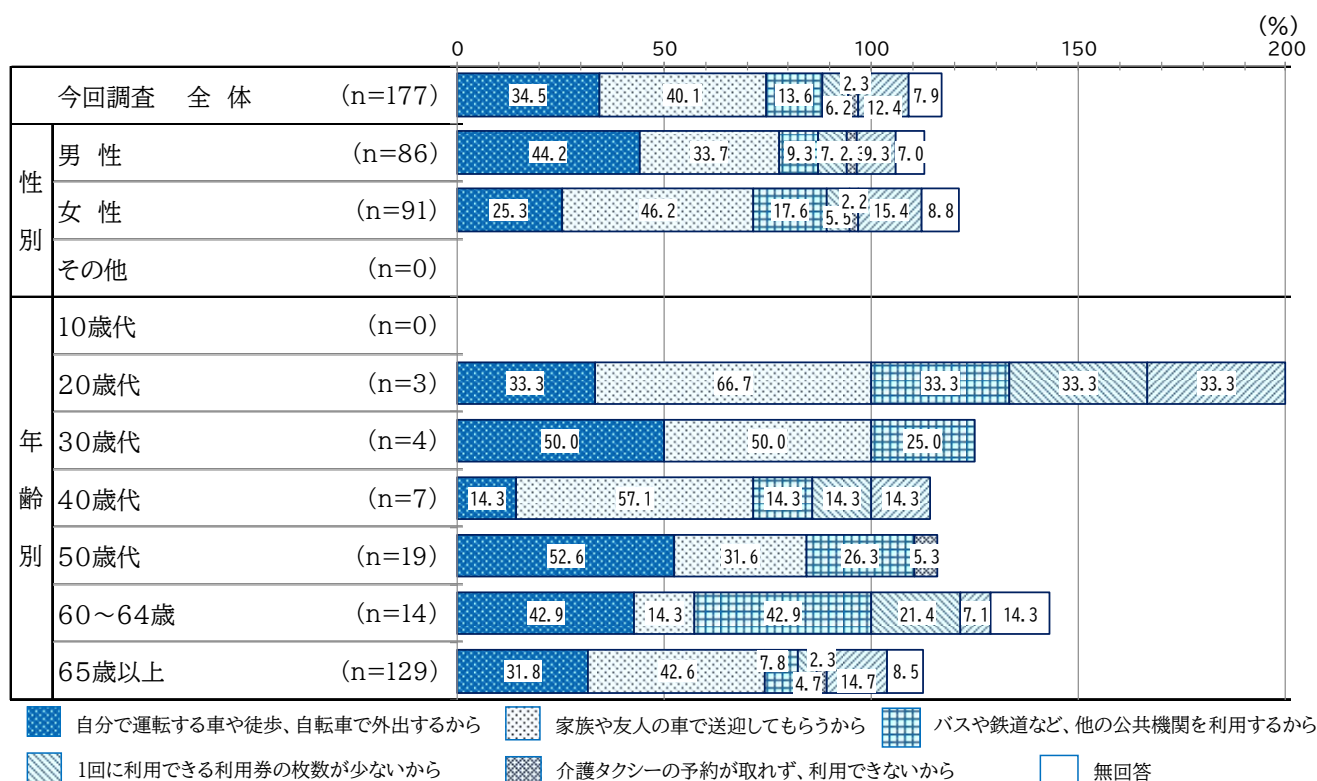
すべて利用しない（できない）理由については、「家族や友人の車で送迎してもらうから」が 40.1%と最も高く、次いで「自分で運転する車や徒歩、自転車で外出するから」が 34.5%、「バスや鉄道など、他の公共機関を利用するから」が 13.6%となっています。



【性別・年齢別】

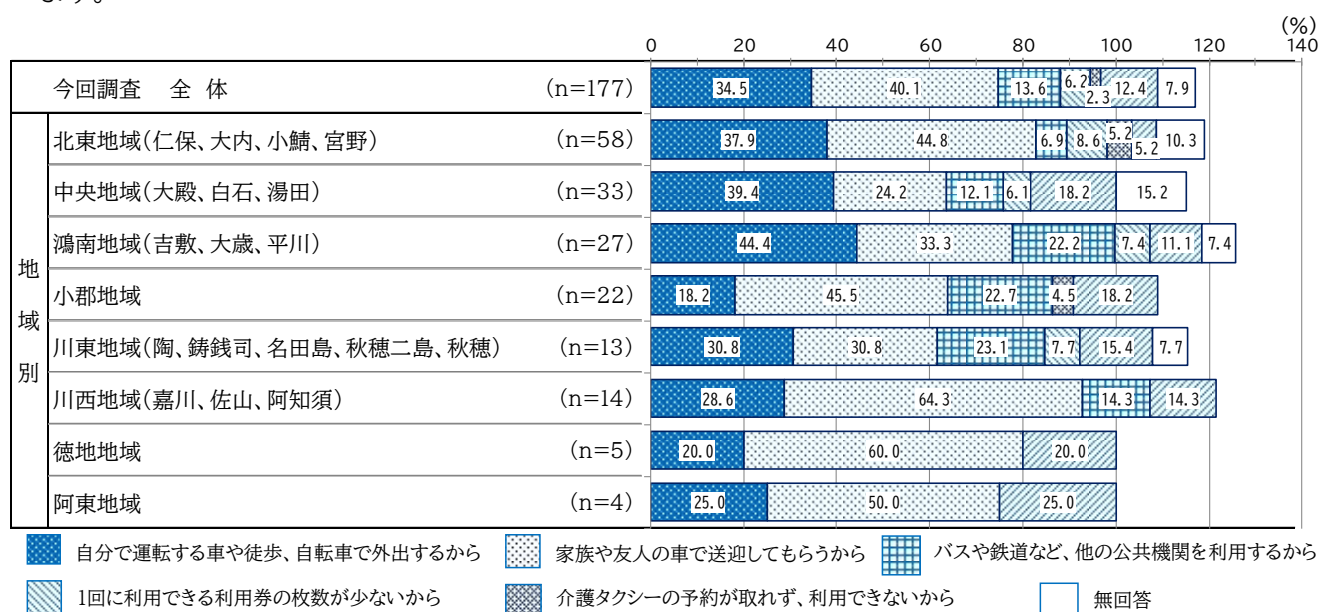
性別でみると、『男性』は『女性』より「自分で運転する車や徒歩、自転車で外出するから」が、18.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『50歳代』から『65歳以上』に年齢が上がるにつれて、「自分で運転する車や徒歩、自転車で外出するから」が低くなっています。



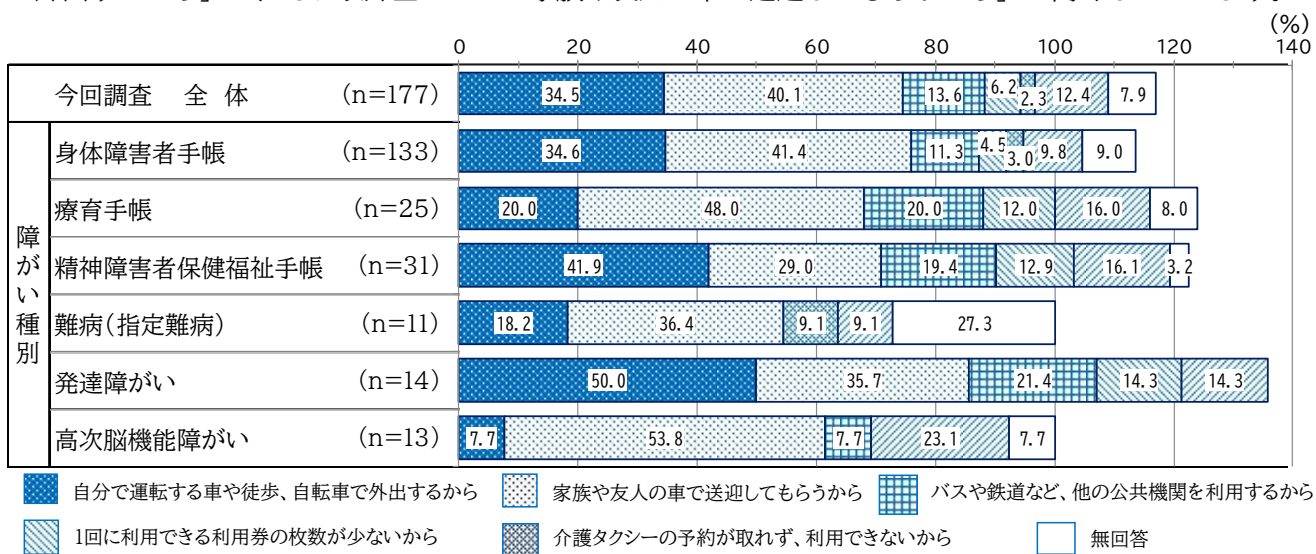
【地域別】

地域別でみると、『中央地域』と『鴻南地域』では「自分で運転する車や徒歩、自転車で外出するから」が、『川東地域』では「自分で運転する車や徒歩、自転車で外出するから」と「家族や友人の車で送迎してもらうから」が共に 30.8%、それ以外全ての地域で「家族や友人の車で送迎してもらうから」が高くなっています。



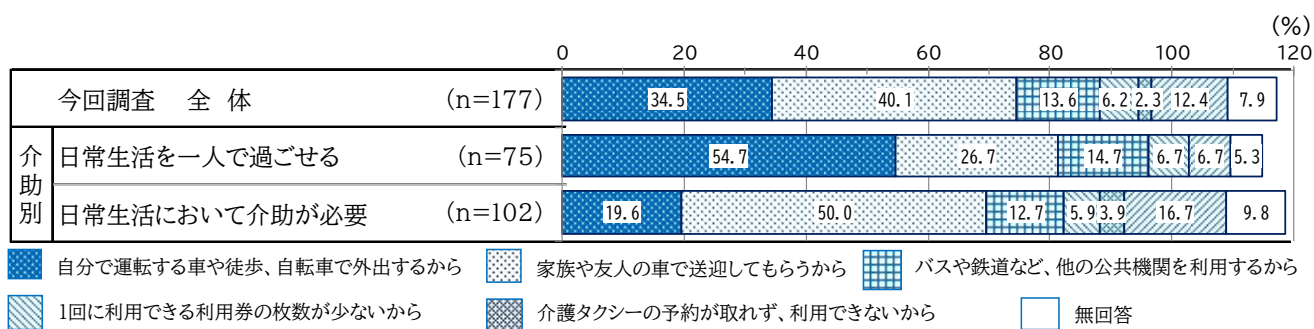
【障害種別】

障害種別でみると、『精神障害者保健福祉手帳』と『発達障害』では「自分で運転する車や徒歩、自転車で外出するから」が、それ以外全てでは「家族や友人の車で送迎してもらうから」が高くなっています。



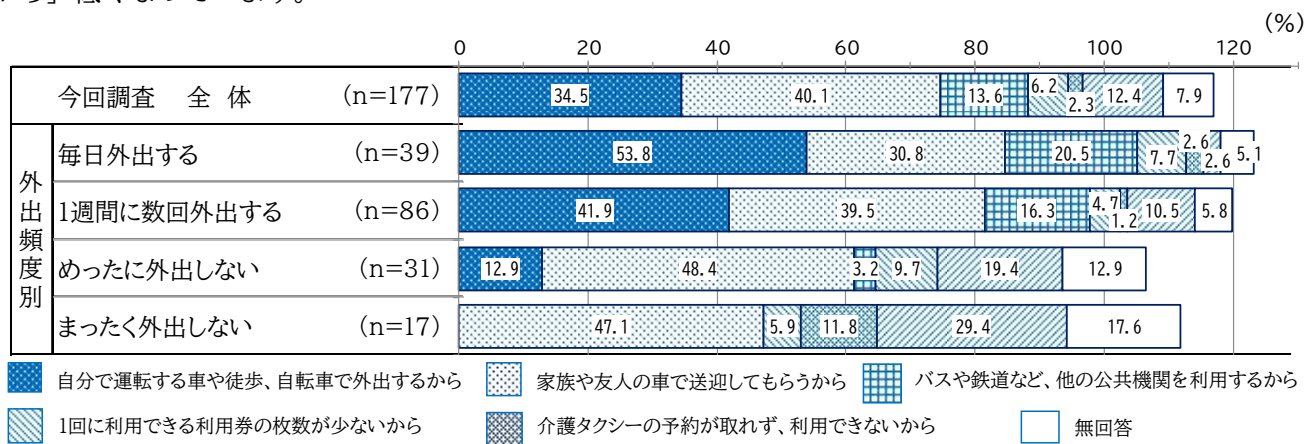
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「自分で運転する車や徒歩、自転車で外出するから」が 35.1ポイント高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「自分で運転する車や徒歩、自転車で外出するから」低くなっています。

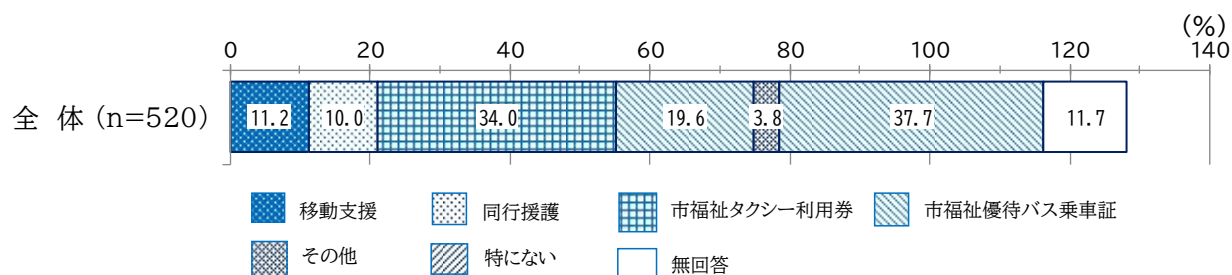


問45 あなたは、今後、外出するときにどのような制度を利用したいですか。

【該当する記号をすべて○】

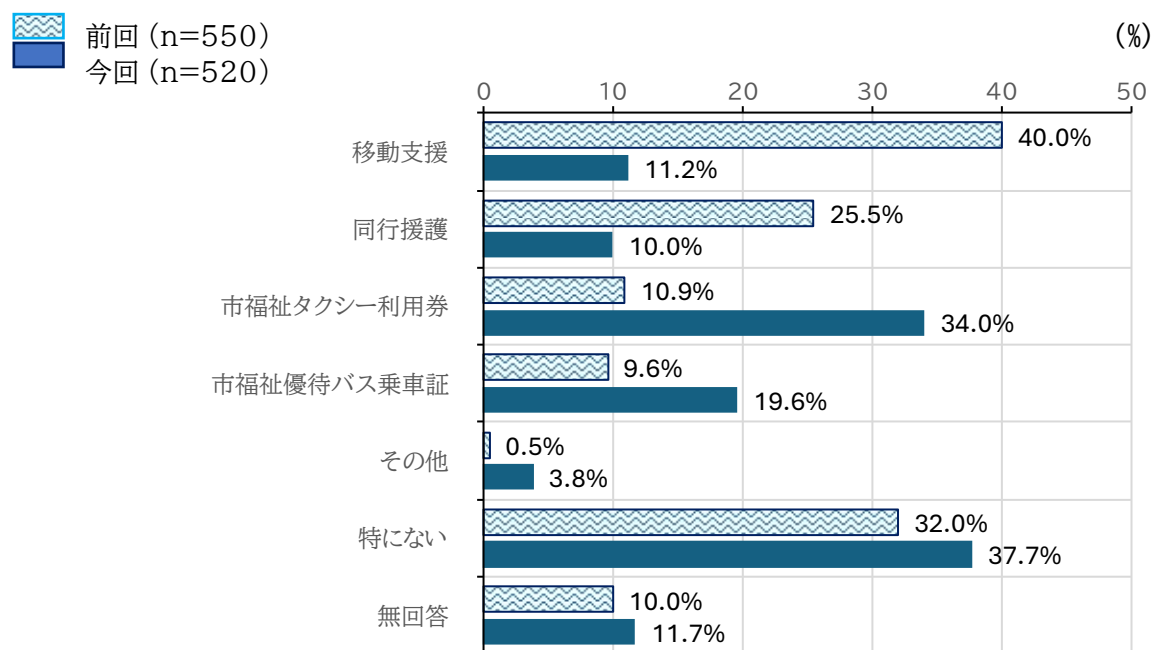
外出するときに今後、利用したい制度について、「特にない」が37.7%と最も高くなっています。次いで、「市福祉タクシー利用券」34.0%、「市福祉優待バス乗車証」19.6%となっています。

【全体】

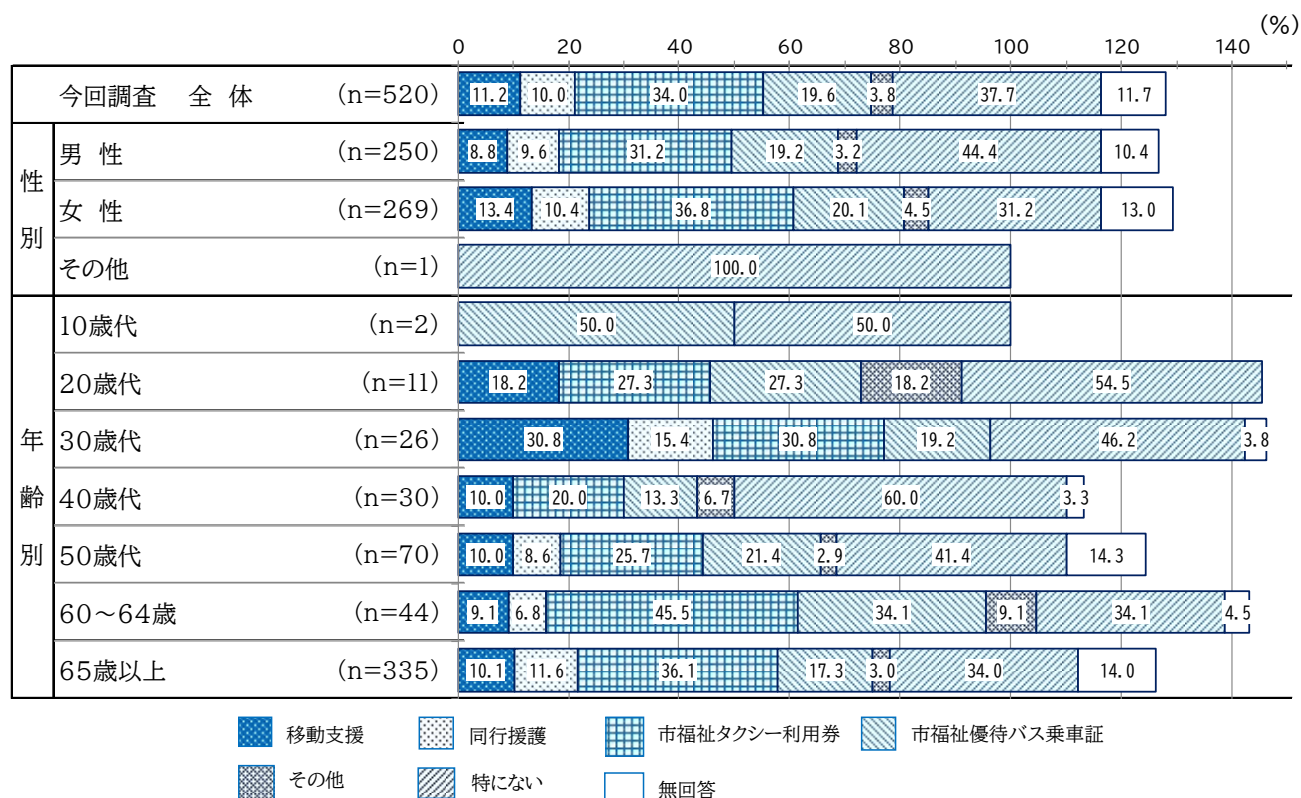


【前回比較】

外出するときに今後、利用したい制度について、「市福祉タクシー利用券」が23.1ポイント高くなっています。

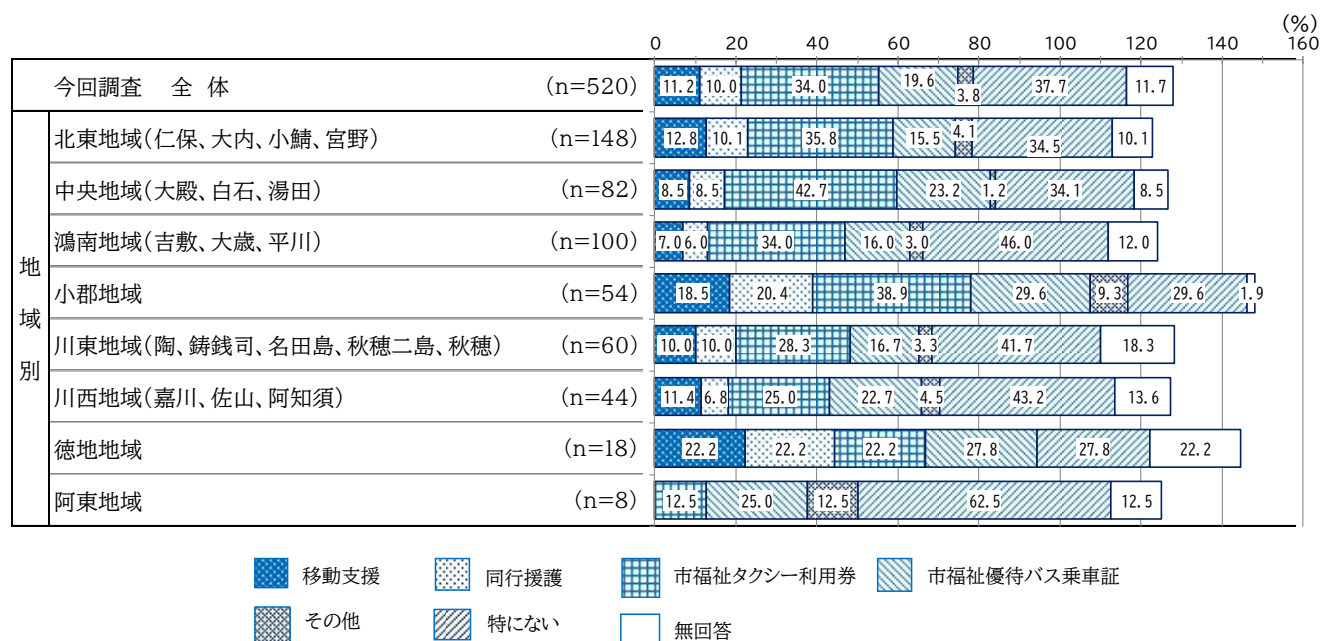


【性別・年齢別】



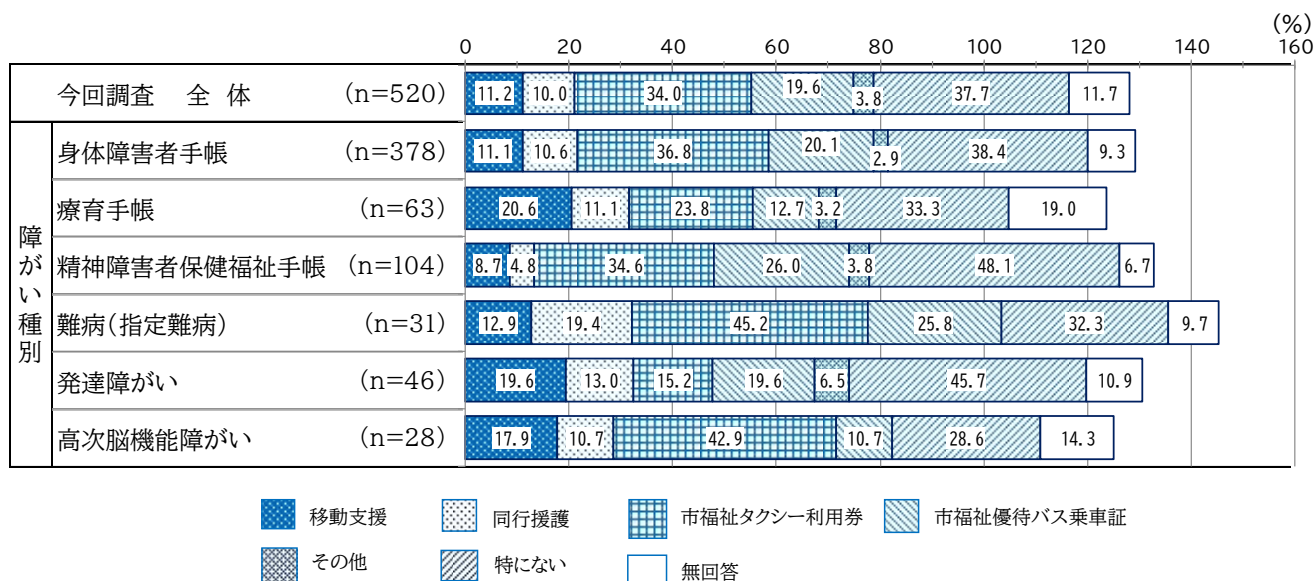
【地域別】

地域別でみると、『鴻南地域』、『川東地域』、『川西地域』、『阿東地域』では「特にない」、『徳地地域』では「市福祉優待バス乗車証」と「特にない」が共に 27.8%、それ以外では全て「市福祉タクシー利用券」が最も高くなっています。



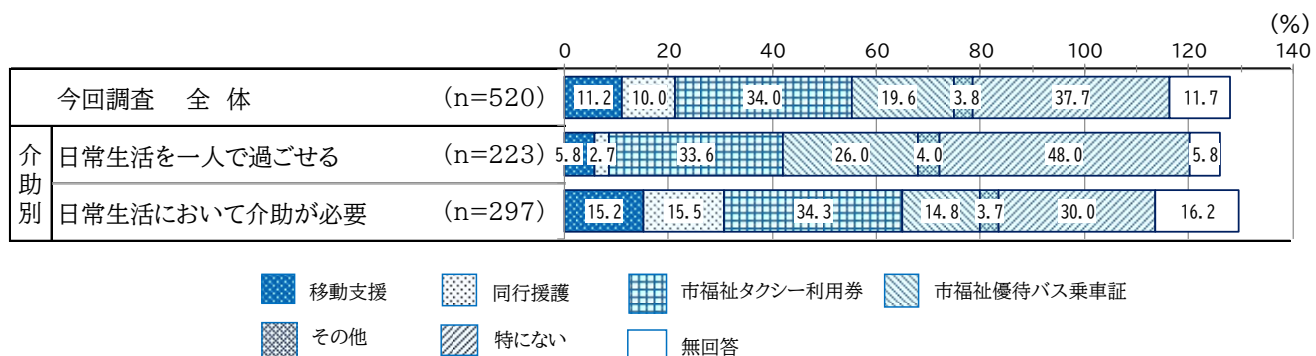
【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』、『精神障害者保健福祉手帳』、『発達障がい』では「特にな
い」、それ以外では全て「市福祉タクシー利用券」が高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「市福祉
優待バス乗車証」が 11.2 ポイント高くなっています。



《問 4 5 で「オ その他」を選択された方のみが回答》

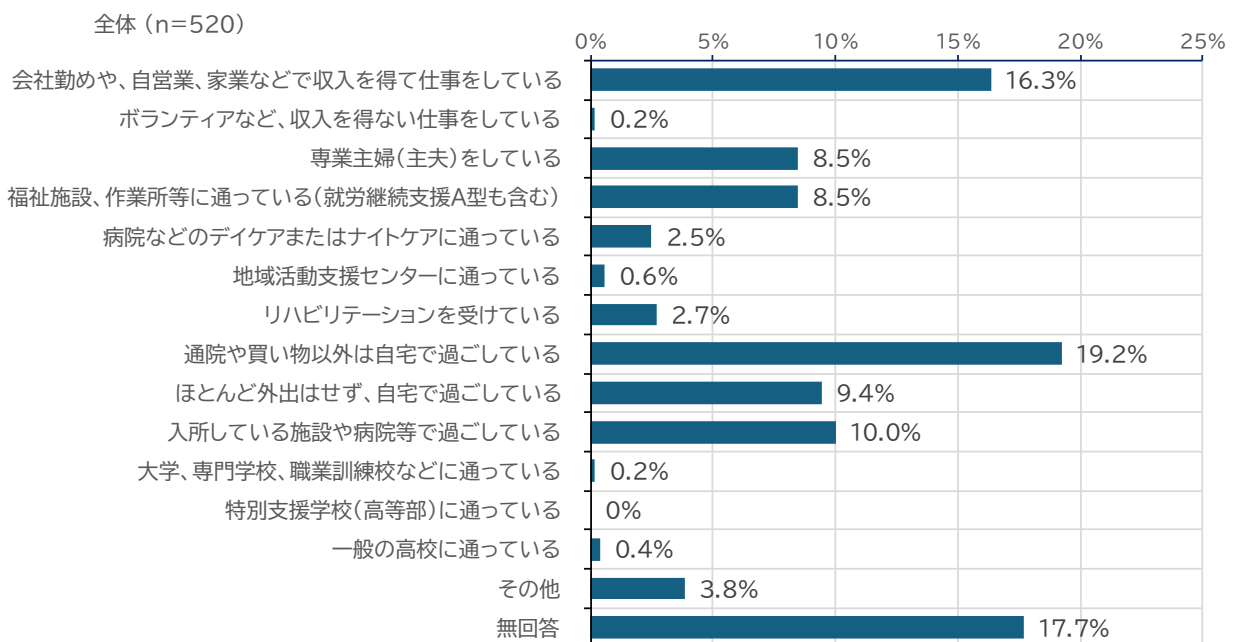
問 4 6 その制度を書いてください。

記載内容	件数	主な内容・文脈
公共交通機関の割引・無料化	5	バス・電車、新幹線の割引制度、全交通機関の無料化要望など。
タクシー券の要望・不足	4	タクシー券の支給、発行冊数の増加、補助額の増額など。
自家用車・ガソリン補助	3	自家用車の利用、ガソリン代への補助。
施設・ボランティアによる送迎	3	特別養護老人ホームや施設の送迎、ボランティアによる支援。
具体的な移動目的・生活背景	2	入院中の家族の洗濯物運搬、薬の受取など。
介護タクシーの利用	1	介護タクシーの利用（具体的な要望含む）。
連絡手段の欠如	1	電話がないため連絡が困難である状況。
未定・不明	1	今後の予定や要望が未定。
合 計	20	

問 4 7 あなたは、平日の日中を主にどのように過ごしていますか。 【該当する記号をひとつだけ○】

平日の日中の過ごし方について、「通院や買い物以外は自宅で過ごしている」が 19.2%と最も高くなっています。次いで、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が 16.3%、「入所している施設や病院等で過ごしている」が 10.0%となっています。

【全体】

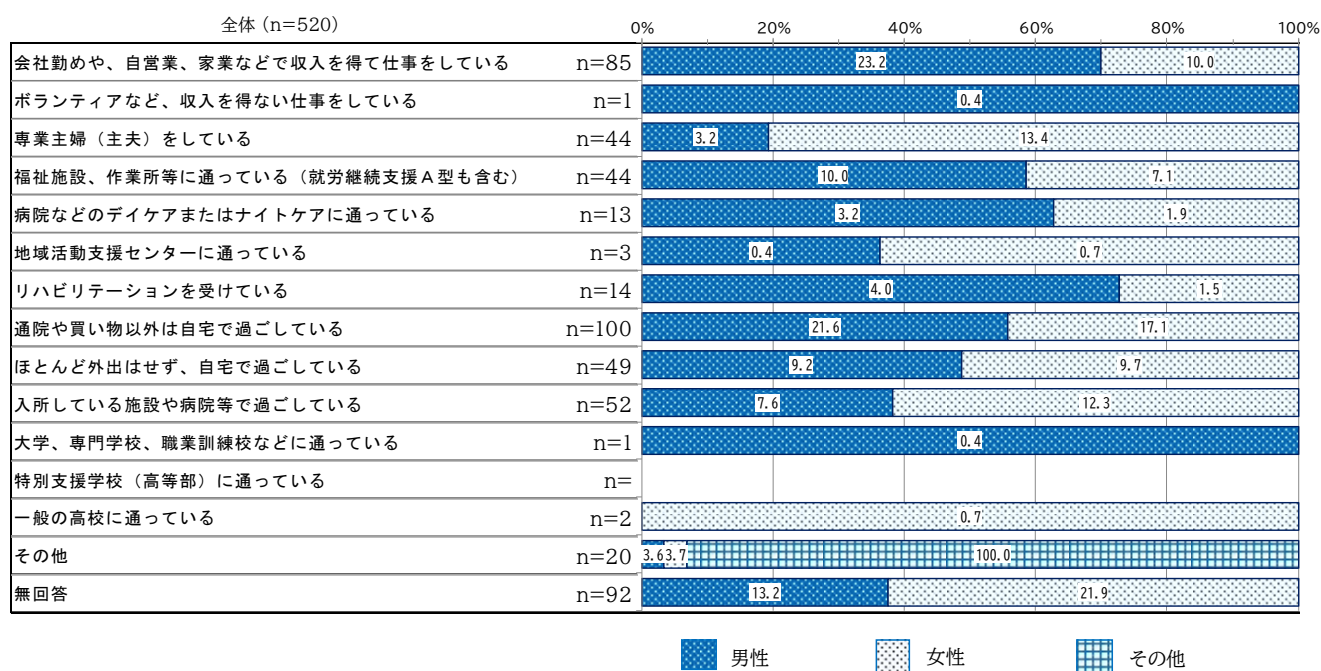


【その他 自由記述】

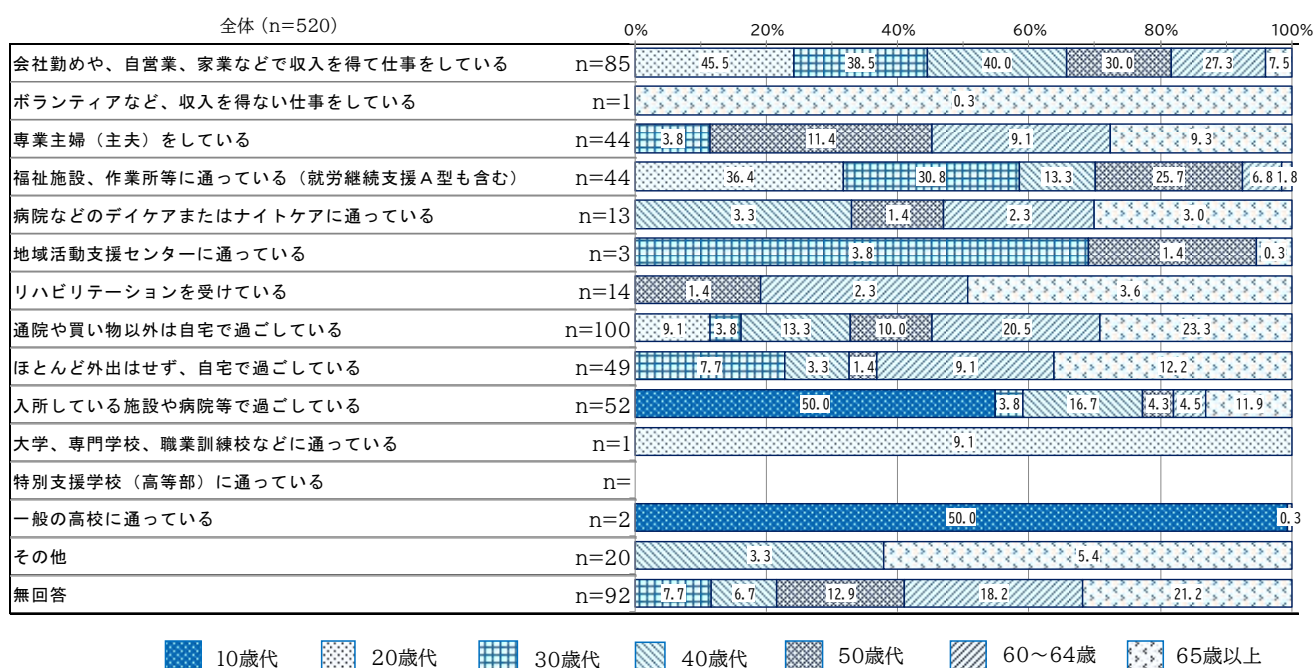
記載内容	件数	主な内容・文脈
介護サービス利用 (デイサービス・通所)	6	デイサービス、デイケア、通所リハビリ
仕事・ボランティア・学習	4	シルバー人材、農作業、有償ボランティア、資格勉強
外出（買い物・散歩・趣味）	4	買い物、温泉、自家用車での外出、友人と過ごす
入院中	3	入院中の状態
自宅中心・その他	3	ほとんど自宅、テレビを観る、通院（限定的）
合 計	20	

【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が13.2 ポイント高くなっています。

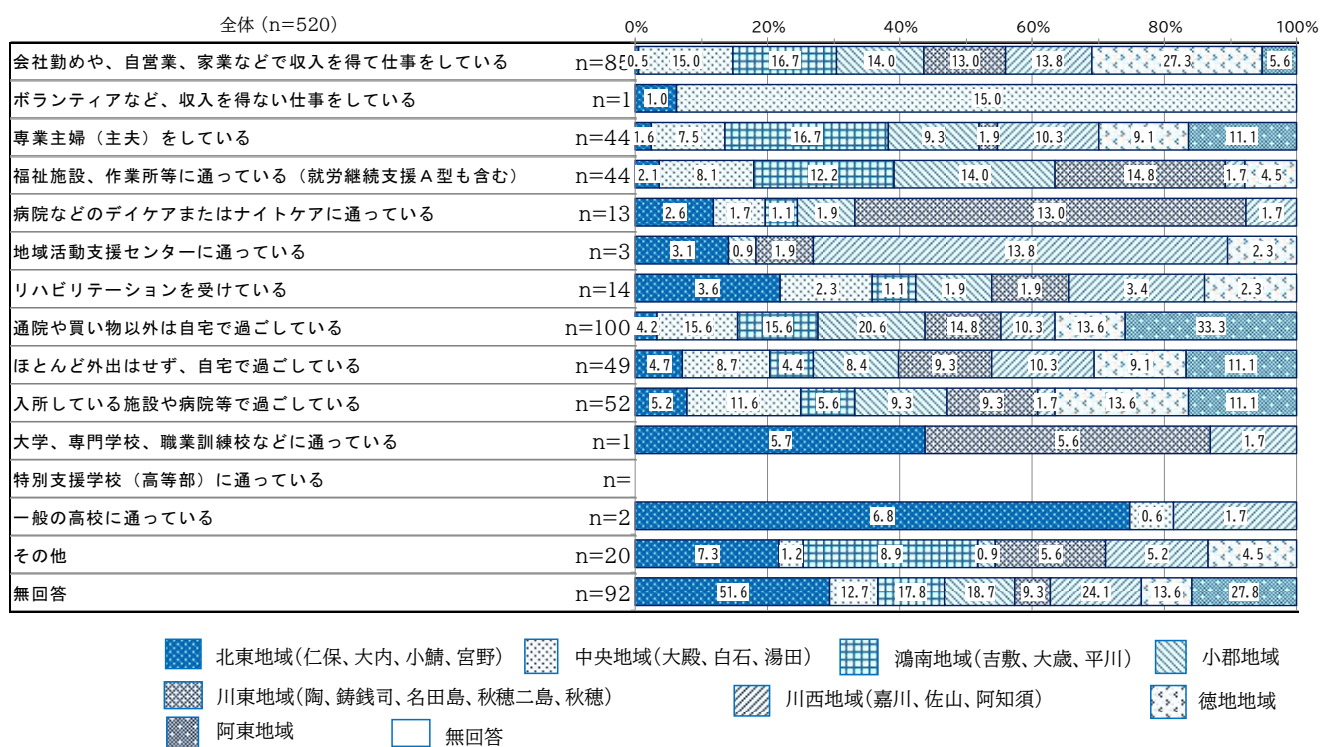


年齢別でみると、『40 歳代』から『65 歳以上』に年齢が上がるにつれて、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が低くなっています。



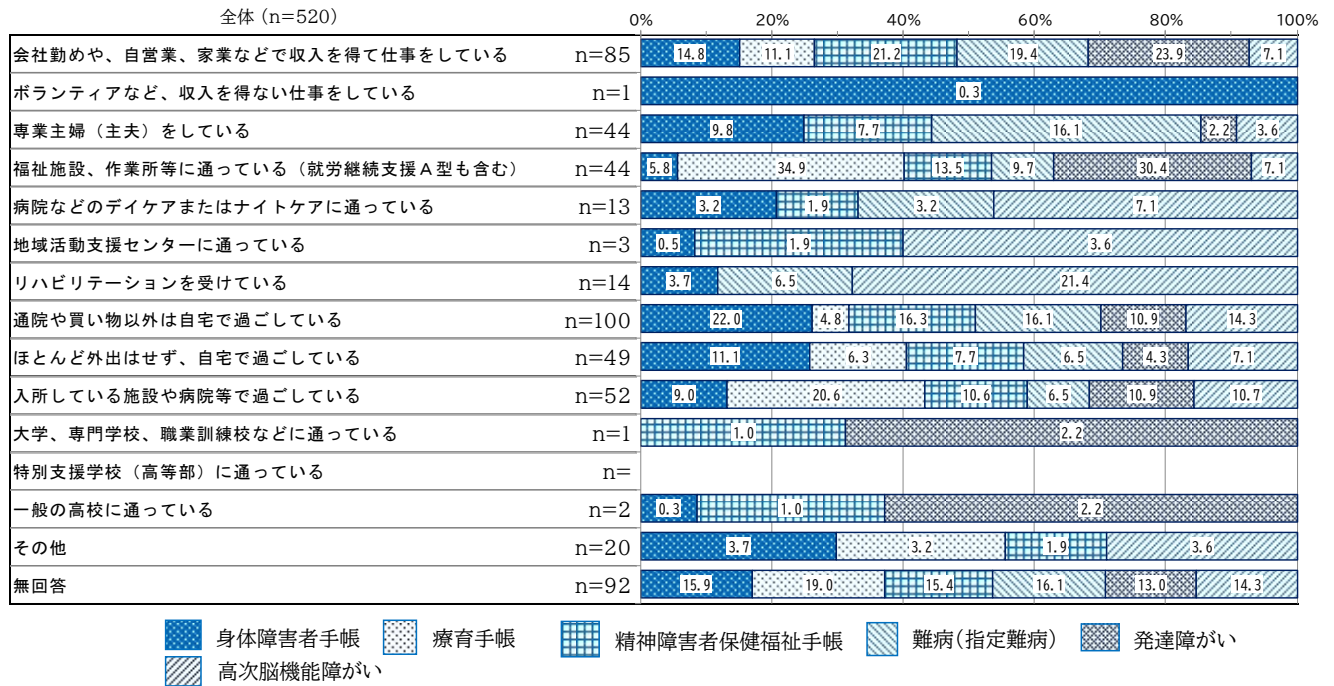
【地域別】

地域別でみると、『北東地域』を除き全ての地域で「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」、「通院や買い物以外は自宅で過ごしている」が高い割合となっています。



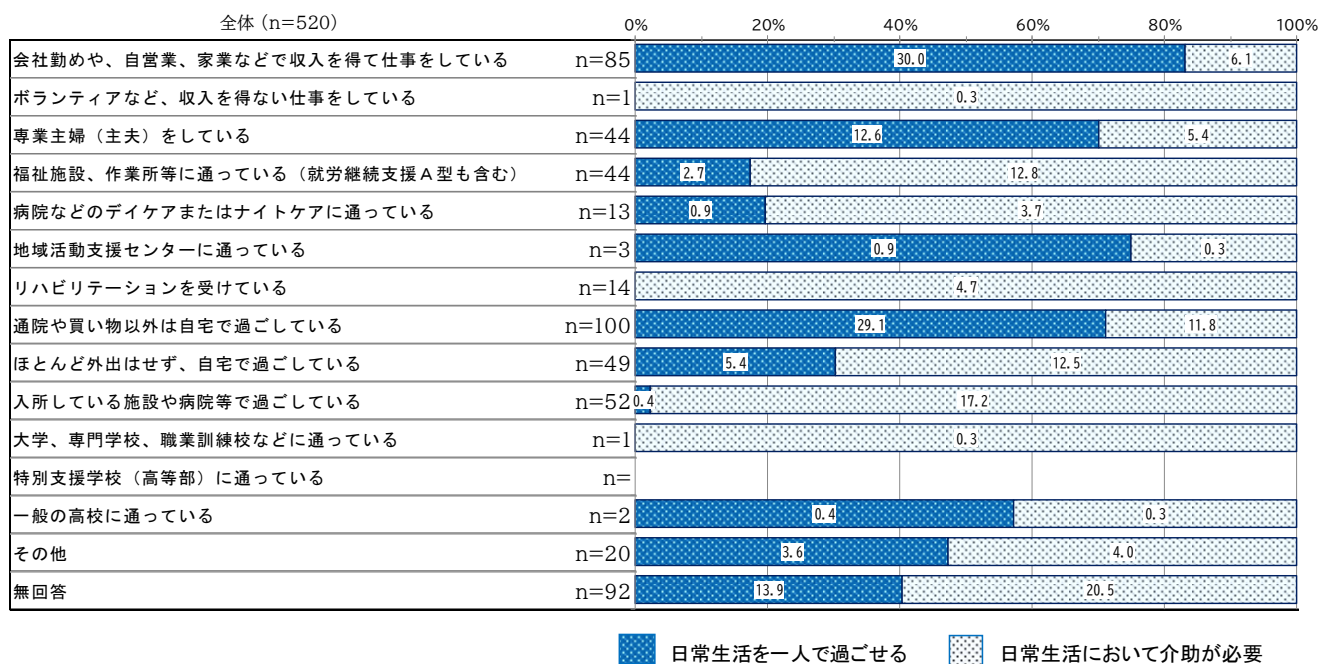
【障害種別】

障害種別でみると、『身体障害者手帳』では「通院や買い物以外は自宅で過ごしている」が、『精神障害者保健福祉手帳』では「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が、『難病（指定難病）』と『高次脳機能障がい』では「リハビリテーションを受けている」が、それ以外全て「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が高くなっています。



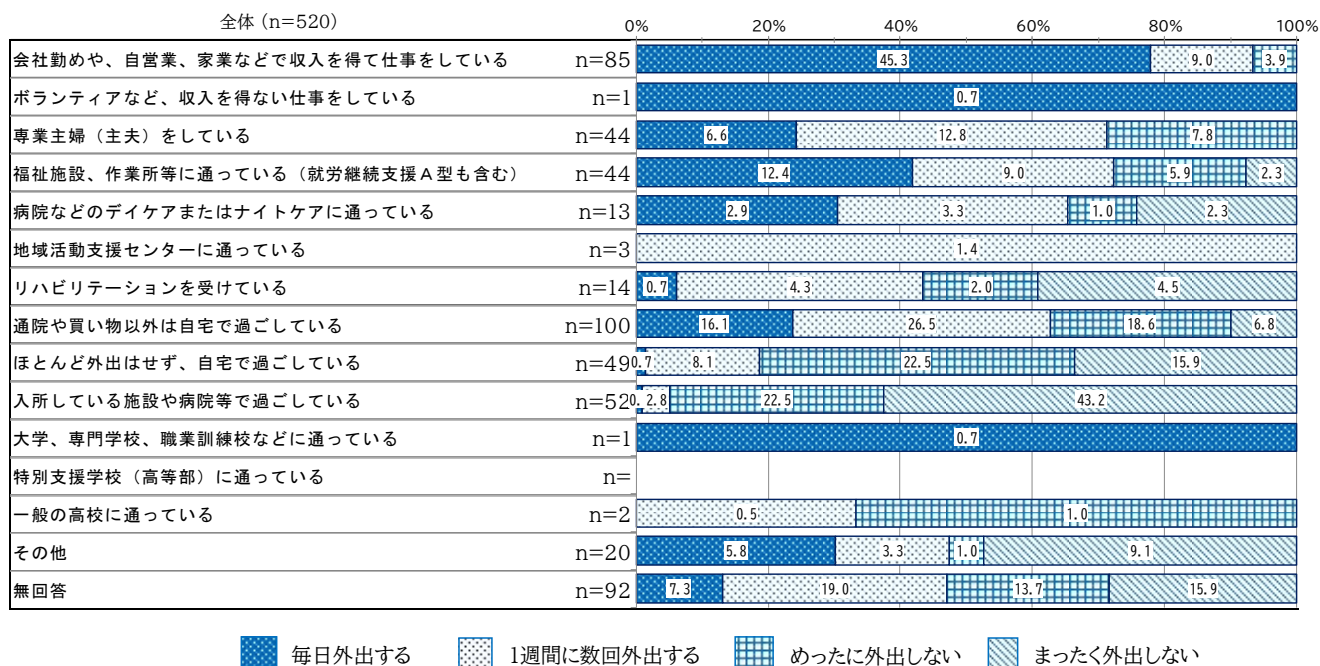
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」が 23.9 ポイント高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」や「福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）」が低くなっており、「入所している施設や病院等で過ごしている」が高くなっています。

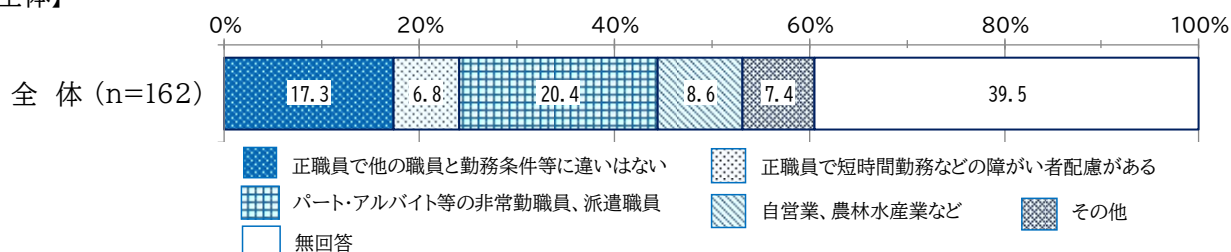


《問 47 で「ア 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」を選択された方のみが回答》

問 48 あなたは、どのような勤務形態で働いていますか。 【該当する記号をひとつだけ○】

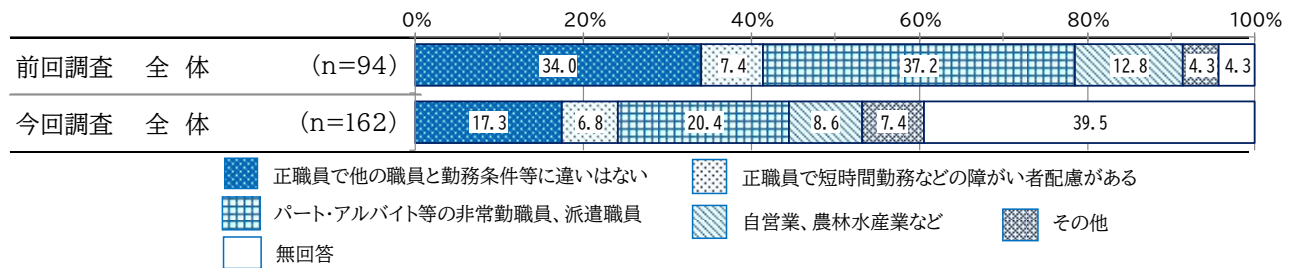
勤務形態について、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が 20.4%と最も高くなっています。次いで、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が 17.3%、「自営業、農林水産業など」8.6%となっています。

【全体】



【前回比較】

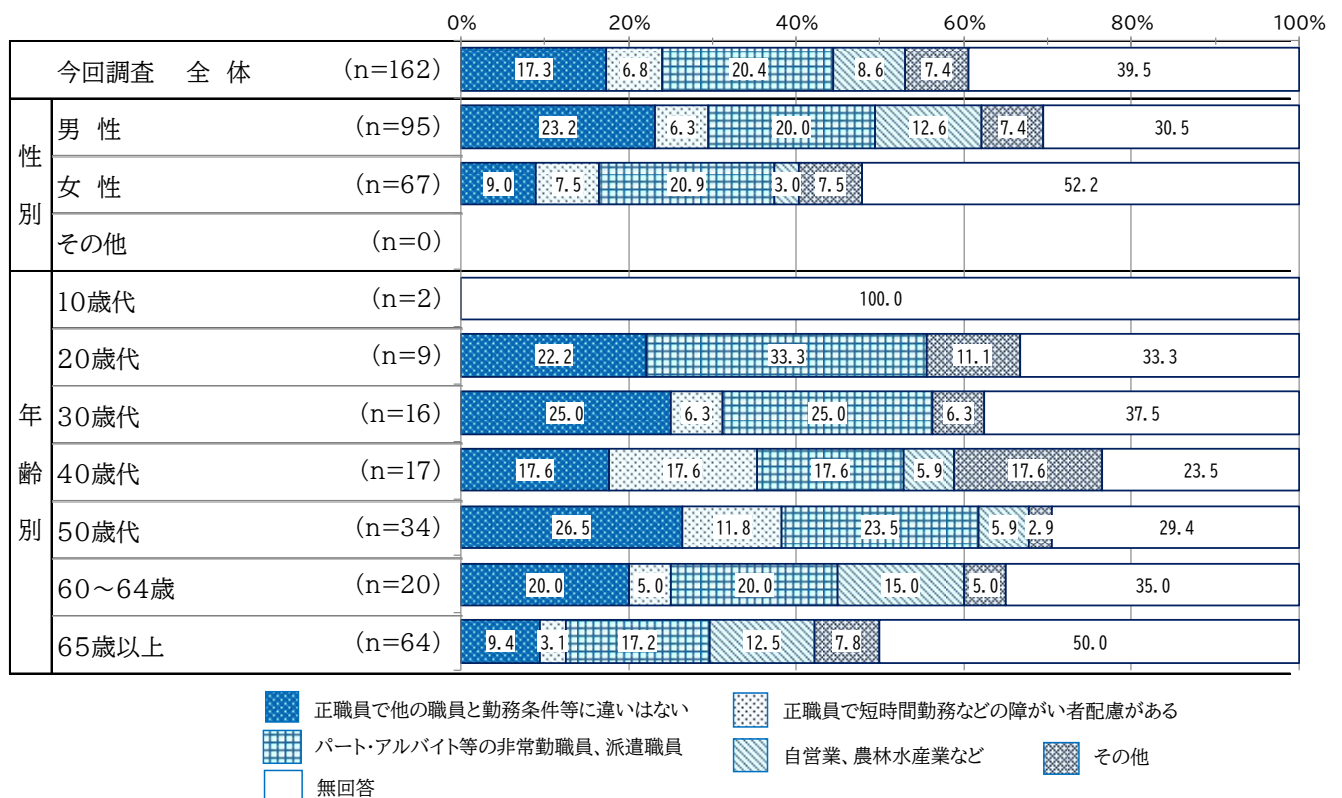
勤務形態について、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が前回より 16.8 ポイント低くなっています。



【性別・年齢別】

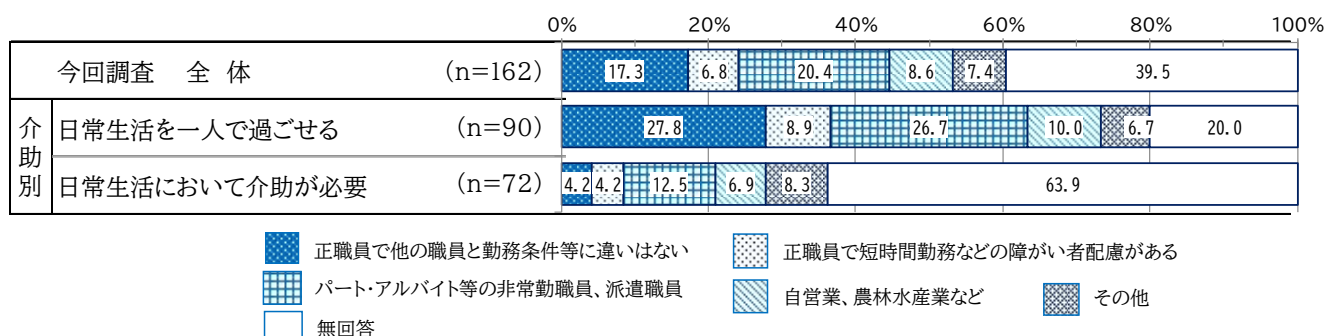
性別でみると、『男性』は『女性』より、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が 14.2 ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『50 歳代』から『65 歳以上』に年齢が上がるにつれて、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が低くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いはない」が 23.6 ポイント高くなっています。

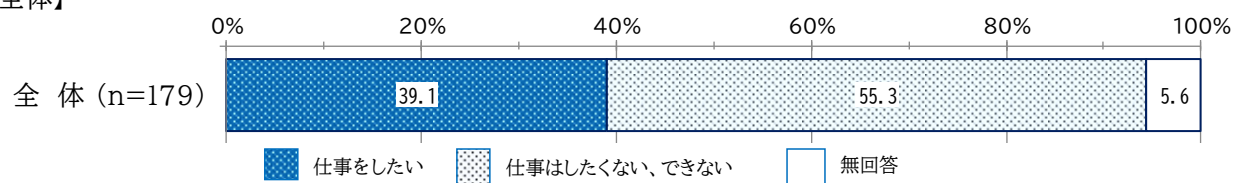


《問 47で「ア 会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」以外を選択された18～64歳の方のみが回答》

問49 あなたは、今後、収入を得る仕事をしたいと思いますか。【該当する記号をひとつだけ○】

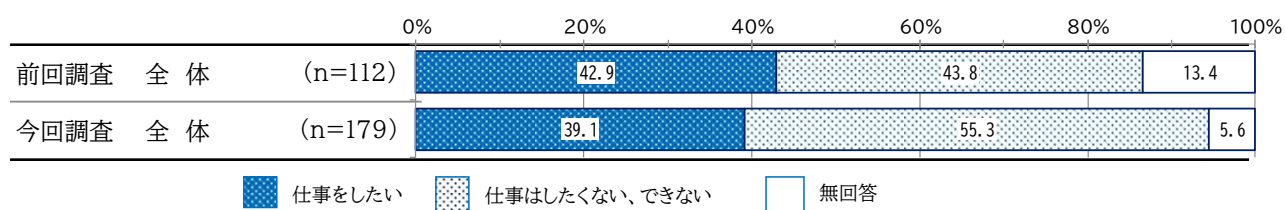
今後、収入を得る仕事をしたいかについて、「仕事をしたい」39.1%、「仕事はしたくない、できない」55.3%となっています。

【全体】



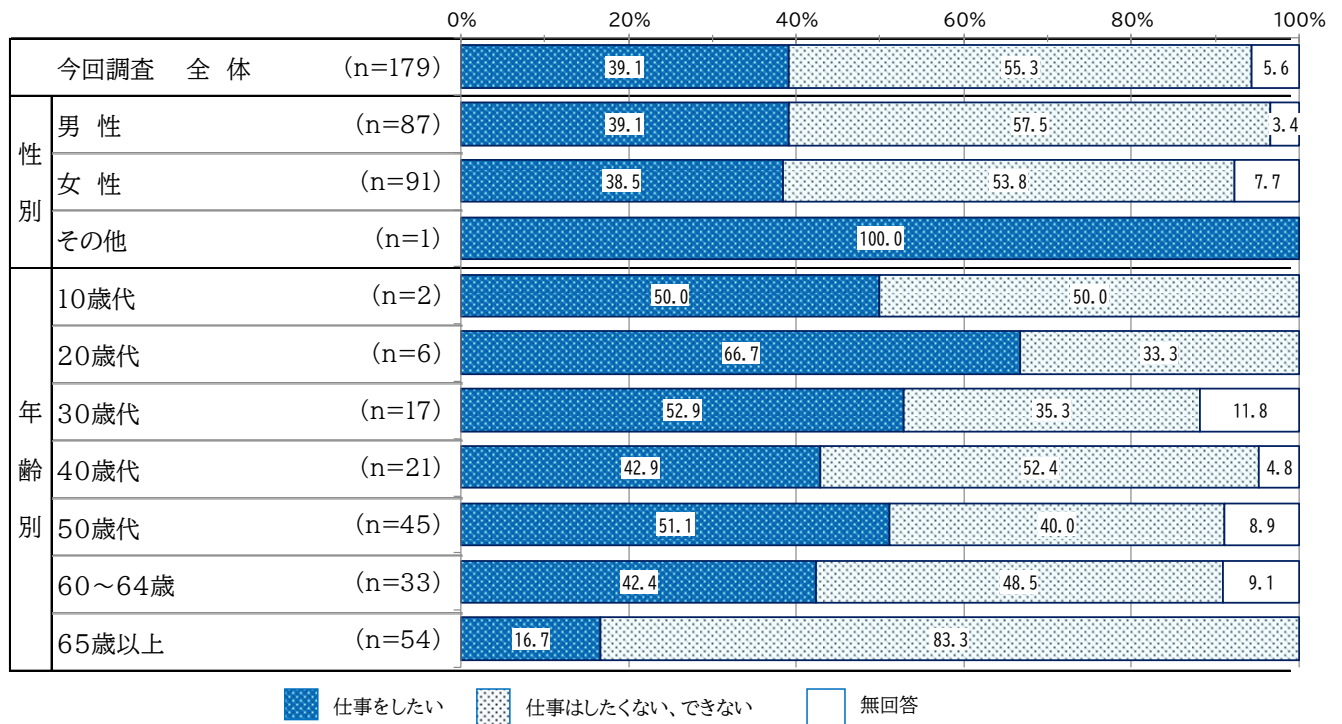
【前回比較】

今後、収入を得る仕事をしたいかについて、「仕事はしたくない、できない」が前回より 11.5 ポイント高くなっています。



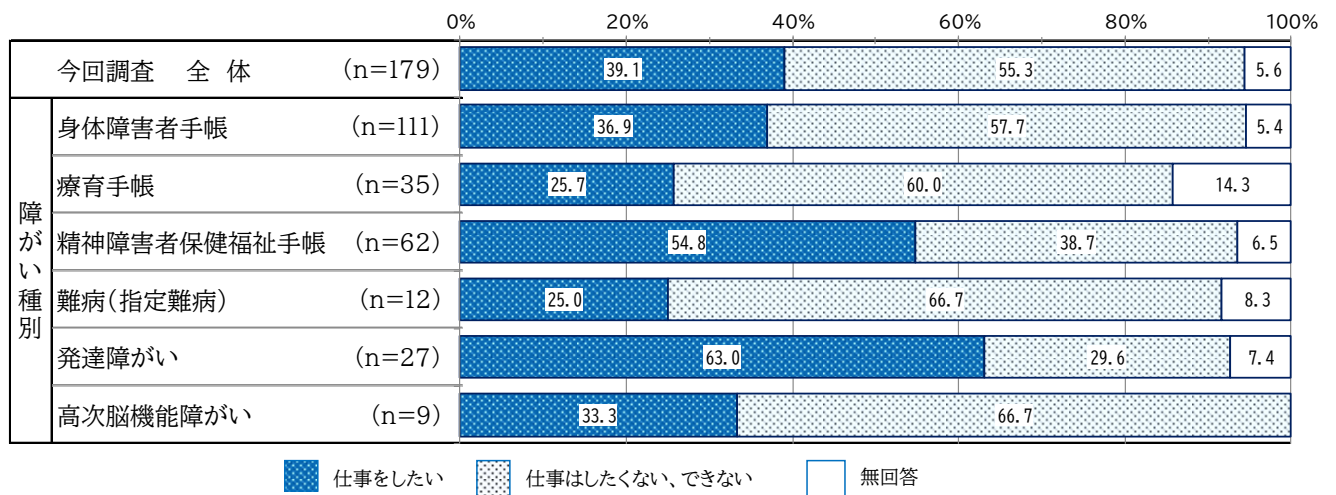
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『50 歳代』を除き、『30 歳代』から『60～64 歳』に年齢が上がるにつれて、「仕事をしたい」が低くなっています。



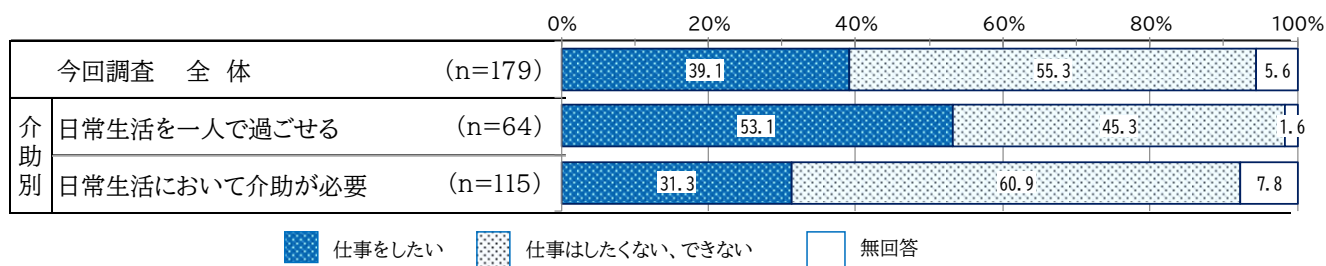
【障害種別】

障害種別でみると、『精神障害者保健福祉手帳』、『発達障がい』では「仕事をしたい」、それ以外全てでは「仕事はしたくない、できない」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「仕事をしたい」が 21.8 ポイント高くなっています。

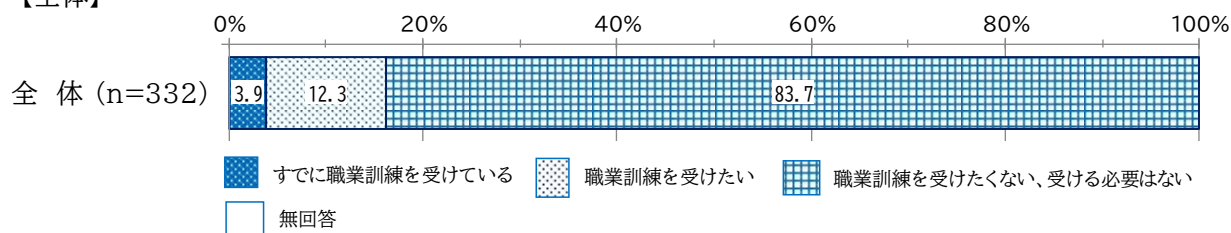


問50 あなたは収入を得る仕事を得るために、職業訓練などを受けたいと思いますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

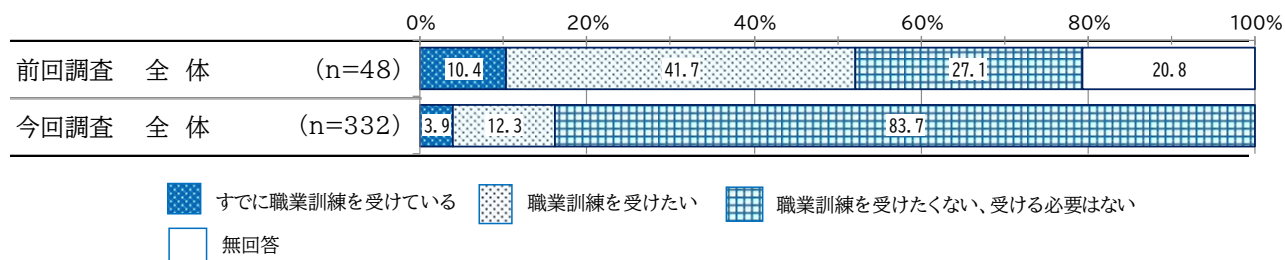
職業訓練などを受けたいかについて、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が 83.7%と最も高くなっています。次いで、「職業訓練を受けたい」が 12.3%、「すでに職業訓練を受けている」が 3.9%となっています。

【全体】



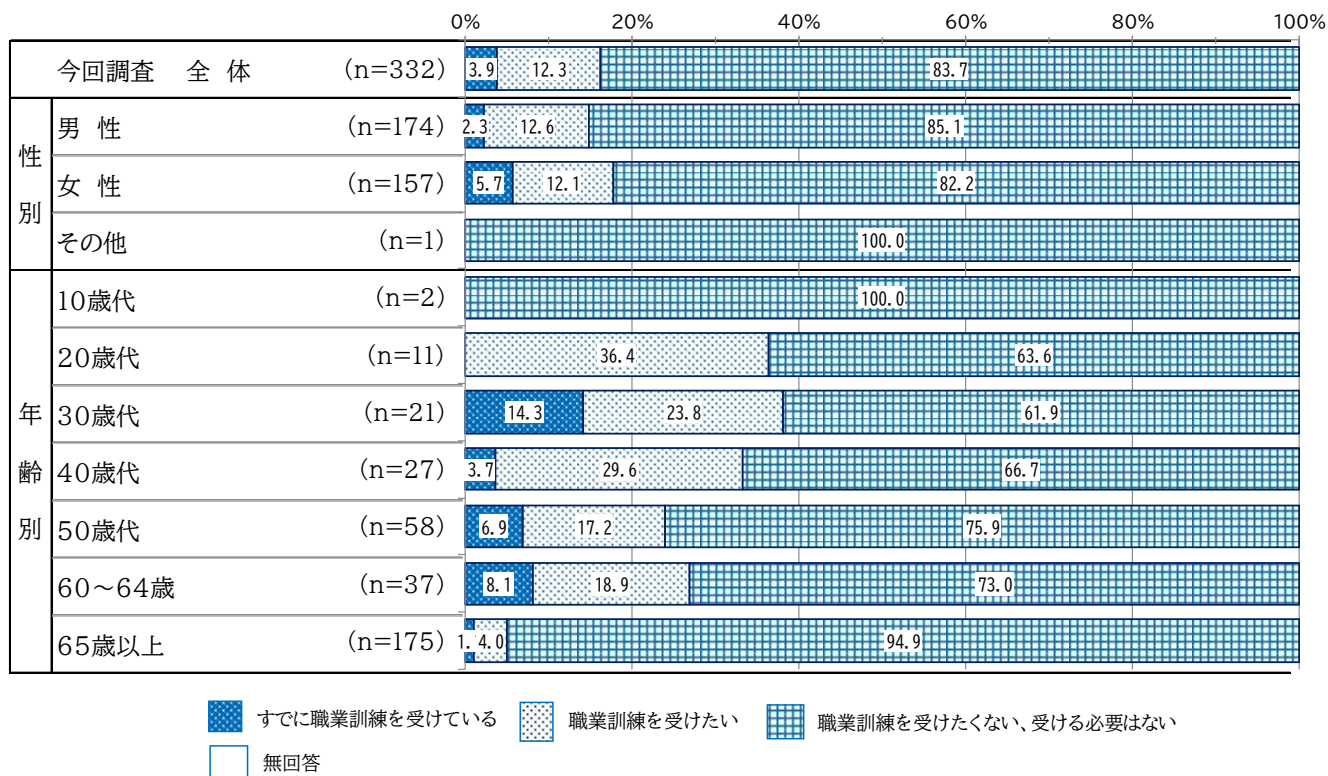
【前回比較】

職業訓練などを受けたいかについて、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が前回より 56.6 ポイント高くなっています。



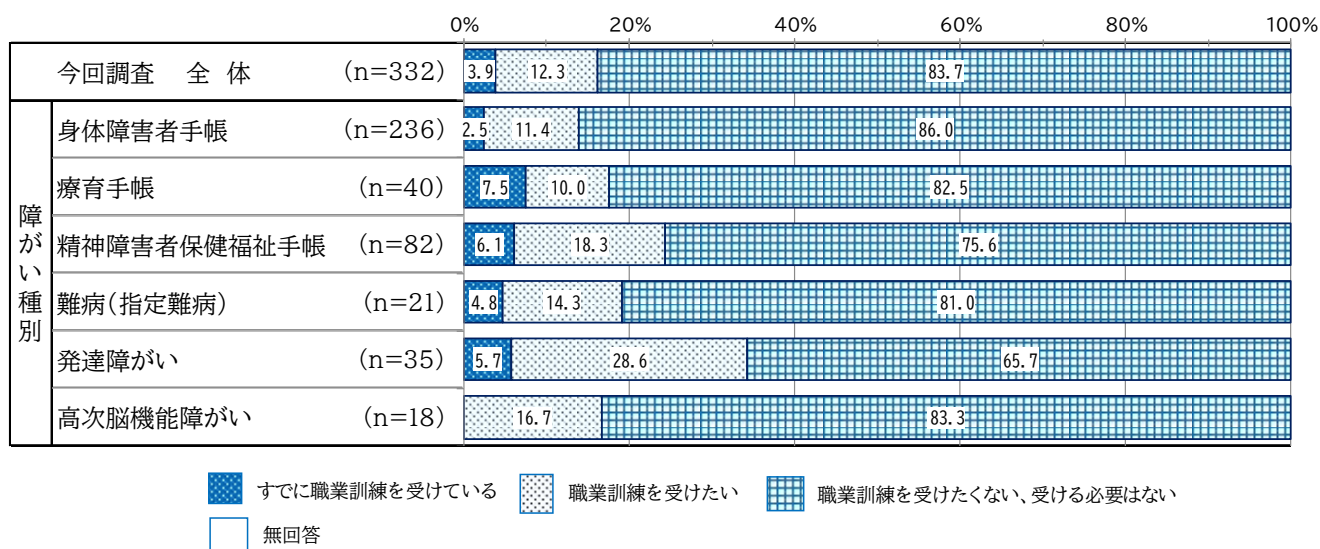
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『60～64 歳』を除き、『30 歳代』から『65歳以上』に年齢が上がるにつれて、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が高くなっています。



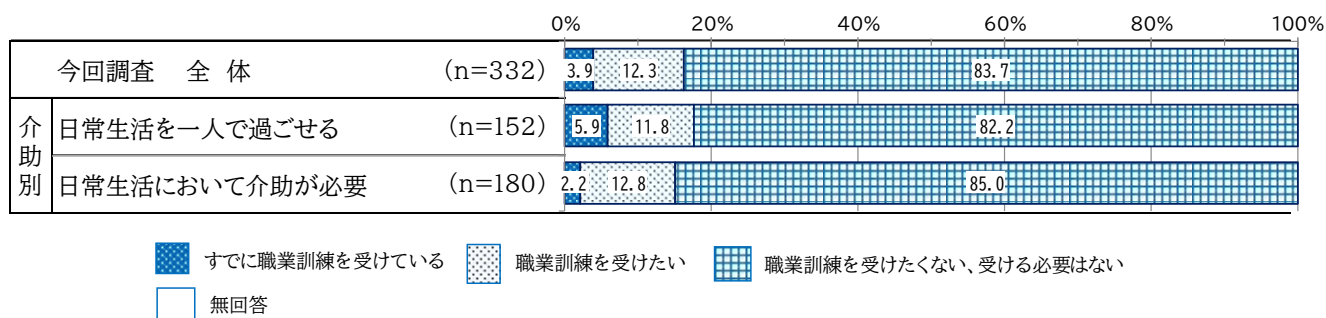
【障害種別】

障害種別でみると、全てにおいて「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」が 2.8 ポイント低くなっています。



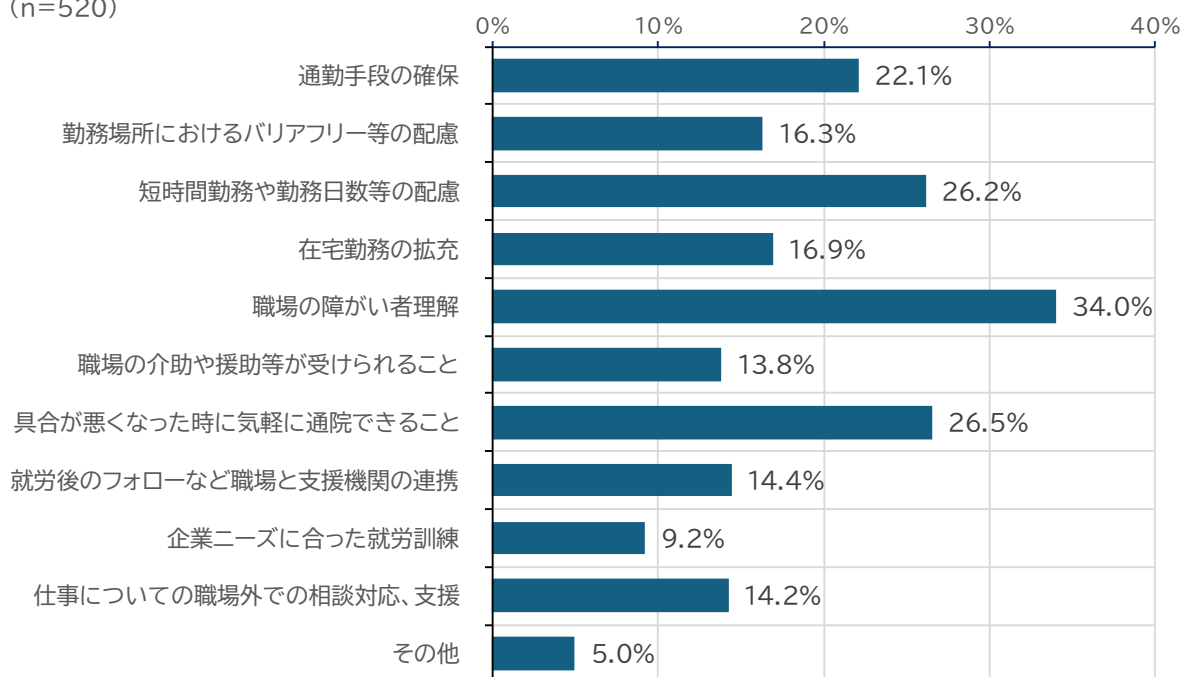
問5 1 あなたは、障がい者の就労支援として、どのようなことが必要だと思いますか。

【該当する記号をすべて○】

障がい者の就労支援で必要なことについて、「職場の障がい者理解」が 34.0%と最も高くなっています。次いで、「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」が 26.5%、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が 26.2%となっています。

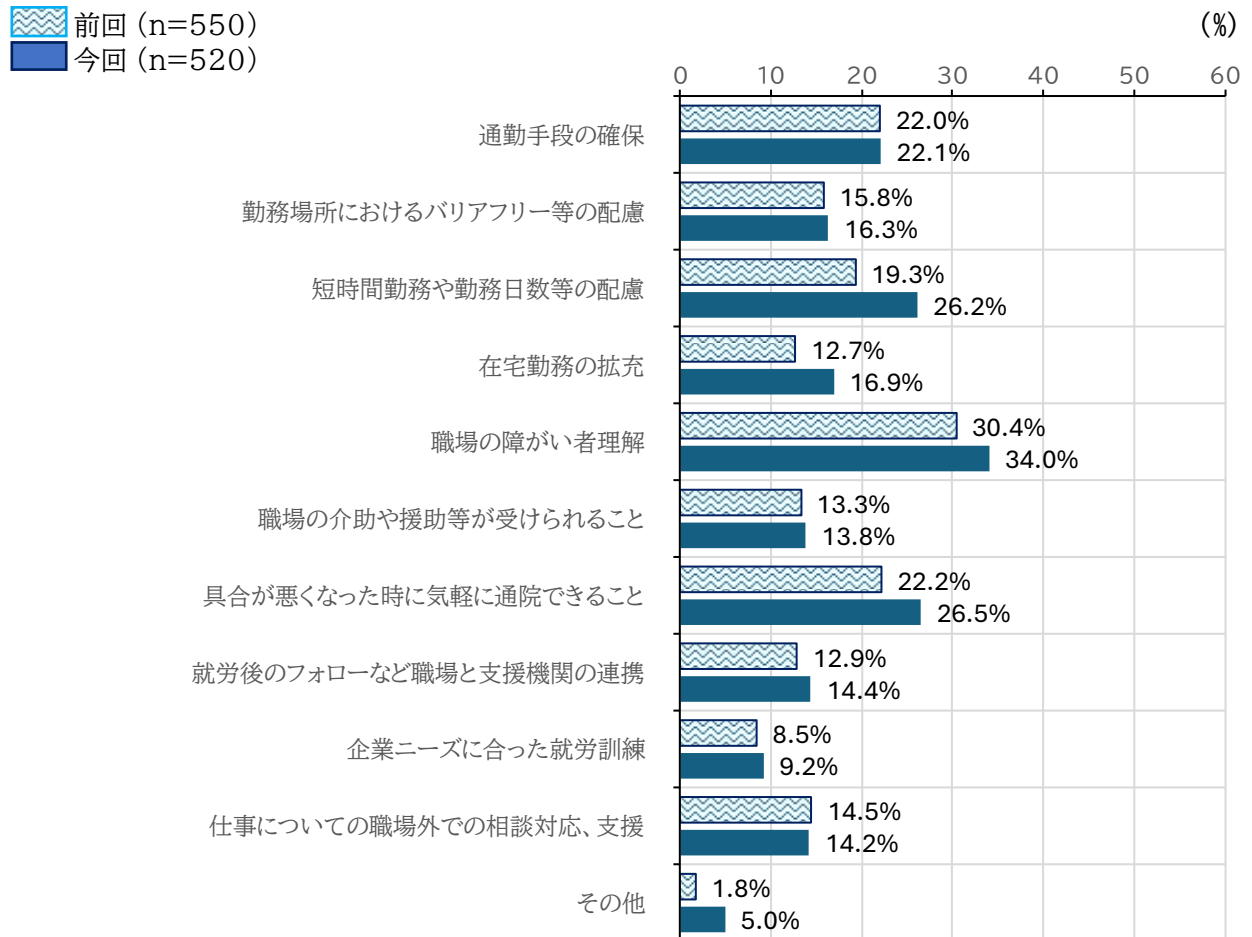
【全体】

全体 (n=520)



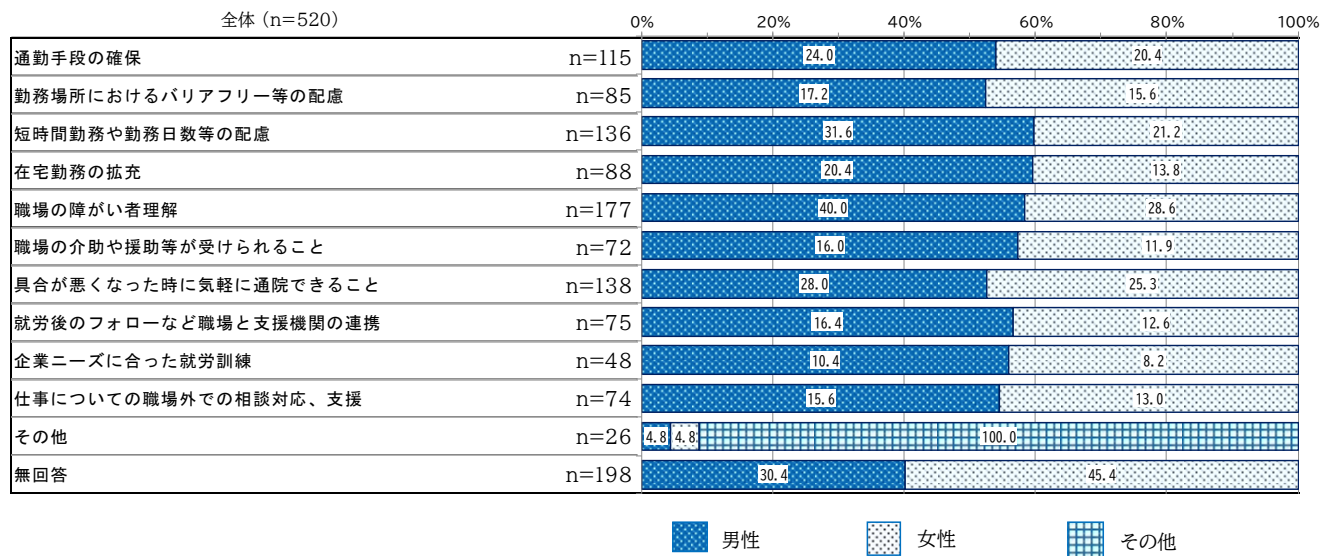
【前回比較】

障がい者の就労支援で必要なことについて、「職場の障がい者理解」が前回より 3.6 ポイント高くなっています。

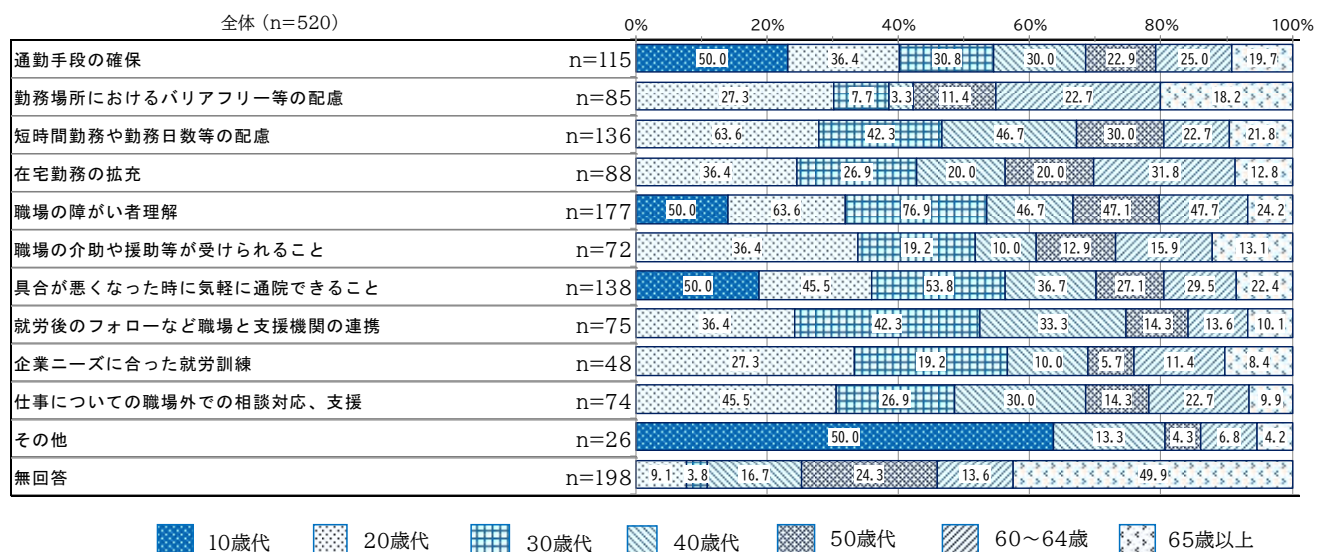


【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「職場の障がい者理解」が 11.4ポイント高くなっています。

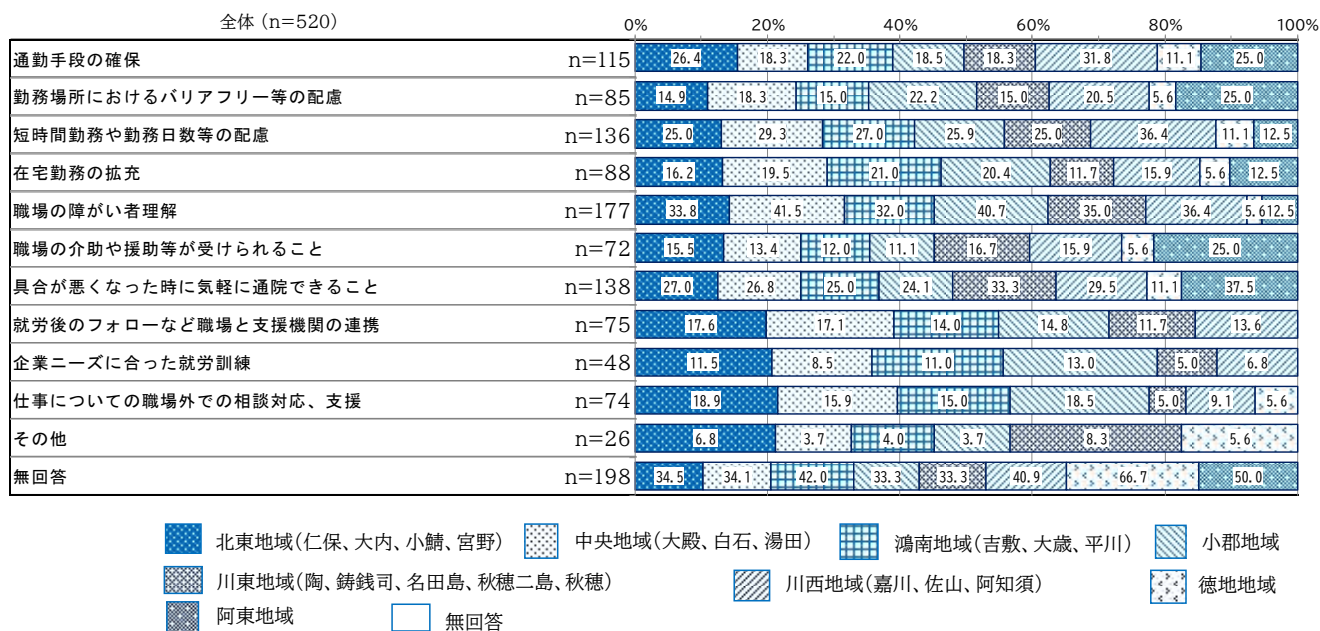


年齢別でみると、『40 歳代』を除き、『20 歳代』から『65 歳以上』に年齢が上がるにつれて、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」が低くなっています。



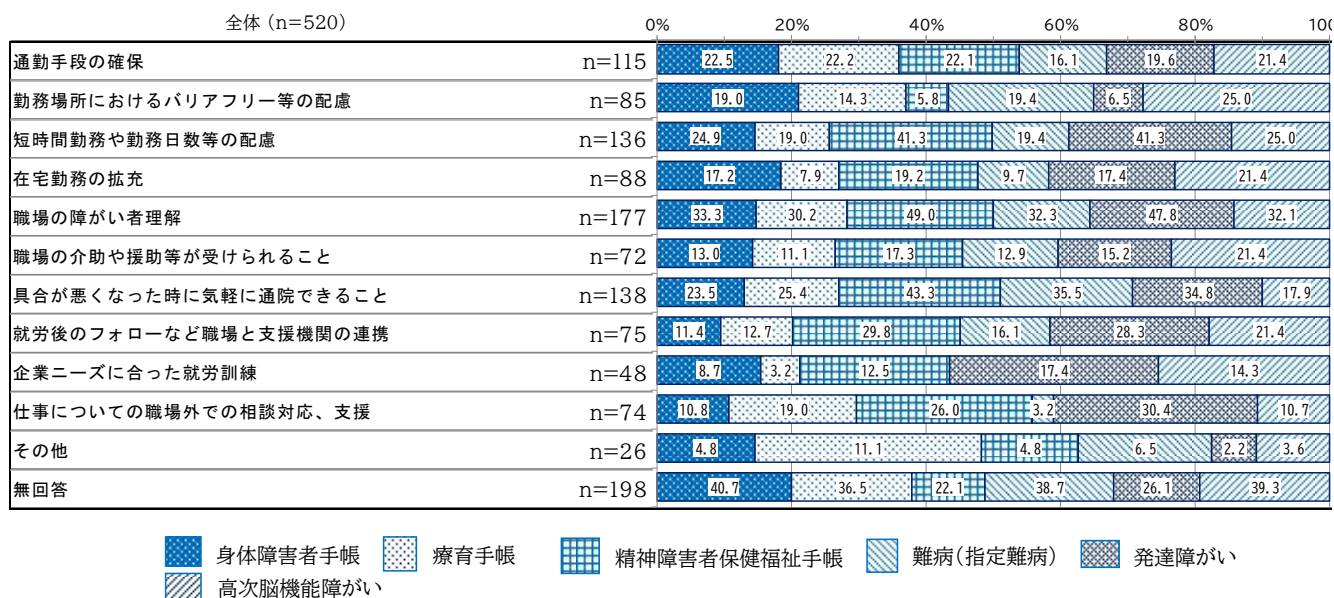
【地域別】

地域別でみると、「無回答」を除き、『川西地域』では「職場の障がい者理解」と「短時間勤務や勤務日数等の配慮」と「通勤手段の確保」、『徳地地域』では「職場の障がい者理解」と「短時間勤務や勤務日数等の配慮」と「通勤手段の確保」、『阿東地域』では「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」、それ以外では全て「職場の障がい者理解」が高くなっています。



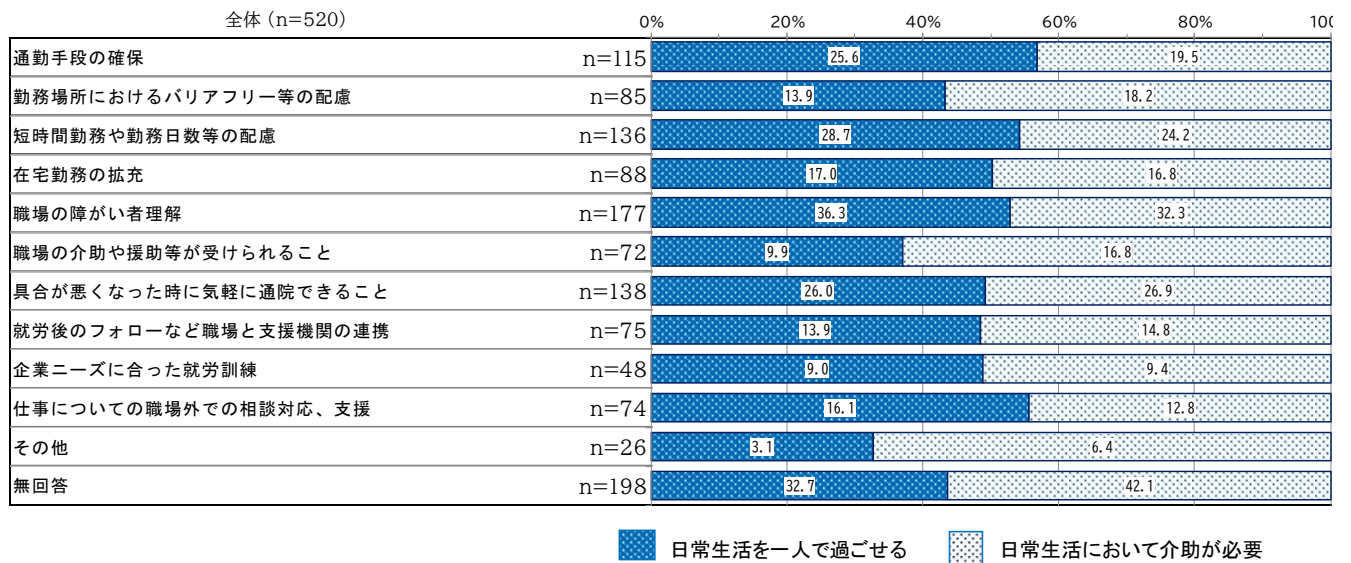
【障害種別】

障害種別でみると、「無回答」を除き、『難病（指定難病）』では「具合が悪くなった時に気軽に通院できること」、それ以外全てにおいて「職場の障がい者理解」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、「無回答」を除き、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「職業の介助や援助等が受けられること」が 6.9 ポイント低くなっています。



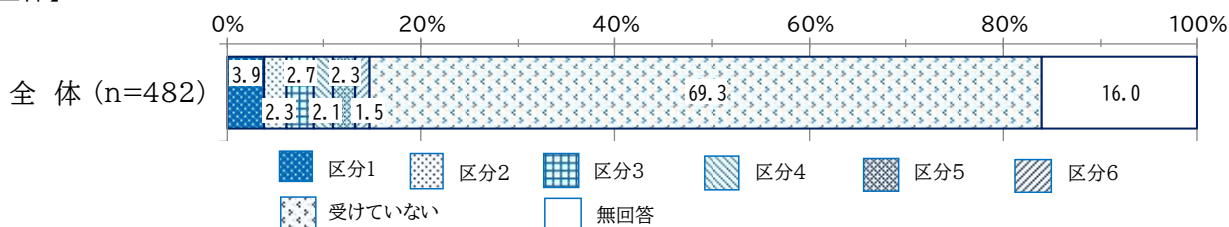
6. 障害福祉サービスの利用について

問5 2 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

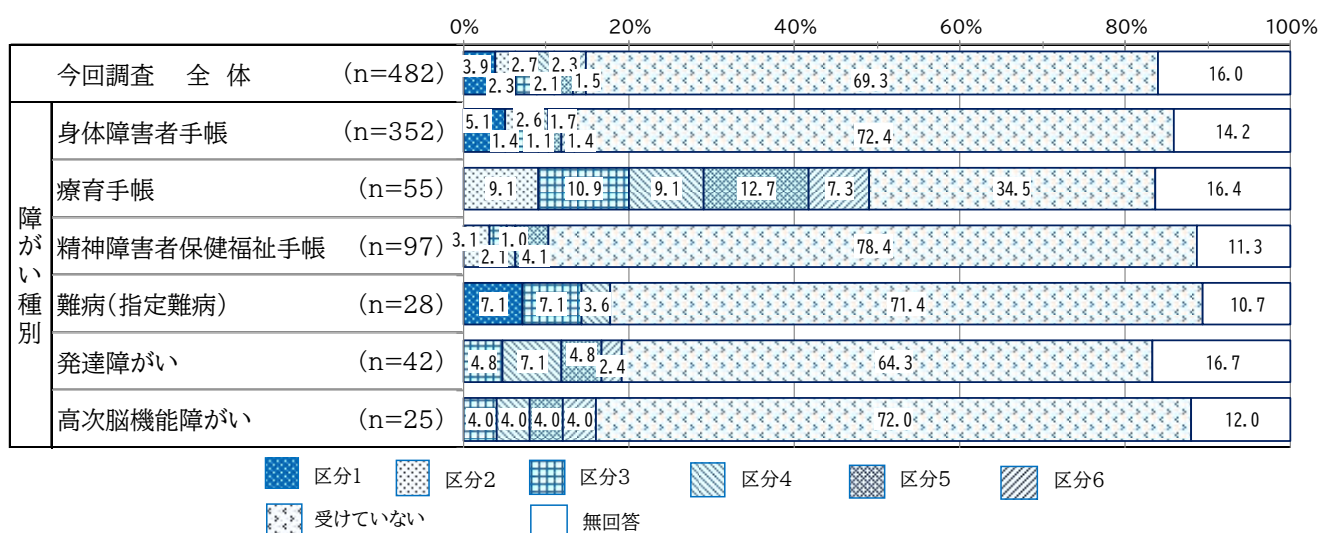
障害支援区分の認定について、「受けていない」69.3%と最も高くなっています。次いで、「区分1」が3.9%、「区分3」が2.7%となっています。

【全体】



【障害種別】

障害種別でみると、『療育手帳』が比較的区分が高くなっています。



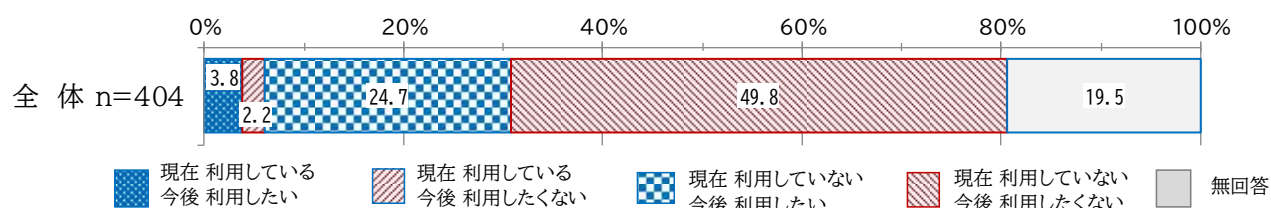
問5 3 あなたは次のサービスを利用していますか。また、今後利用したいと考えますか。

【①から⑰それぞれについて、「利用しているか」と「今後利用したいか」の両方を回答】

①全体評価として

現在サービスを利用している方の割合は 6.0 %と少なく、利用していない方でも、「今後利用したくない」と回答した方は、49.8 %と最も高くなっています。

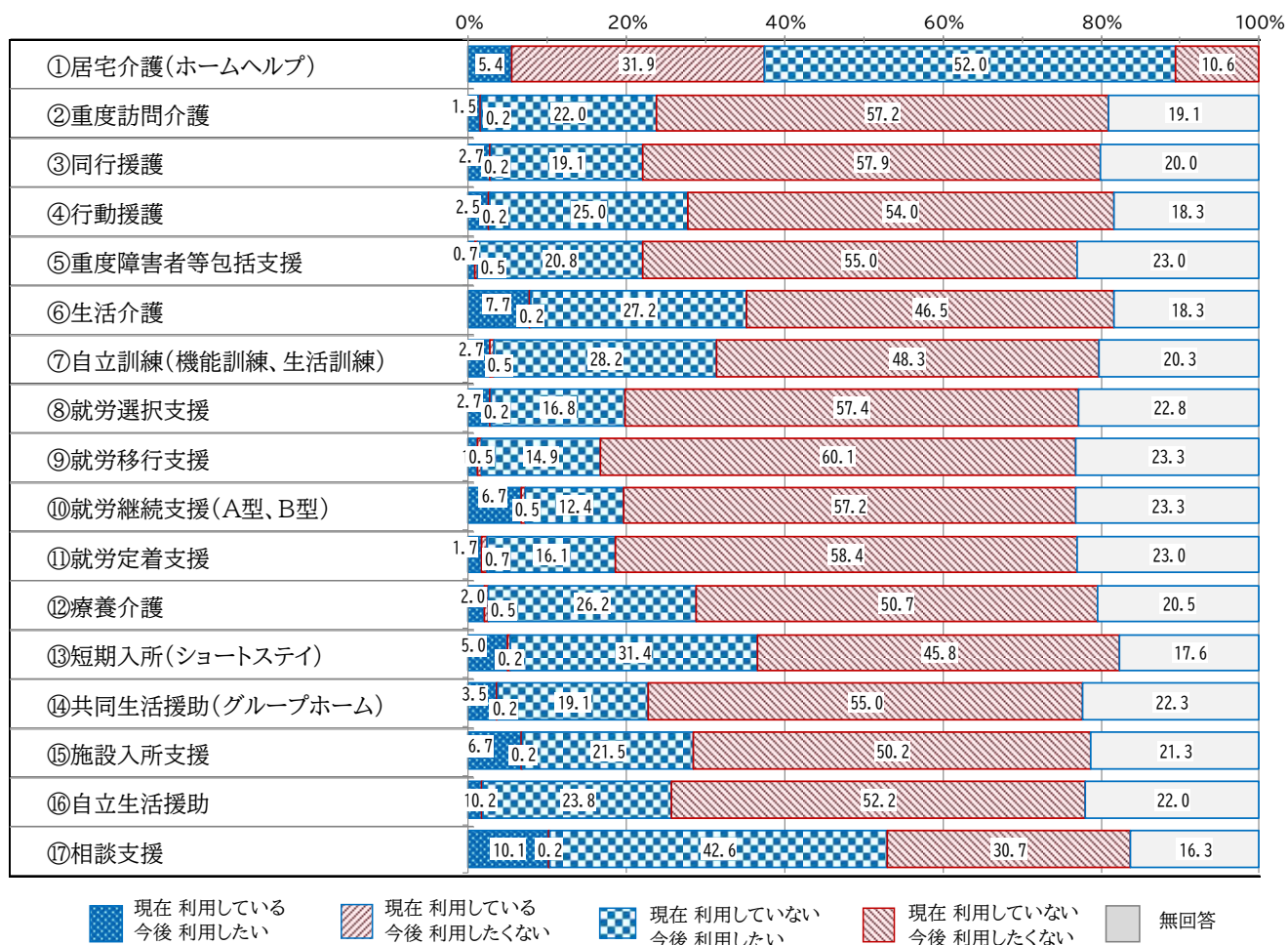
【総合割合】



②利用したいサービス

今後サービスを利用したいサービスについては、「①居宅介護（ホームヘルプ）」が 52.0 %と最も高くなっています。次いで、「⑰相談支援」が 42.6 %、「⑬短期入所（ショートステイ）」31.4 %となっています。

【全体】



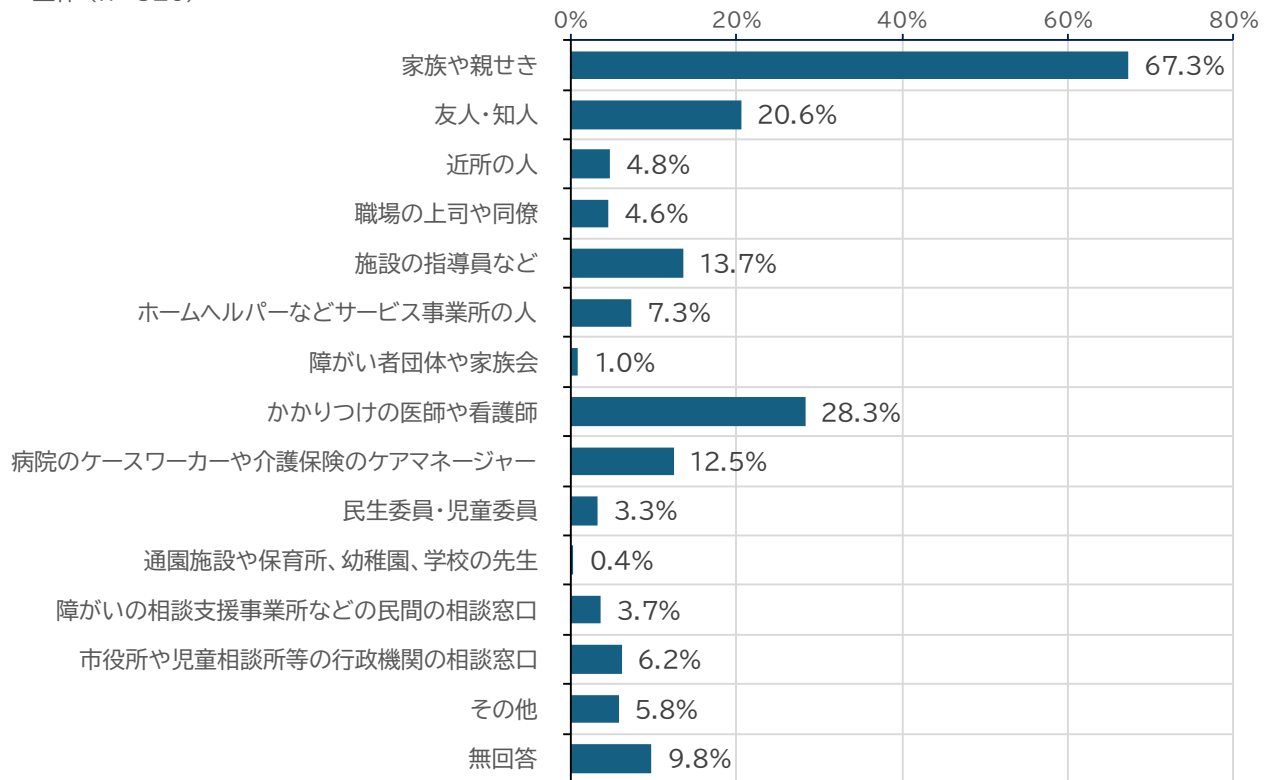
7. 相談相手について

問54 あなたは、普段、悩みや困ったことをどなたに相談しますか。 【該当する記号をすべて○】

悩みや困ったときの相談先について、「家族や親せき」が67.3%と最も高くなっています。次いで、「かかりつけの医師や看護師」28.3%、「友人・知人」20.6%となっています。

【全体】

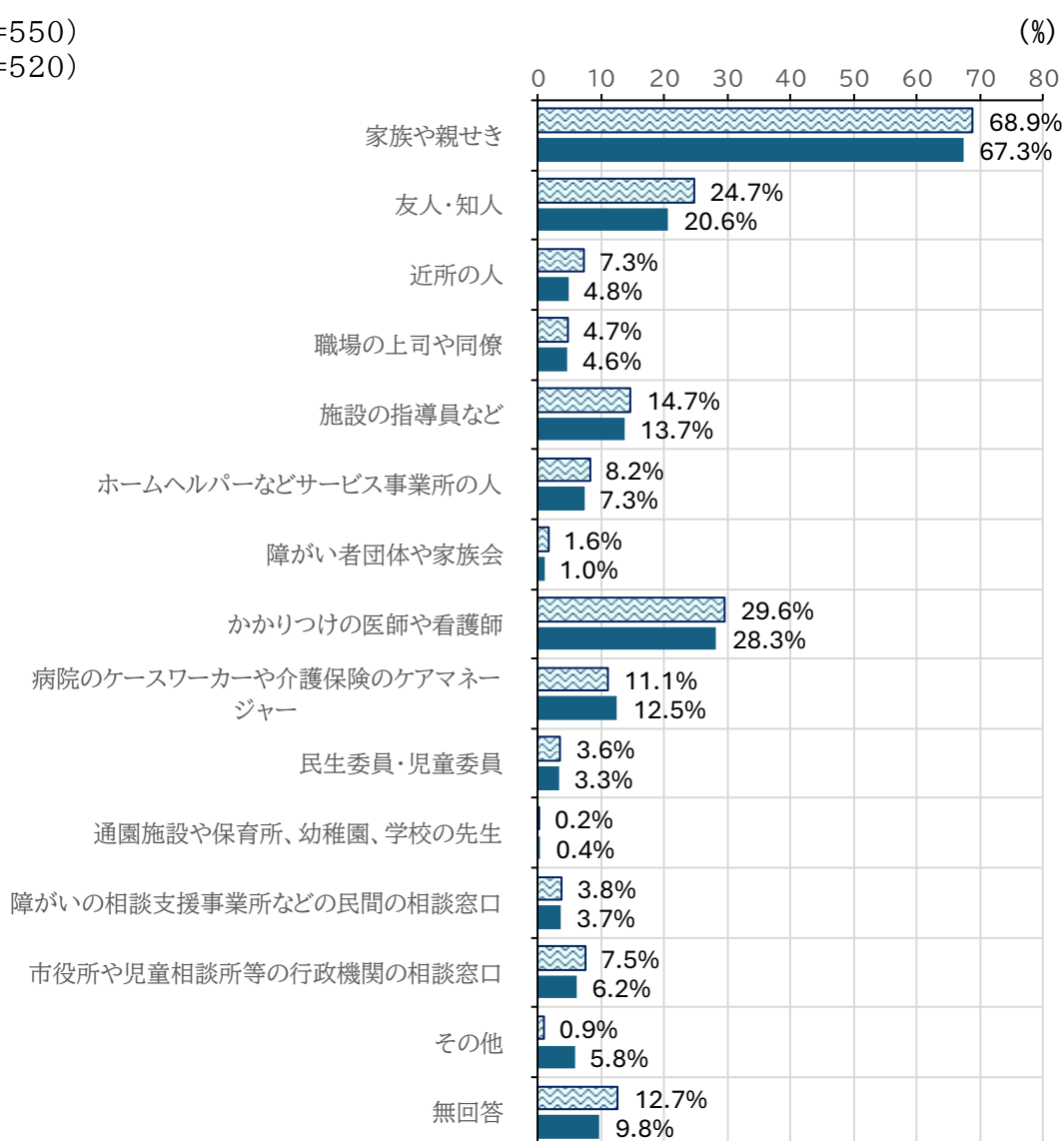
全体 (n=520)



【前回比較】

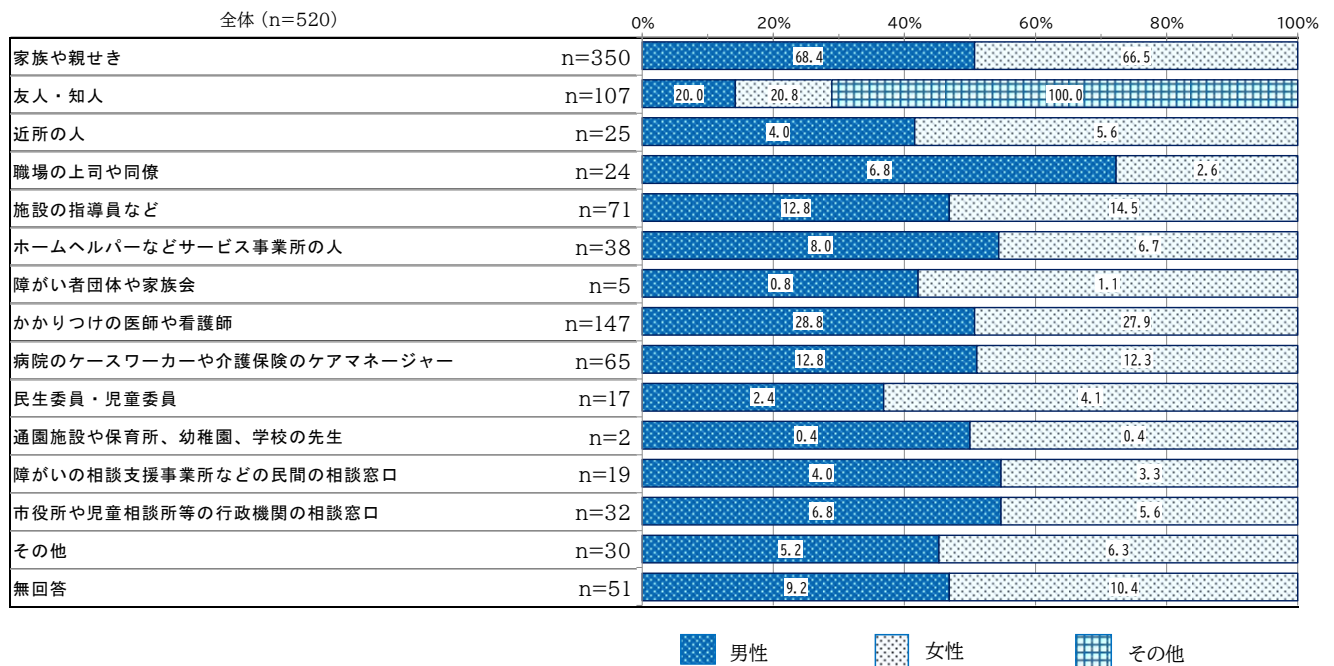
悩みや困ったときの相談先について、大きな変化はありません。

 前回 (n=550)
 今回 (n=520)

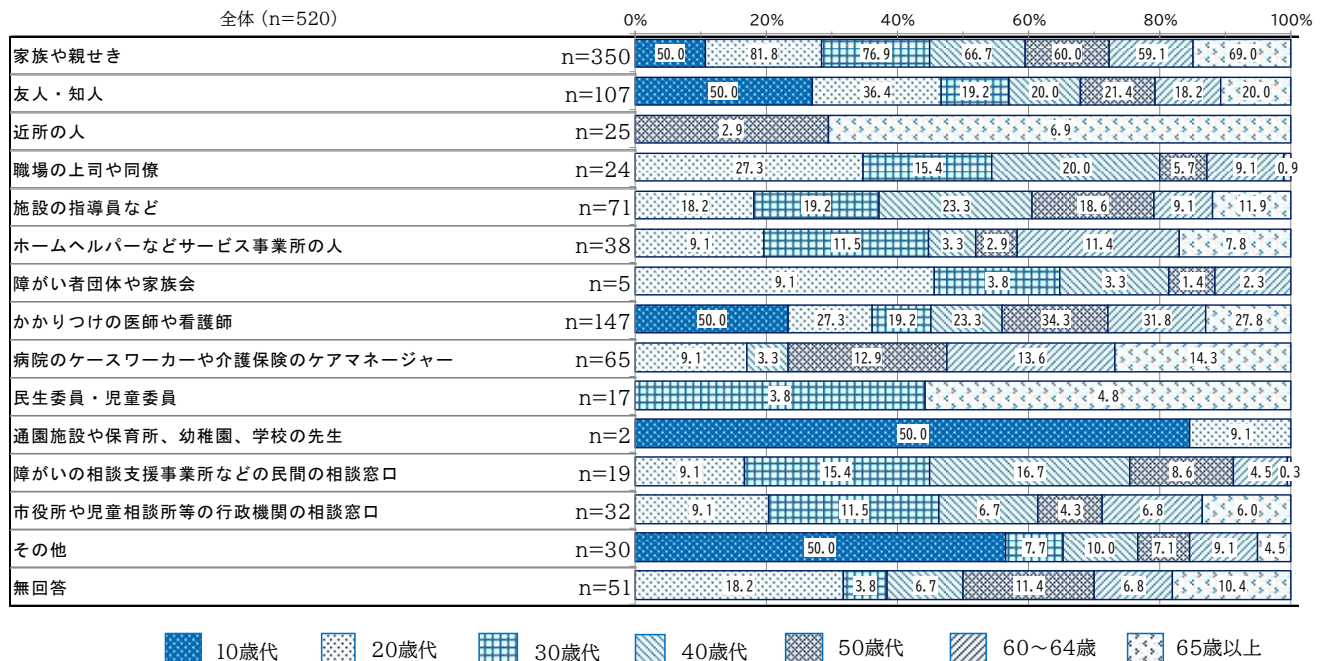


【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「職場の上司や同僚」が4.2ポイント高くなっています。

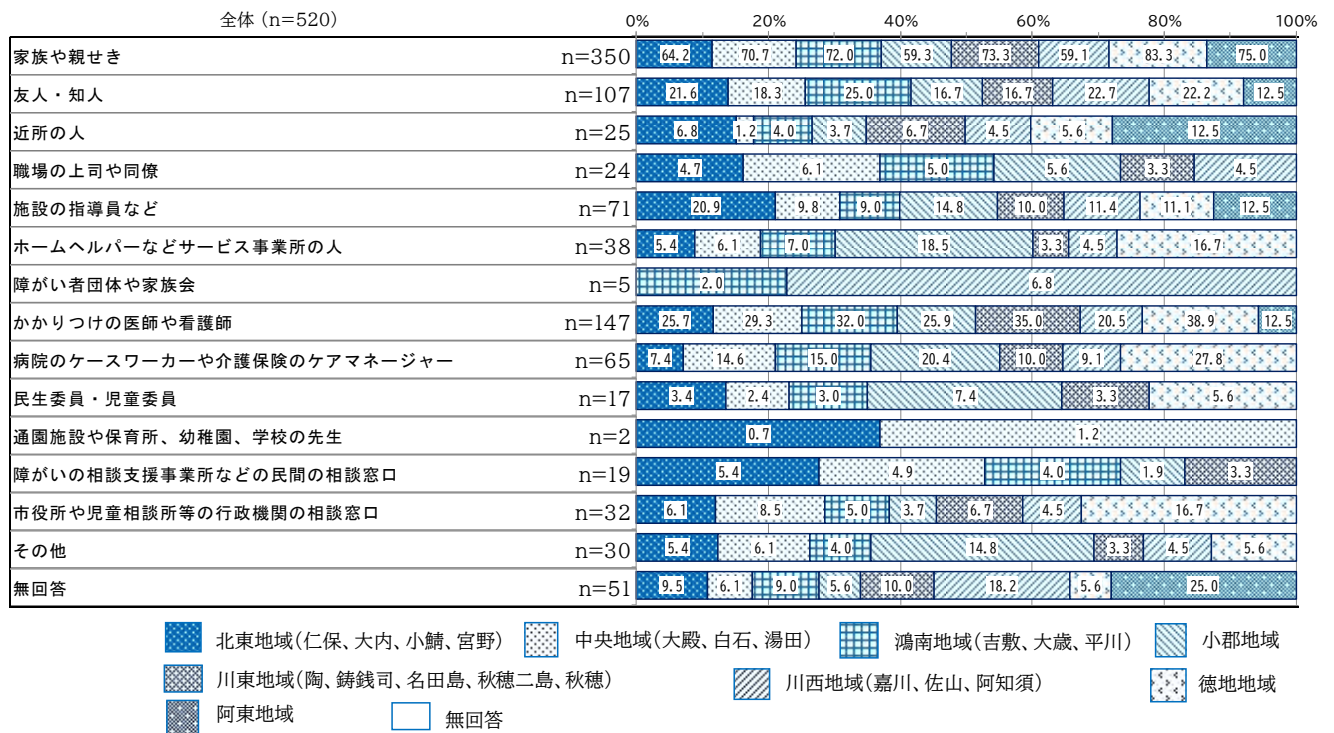


年齢別でみると、全ての年齢において「家族や親せき」が最も高く、5割以上となっています。



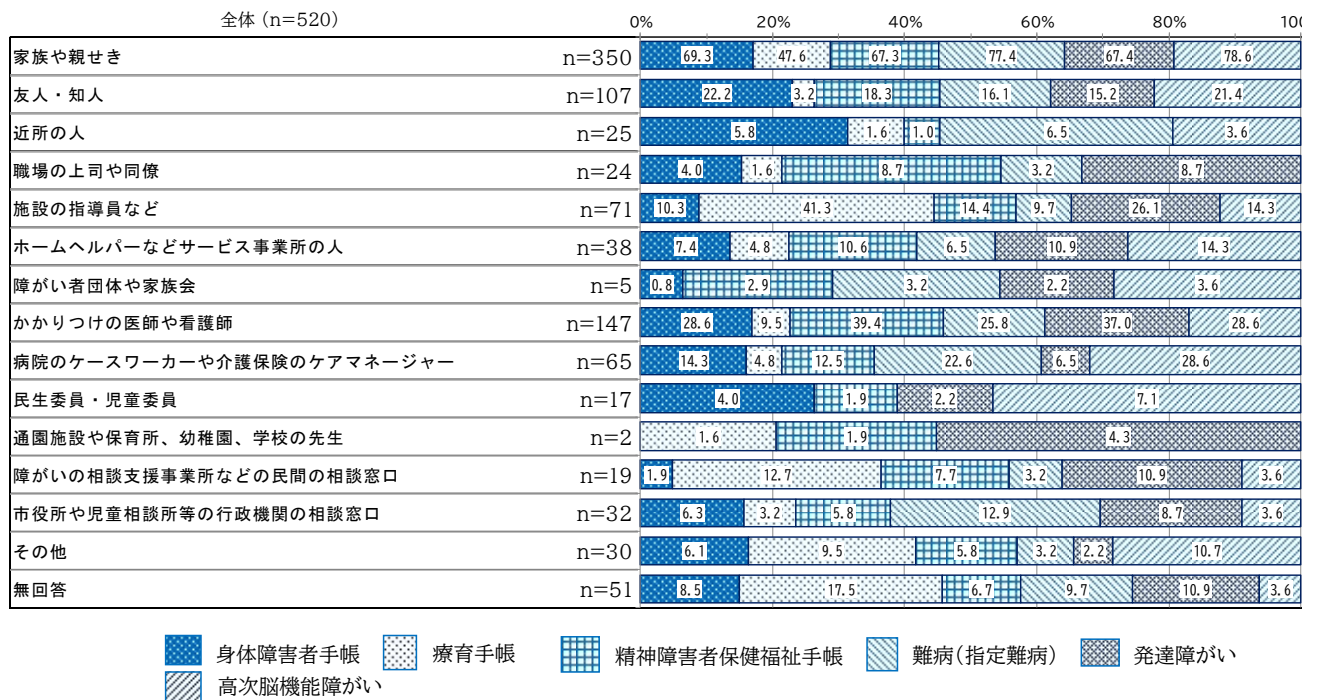
【地域別】

地域別でみると、全ての地域において「家族や親せき」が最も高くなっています。



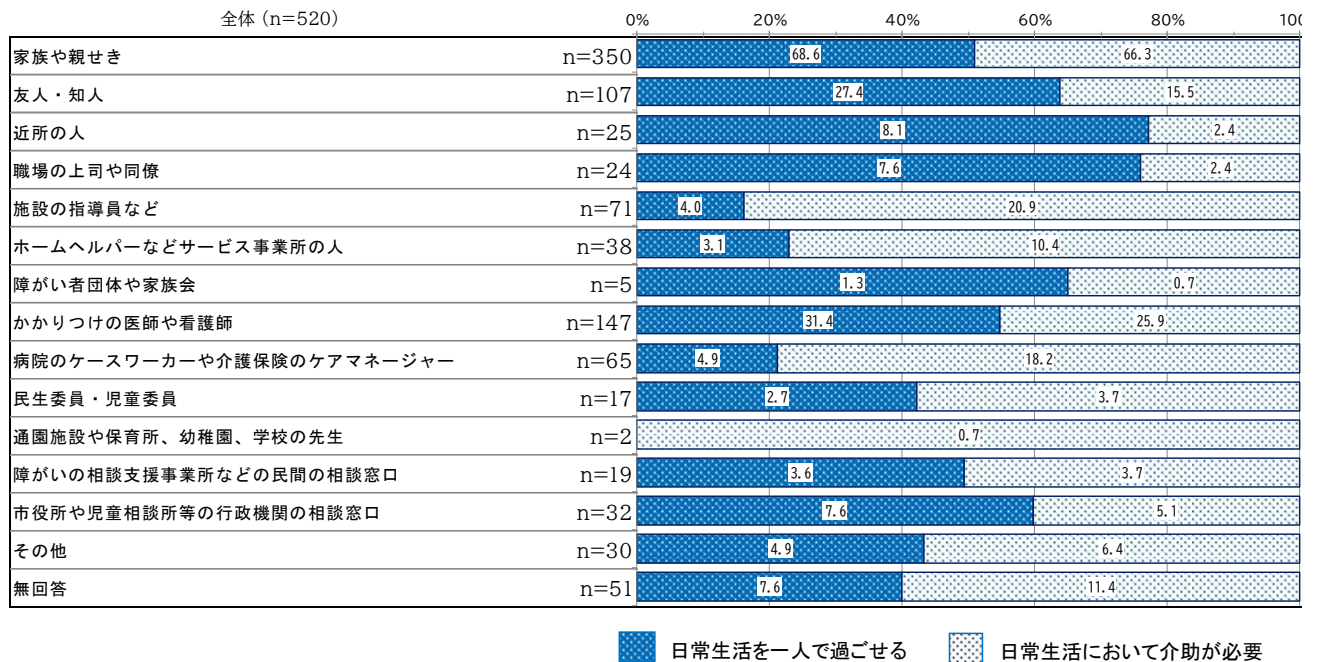
【障害種別】

障害種別でみると、全てにおいて「家族や親せき」が最も高くなっています。その中でも、『難病（指定難病）』、『高次脳機能障がい』では7割以上の方が回答しています。

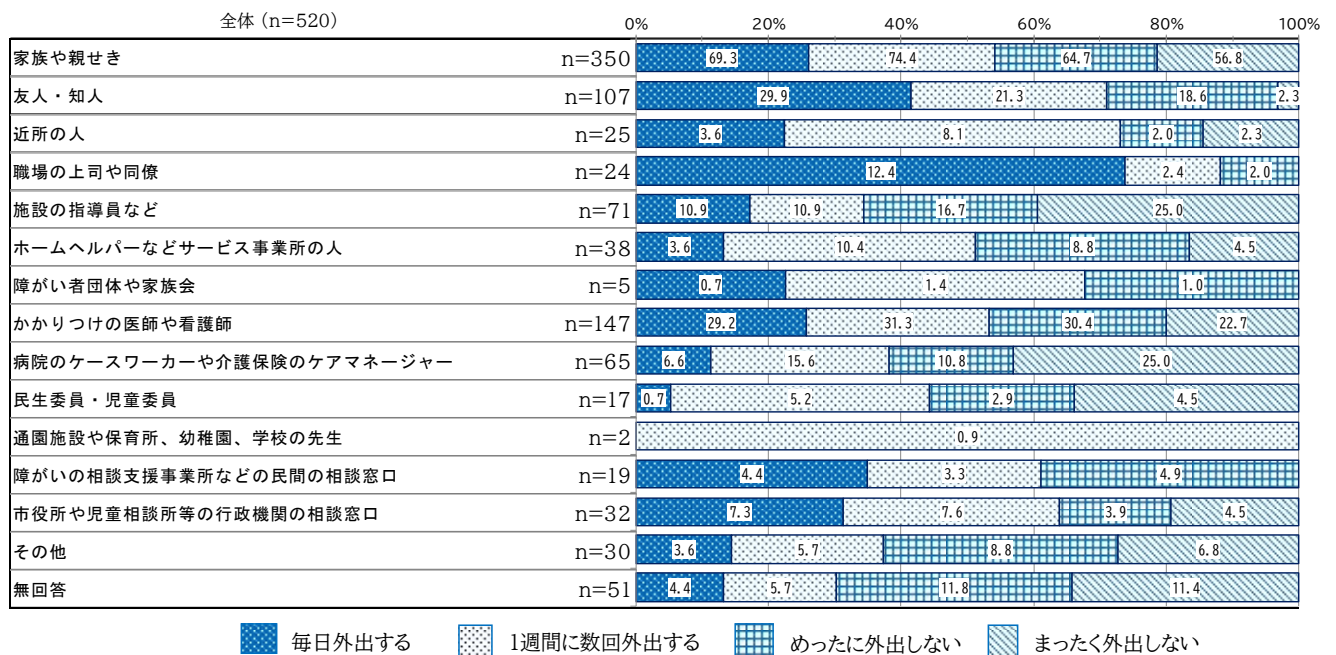


【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「施設の指導員など」が 16.9ポイント低くなっています。



【外出頻度別】

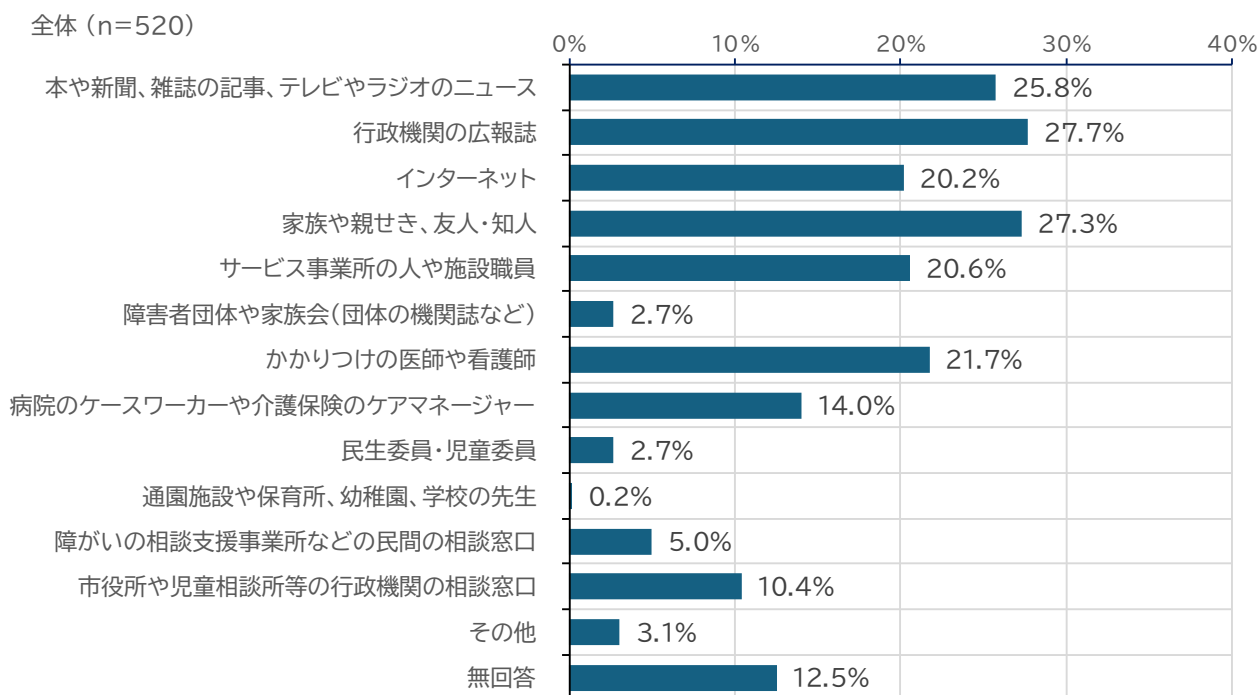


問55 あなたは、障がいのことや福祉サービスなどに関する情報を、どこから知ることが多いですか。

【該当する記号をすべて○】

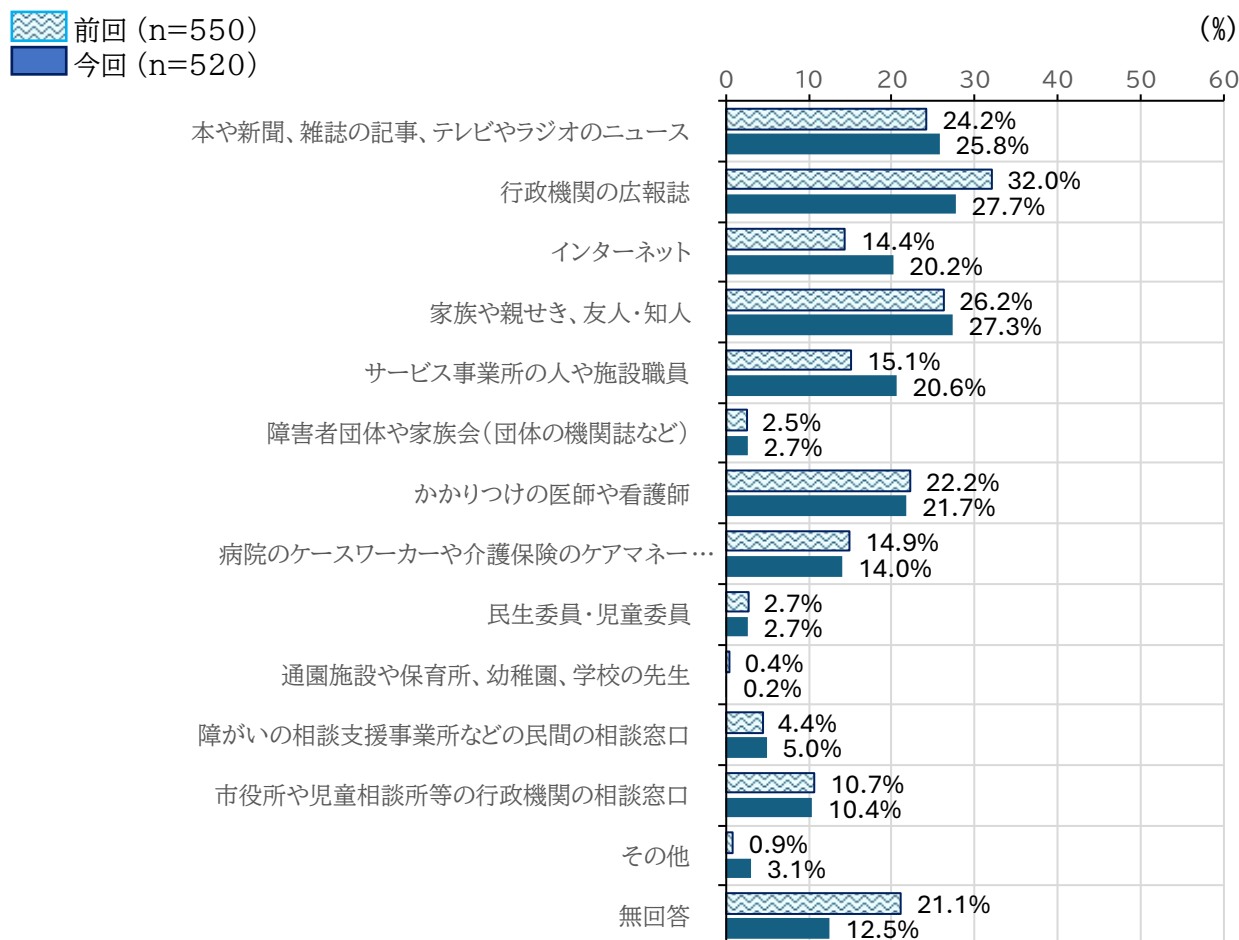
障がいや福祉サービスなどに関する情報について、「行政機関の広報誌」が 27.7%と最も高くなっています。次いで、「家族や親せき、友人・知人」が 27.3%、「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」が 25.8%となっています。

【全体】

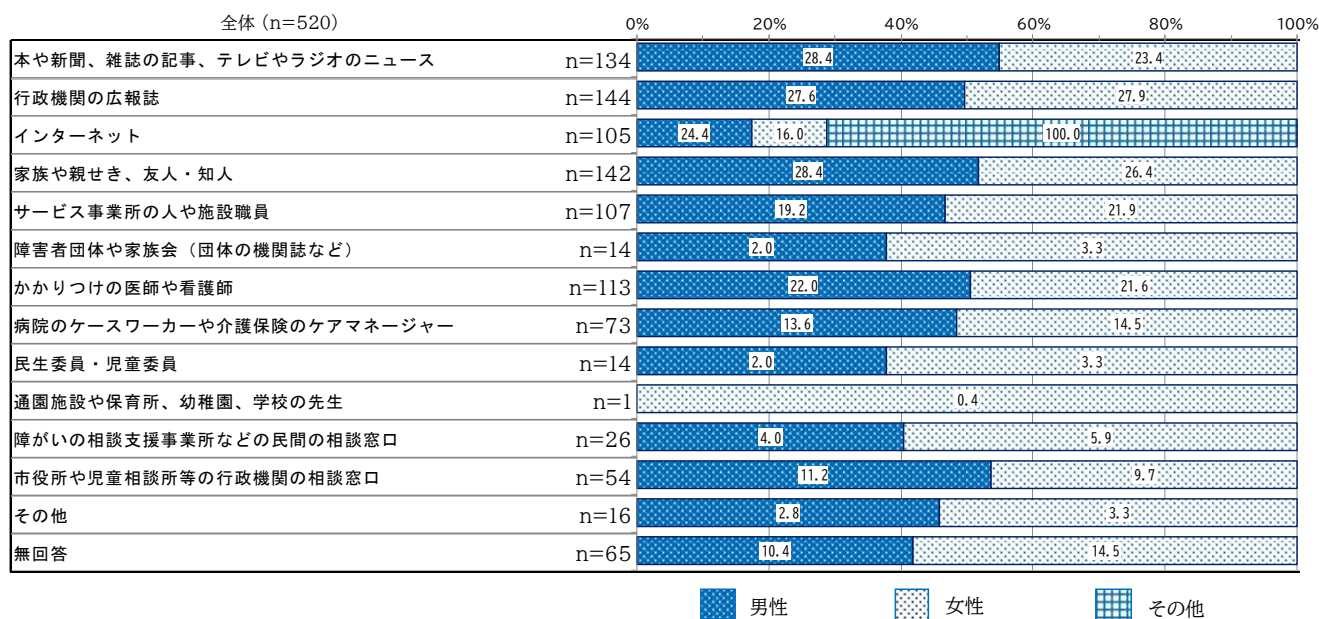


【前回比較】

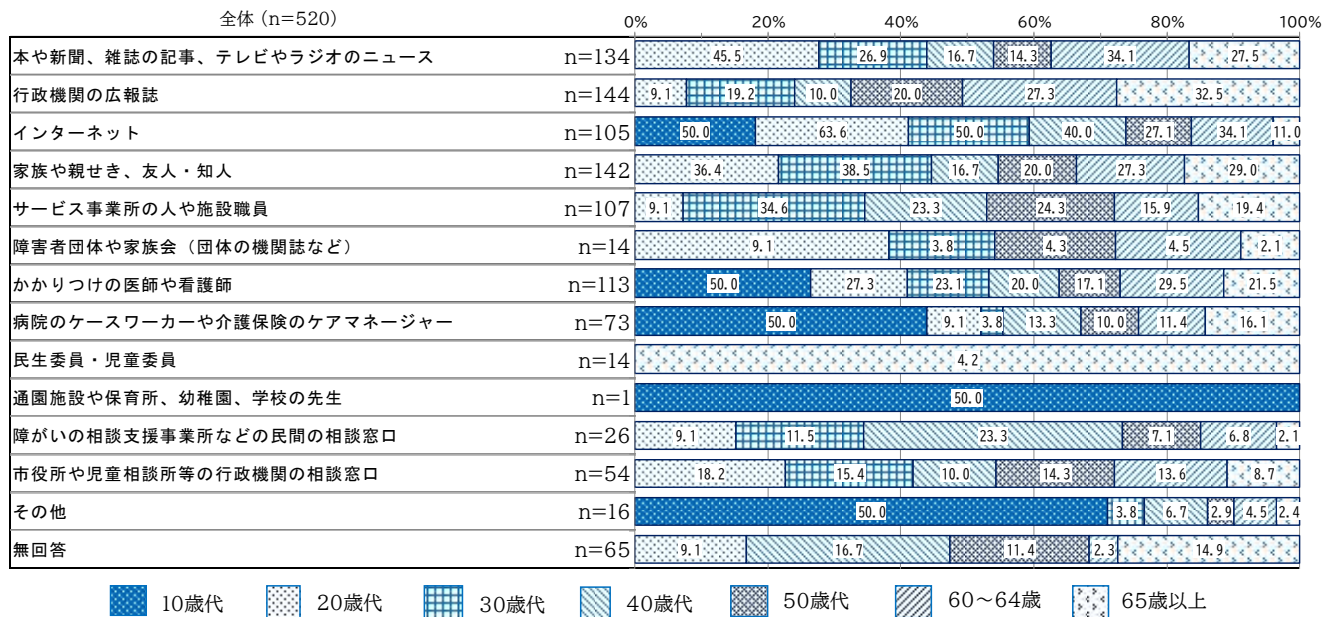
障がいや福祉サービスなどに関する情報について、「行政機関の広報誌」が前回より 4.3 ポイント低くなっていますが、「インターネット」では前回より 5.8 ポイント高くなっています。



【性別・年齢別】

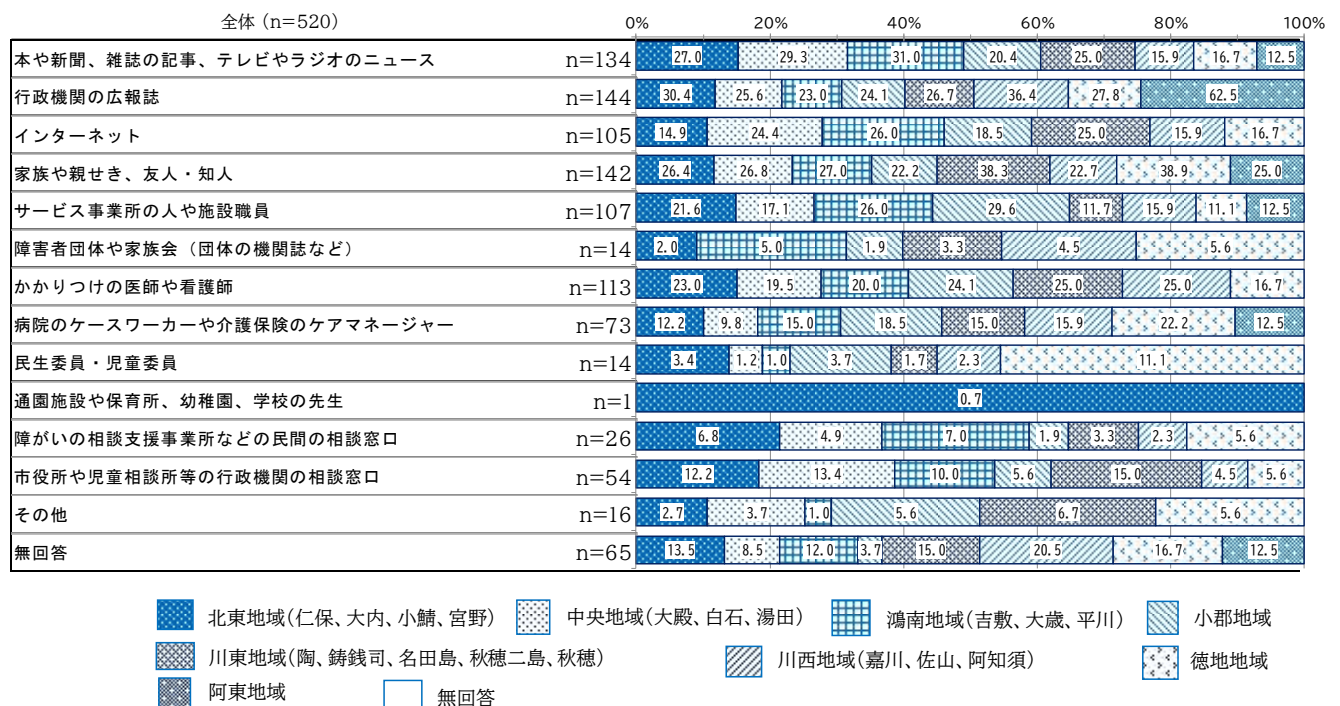


年齢別でみると、『40 歳代』から『65歳以上』に年齢が上がるにつれて、「行政機関の広報誌」が高くなっています。



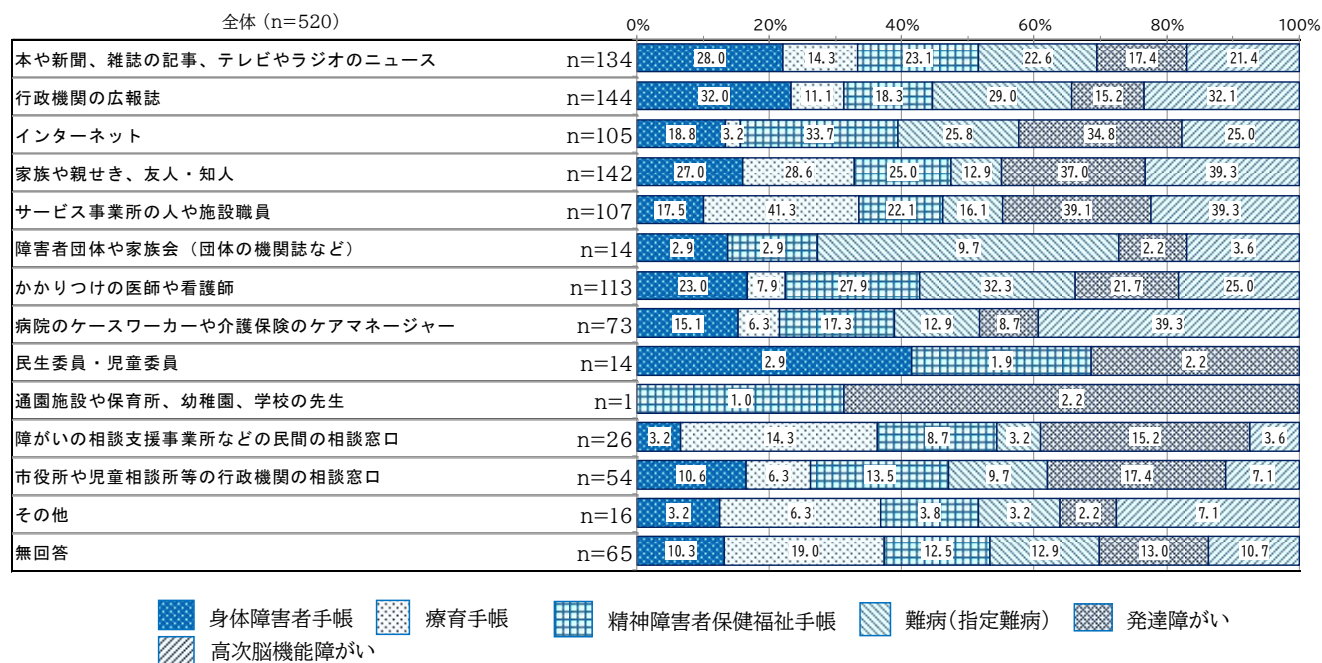
【地域別】

地域別でみると、「無回答」を除き、『小郡地域』では「サービス事業所の人や施設職員」が、『北東地域』、『川西地域』、『阿東地域』では「行政機関の広報誌」、それ以外では全て「家族や親せき、友人・知人」が高くなっています。



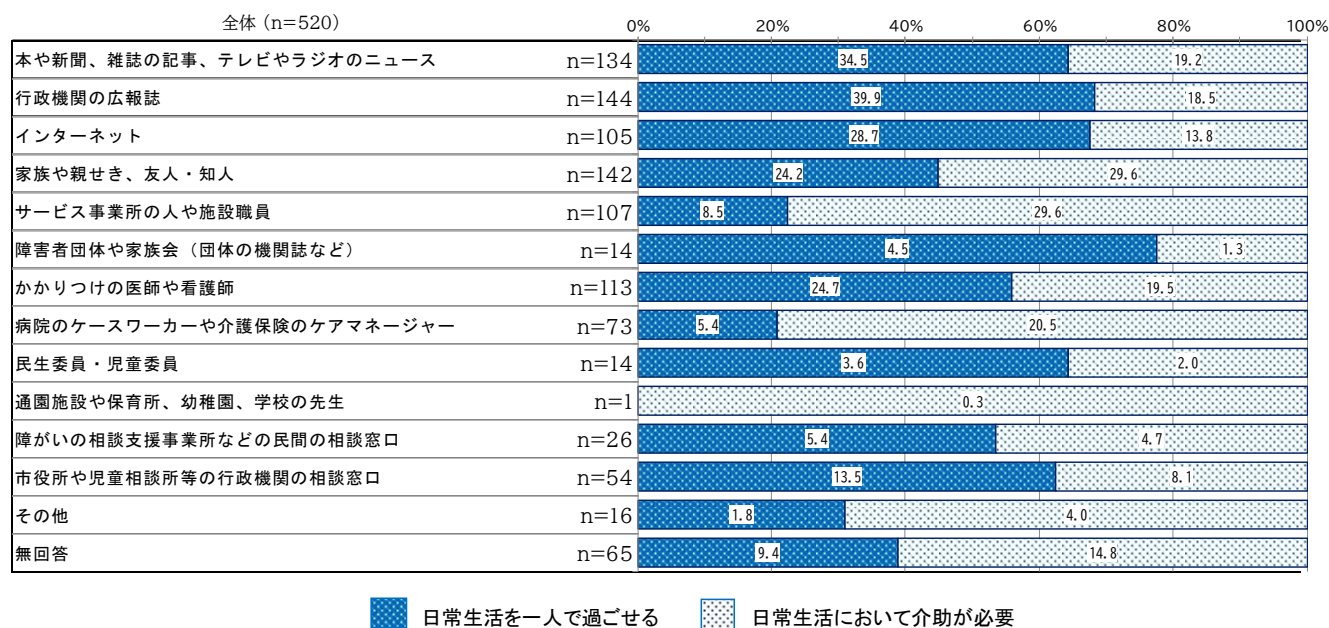
【障害種別】

障害種別でみると、『身体障害者手帳』では「行政機関の広報誌」が、『療育手帳』、『発達障がい』では「サービス事業所の人や施設職員」が、『精神障害者保健福祉手帳』では「インターネット」が、『難病（指定難病）』「かかりつけの医師や看護師」が、『高次脳機能障がい』では「家族や親せき、友人・知人」と「サービス事業所の人や施設職員」と「病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー」が、ではが最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「行政機関の広報誌」が 21.4ポイント高くなっています。

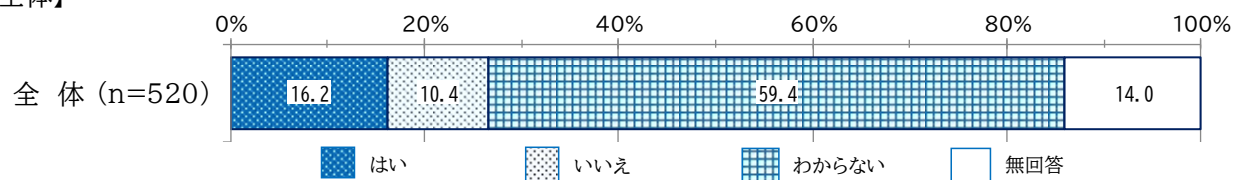


問56 あなたは、障がいに関する山口市の相談支援体制が整っていると思いますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

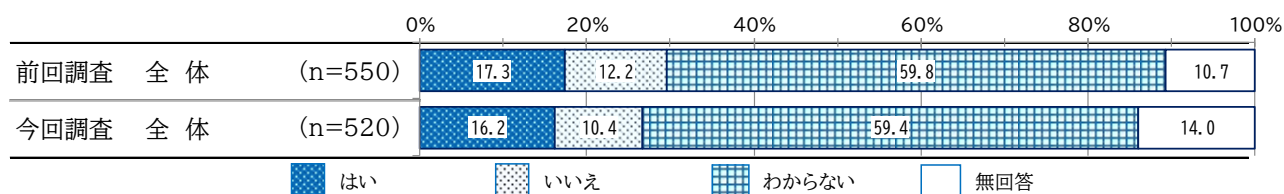
山口市の相談支援体制が整っているかの有無について、「はい」が16.2%、「いいえ」10.4%となっています。

【全体】



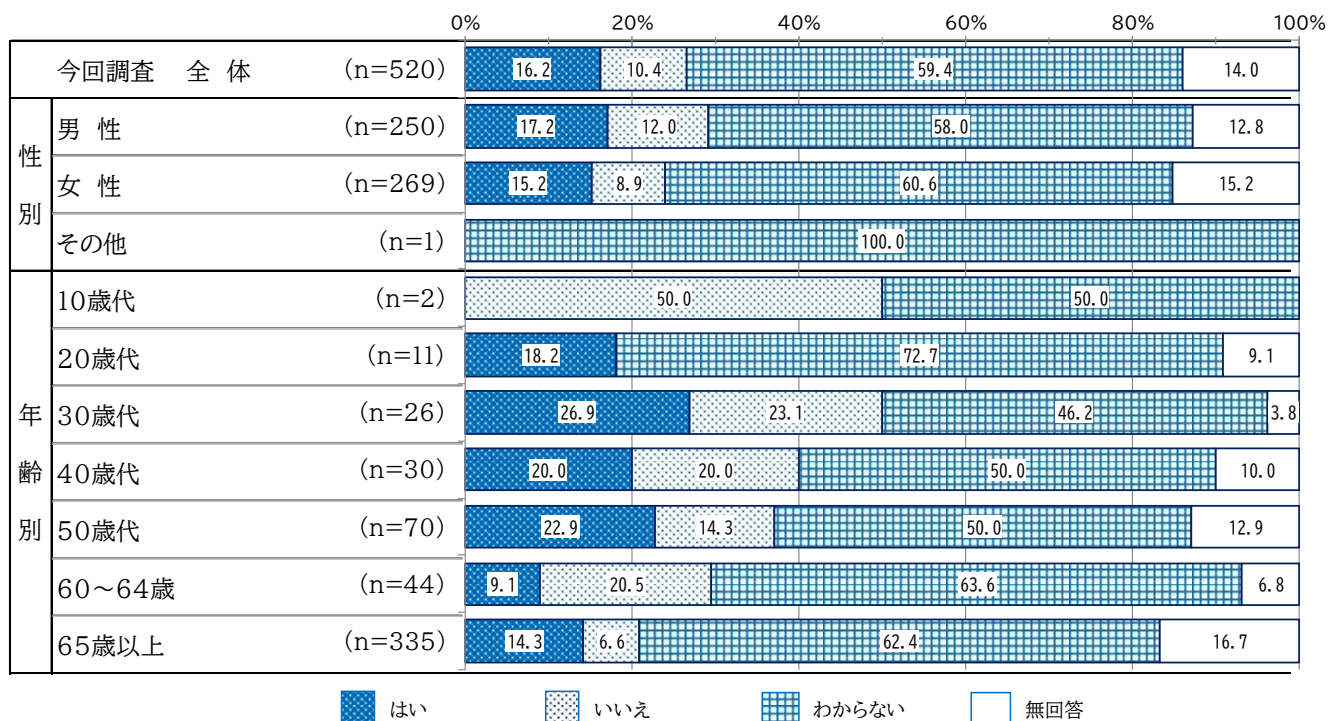
【前回比較】

山口市の相談支援体制が整っているかの有無について、大きな変化はありません。



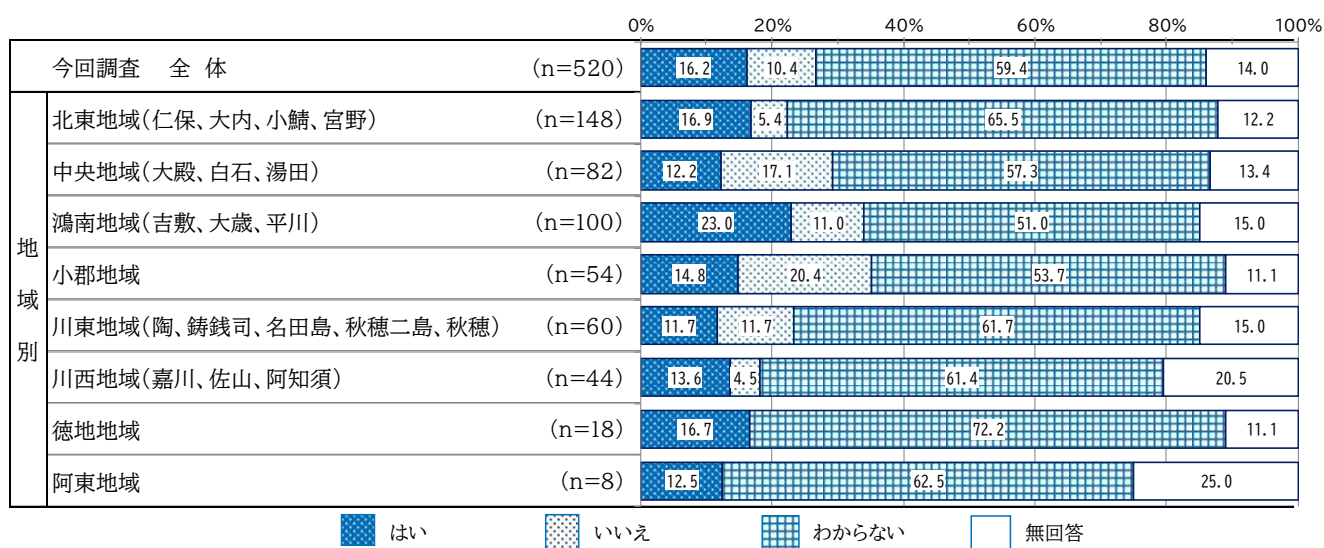
【性別・年齢別】

年齢別でみると、『60～64歳』では、「はい」が1割以下となっています。



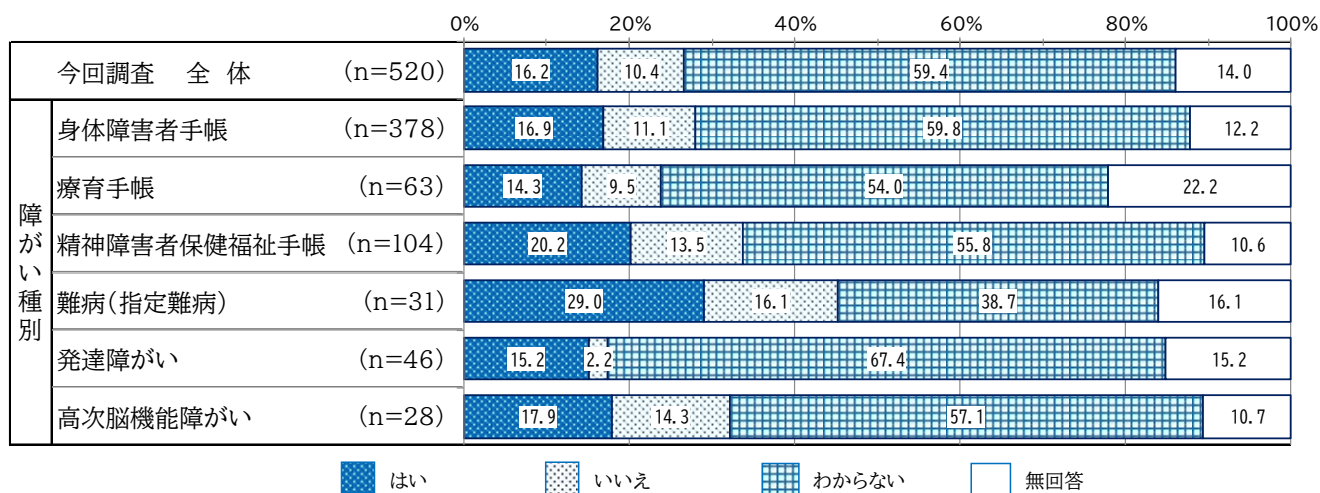
【地域別】

地域別でみると、全ての地域において「わからない」が最も高くなっています。



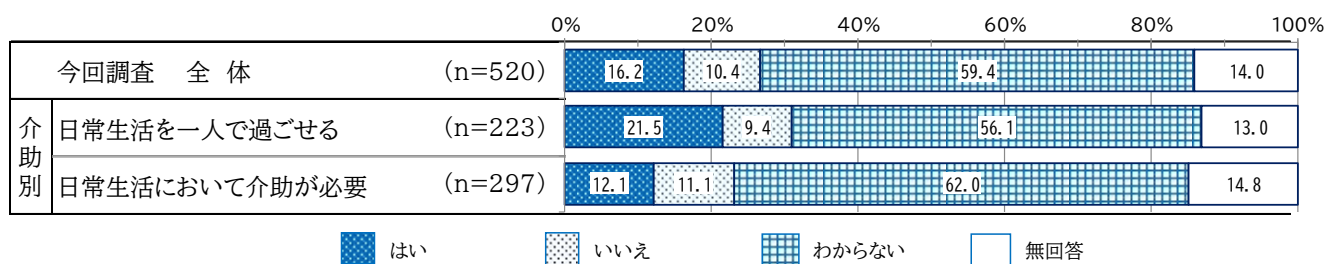
【障害種別】

障害種別でみると、『精神障害者保健福祉手帳』、『難病（指定難病）』では2割以上の方が「はい」と回答しています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「いいえ」が 1.7 ポイント低くなっています。



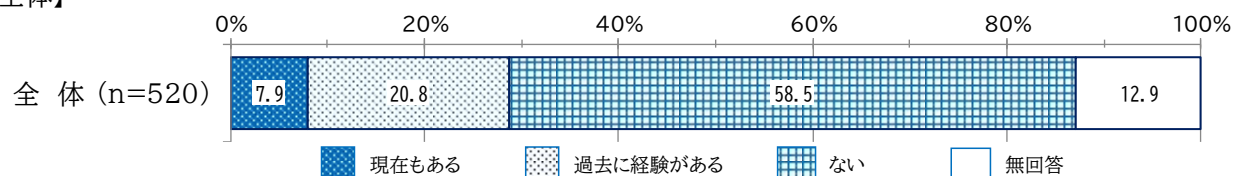
8. 権利擁護について

問57 あなたは、障がいがあることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験がありますか。

【該当する記号をすべて○】

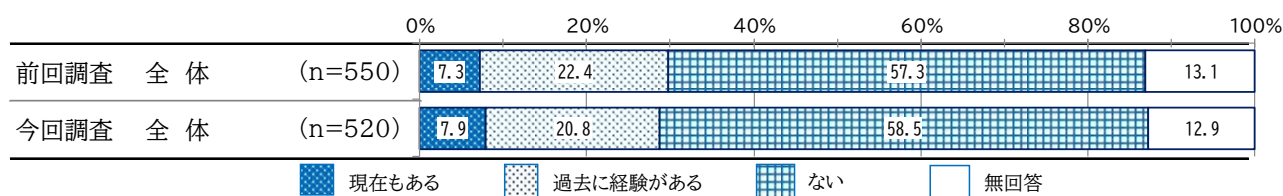
障がいがあることで差別を受けたり、嫌な思いを経験したかについて、「ない」が58.5%と最も高くなっています。次いで、「過去に経験がある」20.8%、「現在もある」7.9%となっています。

【全体】



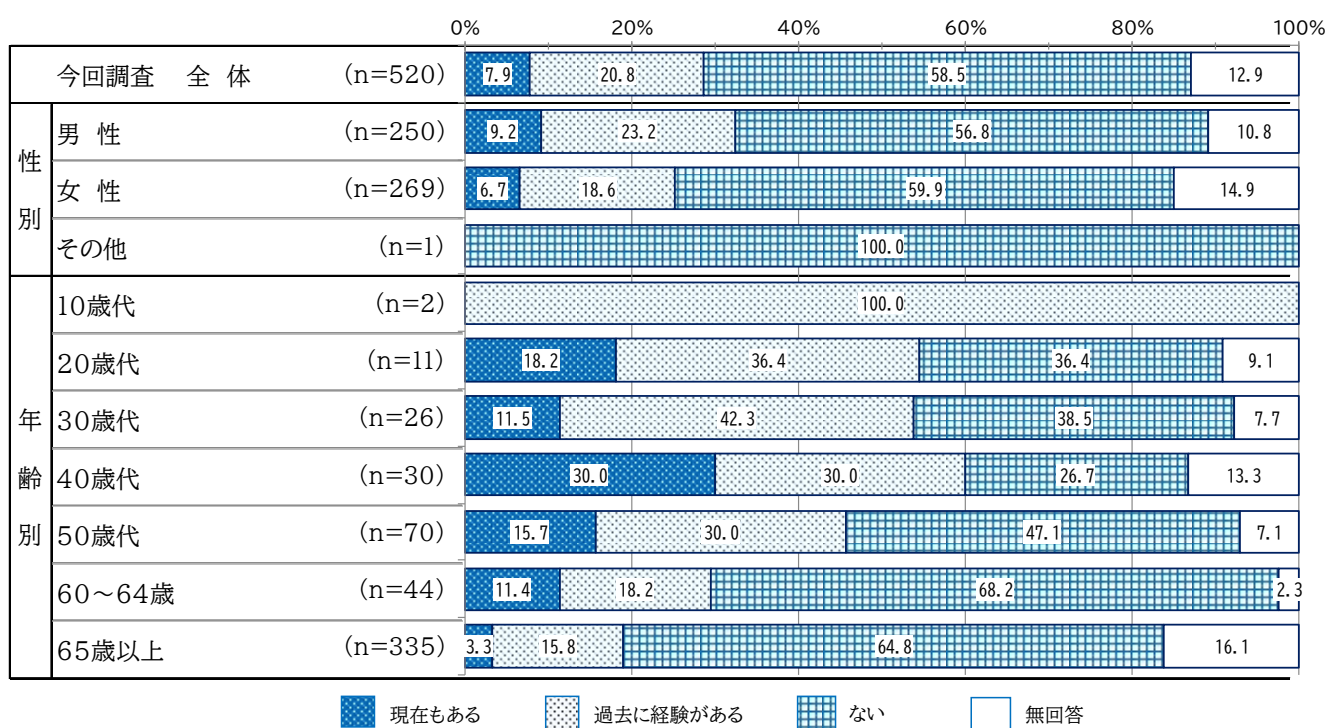
【前回比較】

障がいがあることで差別を受けたり、嫌な思いを経験したかについて、大きな変化はありません。



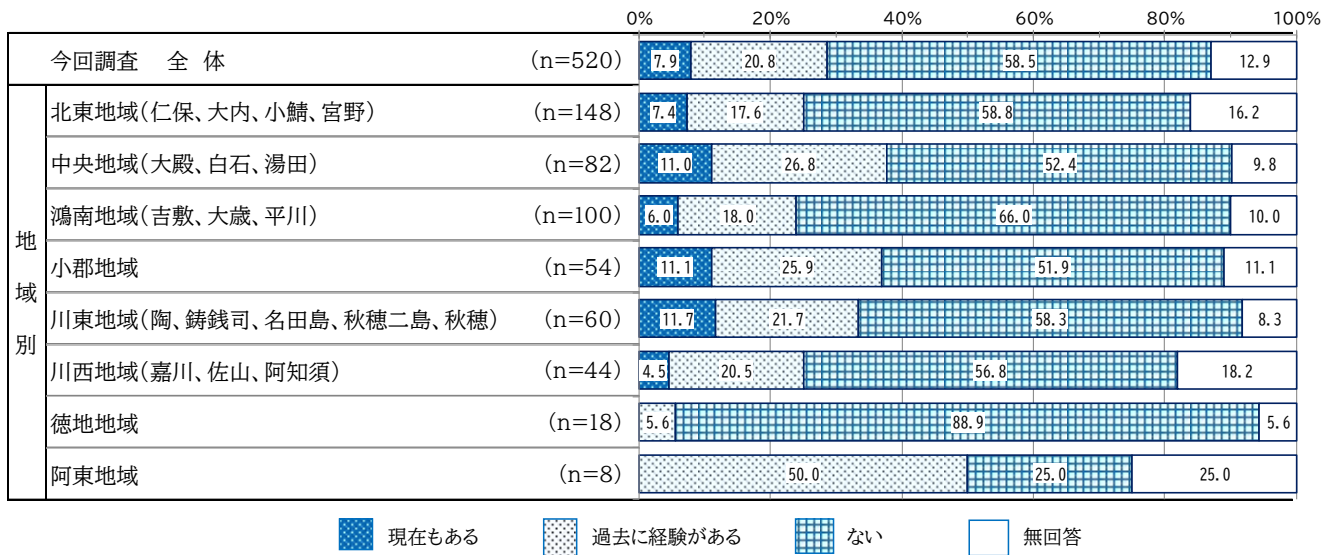
【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「過去に経験がある」が4.6ポイント高くなっています。年齢別でみると、『40歳代』から『65歳以上』に年齢が上がるにつれて、「現在もある」が低くなっています。また、『40歳代』では「現在もある」と回答した人が3割を超えて高くなっています。



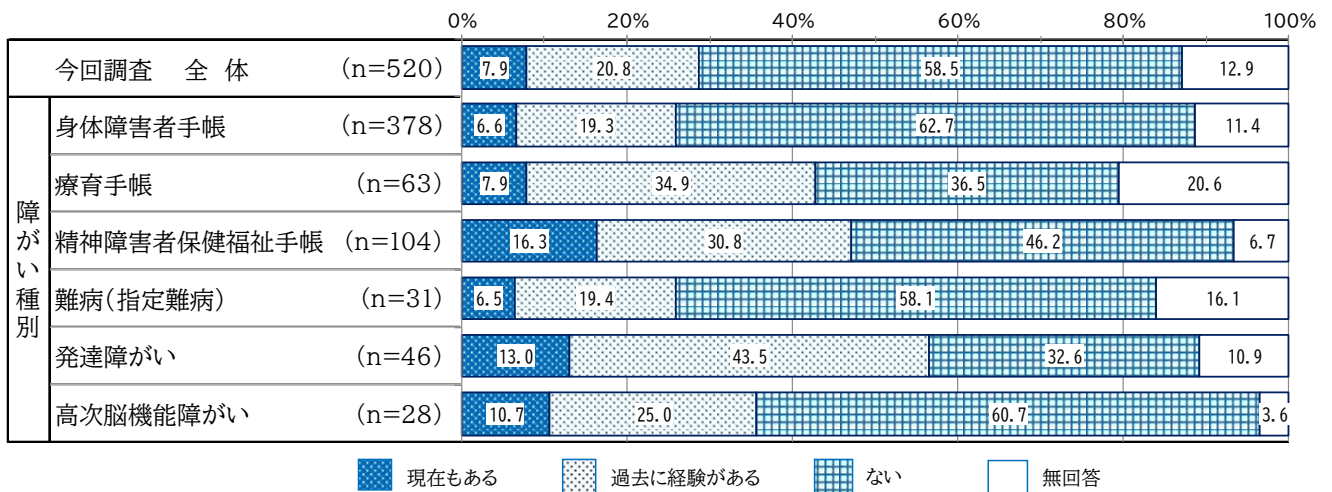
【地域別】

地域別でみると、『阿東地域』を除いて全ての地域において「ない」が最も高くなっています。また、『中央地域』、『小郡地域』、『川東地域』では「現在もある」と回答した人が1割以上と高くなっています。



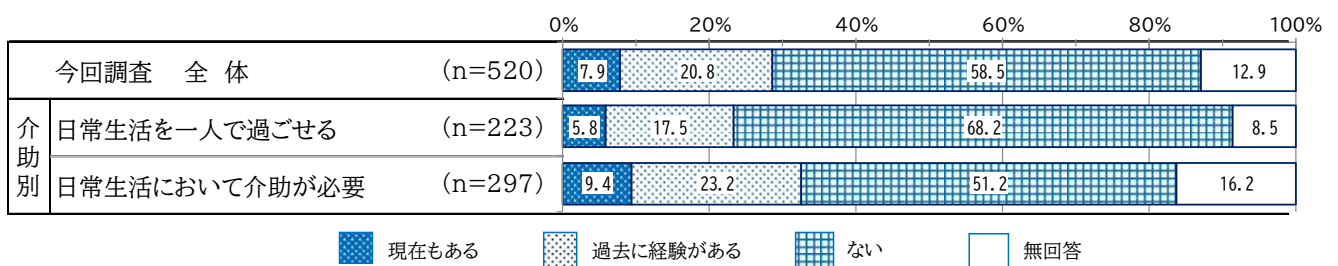
【障害種別】

障害種別でみると、『発達障がい』では「過去に経験がある」、それ以外では全て「ない」が最も高くなっています。また、『発達障がい』では「過去に経験がある」と回答した人が4割を超えて高くなっています。



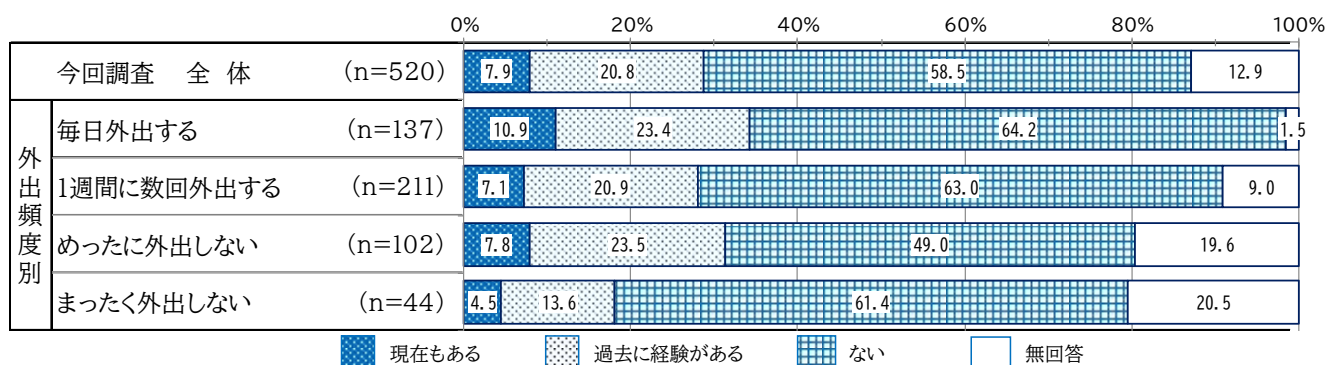
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「ない」が17ポイント高くなっています。



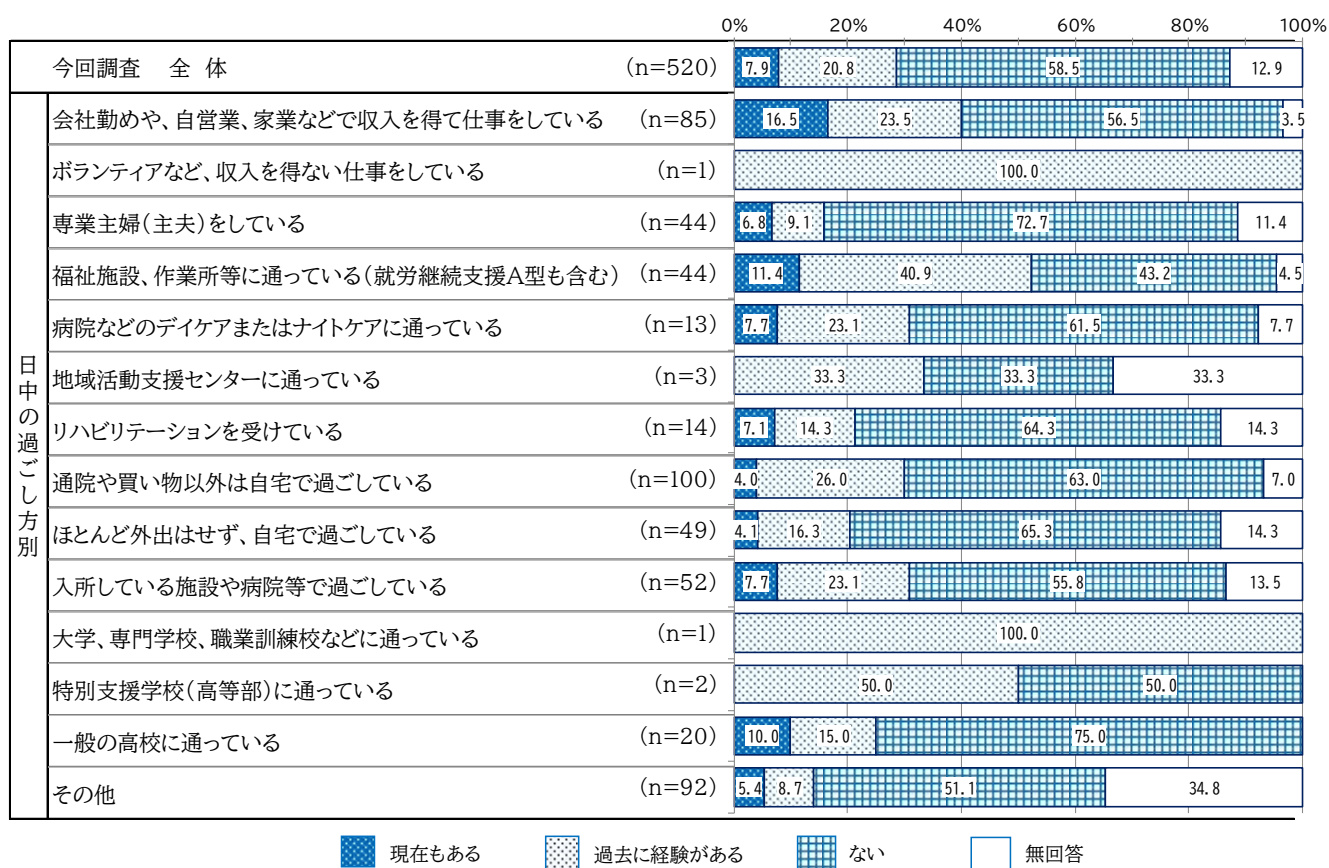
【外出頻度別】

外出頻度別でみると、「めったに外出しない」を除いて外出頻度が下がるにつれて、「過去に経験がある」が低くなっています。



【日中の過ごし方別】

日中の過ごし方別でみると、『福祉施設、作業所等に通っている（就労継続支援A型も含む）』では「過去に経験がある」が4割以上の人が回答しています。また、『会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている』では「現在もある」が16.5%と高くなっています。

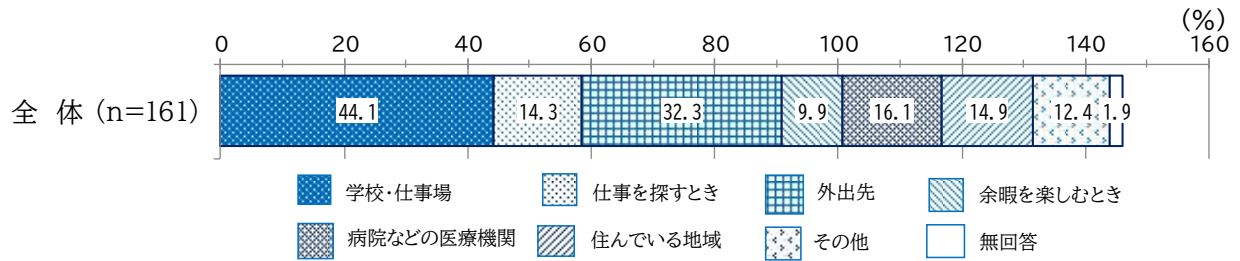


《問 5 7 で「ア 現在もある」または「イ 過去に経験がある」を選択された方のみが回答》

問 5 8 あなたは、どのような場所で差別や嫌な思いをしましたか。 【該当する記号をすべて○】

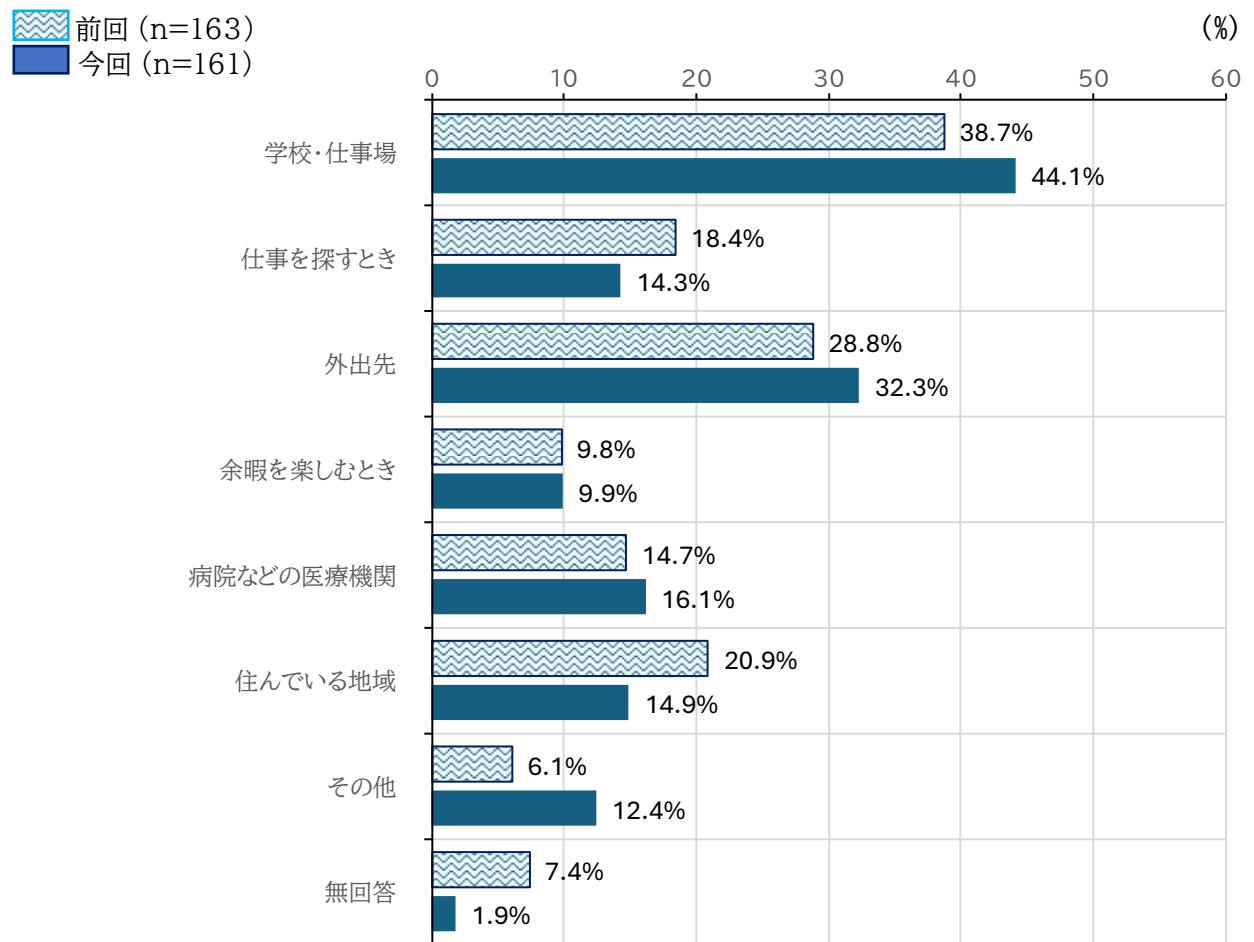
差別や嫌な思いをした場所について、「学校・仕事場」が 44.1%と最も高くなっています。次いで、「外出先」が 32.3%、「病院など医療機関」が 16.1%となっています。

【全体】



【前回比較】

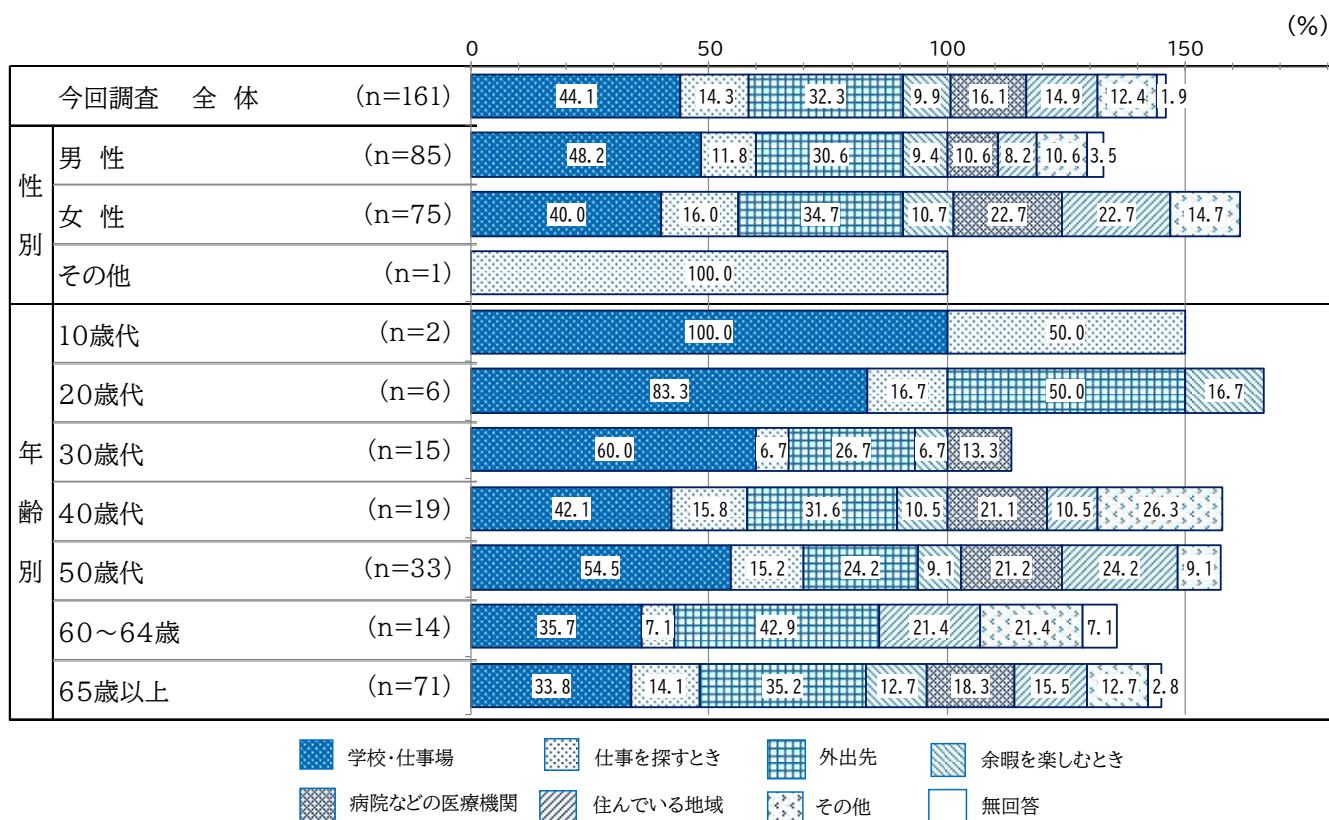
差別や嫌な思いをした場所について、前回より「学校・仕事場」が 5.4ポイント、「外出先」が 3.5ポイント、高くなっています。



【性別・年齢別】

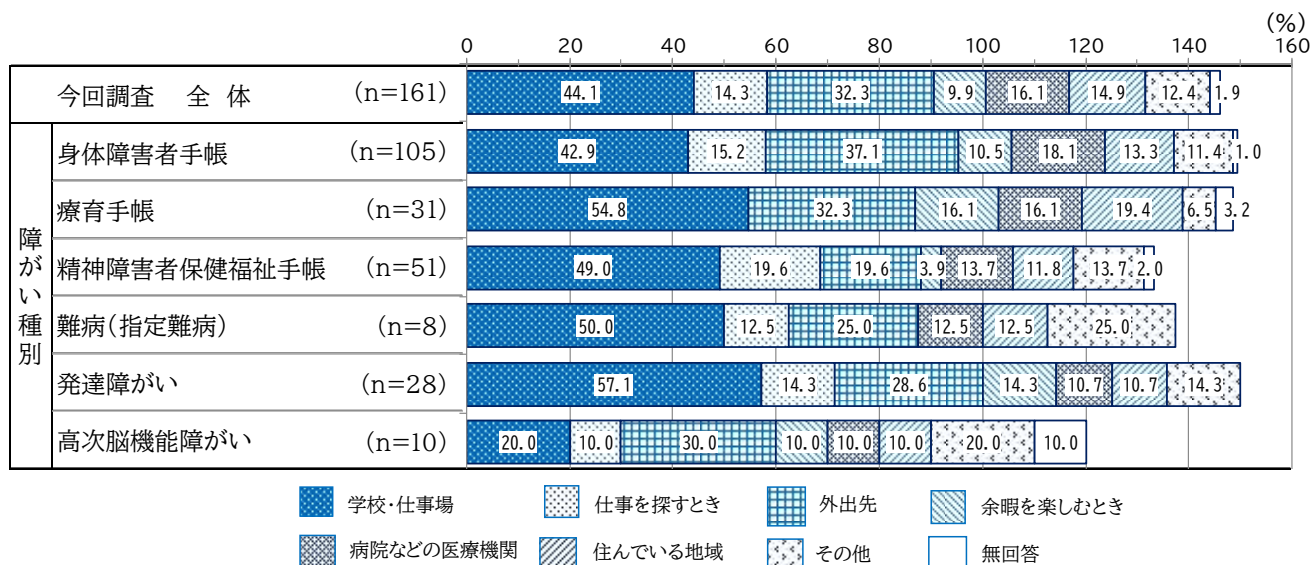
性別でみると、『男性』は『女性』より、「学校・仕事場」が8.2ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『10歳代』から『30歳代』までは、「学校・仕事場」が、『60～64歳』から『65歳以上』では「外出先」が高くなっています。



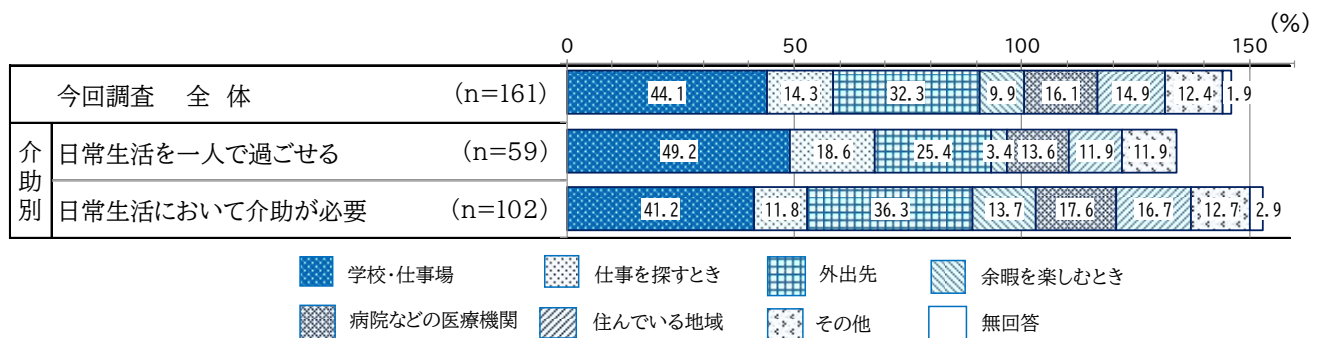
【障害種別】

障害種別でみると、『高次脳機能障がい』では「外出先」が、それ以外では全て「学校・仕事場」が高くなっています。



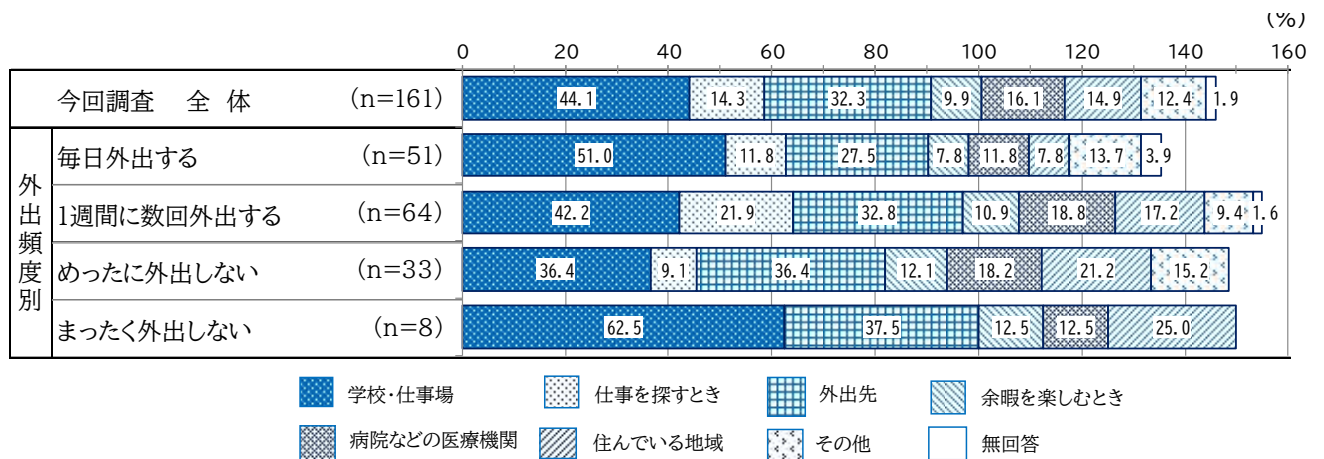
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「外出先」が 10.9ポイント低くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「住んでいる地域」が高くなっています。

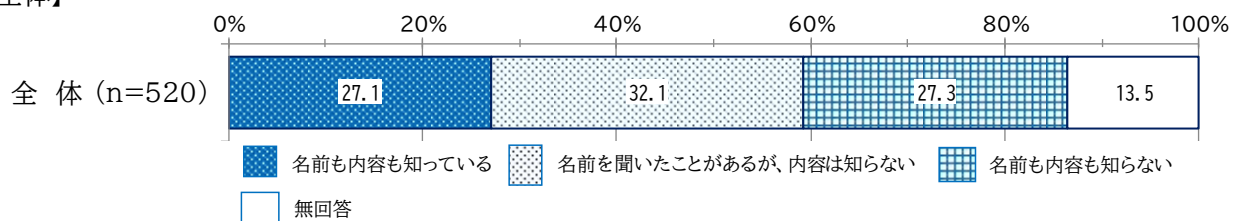


問59 あなたは、成年後見制度についてご存知ですか。

【該当する記号をひとつだけ○】

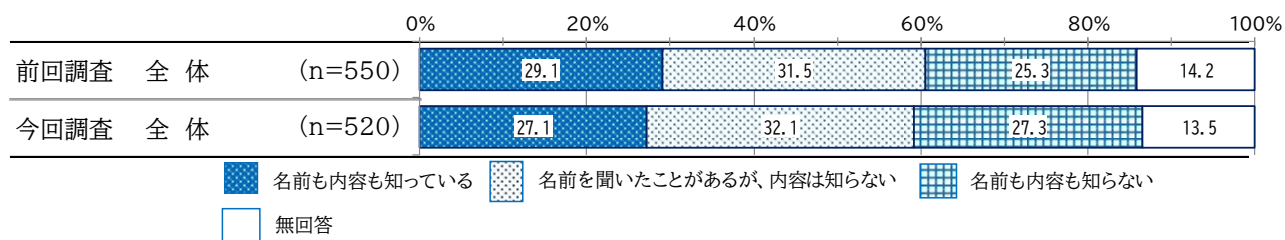
成年後見制度の認知度について、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が 32.1%と最も高くなっています。次いで、「名前も内容も知らない」27.3%、「名前も内容も知っている」27.1%となっています。

【全体】



【前回比較】

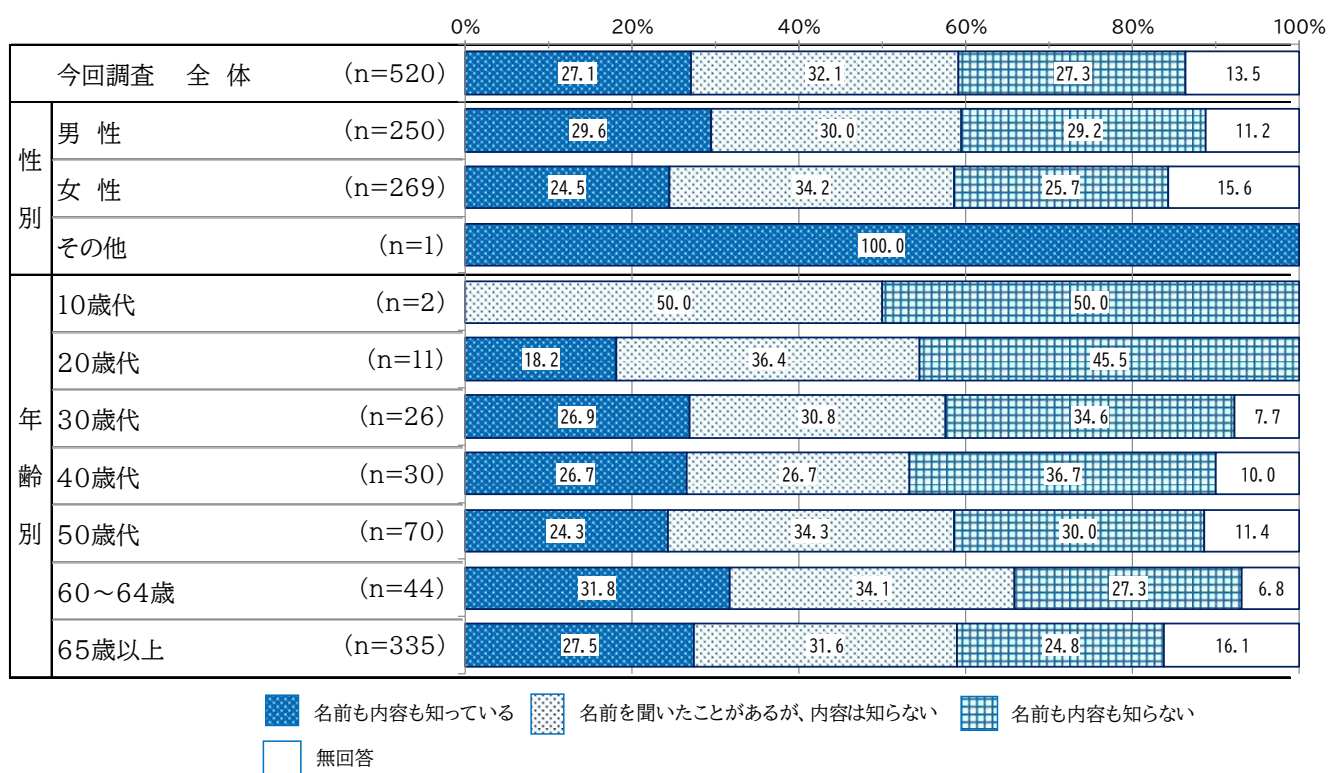
成年後見制度の認知度について、大きな変化はありません。



【性別・年齢別】

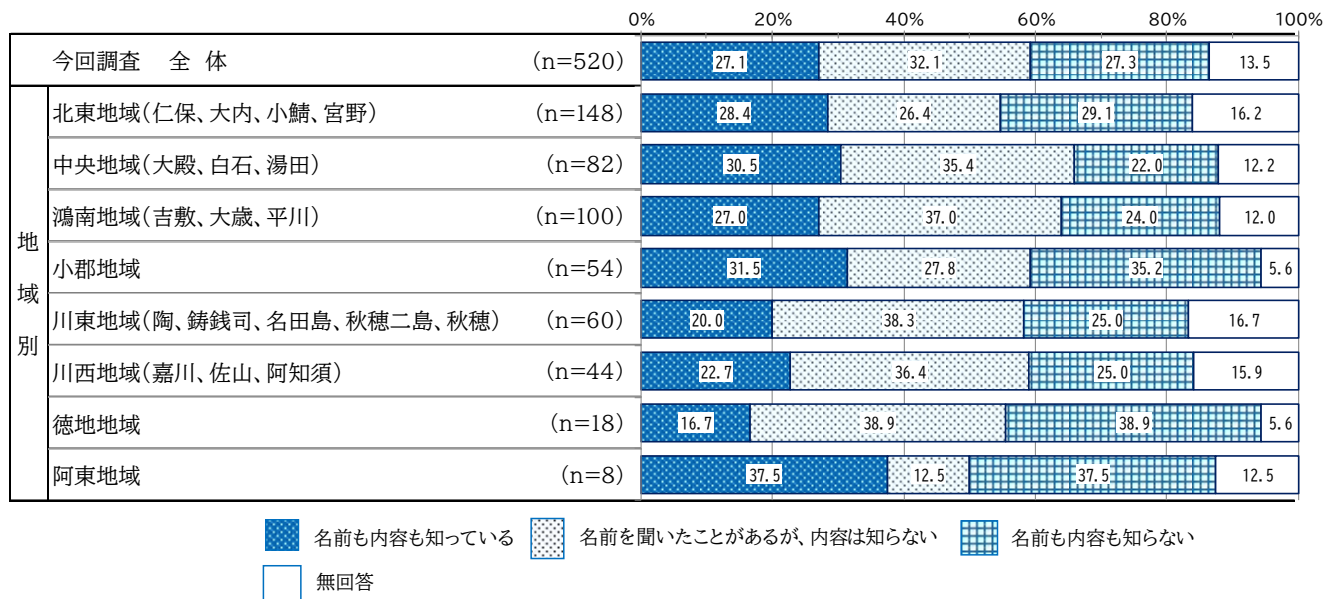
性別でみると、『男性』は『女性』より、「名前も内容も知っている」が5.1ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『40歳代』を除き『10歳代』から『65歳以上』に年齢が上がるにつれて、「名前も内容も知らない」が低くなっています。



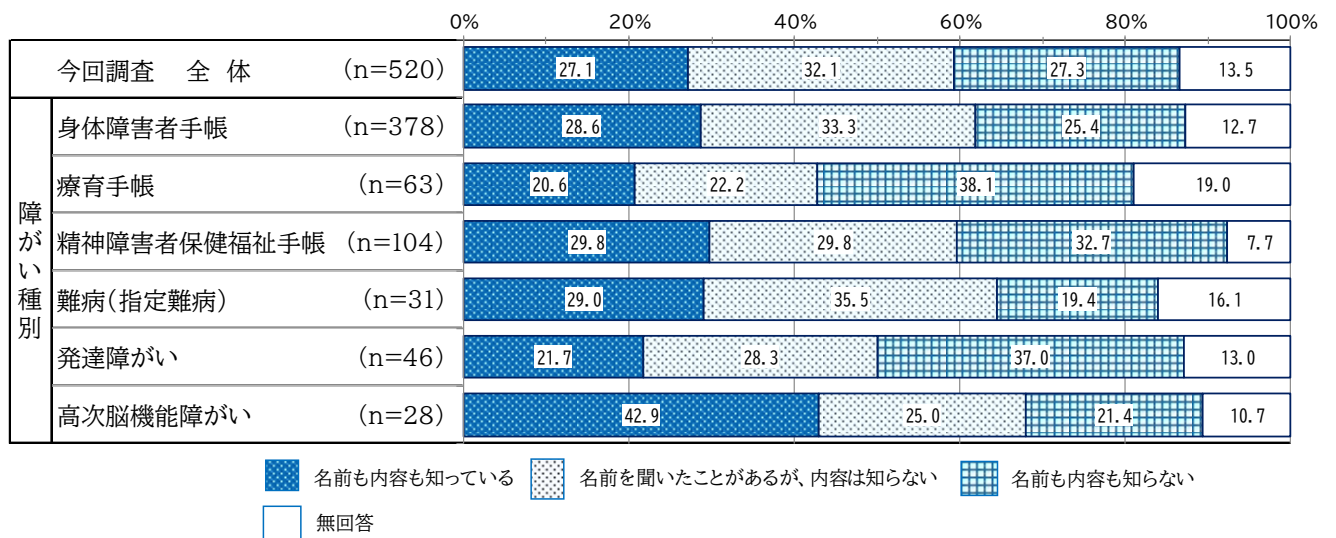
【地域別】

地域別でみると、『徳地地域』では「名前も内容も知っている」が16.7%と最も低く、「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」と「名前も内容も知らない」が共に38.9%と最も高くなっています。



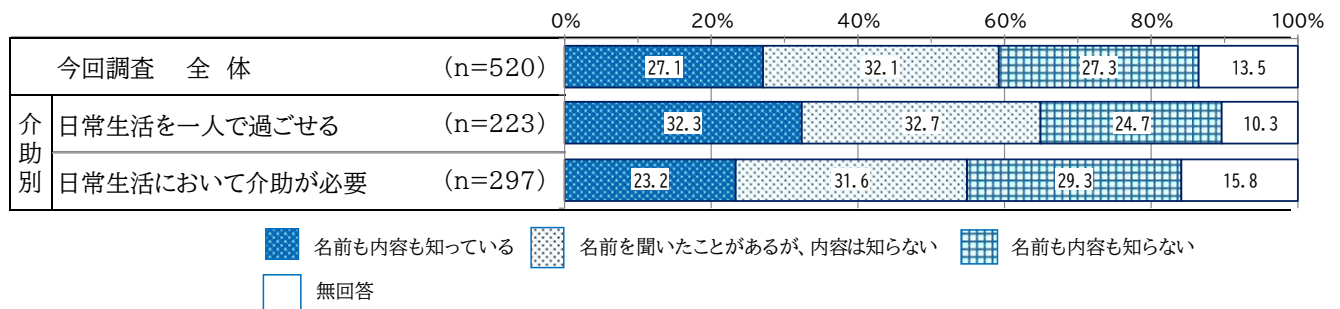
【障害種別】

障害種別でみると、『高次脳機能障がい』では「名前も内容も知っている」、『身体障害者手帳』、『難病（指定難病）』では「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」、『療育手帳』、『精神障害者保健福祉手帳』、『発達障がい』では「名前も内容も知らない」が最も高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「名前も内容も知っている」が9.1ポイント高くなっています。



9. 障害者差別解消法について

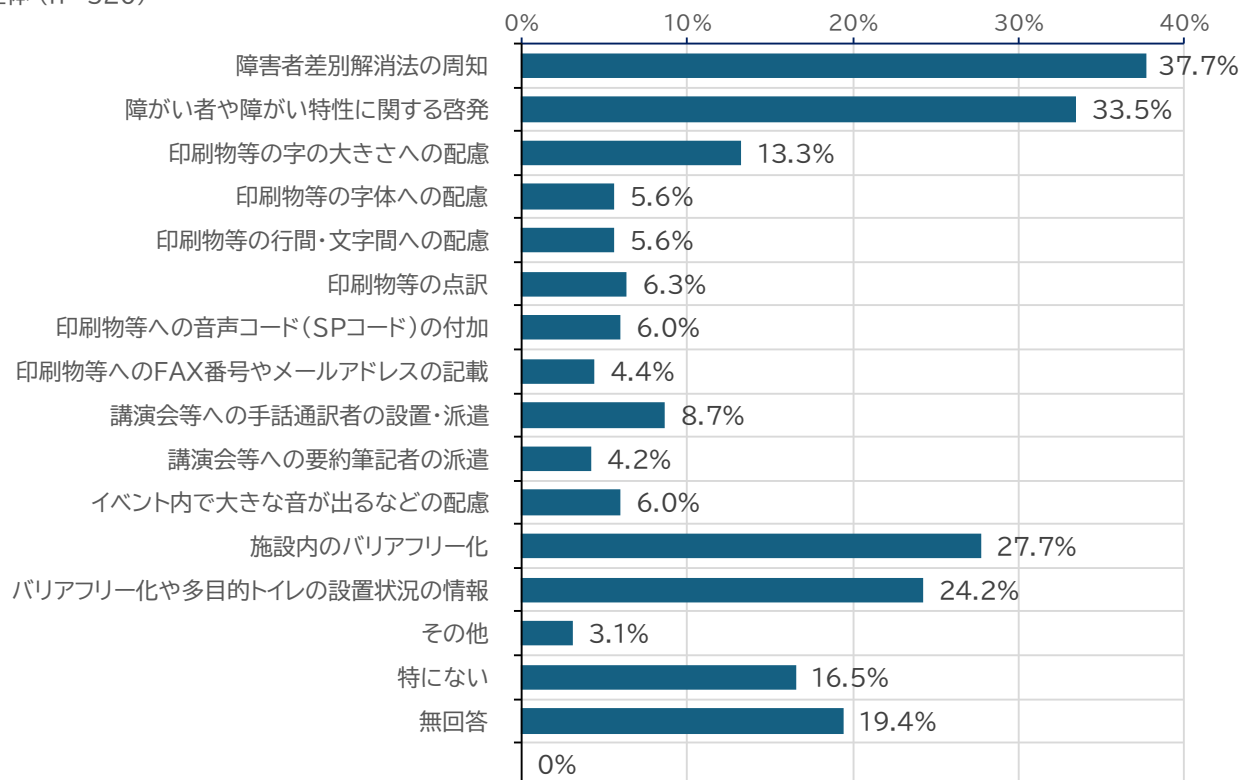
問60 障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）の施行から6年が経過しました。あなたは、差別がなくなるために、どのような配慮や取組が必要と思いますか。

【該当する記号をすべて○】

配慮や取組が必要なことについて、「障害者差別解消法の周知」が37.7%と最も高くなっています。次いで、「障がい者や障がい特性に関する啓発」が33.5%、「施設内のバリアフリー化」が27.7%となっています。

【全体】

全体 (n=520)

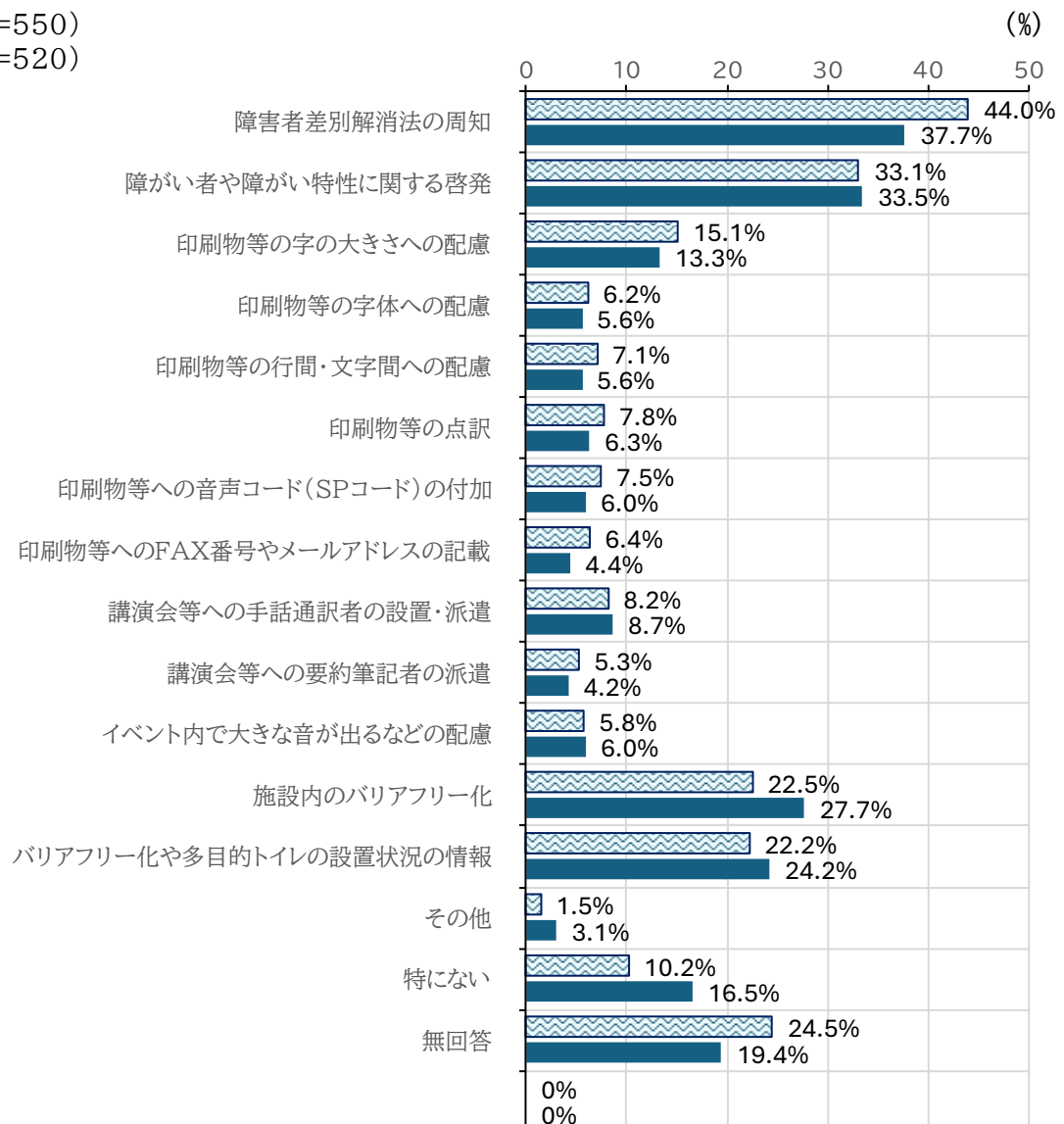


【その他 自由記述】

分類	件数	主な内容・文脈
知識・関心の欠如	6	「わからない」「知らない」「法律を知らなかった」「関心がない」といった回答。
社会的障壁・配慮不足	3	車椅子用スペースの不適正利用、代筆への配慮、移動介助の必要性など。
労働環境・不当な扱い	1	入院を理由とした解雇の不当性や、職場での精神的苦痛に関する具体的な訴え。
啓発・教育の要望	1	言語障害への周知徹底と、対応できる人材の育成。
意識改革（歩み寄り）	1	健常者の障害者に対する寄り添いや、歩み寄りを求める意見。
当事者の意識	1	障害者本人側の意識改革が必要であるという視点。
否定・諦念	1	改善に対する悲観的な見解。
合 計	14	

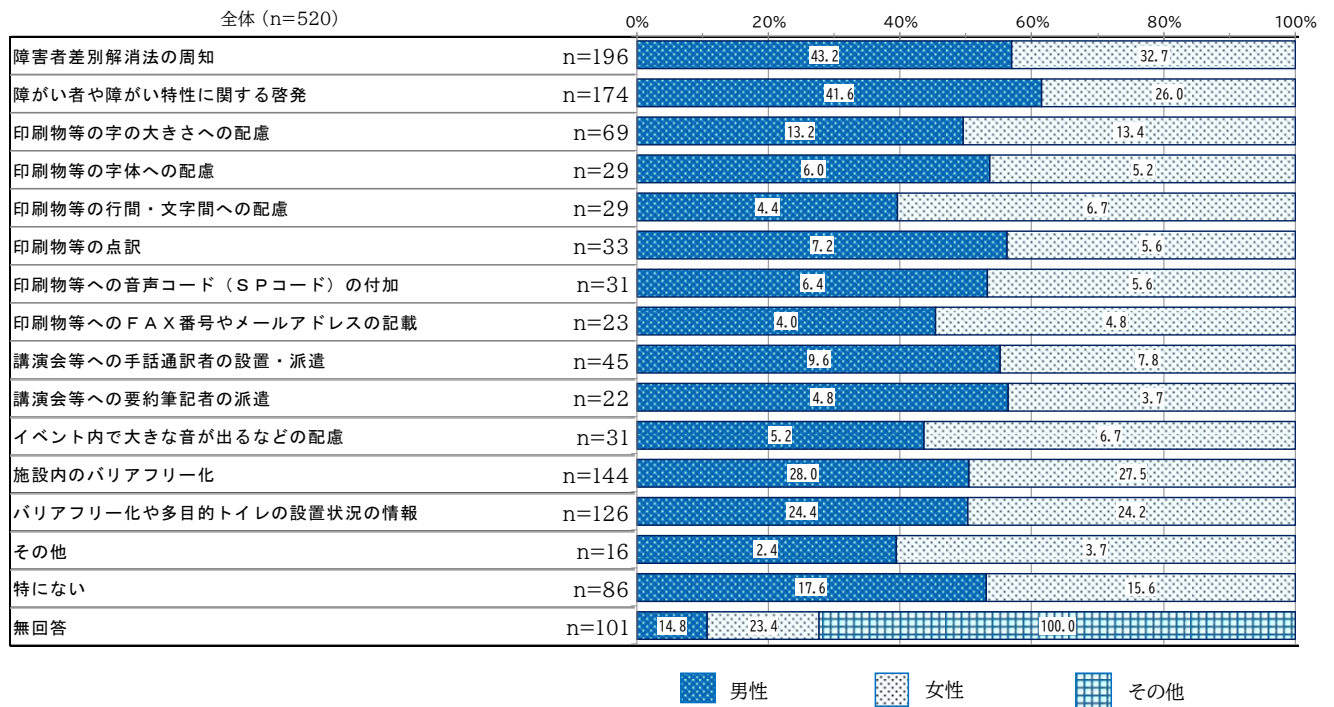
【前回比較】

 前回 (n=550)
 今回 (n=520)

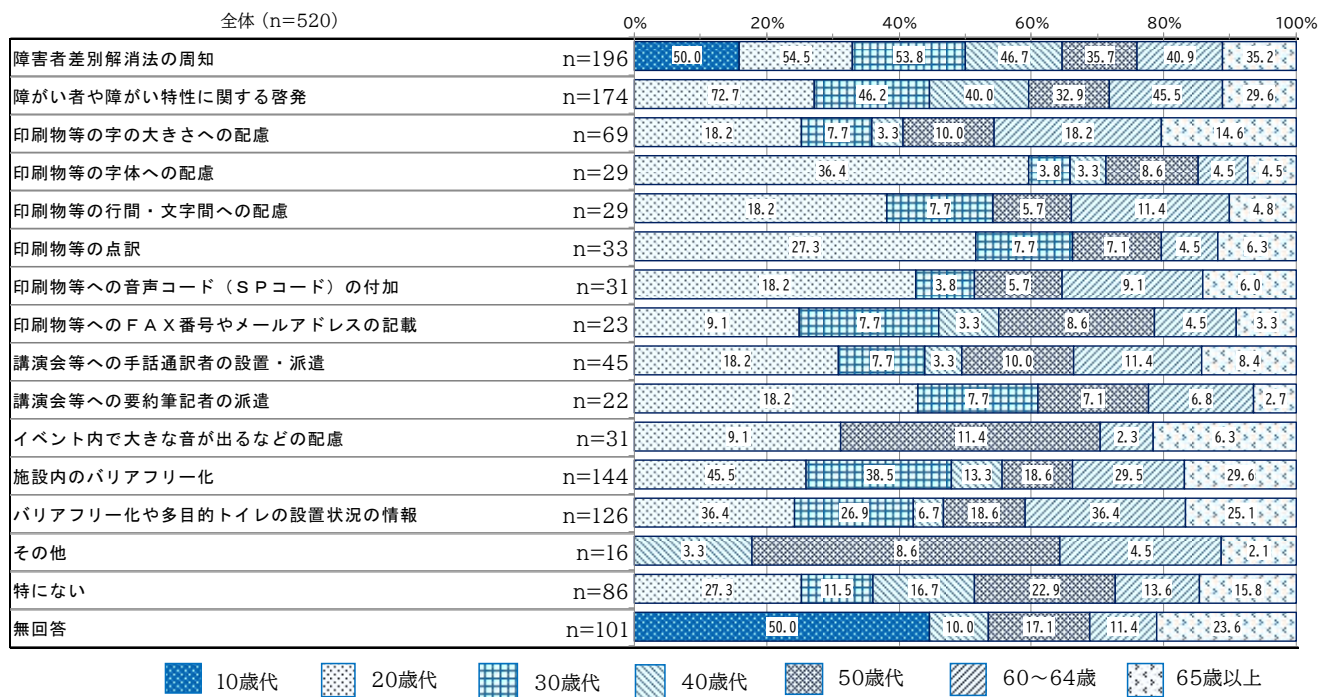


【性別・年齢別】

性別でみると、『男性』は『女性』より、「障がい者や障がい特性に関する啓発」が15.6ポイント高くなっています。

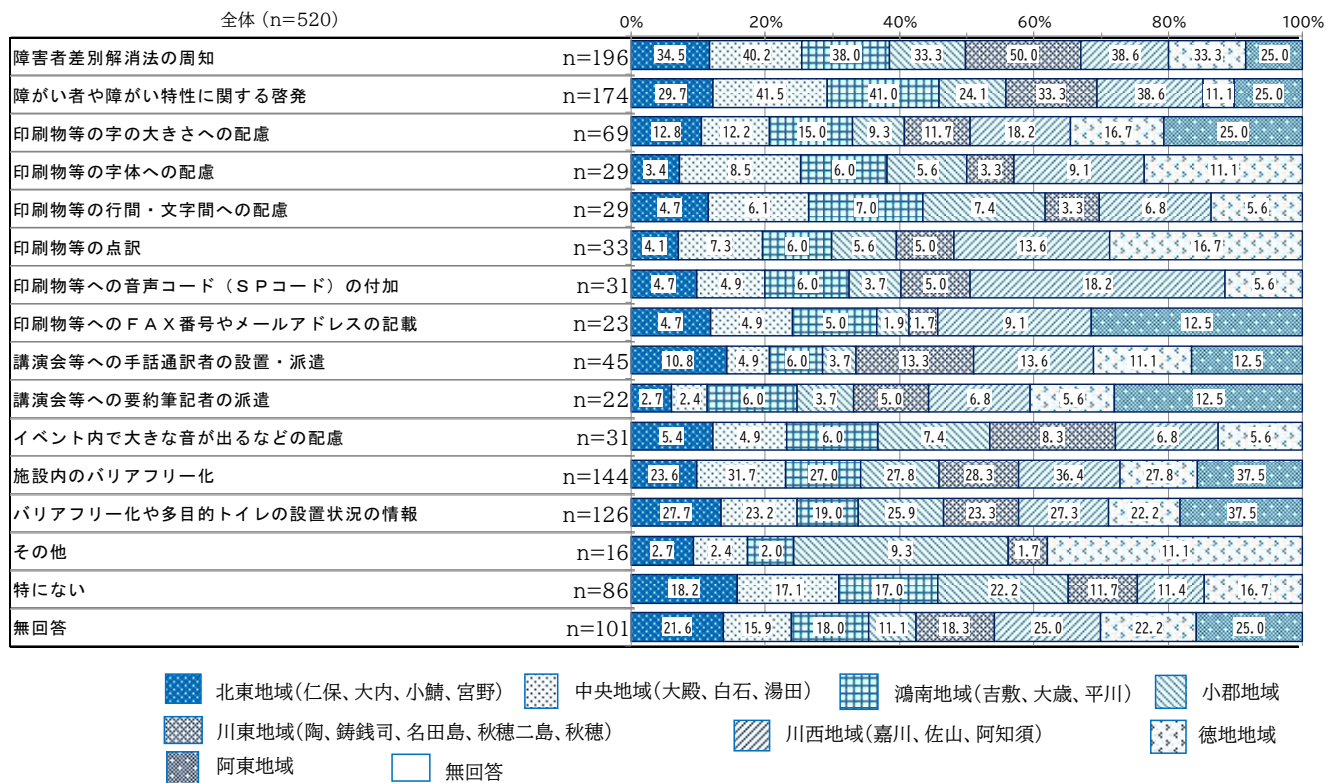


年齢別でみると、『20歳代』、『60～64歳』では「障がい者や障がい特性に関する啓発」が、それ以外全て「障害者差別解消法の周知」、が最も高くなっています。



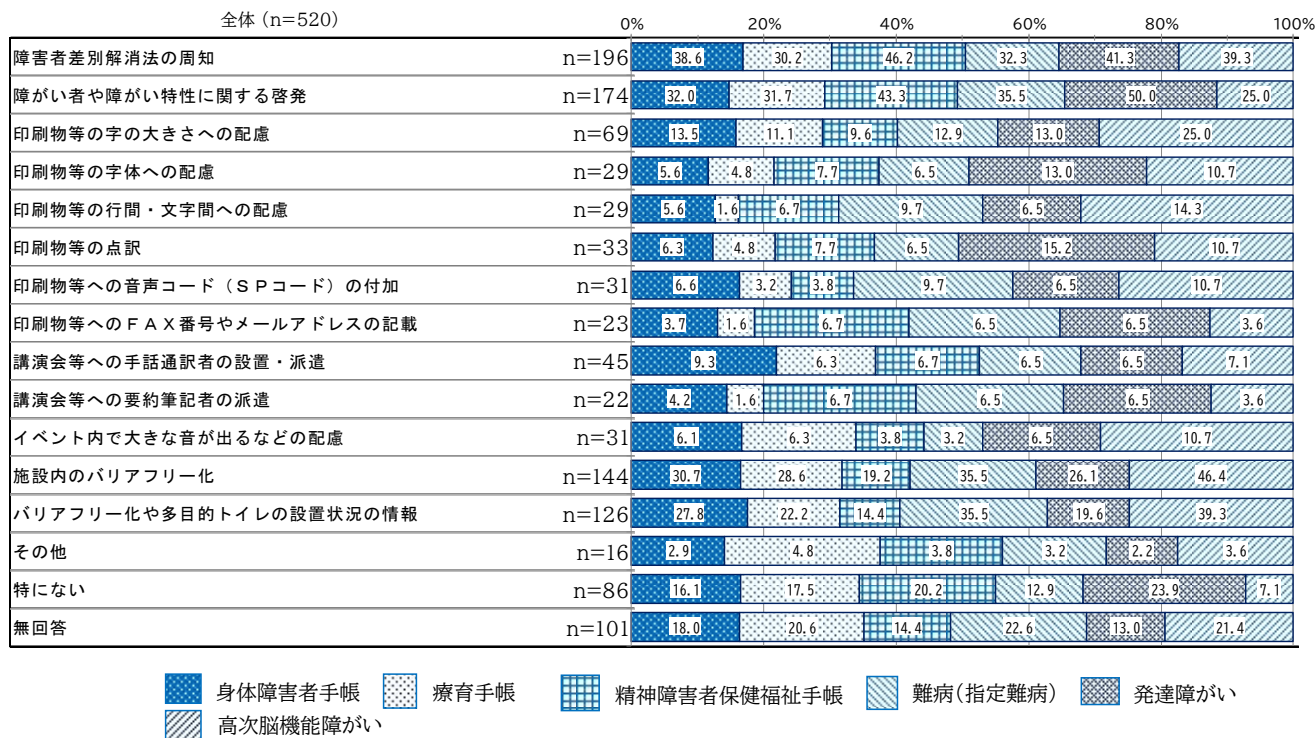
【地域別】

地域別でみると、『無回答』を除き、『中央地域』、『鴻南地域』では「障がい者や障がい特性に関する啓発」が、『川西地域』では、「障がい者や障がい特性に関する啓発」と「障害者差別解消法の周知」が、『阿東地域』では「施設内のバリアフリー化」と「バリアフリー化や多目的トイレの設置状況の情報」が、それ以外では全て「障害者差別解消法の周知」が高くなっています。



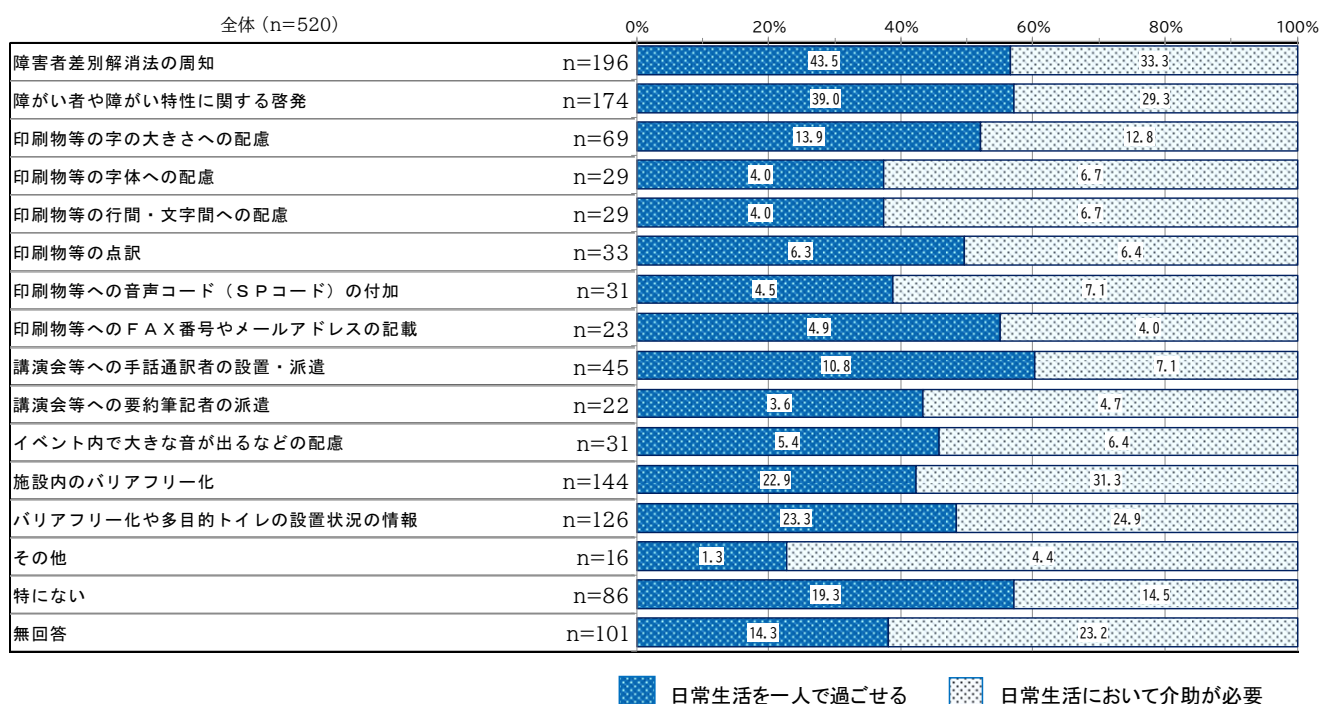
【障害種別】

障害種別でみると、『難病（指定難病）』では「障がい者や障がい特性に関する啓発」と「施設内のバリアフリー化」と「バリアフリー化や多目的トイレの設置状況の情報」が、『高次脳機能障がい』では「施設内のバリアフリー化」が、『身体障害者手帳』、『精神障害者保健福祉手帳』では「障害者差別解消法の周知」が、それ以外では全て「障がい者や障がい特性に関する啓発」が高くなっています。



【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「施設内のバリアフリー化」が 8.4 ポイント低くなっています。



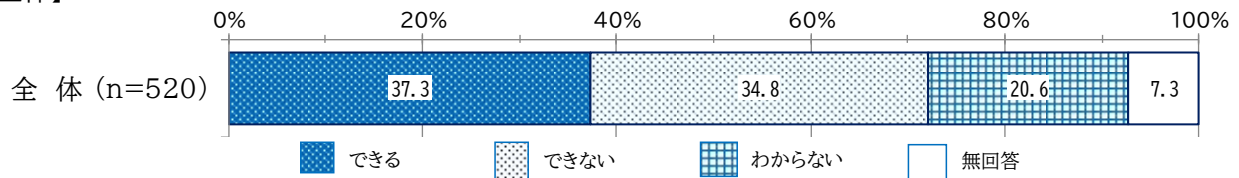
10. 災害時の避難等について

問61 あなたは、火事や地震等の災害時に一人で避難できますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

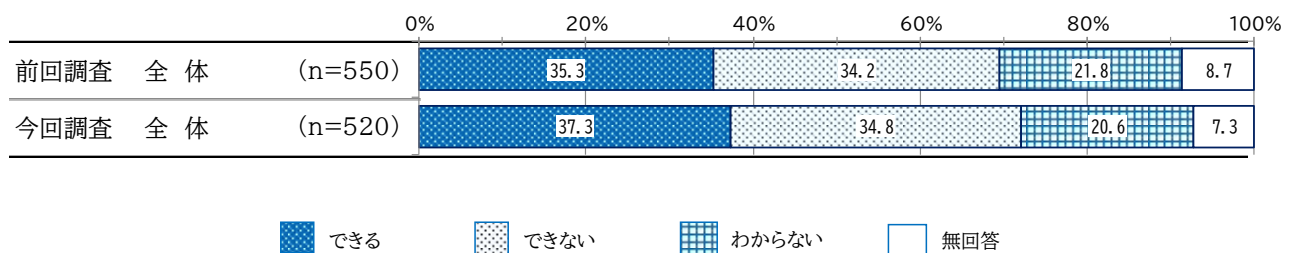
火事や地震等に一人で避難できるかについて、「できる」が37.3%、「できない」が34.8%となっています。

【全体】



【前回比較】

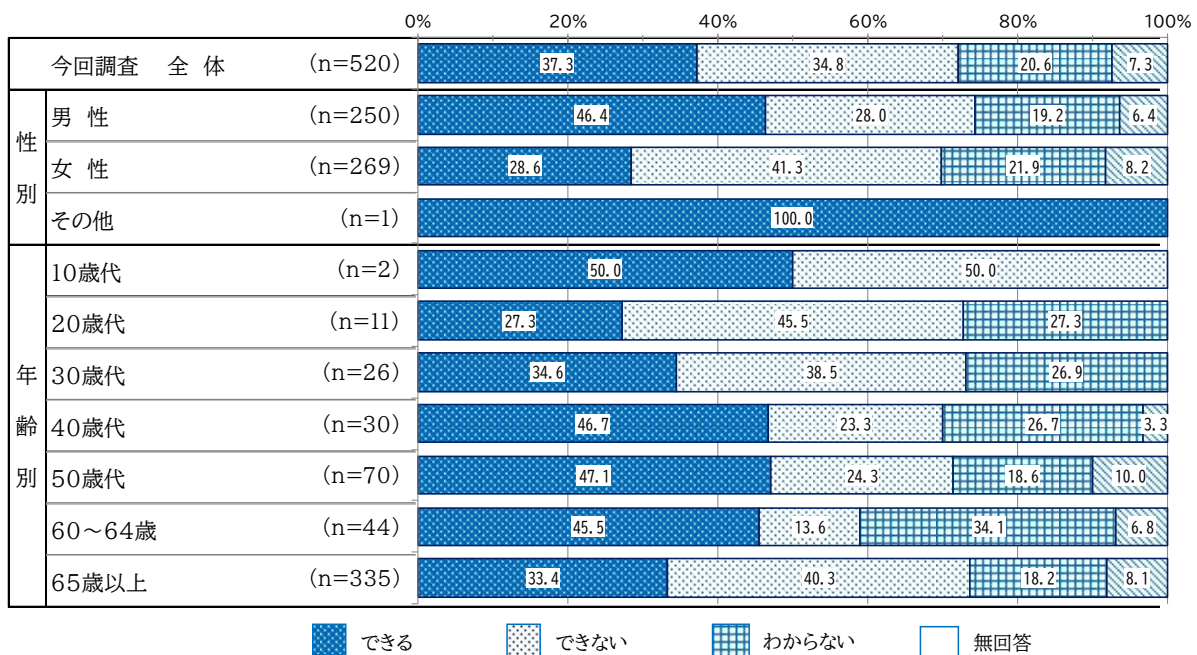
火事や地震等に一人で避難できるかについて、大きな変化はありません。



【性別・年齢別】

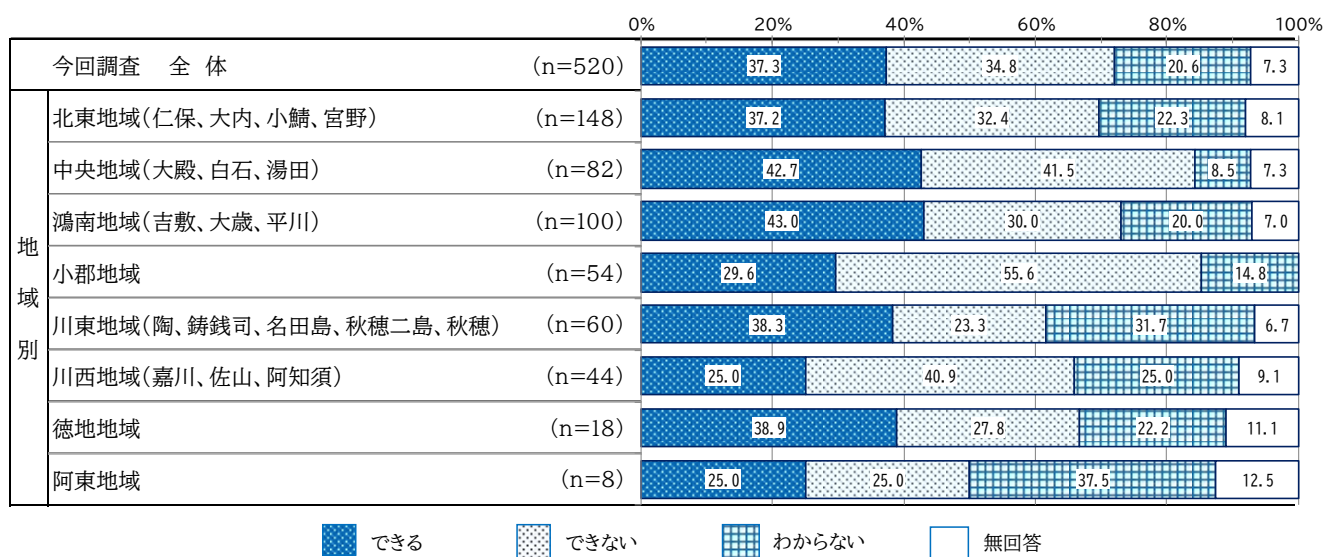
性別でみると、『男性』は『女性』より、「できる」が17.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『20歳代』から『50歳代』に年齢が上がるにつれて、「できる」が高くなっています。



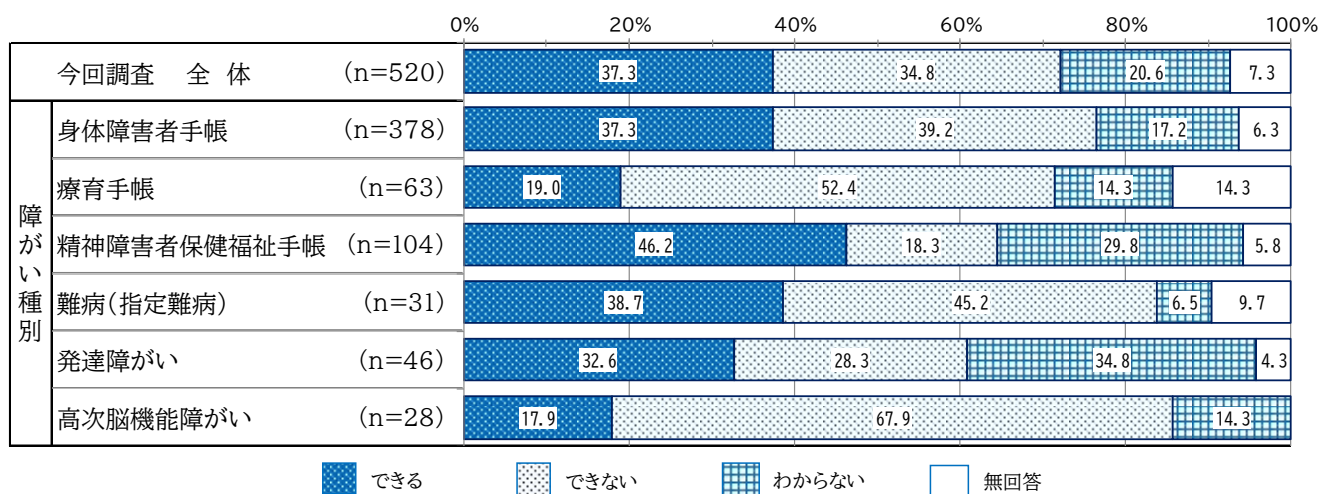
【地域別】

地域別でみると、『川東地域』、『川西地域』では「できない」が、『阿東地域』では「わからない」が、それ以外では全て「できる」が最も高くなっています。



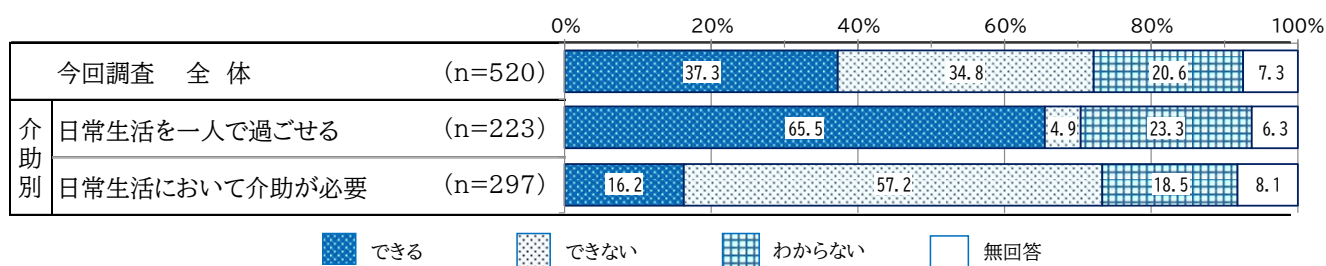
【障害種別】

障害種別でみると、『精神障害者保健福祉手帳』では「できる」が、『高次脳機能障がい』では「わからない」が、それ以外では全て「できない」が高くなっています。



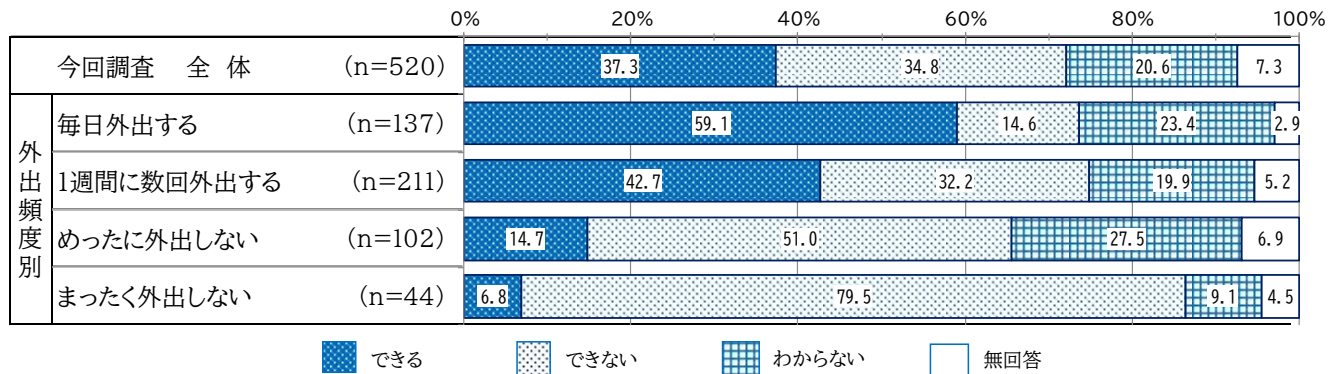
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「できる」が 49.3 ポイント高くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「できる」が低くなっており、「できない」が高くなっています。

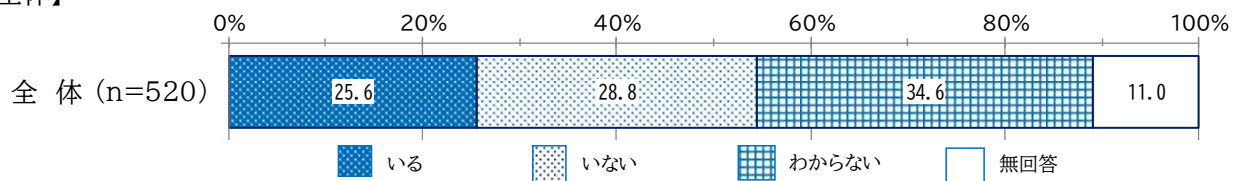


問6 2 家族が不在の場合や一人暮らしの場合、近所にあなたを助けてくれる人はいますか。

【該当する記号をひとつだけ○】

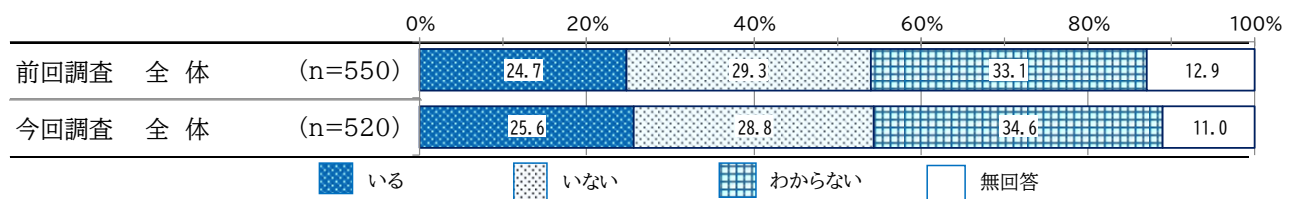
近所に助けてくれる人がいるかについて、「いる」が 25.6%、「いない」 28.8%となっています。

【全体】



【前回比較】

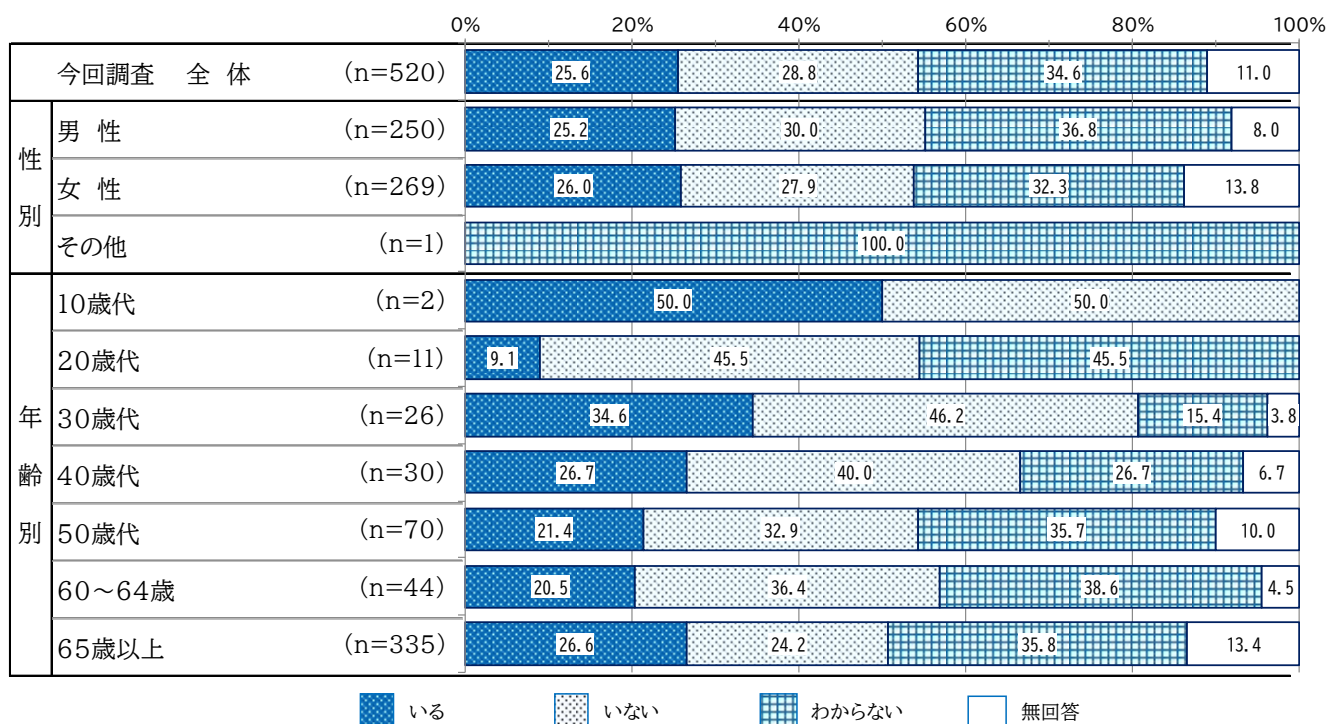
近所に助けてくれる人がいるかについて、大きな変化はありません。



【性別・年齢別】

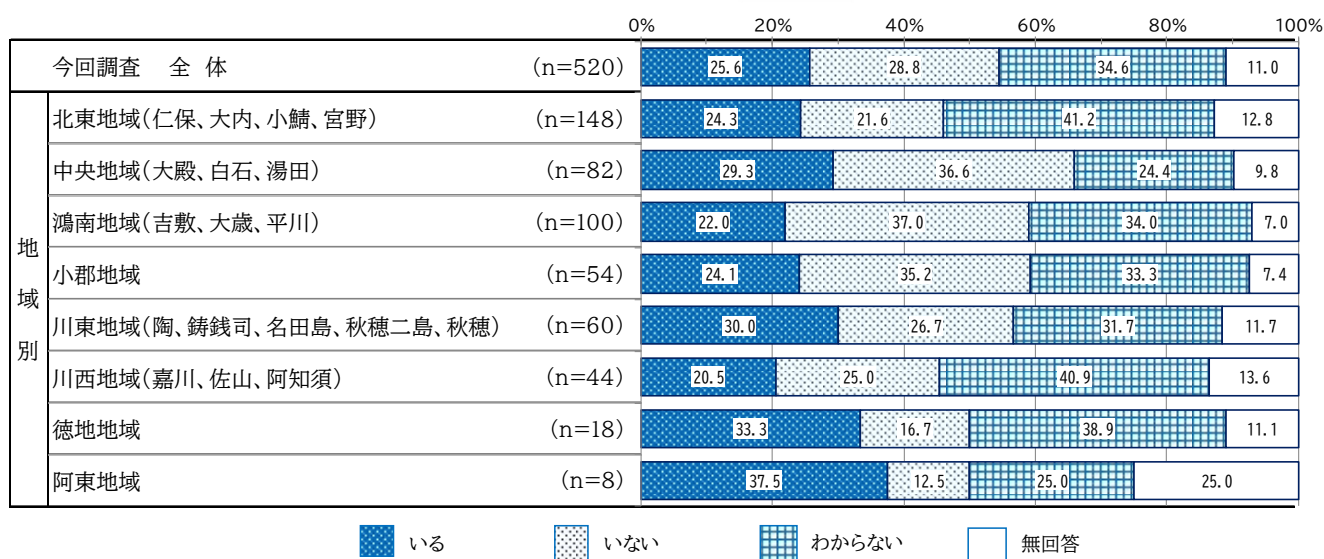
性別でみると、『男性』は『女性』より、「いない」が2.1ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『30歳代』から『60～64歳』に年齢が上がるにつれて、「わからない」が高くなっています。



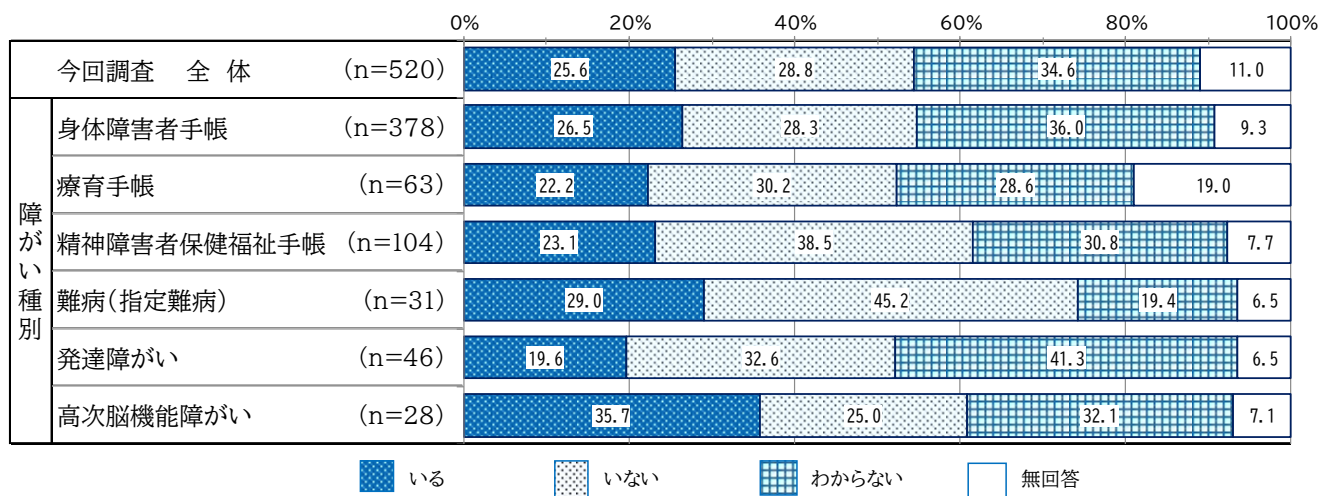
【地域別】

地域別でみると、『阿東地域』では「いる」、『中央地域』、『鴻南地域』、『小郡地域』では「いない」、それ以外では全て「わからない」が最も高くなっています。



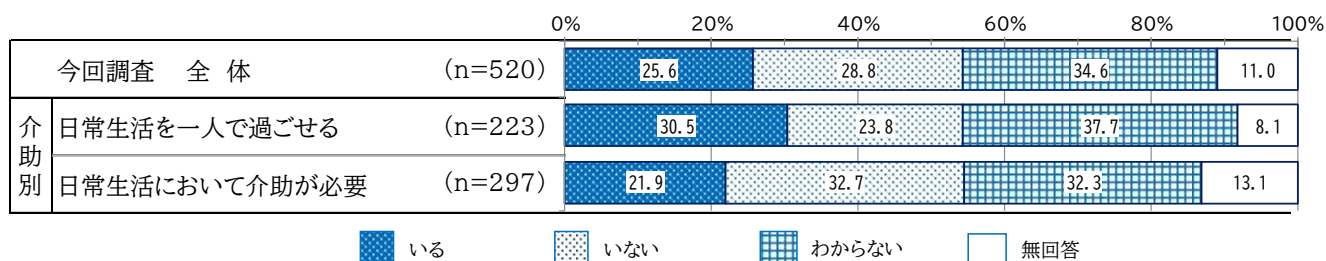
【障害種別】

障害種別でみると、『身体障害者手帳』、『発達障がい』では「わからない」が、『高次脳機能障がい』では「いる」が、それ以外では全て「いない」が最も高くなっています。



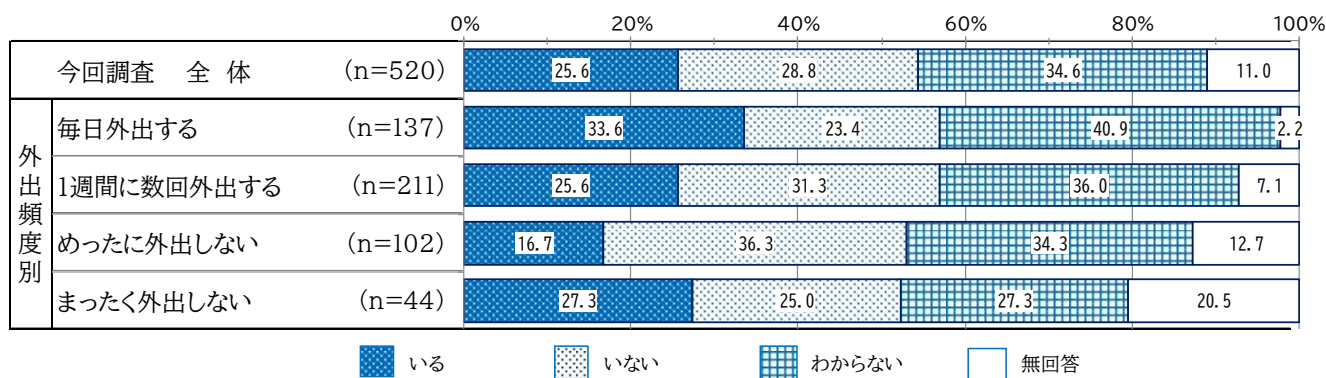
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「いない」が 8.9ポイント低くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、『毎日外出する』から『めったに外出しない』に外出頻度が下がるにつれて、「いる」が低くなっています。

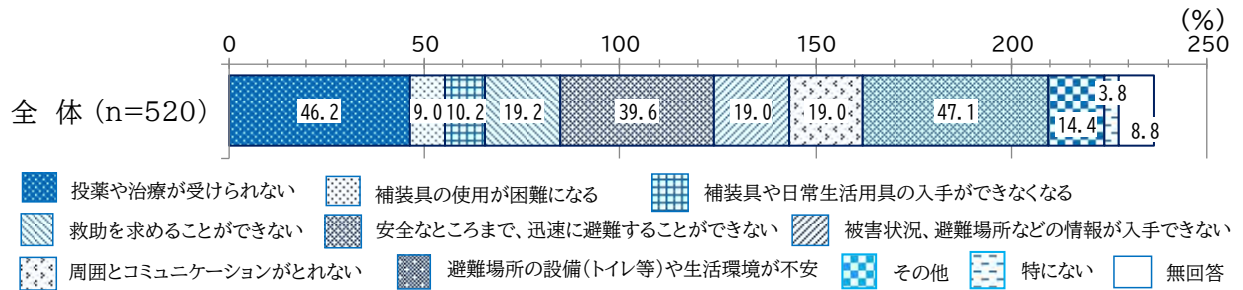


問6 3 あなたが火事や地震等の災害時に困ることは何ですか。

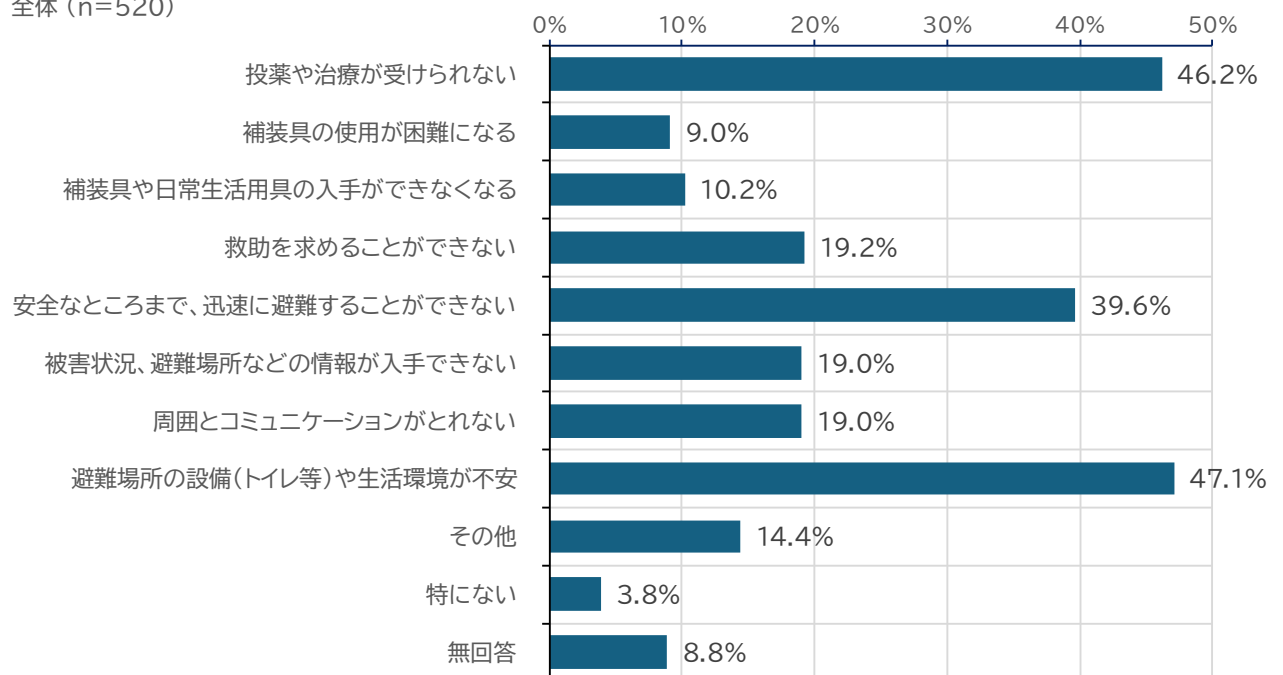
【該当する記号をすべて○】

火事や災害時に困ることについて、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が47.1%と最も高くなっています。次いで、「投薬や治療が受けられない」が46.2%、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が39.6%となっています。

【全体】

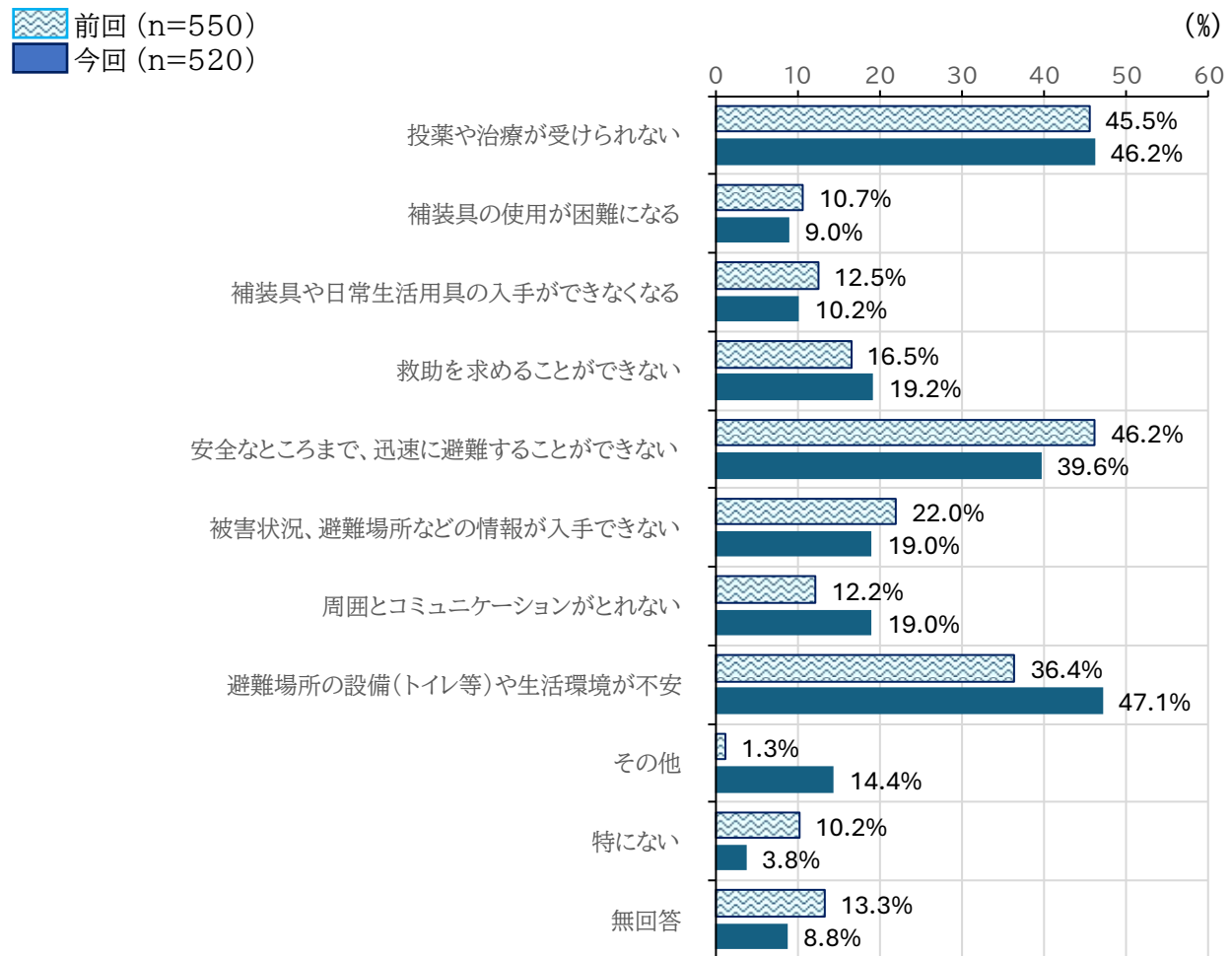


全体 (n=520)



【前回比較】

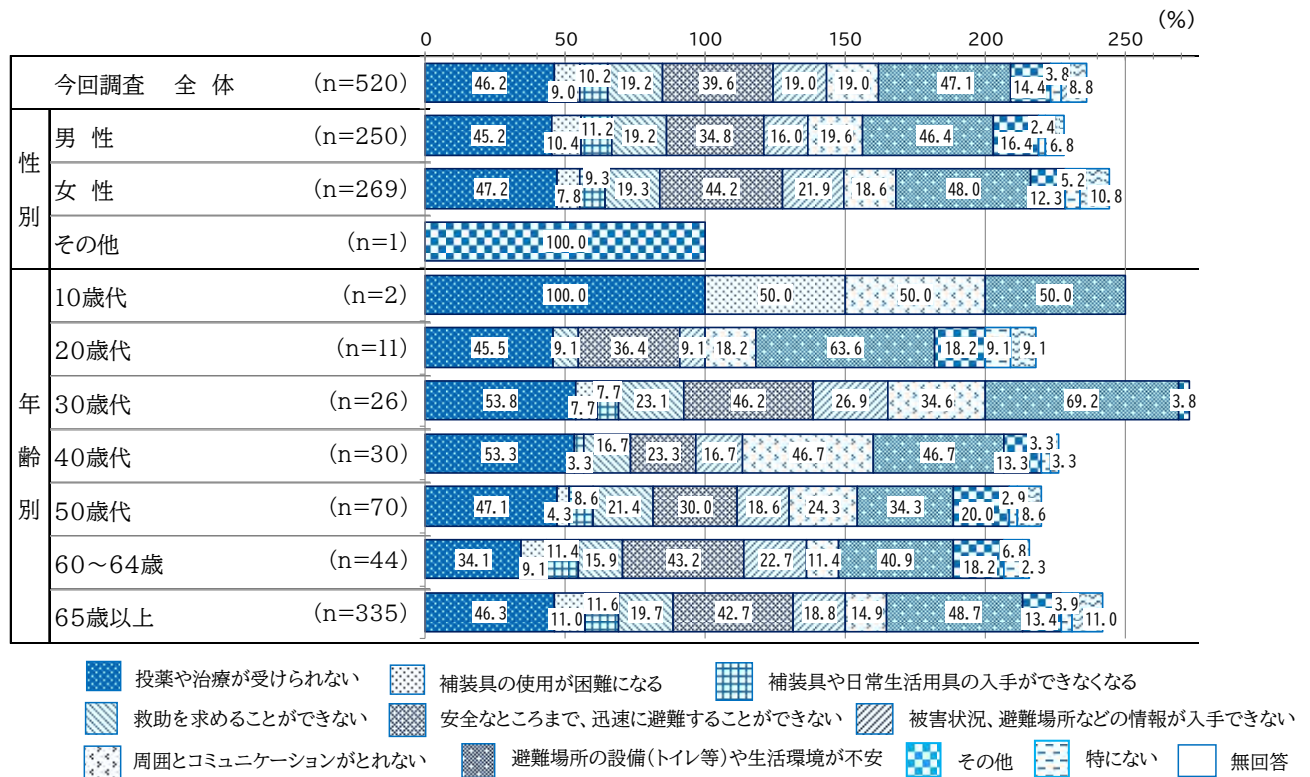
火事や災害時に困ることについて、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が前回より10.7ポイント高くなっています。



【性別・年齢別】

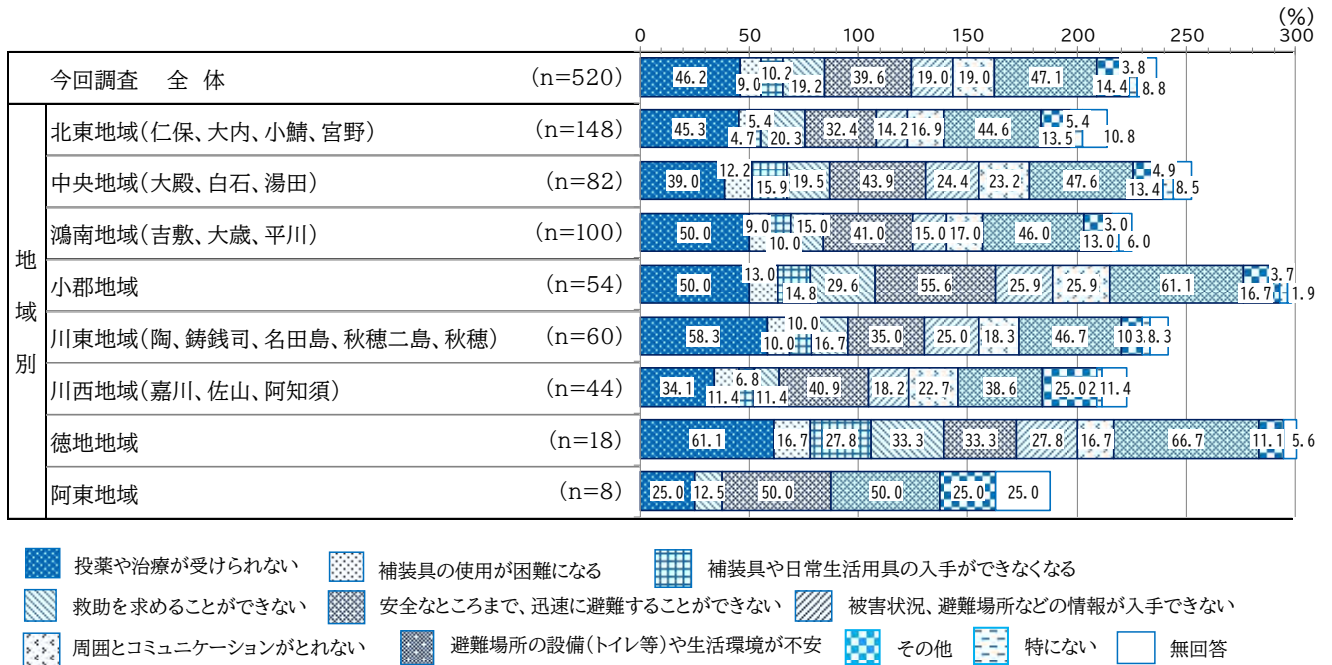
性別でみると、『男性』は『女性』より、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が9.4ポイント低くなっています。

年齢別でみると、『20歳代』、『60～64歳』、『65歳以上』では「安全なところまで、迅速に避難することができない」、それ以外では全て「投薬や治療が受けられない」が最も高くなっています。



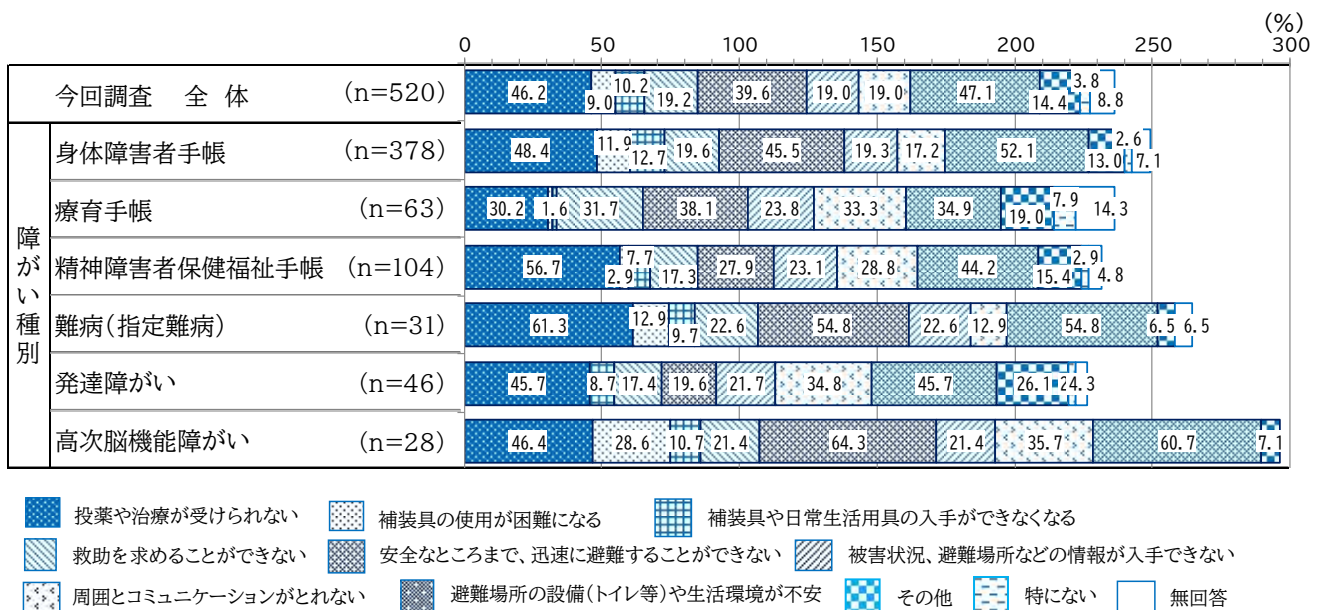
【地域別】

地域別でみると、『川西地域』では「安全なところまで、迅速に避難することができない」が、『阿東地域』では「安全なところまで、迅速に避難することができない」と「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が共に 50.0%、『北東地域』、『鴻南地域』、『川東地域』では「投薬や治療が受けられない」が、それ以外では全て「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が最も高くなっています。



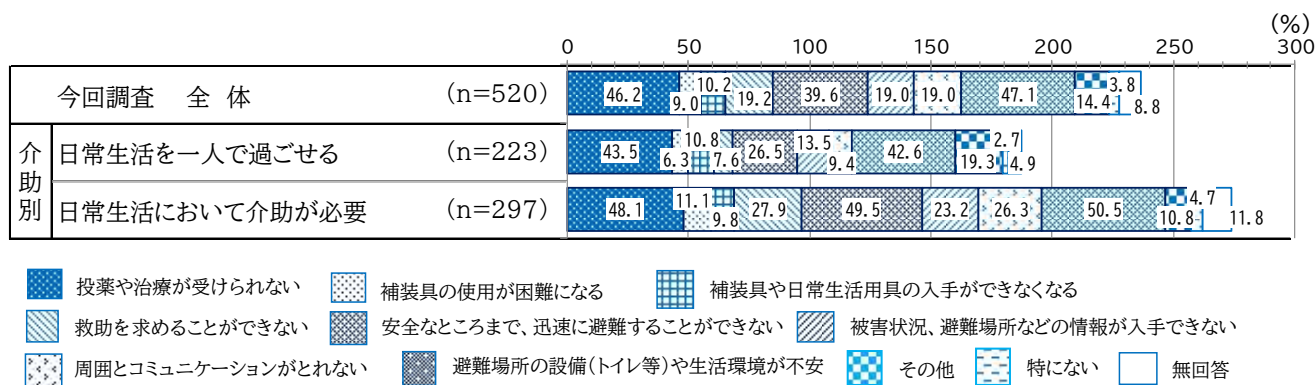
【障害種別】

障害種別でみると、『身体障害者手帳』では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が、『発達障害』では「投薬や治療が受けられない」と「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が、『精神障害者保健福祉手帳』、『難病（指定難病）』では「投薬や治療が受けられない」、それ以外では全て「安全なところまで、迅速に避難することができない」が高くなっています。



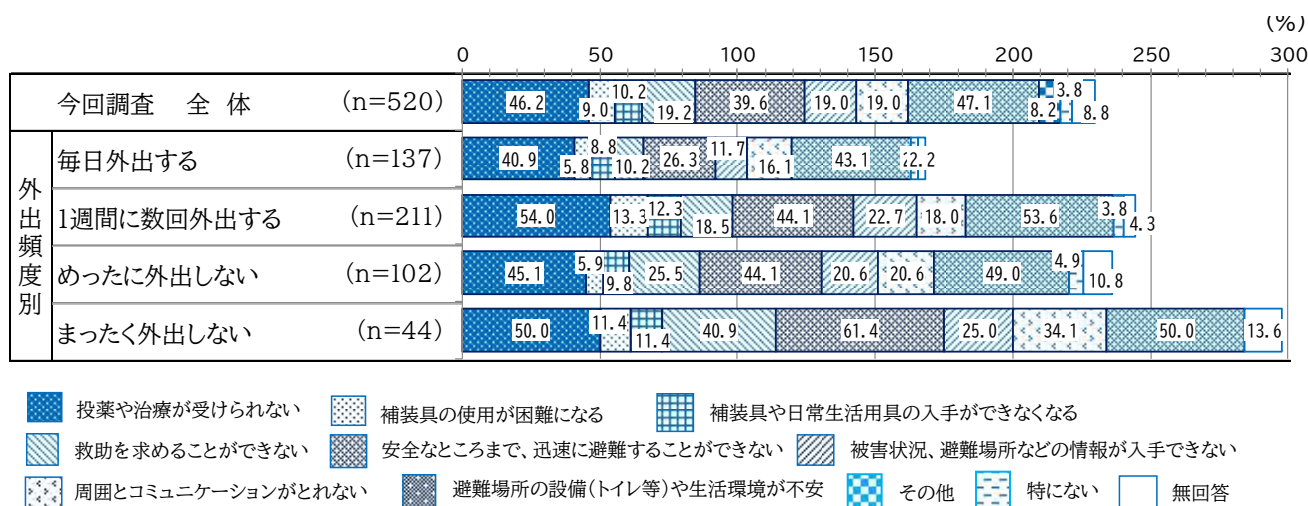
【介助の有無別】

介助の有無別でみると、『日常生活を一人で過ごせる』は『日常生活において介助が必要』より、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が 23 ポイント低くなっています。



【外出頻度別】

外出頻度別でみると、外出頻度が下がるにつれて、「救助を求めることができない」と「安全なところまで、迅速に避難することができない」と「周囲とコミュニケーションがとれない」が高くなっています。



1 1. ご意見について

問 6 4 障害福祉サービスや行政の取組などについて、何かご意見ありましたら、
自由にご記入下さい。

【多かった主なご意見】

記載内容	件数	主な声・課題
経済的負担・サービス所得制限	31	所得ラインで対象外・施設費用高額 物価高による年金生活の困窮・4～6級への支援不足
相談支援・情報提供の不足	23	サービス内容不明・相談専門員の質のばらつき 危機相談窓口が不明
移動・交通支援の不足	22	タクシー券不足・バス路線が少なく移動困難 将来の運転停止への不安
介護者（家族）の孤立・疲弊	14	介護者の自由が奪われる・ダブルケア 親亡き後の不安・家族会がない
バリアフリー・生活環境の不備	12	点字ブロック破損・歩道未整備・多目的トイレ非統一 障がい者駐車場不正利用
就労・社会参加の機会不足	12	在宅ICT型就労支援の不足・スポーツ施設不足 事業所の不適切運営